

大町遺跡

1998

宮崎市教育委員会



大町遺跡B区全景（上空から）



大町遺跡A区全景（北方上空から）

序

温暖な気候と肥沃な大地、そして豊かな水に恵まれた宮崎市は国際観光リゾート都市としての一面と日向神話に代表される神話と伝承に包まれた日本のふるさとという、相反する2つの顔をもっております。このことは私たちに文化財に対する関心や重要性の認識という良い面を与えてくれたのではないのでしょうか。

宮崎市教育委員会では発掘調査により、徐々にではありますが、わたしたちの郷土の長い歴史を解明していこうと、努力をいたしている次第であります。

本書は平成8年度に発掘調査を行いました大町遺跡の埋蔵文化財調査報告書であります。今回の調査では、60軒あまりにのぼる古墳時代後期の竪穴住居跡、弥生時代後期の周溝状遺構など、貴重な遺構が数多く検出され、また、多量の土器等が出土し、大きな成果をあげることができました。これらは当地域の歴史の解明の貴重な資料となるものであると考えます。

本書が学術研究はもとより皆様の埋蔵文化財への理解と認識を深める一助となり、また、社会教育の面にも広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査にあたって、ご理解とご協力をいただきました皆様をはじめ、ご指導、ご助言をいただいた先生方、ならびに発掘調査に従事された作業員の皆様方に心からお礼を申し上げます。

平成10年3月

宮崎市教育委員会

教育長 稲倉 宗知

例 言

1. 本書は民間宅地造成工事にかかる、大町遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は宮崎市教育委員会が平成8年4月8日から10月2日までの期間実施した。
3. 発掘調査により出土した遺物及び、調査における図面、写真等は宮崎市教育委員会で保管している。

4. 調査組織

調査主体 宮崎市教育委員会

文化振興課	課	長	愛	甲	勝	彦	
調査総括	文化財係	長	井	手	上	仁	悟
調査事務	主	事	岩	城	勝	志	
調査員	技	師	中	山	豪		
	技	師	鳥	枝	誠		
	技	師	時	任	直	也	
補助員	嘱	託	椎	由	美	子	
	嘱	託	松	永	光	雄	
	嘱	託	小	川	正	子	
	嘱	託	久	富	な	を	み

5. 本書の執筆は鳥枝が行った。
6. 掲載した図面の実測・製図・図版の作成は中山・鳥枝・時任・椎・松永・小川が分担して行った。
7. 現場における写真撮影は中山・鳥枝・時任が、遺物写真撮影は中山が行った。
8. 本書の編集は鳥枝・久富が行った。
9. 本書で使用した空中写真は株式会社スカイサーベイによるものである。

本文目次

第 I 章	はじめに	1
第 1 節	発掘調査に至る経緯	1
第 2 節	遺跡の立地と歴史的環境	1
第 3 節	調査の概要	4
第 II 章	A 区の調査	6
第 1 節	竪穴住居の調査	6
第 2 節	竪穴の調査	5 7
第 3 節	土坑の調査	6 0
第 4 節	周溝状遺構の調査	6 0
第 5 節	溝状遺構の調査	6 1
第 6 節	近世墓の調査	6 4
第 III 章	C 区の調査	6 5
第 1 節	竪穴住居の調査	6 5
第 2 節	土坑の調査	7 0
第 3 節	周溝状遺構の調査	7 0
第 4 節	溝状遺構の調査	7 3
第 5 節	近世墓の調査	7 4
第 6 節	井戸の調査	7 4
第 IV 章	D 区の調査	7 7
第 1 節	竪穴住居の調査	7 7
第 2 節	竪穴の調査	8 6
第 3 節	土坑の調査	8 8
第 4 節	溝状遺構の調査	8 8
第 V 章	B 区の調査	9 0
第 1 節	竪穴住居の調査	9 0
第 2 節	掘立柱建物の調査	1 0 9
第 3 節	竪穴の調査	1 1 2
第 4 節	土坑の調査	1 1 2
第 5 節	溝状遺構の調査	1 1 3

第6節 柵列の調査	114
第7節 ピットの調査	114
第VI章 まとめ	118

挿 図 目 次

第1図 大町遺跡位置図 (1/50, 000)	2
第2図 大町遺跡周辺図 (1/10, 000)	3
第3図 大町遺跡調査区図 (1/2, 000)	5
第4図 A区全体図 (1/143)	7~8
第5図 1・2号竪穴住居実測図 (1/60)	9
第6図 1号竪穴住居出土遺物 (1/3)	10
第7図 2・3号竪穴住居出土遺物 (1/3)	12
第8図 3・4・57号竪穴住居実測図 (1/60)	13
第9図 4・5号竪穴住居出土遺物 (1/3)	14
第10図 5号竪穴住居内地下式横穴状遺構出土遺物 (1/3)	14
第11図 5・6号竪穴住居実測図 (1/60)	16
第12図 5号竪穴住居内1~3号地下式横穴状遺構実測図 (1/80)	17
第13図 6号竪穴住居出土遺物1 (1/4)	19
第14図 6号竪穴住居出土遺物2 (1/3)	20
第15図 7号竪穴住居・竈実測図 (1/60・1/30)	22
第16図 7号竪穴住居出土遺物 (1/3)	23
第17図 8・9号竪穴住居実測図 (1/60)	25
第18図 7~11号竪穴住居出土遺物 (1/3)	26
第19図 10~12号竪穴住居実測図 (1/60)	27
第20図 12号竪穴住居出土遺物 (1/4)	29
第21図 13・14号竪穴住居実測図 (1/60)	30
第22図 12~14号竪穴住居出土遺物 (1/3)	31
第23図 15号竪穴住居出土遺物1 (1/4)	33
第24図 15号竪穴住居出土遺物2 (1/3)	34
第25図 15号竪穴住居実測図 (1/74)	34
第26図 16・17・60号竪穴住居実測図 (1/60)	36
第27図 16・17号竪穴住居出土遺物 (1/3)	37
第28図 18・19号竪穴住居実測図 (1/60)	39
第29図 18・19号竪穴住居出土遺物 (1/3)	40

第30图	20・21・24～27号竖穴住居实测图(1/60)……………	41～42
第31图	18・20・27・28号竖穴住居竈实测图(1/30)……………	44
第32图	20・21号竖穴住居出土遺物(1/3)……………	45
第33图	22・23号竖穴住居实测图(1/60)……………	46
第34图	22号竖穴住居出土遺物(1/3)……………	47
第35图	24～26号竖穴住居出土遺物(1/3)……………	49
第36图	27～28・62号竖穴住居出土遺物(1/3)……………	51
第37图	28・62号竖穴住居实测图(1/60)……………	52
第38图	29～32号竖穴住居实测图(1/60)……………	54
第39图	30号竖穴住居出土遺物(1/4)……………	55
第40图	30～32号竖穴住居出土遺物(1/4)……………	56
第41图	58・59・61号竖穴住居、1号土坑实测图(1/60・1/40)……………	58
第42图	59・60・63号竖穴住居、1号建物、竖穴、土坑、 1・2号周溝状遺構出土遺物(1/3)……………	59
第43图	A区溝状遺構出土遺物(1/3)……………	62
第44图	C区全体图(1/150)……………	66
第45图	33・34号竖穴住居实测图(1/60)……………	67
第46图	35号竖穴住居、竈实测图(1/50・1/20)……………	68
第47图	33～35号竖穴住居出土遺物(1/3)……………	69
第48图	2・3号周溝状遺構实测图(1/60)……………	71
第49图	3号周溝状遺構出土遺物(1/4)……………	72
第50图	D区全体图(1/86)……………	75～76
第51图	36・37号竖穴住居实测图(1/60)……………	78
第52图	36号竖穴住居出土遺物1(1/3)……………	79
第53图	36号竖穴住居出土遺物2(1/3)……………	80
第54图	38・39号竖穴住居实测图(1/60)……………	82
第55图	39号竖穴住居出土遺物(1/4)……………	83
第56图	37～39号竖穴住居出土遺物(1/3)……………	84
第57图	40・41号竖穴住居实测图(1/60)……………	85
第58图	40・41号竖穴住居出土遺物(1/3)……………	87
第59图	B区全体图(1/143)……………	91～92
第60图	42・43号竖穴住居实测图(1/60)……………	93
第61图	42号竖穴住居出土遺物(1/4)……………	94
第62图	41・43・45・48・52号竖穴住居竈实测图(1/30)……………	95
第63图	44・45号竖穴住居实测图(1/60)……………	97
第64图	41・43～46号竖穴住居出土遺物(1/3)……………	98

第65図	4 6・4 7号竪穴住居実測図 (1/65)	9 9
第66図	4 6号竪穴住居出土遺物 1 (1/4)	1 0 1
第67図	4 6号竪穴住居出土遺物 2 (1/3)	1 0 2
第68図	4 8・5 3号竪穴住居実測図 (1/60)	1 0 5
第69図	4 9～5 2・6 3号竪穴住居実測図 (1/77)	1 0 6
第70図	4 7～5 3号竪穴住居出土遺物 (1/4)	1 0 7
第71図	5 4～5 6号竪穴住居実測図 (1/60)	1 0 8
第72図	5 4～5 7号竪穴住居出土遺物 (1/3)	1 1 0
第73図	1～3号建物実測図 (1/60)	1 1 1
第74図	A・B区溝状遺構出土遺物 (1/3)	1 1 5
第75図	B・C区溝状遺構出土遺物 (1/4)	1 1 6
第76図	C・D区溝状遺構、1・3号建物、B区ピット出土遺物 (1/3)	1 1 7

表 目 次

第1表	竪穴住居一覧表 1	1 2 2
第2表	竪穴住居一覧表 2	1 2 3
第3表	出土遺物観察表 1	1 2 4
第4表	出土遺物観察表 2	1 2 5
第5表	出土遺物観察表 3	1 2 6
第6表	出土遺物観察表 4	1 2 7
第7表	出土遺物観察表 5	1 2 8
第8表	出土遺物観察表 6	1 2 9
第9表	出土遺物観察表 7	1 3 0
第10表	出土遺物観察表 8	1 3 1
第11表	出土遺物観察表 9	1 3 2
第12表	出土遺物観察表 1 0	1 3 3
第13表	出土遺物観察表 1 1	1 3 4
第14表	出土遺物観察表 1 2	1 3 5
第15表	出土遺物観察表 1 3	1 3 6
第16表	出土遺物観察表 1 4	1 3 7
第17表	出土遺物観察表 1 5	1 3 8
第18表	出土遺物観察表 1 6	1 3 9
第19表	出土遺物観察表 1 7	1 4 0

図 版 目 次

図版 1	A区全体図（空中写真）	1 4 1
図版 2	B～D区全体図（空中写真）	1 4 2
図版 3	1号竪穴住居（北西から）	1 4 3
図版 4	1号竪穴住居埋甕炉	1 4 3
図版 5	2号竪穴住居（南から）	1 4 3
図版 6	3・4号竪穴住居（東から）	1 4 3
図版 7	3号竪穴住居埋甕炉（西から）	1 4 4
図版 8	5号竪穴住居（南から）	1 4 4
図版 9	1号地下式横穴状遺構（南西から）	1 4 4
図版10	1号地下式横穴状遺構内部（南西から）	1 4 4
図版11	2号地下式横穴状遺構（南から）	1 4 5
図版12	2号地下式横穴状遺構内部（南から）	1 4 5
図版13	3号地下式横穴状遺構閉塞状況（南から）	1 4 5
図版14	3号地下式横穴状遺構内部（南から）	1 4 5
図版15	6号竪穴住居（東から）	1 4 6
図版16	6号竪穴住居遺物出土状況（東から）	1 4 6
図版17	7号竪穴住居（南東から）	1 4 6
図版18	7号竪穴住居竈（南西から）	1 4 6
図版19	8号竪穴住居（西から）	1 4 7
図版20	9号竪穴住居（西から）	1 4 7
図版21	1 2号竪穴住居（東から）	1 4 7
図版22	1 2号竪穴住居遺物出土状況（北東から）	1 4 7
図版23	1 3・1 4号竪穴住居（南から）	1 4 8
図版24	1 3号竪穴住居埋甕炉	1 4 8
図版25	1 4号竪穴住居竈（南から）	1 4 8
図版26	1 5号竪穴住居（東から）	1 4 8
図版27	1 6号竪穴住居（西から）	1 4 9
図版28	1 6号竪穴住居遺物出土状況	1 4 9
図版29	1 6号竪穴住居竈（北から）	1 4 9
図版30	1 7・6 0号竪穴住居（南西から）	1 4 9
図版31	1 7号竪穴住居埋甕炉	1 5 0
図版32	1 8・1 9号竪穴住居（西から）	1 5 0
図版33	1 8号竪穴住居竈（南から）	1 5 0
図版34	2 0・2 1号竪穴住居（西から）	1 5 0

図版35	20号竪穴住居竈（南から）	151
図版36	22号竪穴住居（北から）	151
図版37	22号竪穴住居竈（南から）	151
図版38	23号竪穴住居（西から）	151
図版39	24・25号竪穴住居（南から）	152
図版40	26・27号竪穴住居（南から）	152
図版41	27号竪穴住居竈（南から）	152
図版42	28号竪穴住居竈（南から）	152
図版43	29・30・32号竪穴住居（西から）	153
図版44	31号竪穴住居埋甕炉	153
図版45	33号竪穴住居（東から）	153
図版46	34号竪穴住居（東から）	153
図版47	35号竪穴住居（北から）	154
図版48	35号竪穴住居遺物出土状況（東から）	154
図版49	35号竪穴住居竈（南から）	154
図版50	36号竪穴住居遺物出土状況（東から）	154
図版51	36号竪穴住居遺物出土状況	155
図版52	37号竪穴住居（西から）	155
図版53	36号竪穴住居（東から）	155
図版54	38号竪穴住居（西から）	155
図版55	39号竪穴住居（空から）	156
図版56	39号竪穴住居遺物出土状況	156
図版57	39号竪穴住居（南東から）	156
図版58	41号竪穴住居（西から）	157
図版59	42号竪穴住居遺物出土状況（北から）	157
図版60	42号竪穴住居（北から）	157
図版61	43号竪穴住居（東から）	157
図版62	44号竪穴住居（南から）	158
図版63	45号竪穴住居竈（南から）	158
図版64	45号竪穴住居（東から）	158
図版65	46号竪穴住居（北から）	158
図版66	46号竪穴住居、1号建物周辺（空中写真）	159
図版67	46号竪穴住居遺物出土状況（北東から）	159
図版68	46号竪穴住居遺物出土状況（北から）	159
図版69	48号竪穴住居竈（南から）	160
図版70	52号竪穴住居（西から）	160

図版71	49～52・63号竪穴住居（東から）	160
図版72	52号竪穴住居竈（北から）	160
図版73	56号竪穴住居（北から）	161
図版74	58号竪穴住居（西から）	161
図版75	53号竪穴住居（東から）	161
図版76	59号竪穴住居（北東から）	161
図版77	61号竪穴住居（北西から）	162
図版78	1号土坑（西から）	162
図版79	2・3号竪穴（北から）	162
図版80	1号周溝状遺構（南から）	162
図版81	3号周溝状遺構（空中写真）	163
図版82	3号周溝状遺構（北から）	163
図版83	3号周溝状遺構遺物出土状況（南から）	163
図版84	3号周溝状遺構遺物出土状況（南から）	163
図版85	出土遺物1	164
図版86	出土遺物2	165
図版87	出土遺物3	166
図版88	出土遺物4	167
図版89	出土遺物5	168
図版90	出土遺物6	169
図版91	出土遺物7	170
図版92	出土遺物8	171
図版93	出土遺物9	172
図版94	出土遺物10	173

第 I 章 はじめに

第 1 節 調査に至る経緯

平成 6 年 11 月 15 日に事業主体者の[]より、宮崎市吉村町大町甲 1961—1 外 27 筆についての文化財の有無照会が提出された。それを受けて市教育委員会は当該箇所が埋蔵文化財所在の可能性が高いとの判断に基づき、平成 7 年の 1 月 17・18 日に試掘調査を実施した。

トレンチによる試掘調査の結果、竪穴住居状の落ち込み、溝、土坑が検出され、それに伴い古墳時代後期に属する須恵器、土師器が出土し、遺跡の所在が確認された。その後、平成 7 年度に 2 回の試掘調査を行い、調査範囲を確定し、同時に[]との協議を重ね、平成 8 年 3 月に調査区東側部分の表土剥ぎを行い、4 月より本調査を実施することとなった。

発掘調査は平成 8 年 4 月 8 日より 10 月 2 日にかけて行われた。

第 2 節 遺跡の立地と歴史的環境

大町遺跡は大淀川左岸の標高約 5m の微高地上に立地する。南方 1.6km で大淀川、東に 1.8km で一ツ葉入り江、2.2km で太平洋に至る。

遺跡の周辺は、現在、家屋が密集しているが、微高地は更に遺跡の東、西、北の三方向に広がり、南側は約 1m ほど低い。このことから、当遺跡は微高地の南端に位置する集落で、南方は水田地帯もしくは大淀川の氾濫原であったと推測される。

大町遺跡の周辺には数多くの遺跡が確認されており、そのうちの幾つかは発掘調査が実施されている。

遺跡の西方 300m には平成 8 年に調査された宮脇遺跡が所在する。宮脇遺跡からは溝状遺構 8 条が検出され、そのうちの 1 条から、布痕土器が 1 点出土している。

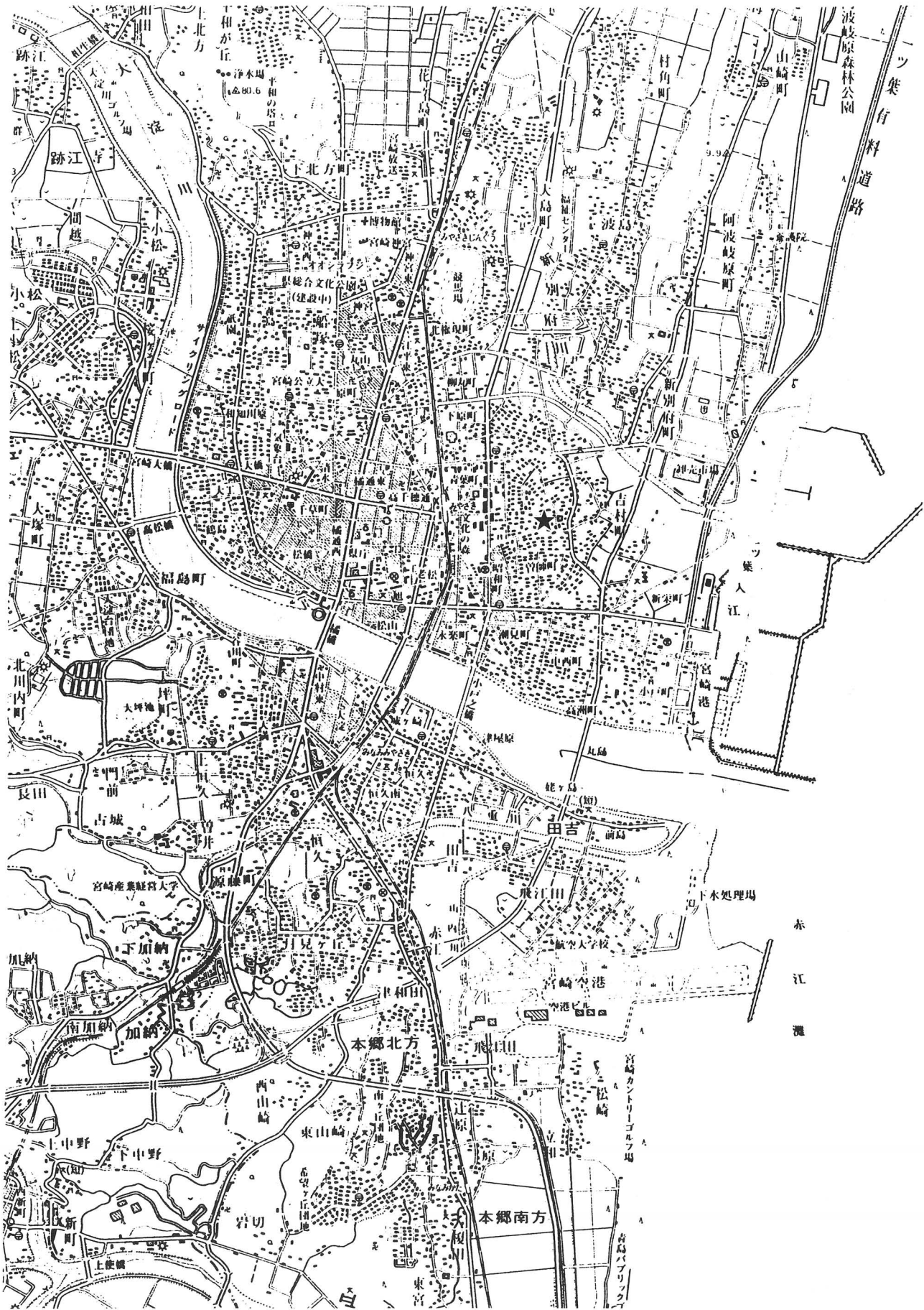
宮脇遺跡の西方 300m の微高地上には昭和 52～54 年と、平成 4 年の 4 次にわたって調査が行われた浄土江遺跡が所在する。調査の結果、33 軒の住居跡と、数十条の溝状遺跡が検出され、古墳時代後期から奈良時代にかけての土師器、須恵器等が数多く出土している。(註 1・2)

更に西方の日豊本線を挟んだ JR 宮崎駅周辺から県庁付近にかけて、広島古墳群が拡がる。古墳そのものは現在確認できないが、内行花文鏡・画文帯神獸鏡・直刀・杏葉等の出土品が宮崎県総合博物館に所蔵されている。(註 3)

また、大町遺跡の周辺には、西側の吉村八幡神社周辺に曾師遺跡、北側から東側にかけては庵ノ山遺跡、引土遺跡、上無田堤遺跡、櫛小学校遺跡、上西中遺跡、南側に中原遺跡といった散布地が所在している。(註 4)

(註 1) 『浄土江遺跡』宮崎市文化財調査報告書第 6 集 宮崎市教育委員会 1981

(註 2) 『浄土江遺跡Ⅱ』宮崎市文化財調査報告書 宮崎市教育委員会 1993



第1図 大町遺跡位置図 (1/50,000)

(註3)「広島古墳群」『宮崎県史』資料編考古2 宮崎県 1993

(註4)『宮崎市遺跡等詳細分布調査報告書』Ⅱ〔リゾート地区を中心として〕 宮崎市教育委員会 1990

第3節 調査の概要

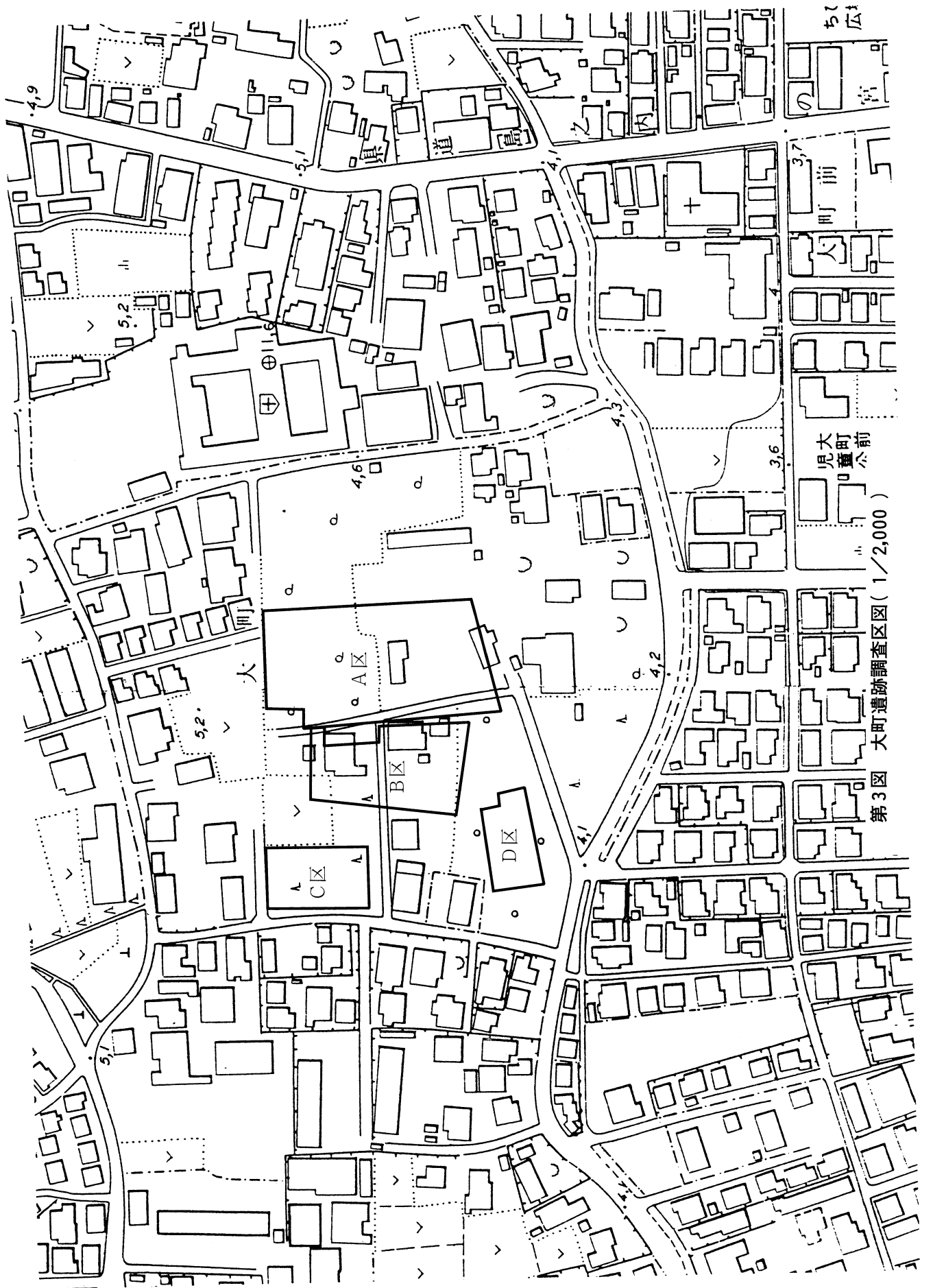
調査区が広大なこと、廃土置場等の問題から、便宜的に東側のA区、中央部のB区、北西隅のC区、南西隅のD区の4区に分けた。調査区内には調査以前に5軒の家屋が建っており、また、部分的に苗圃、林になっていた関係上、攪乱している箇所が多かった。また、現地表より、遺構検出面まで、約30～50cmと浅く、遺構間の切りあい激しいことも遺構の検出を困難にした。しかし、半年にわたる調査の結果、当初の予想をはるかに上回る竪穴住居群が検出され、また、一部を除いて残存状況も極めて良好であった。ただ、期間の関係上、一部、調査が不十分な箇所がでてしまったことは遺憾である。

本遺跡検出の竪穴住居のほとんどは古墳時代後期に属するものであるが、10、56号住居は弥生時代後期のものである。

その他に、周溝状遺構が3基、土坑13基、近世墓3基、井戸2基、110条あまりにのぼる溝状遺構等が検出された。溝状遺構はC1号が古墳時代中期に、A3、26～29、32、34、36、45、49号、B5、14、23号、C2、4、10号、D2、3号溝状遺構が古墳時代後期に、A41号溝状遺構が奈良時代に、A15号溝状遺構が14世紀代に比定される他は近世以降のものと推定される。

また、調査区内からは200基を超えるピットが検出されたが、掘立柱建物が3棟、柵列が1条確認されたほかは、規則性をもたなかった。

本遺跡の基本層序は表土、褐色土層、黒褐色土層、黄褐色土層、黄色土層、灰色砂層となっており、各遺構は黄褐色土層上面で検出した。



第3図 大町遺跡調査区図(1/2,000)

第Ⅱ章 A区の調査

第1節 竪穴住居の調査

1号竪穴住居（第5図）

北東壁長5.4m、東南壁長6.0m、南西壁長4.5mの南北にやや長い台形のプランを呈し、壁高70cmを測る。住居跡の中央に埋甕炉をもち、北東、南東、北西の3面に壁帯溝が巡る。埋甕炉は径32cm、深さ23cmの掘り込み内に甕を安置している。壁溝は幅15cm、深さ8cmを測り、南西側では検出することができなかった。

住居跡床面には貼床が施してあり、部分的に焼土、炭化物が確認された。床面からはピットが数多く検出されたが、P1、3、4を支柱穴とみなした。各柱穴間を結んだ線は不整形を呈するものと思われる。

遺物は床面のほぼ全面から出土しているが、特に集中している箇所はない。また、北西壁側から、多量の土器が住居跡壁際上面から床面にかけて、斜めに流れ込んだような状態で出土した。住居廃絶後の土器の投棄が考えられる。

〔出土遺物〕（第6図）

土師器の甕、壺、甃、高杯、椀、須恵器の坏蓋、坏身等が出土している。1は埋甕炉に使用されていた甕で、口縁を欠き、外面に煤の付着がみられる。10、11は椀で、半球状の体部で、口縁部は短く外反する。15、16は須恵器の坏身で、立ち上がりが短く内傾する。

3、5、7、8、13、14、16は北西側の流れ込みからの出土である。

2号竪穴住居（第5図）

南北長5.0m、南壁長6.1m以上の長方形プランを呈し、壁高50cmを測る。住居跡東側はA19号溝状遺構に切られており、東壁は残存しない。床面は貼床を施してあり、ほぼ中央から埋甕炉が検出された。埋甕炉は径35cm、深さ20cmの掘り込みに甕を安置しており、遺存状態はよくない。

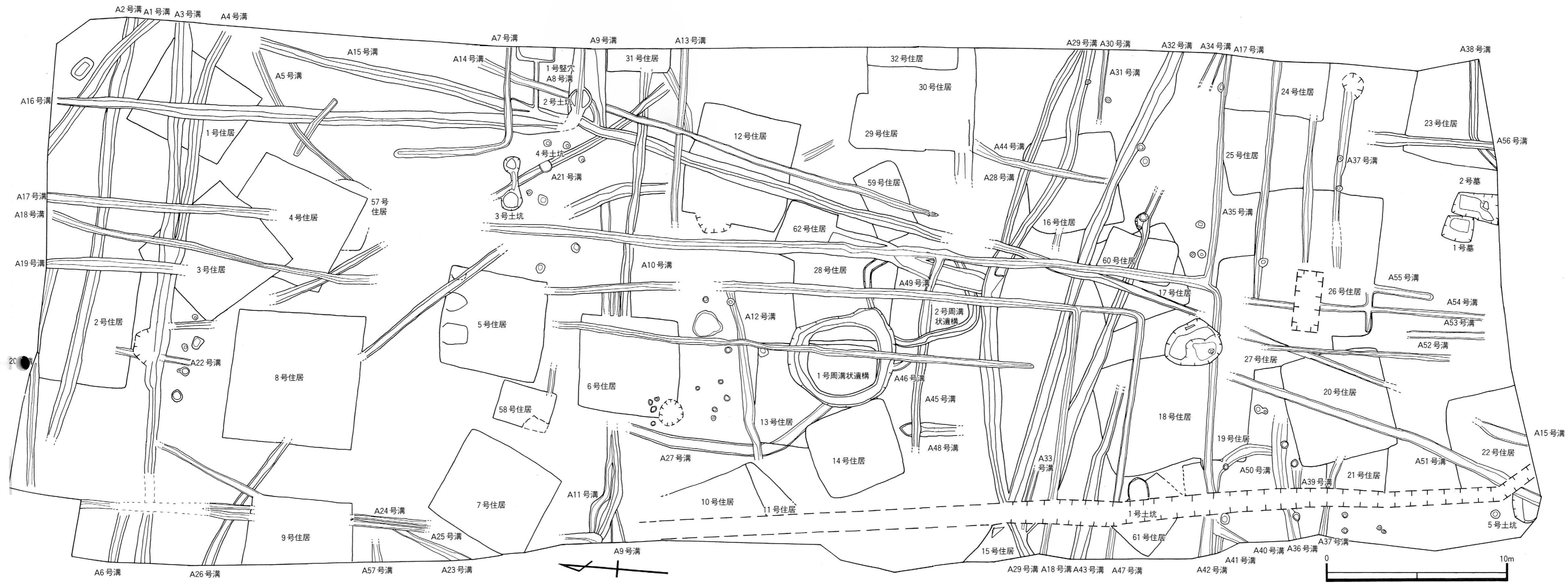
床面より、ピットが8基検出された。支柱穴は4本で、柱穴間を結んだ線は住居跡と同じく長方形を呈する。各柱穴の床面からの深さはP1が67cm、P2が56cm、P3が37cm、P4が57cmを測る。

遺物の出土量はそれほど多くはないが、西側床面上から集中して出土している。

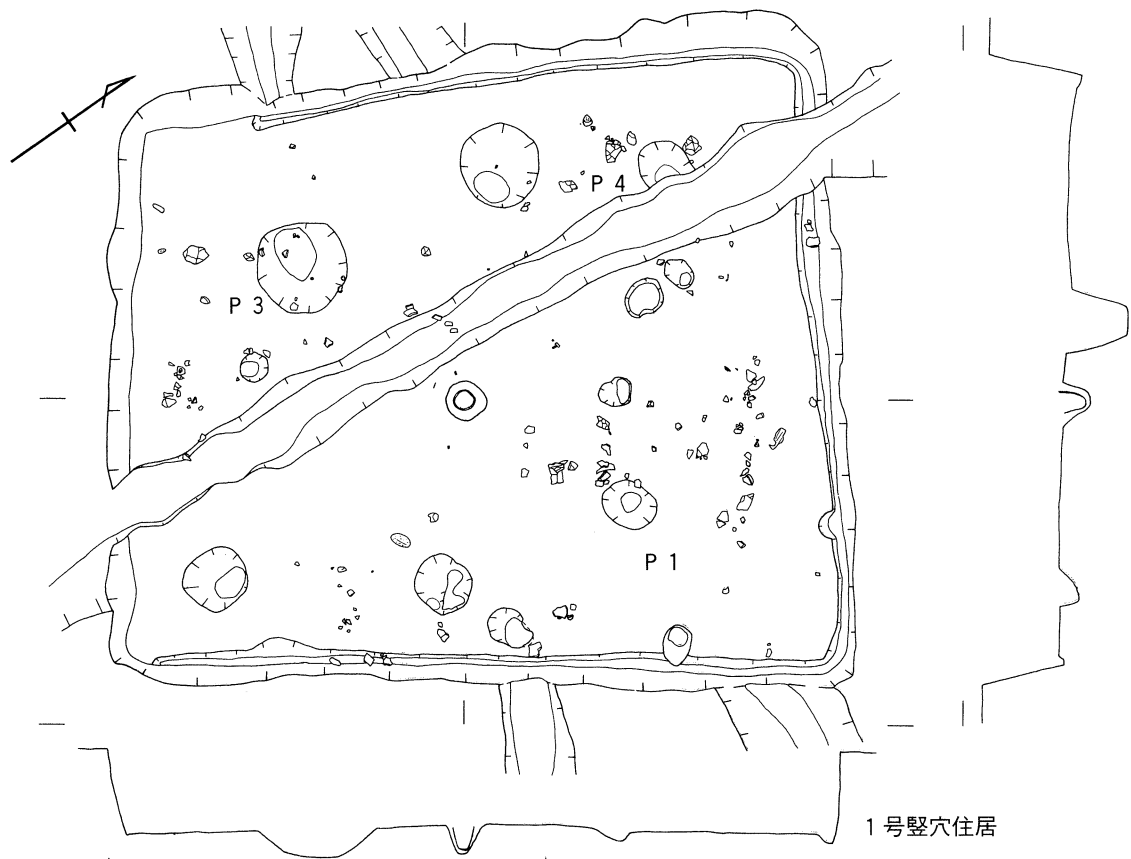
〔出土遺物〕（第7図）

土師器の甕、鉢、椀、須恵器の坏蓋等が出土している。17は埋甕炉に使用されていた甕で、底部のみ完存していた。18は長胴の甕である。19、20は鉢で、20は突出した底部をもつ。22は須恵器の坏蓋で、口縁端部が短く外反する。壺の蓋に用いられたものであろうか。

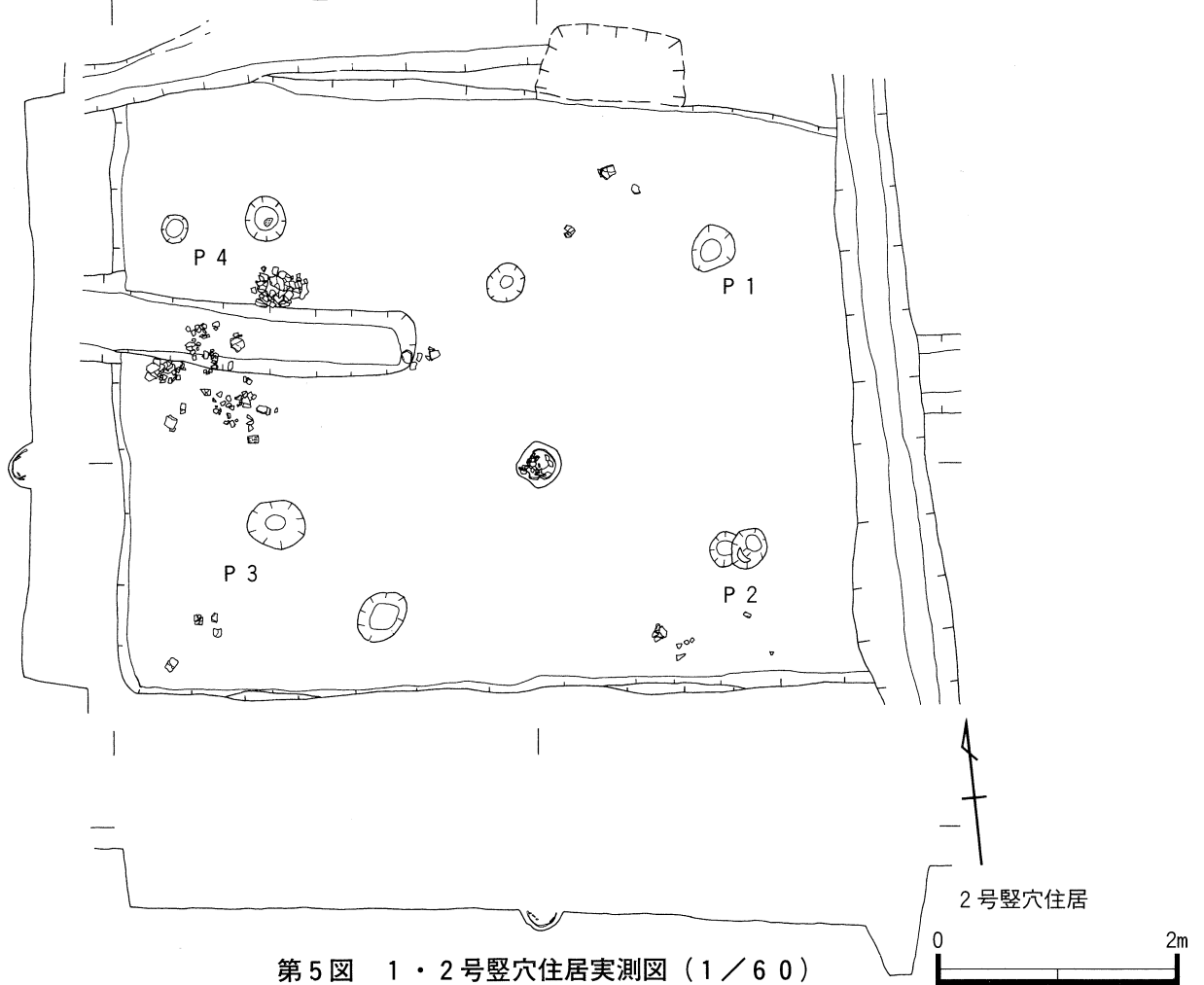
21、22を除いて、床面から出土した。



第4图 A区全体图(1/143)

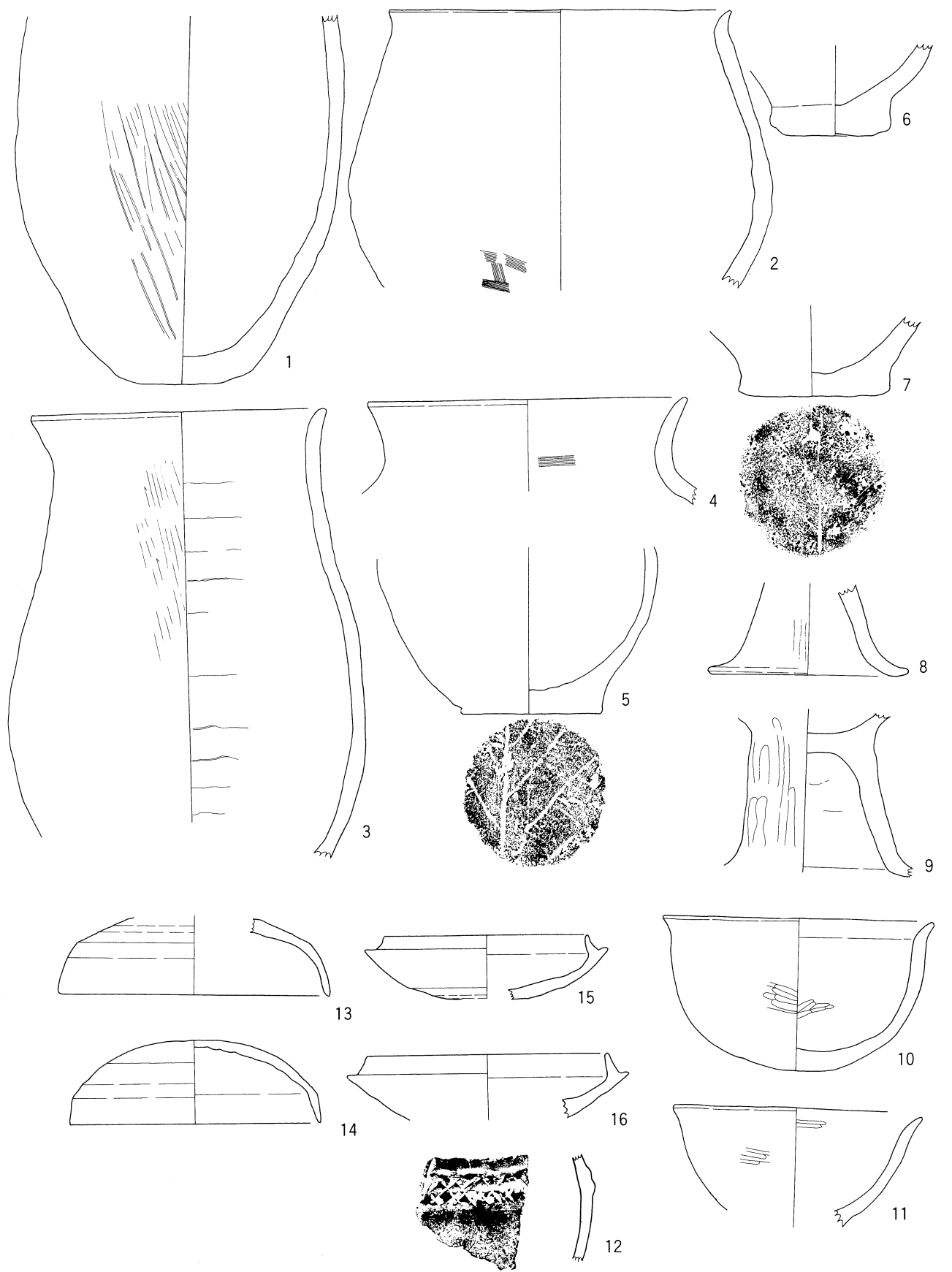


1号竖穴住居



2号竖穴住居

第5图 1・2号竖穴住居实测图 (1/60)



第6图 1号竖穴住居出土遗物(1/3)

3号竪穴住居（第8図）

北東壁長5.7m、南東壁長5.9mのややいびつな方形プランを呈しており、壁高55cmを測る南東側が4号竪穴住居に切られている。

床面には貼床を施しており、中央やや西寄りに埋甕炉が検出された。埋甕炉は径38cm、深さ22cmの掘り込み内に甕が埋め込まれており、主柱穴は4本で、柱穴間を結んだ線はやや台形を呈する。各柱穴の床面からの深さはP1が21cm、P2が56cm、P3が42cm、P4が26cmを測る。

床面から出土した遺物は僅かである。

〔出土遺物〕（第7図）

土師器の甕等が出土している。23は埋甕炉に使用されていた甕で、突出した平底の底部をもち、外面に大きめの刷毛目を施している。胴下半部から底部にかけて完存している。24も床面より出土した。

4号竪穴住居（第8図）

北壁長5.9m、西壁長6.5mの長方形プランを呈し、壁高80cmを測る。北西側で3号竪穴住居を切り、南側は57号竪穴住居に切られている。

住居跡床面は貼床が施してあり、中央やや南寄りに焼土面及び、浅いピットが検出された。埋甕炉の痕跡であると推定される。主柱穴は4本で、柱穴間を結んだ線は住居跡と同じ長方形を呈する。各柱穴の床面からの深さはP1が61cm、P2が48cm、P3が40cm、P4が37cmを測る。

遺物は少ないが、住居跡南側に小さなまとまりをもって出土している。

〔出土遺物〕（第9図）

土師器の甕、高坏、椀、坏蓋、須恵器の坏蓋、提瓶等が出土した。

25は木葉底の甕である。26は高坏で、口縁部と受部の境に稜をもつ。29～32は須恵器の坏蓋で、29、30は口径がともに14.5cmを越える大型のものである。32は径が小さく、口縁部内面に段をもつ。

31、32は埋土中からの出土である。

57号竪穴住居（第8図）

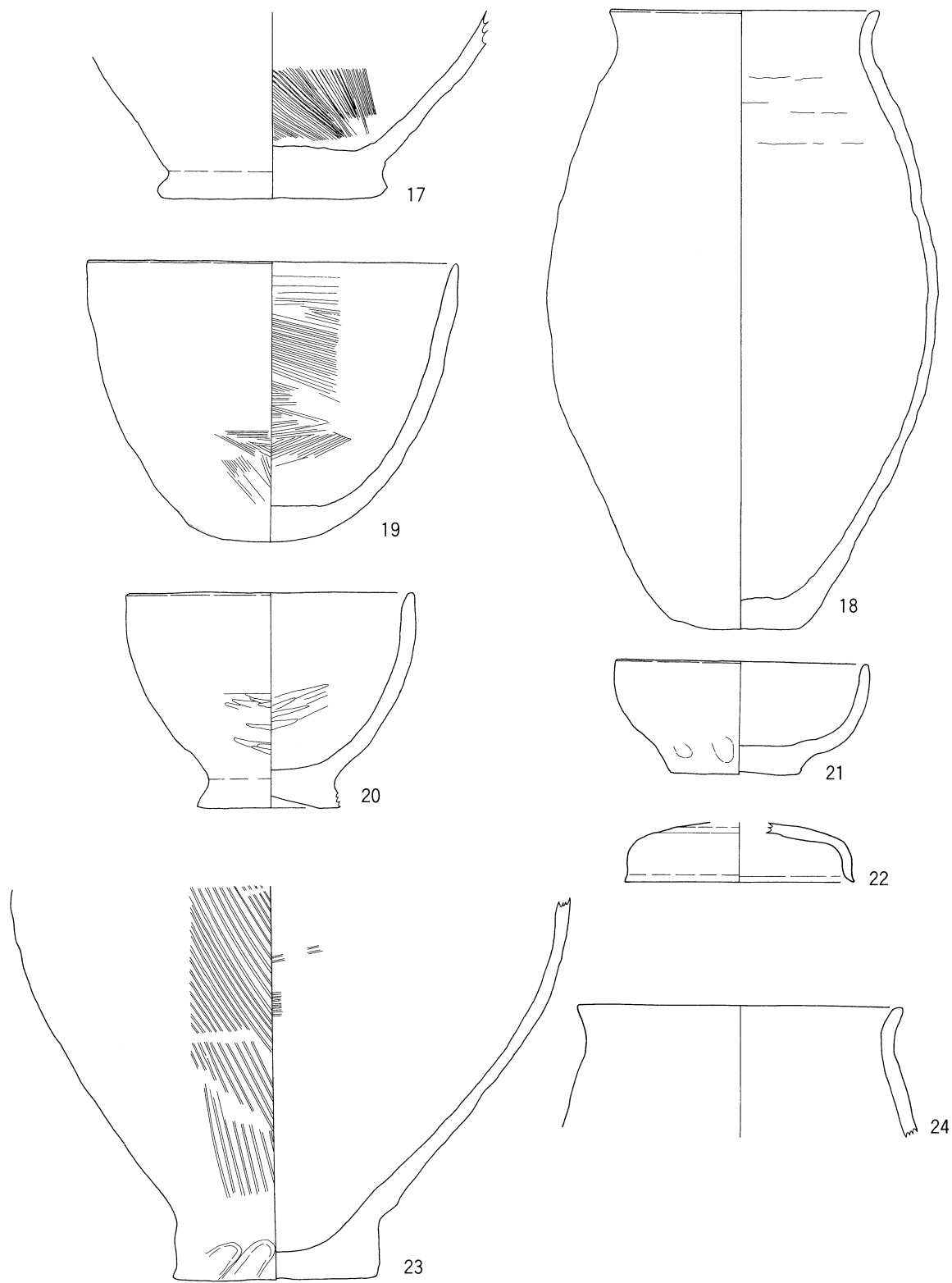
東西長3.6m、壁高15cmを測る。胴張りの強い隅丸方形のプランが想定されるが、4号竪穴住居を切り、A17号溝状遺構に切られ、また南側は攪乱の為、判然としない。

住居跡南東隅付近より、焼土面、粘土塊、軽石等が検出され、竈が存在したものと思われる。なお、焚口の方向、竈の形態は明確にすることができなかった。

床面からピットは検出されなかったが、遺物は竈周辺にまとまりをもって出土した。

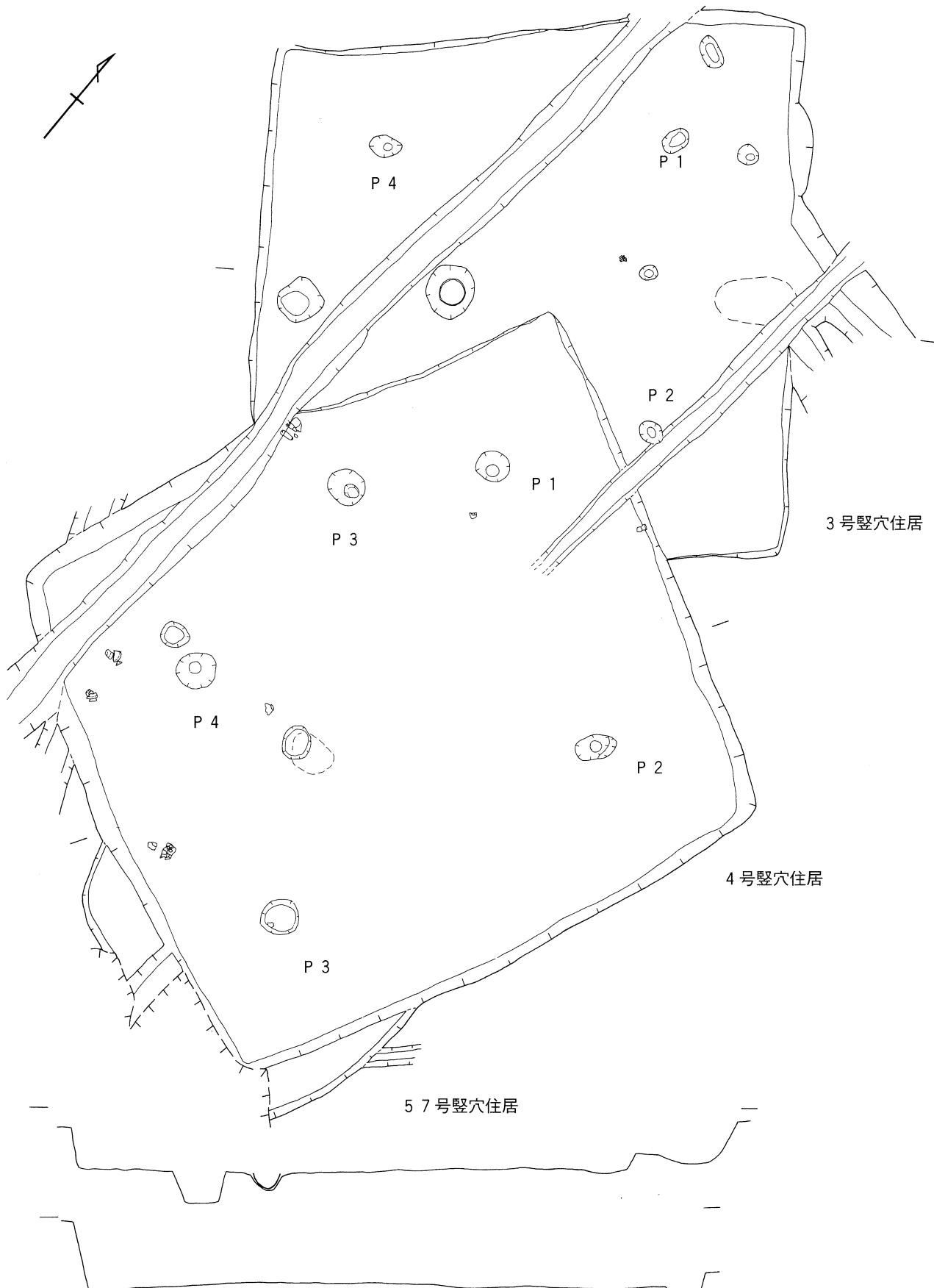
〔出土遺物〕（第72図）

土師器の甕、壺が出土している。446、447はいずれも口縁部が短く外反する甕で、446は口縁部に、447は胴中央部に最大径をもつ。450は壺で、口縁部は短く外反し、胴下半部が大きく張る。



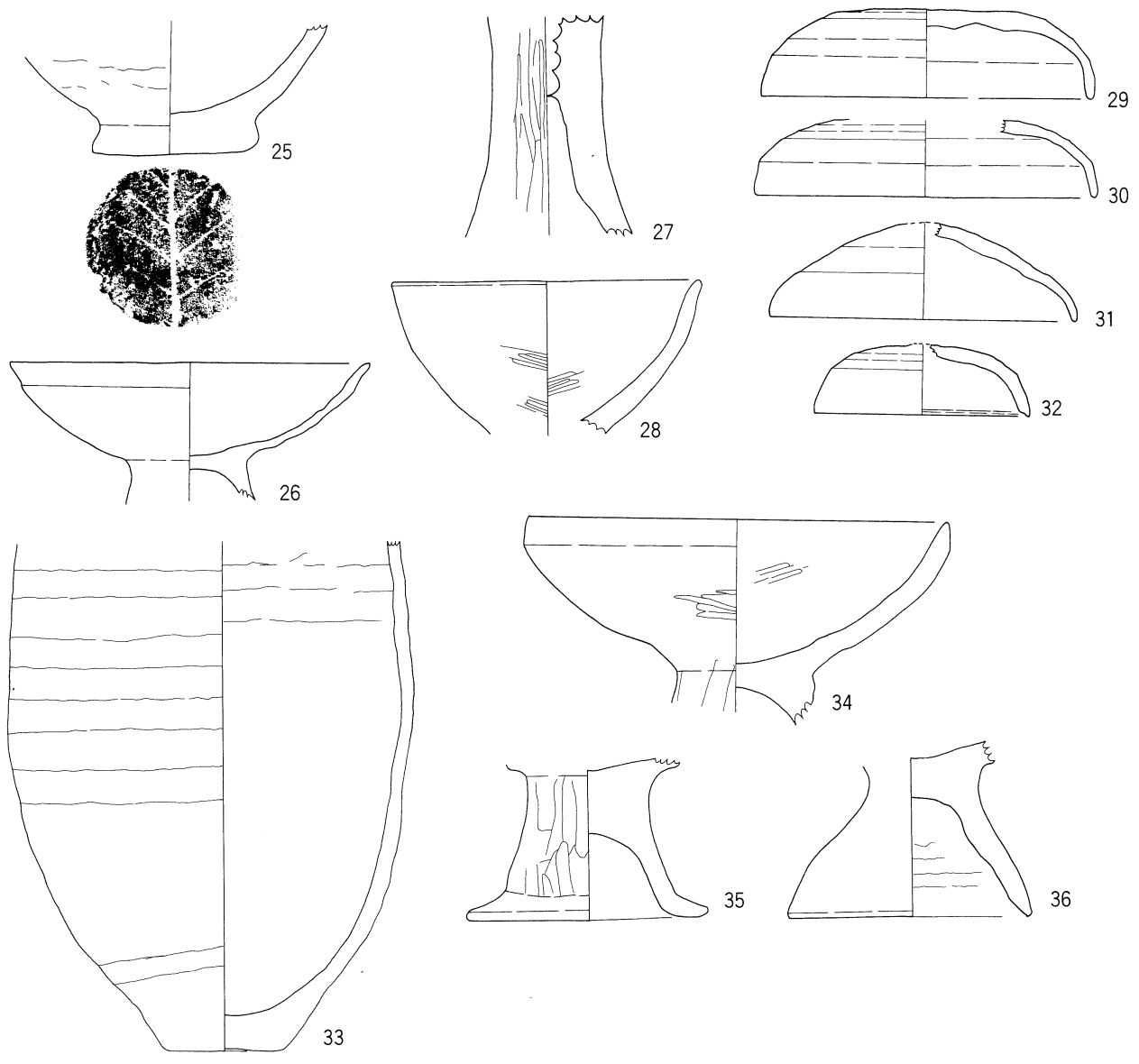
第7图 2・3号竖穴住居出土遺物(1/3)



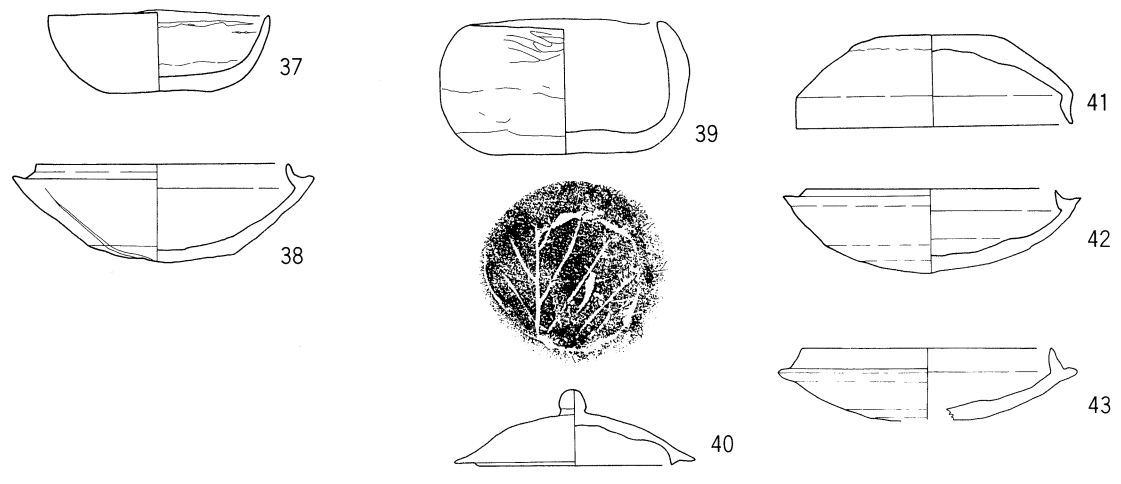


第8图 3·4·57号竖穴住居实测图 (1/3)

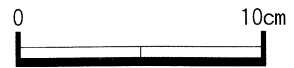




第9图 4・5号竖穴住居出土遺物 (1 / 3)



第10图 5号竖穴住居内地下式横穴状遺構出土遺物 (1 / 3)



遺物はいずれも床面からの出土である。

5号竪穴住居（第11図）

東西5.3m以上、南北5.5mの方形プランを呈し、壁高60cmを測る。東壁はA19号溝状遺構に切られていて、残存しない。床面には貼床を施しており、住居跡ほぼ中央から埋甕炉が検出された。埋甕炉は径23cm、深さ18cmの掘り込みをもち、このなかに甕を安置し、埋め込んでいる。

主柱穴は4本で、柱穴間を結んだ線は住居跡主軸よりやや東に振れるが、ほぼ正方形を呈する。各柱穴の深さはP1が62cm、P2が60cm、P3が46cm、P4が69cmを測る。

床面、埋土中ともに遺物の出土は少量である。

また、住居跡北壁側には床面より掘り込んだ地下式横穴状の施設が東西に3基並んで検出された。埋土の状況から、住居跡との時期差は考えられず、住居跡に付随する貯蔵施設もしくは、住居廃絶後に、その落ちこみと壁を利用して構築された小型の地下式横穴墓の可能性が考えられる。しかし、規模、構造、遺物、軽石の出土状況等の点から、そのどちらかであるかを断定しかねる為、ここでは、一応、地下式横穴状遺構として取り扱う。なお、各部の呼称は地下式横穴墓にならうが、「玄室」については「奥室」、「羨道」については「接合部」と表現する。

〔出土遺物〕（第9図）

土師器の甕、高坏、須恵器の坏身等が出土している。33は埋甕炉に使用された甕である。34は高坏の坏部で、口縁部と受部の境に稜をもつ。35、36は高坏の脚部で、35は裾部が広がり、36は広がらずに収束する。

36は埋土中から、それ以外は床面上より出土した。

5-1号地下式横穴状遺構（第12図）

住居跡北東隅に位置し、主軸方向はN-65°-Eである。平面プランは平入り型で、奥室は楕円形を呈する。

竪坑前面はA19号溝状遺構に切られており、各部の計測値は竪坑上幅東西75cm以上、南北52cm、深さ58cmを測り、接合部幅50cm、長さ35cm、奥室長58cm、幅90cm、最大高40cmを測る。

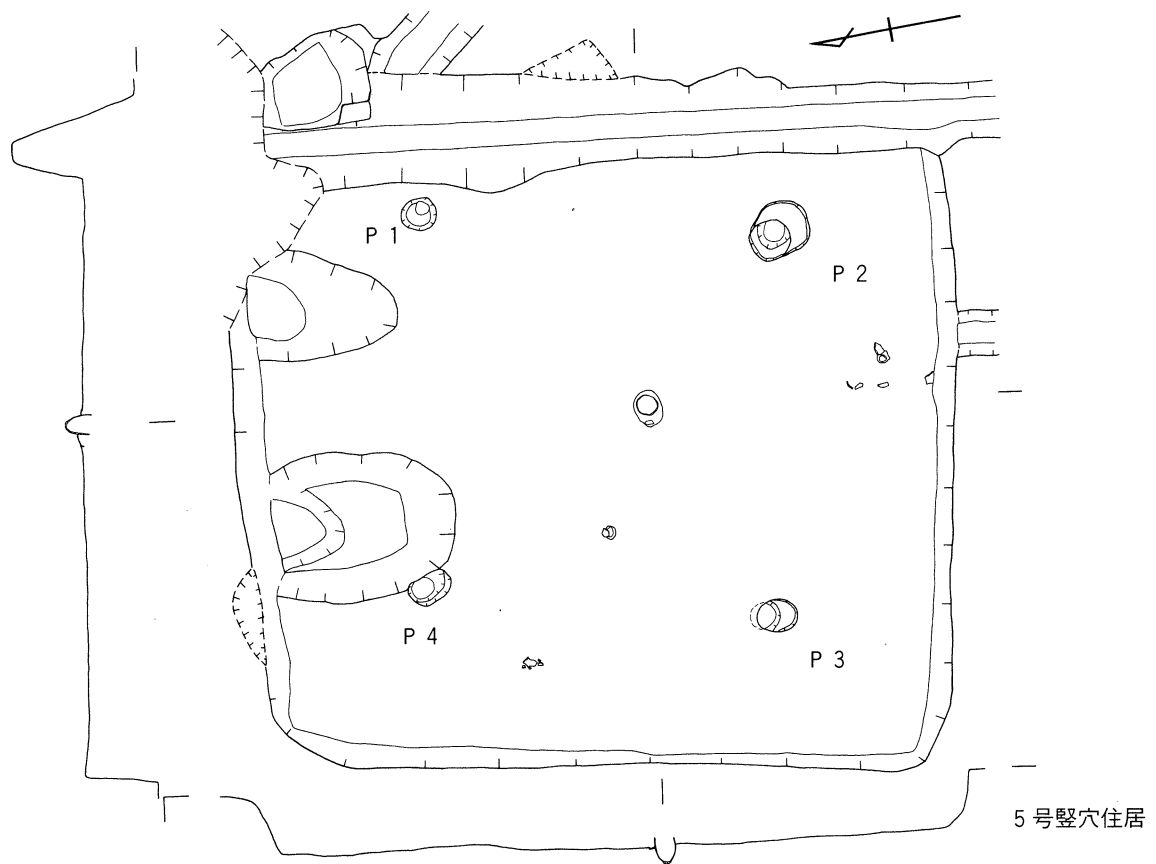
奥室に向かって床面はゆるやかに高くなっており、奥室内から握りこぶし大の軽石が多量に検出された。奥室中央より、土師器椀及び、須恵器坏身が出土した。

〔出土遺物〕（第10図）

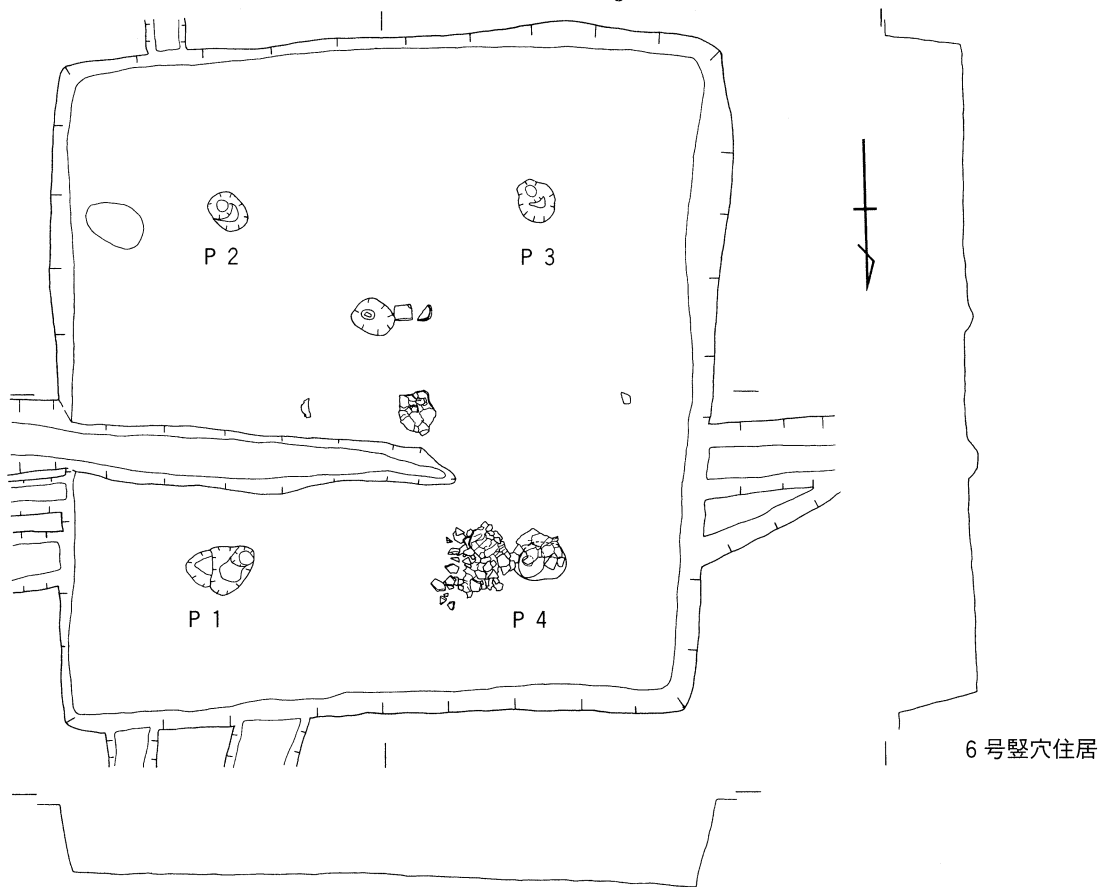
37は土師器の椀で、小型のものである。38は須恵器の坏身で、径が小さく、立ち上がりも短く、内傾する。底部はヘラ切り未調整である。

5-2号地下式横穴状遺構（第12図）

住居跡北壁中央やや東寄りに位置し、主軸方向は、ほぼ南北である。平面プランは平入り型

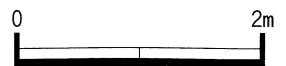


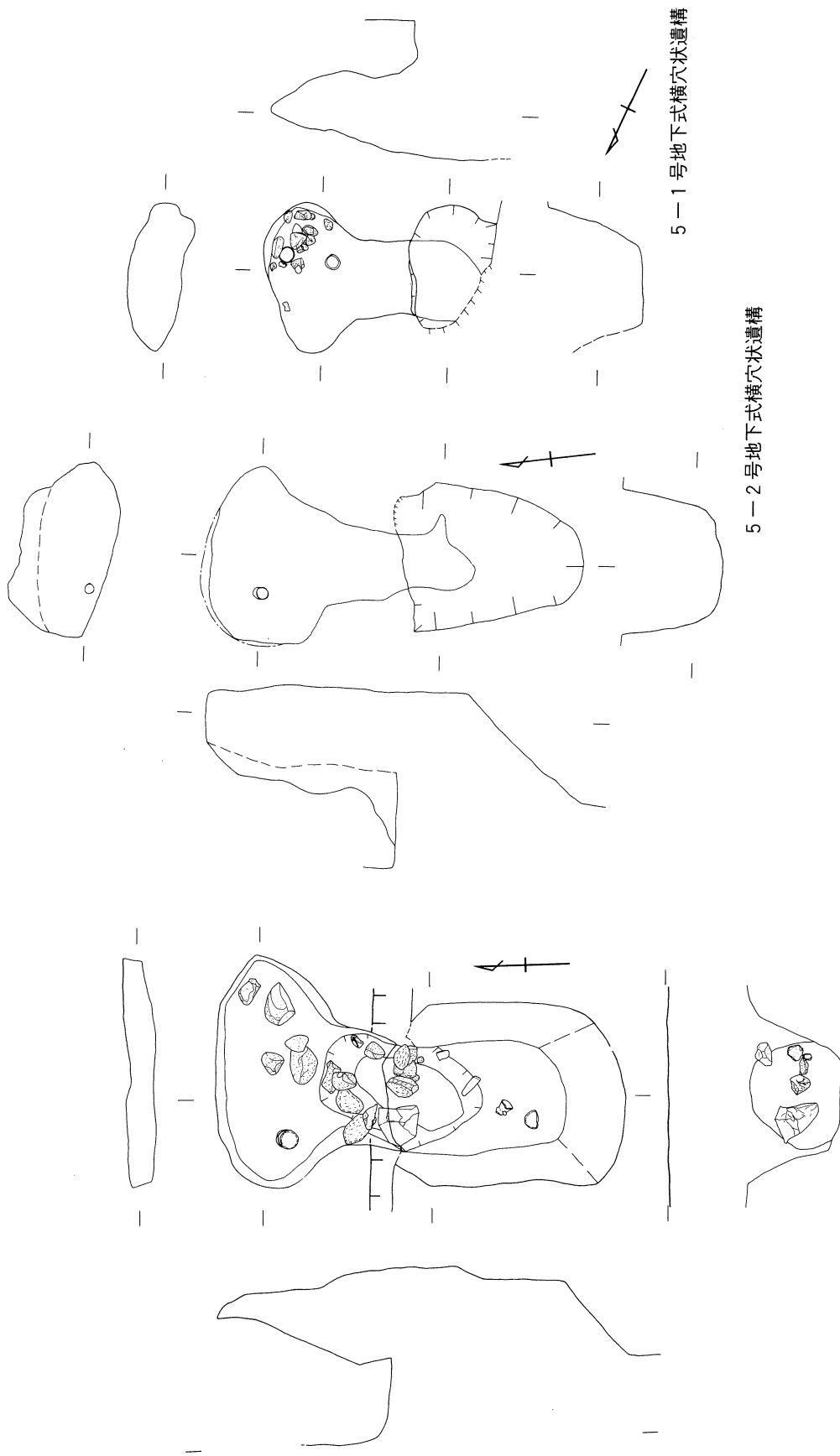
5号竖穴住居



6号竖穴住居

第11图 5・6号竖穴住居实测图 (1/60)





5-1 号地下式横穴状遺構

5-2 号地下式横穴状遺構

5-3 号地下式横穴状遺構



第12図 5号竖穴住居内1~3号地下式横穴状遺構実測図(1/80)

で、奥室は楕円形を呈する。

竪坑上幅は東西85cm、南北115cm、深さ68cmを測り、接合部幅58cm、長さ52cm、奥室長80cm、幅115cm、推定最大高52cmを測る。床面は竪坑から奥壁まで、ほぼ平坦である。

奥室中央やや西から須恵器坏蓋、土師器椀が出土した。

〔出土遺物〕（第10図）

39は土師器の椀で、体部から口縁部にかけて、大きく内彎する。底部は木葉底である。40は須恵器の坏蓋で、宝珠様つまみを有し、内面のかえりは口縁端部より下方にのびている。

5-3号地下式横穴状遺構（第12図）

住居跡北壁中央やや西寄りに位置し、主軸方向は、ほぼ南北である。平面プランは平入り型で、奥室は楕円形を呈する。

竪坑上幅東西117cm、南北150cm、深さ52cm、接合部長さ30cm、幅66cm、高さ58cm、奥室長80cm、幅146cm、最大高55cm、奥壁高9cmを測る。

遺構内には、黒褐色土が詰まっており、径5~30cmの軽石が多量に検出された。また、竪坑部と接合部との境には、石と軽石を用いて、閉塞石を意識したつくりをしている。

床面は接合部で約10cmの段がつき、1段下がり、奥室内で1段上がる。

竪坑上部より土師器の高坏、須恵器の坏身が、奥室床面上より須恵器の坏蓋、坏身がセットで出土した。

〔出土遺物〕（第10図）

41は、須恵器の坏蓋で、天井部はヘラ切り未調整である。42は坏身で、立ち上がりはごく短く内傾する。41、42はセットになり、蓋が身に3分の2ほど、被さった状態で出土した。43は奥室内埋土中から出土した。

6号竪穴住居（第11図）

南壁長5.3m、西壁長5.3mの正方形プランで壁高70cmを測る。床面は貼床が施されており、中央やや南寄りに径30~35cm、深さ15cmの楕円形のピットが検出された。ピット内からは土器片が数点出土しただけであったが、埋甕炉の痕跡と推定される。また、住居跡南西隅の床面上から焼土が検出された。

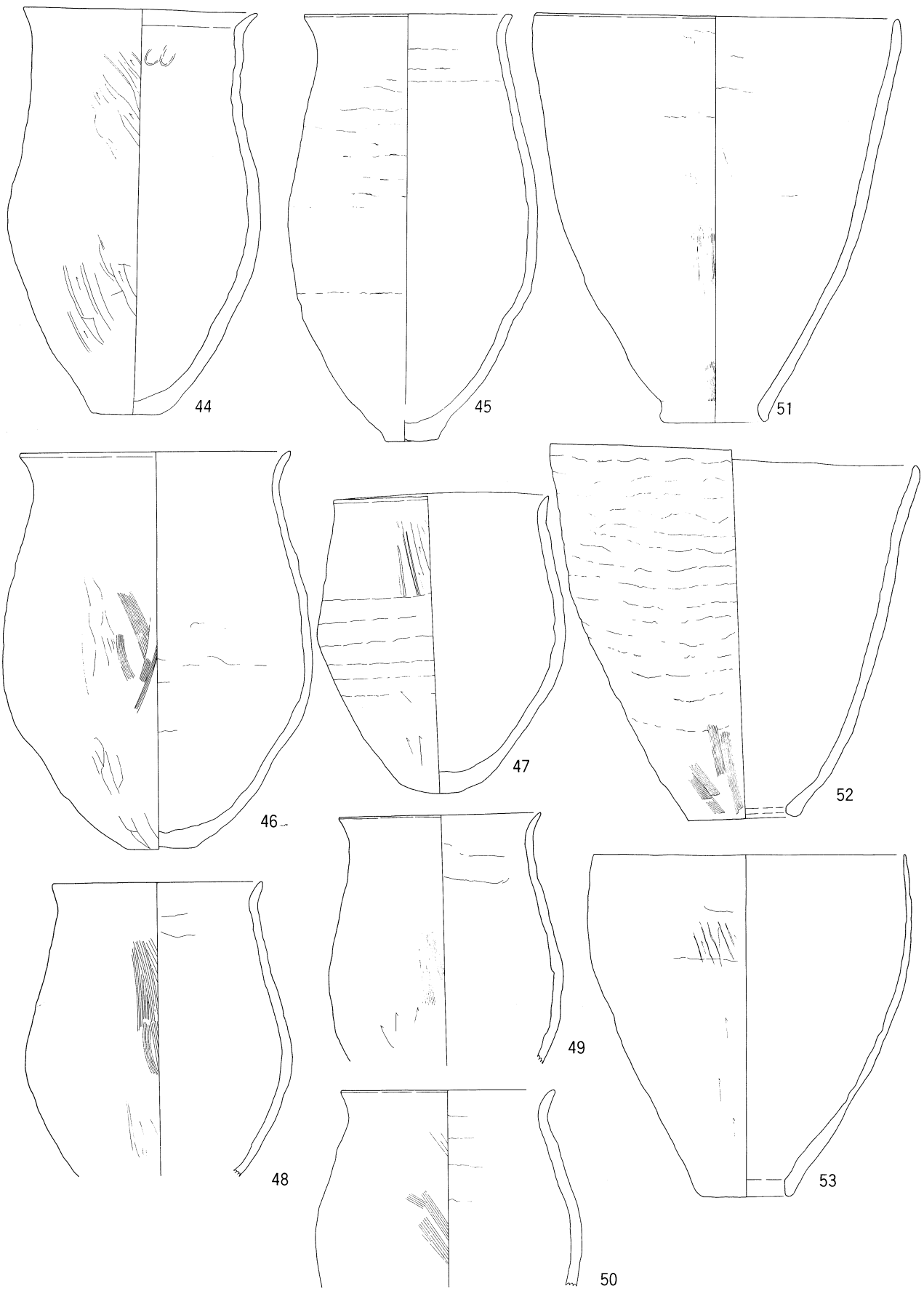
主柱穴は4本で、柱穴間を線で結ぶと南北にやや長い長方形となる。柱穴の床面からの深さはそれぞれ、P1、P2が30cm、P3が34cm、P4が43cmを測る。

遺物は住居跡北東側の床面から集中して出土している。また、この箇所は東壁上から床面にかけて、流れ込んだような状態で多量の土器が出土した。住居廃絶後の土器投棄が考えられる。

〔出土遺物〕（第13、14図）

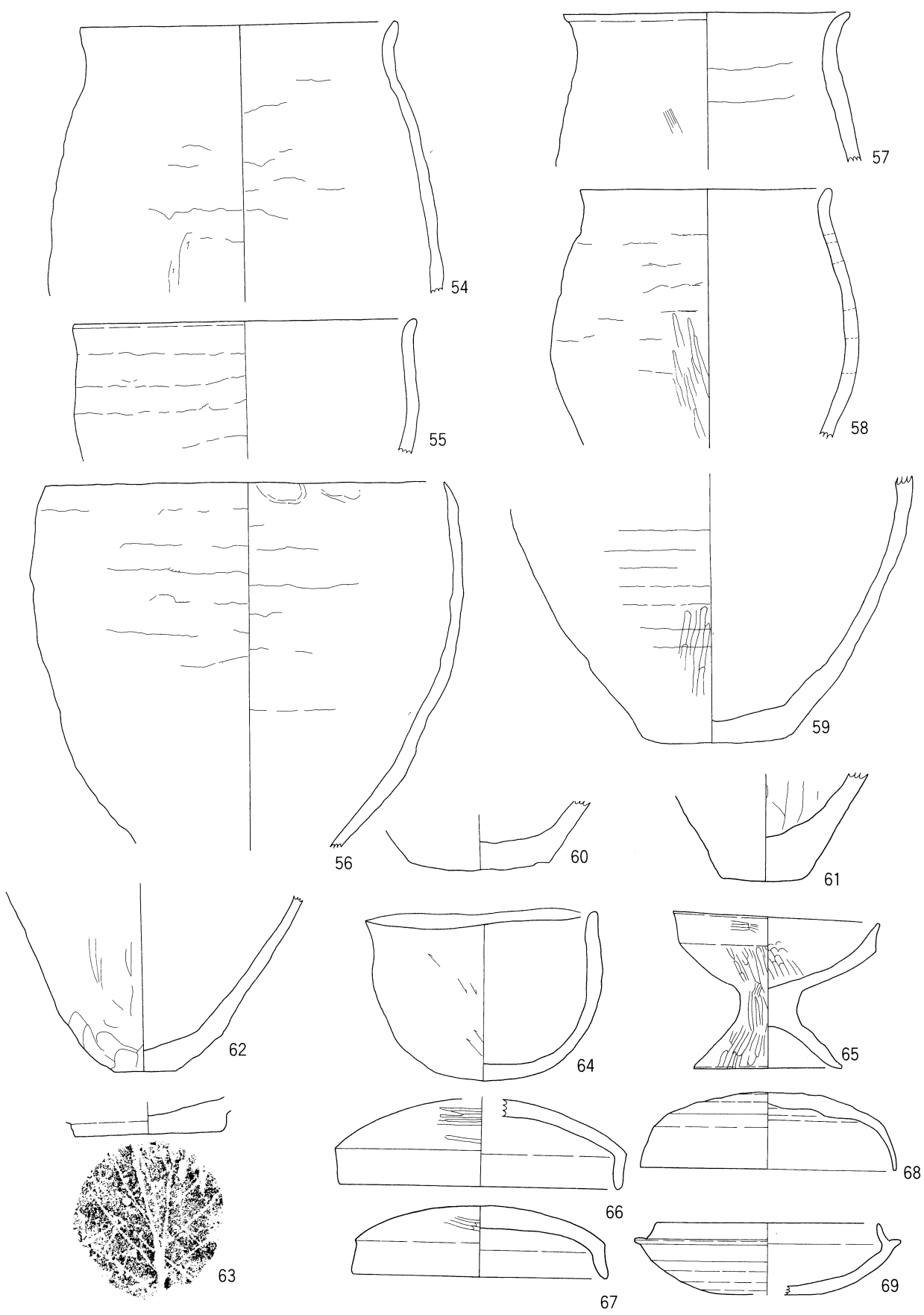
土師器の甕、甗、高坏、椀、坏蓋、須恵器の坏蓋、坏身、土製支脚等が出土した。

甕は44、45にみられるような口縁部が短く外反し、長胴のものが多数を占める。46は平底であるが、胴は張り、長胴の甕に移行する過渡的な段階のものである。47は丸底で、胴部はや



第13图 6号竖穴住居出土遺物1 (1/4)





第14图 6号竖穴住居出土遺物2 (1/3)



や張って、頸部はほとんど括れず口縁部にいたる。口縁部はごく僅かに、外反する。51～53、56は甗で、51、52は口縁部に、53、56は胴上部に最大径をもつ。また、51は底部が突出している。65は小型の高坏で、口縁部と受部との境に明瞭な稜をもつ。また、内外面とも丁寧にヘラミガキが施されている。66、67は土師器の坏蓋で、天井部と口縁部の境の稜が明瞭である。68は須恵器の坏蓋で、全体的に丸味を帯びている。69は須恵器の坏身で、立ち上がりは短く内傾している。

50、56、59、64、67が埋土上層の黒色土から、45、51、54、60、61、63、68、69が埋土最下層の黄褐色土からの出土で、その外は床面出土である。

7号竪穴住居（第15図）

北壁長5.3m、東壁長5.6mの長方形プランで壁高60cmを測る。北東、北西隅は丸くなっている。床面は貼床が施されており、北壁中央部に竈が付設されている。

主柱穴は4本で、柱穴間を線で結ぶと長方形を呈する。各柱穴の床面からの深さはP1が38cm、P2が54cm、P3が44cm、P4が45cmを測る。

竈周辺及び、住居跡中央付近の床面より土器がまとまって出土しており、また埋土中から多量の土器片が出土した。住居廃絶後の土器投棄、流れ込みが考えられる。

竈（第15図）

住居跡北壁中央に付設されている。焚口は南に向き、焚口幅25cm、奥行き85cm、右袖の高さ12cmを測る。袖部は黄褐色土を盛って構築される。竈内は広い範囲にわたって、よく焼けており、火床部中央から、多角柱に加工された軽石製支脚が立った状態で検出された。また、土器は支脚の周囲にかたまって出土している。

〔出土遺物〕（第16、18図）

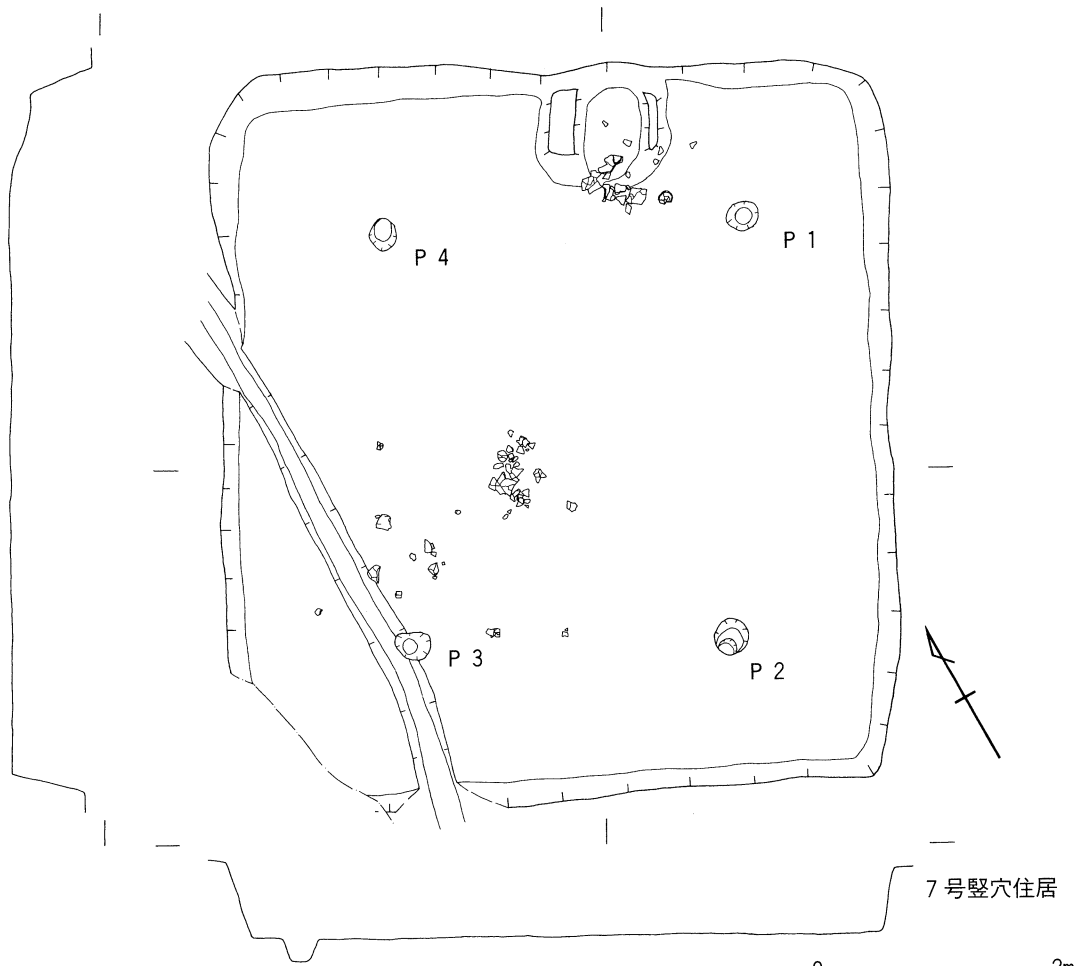
土師器の甕、高坏、椀、坏蓋、坏身、須恵器の坏蓋、坏身、高坏、土製支脚が出土した。70は胴のやや張る長胴の甕で、底部は平底を呈し、木葉痕がみられる。71、72は丸底の甕で、71は胴が丸く張り、72は頸部が、あまり締まらず、口縁部は短く外反する。85は土師器の坏蓋で、天井部と口縁部の境は、明瞭な稜をもつ。

土器の出土量は多いが、その大半は埋土中からの出土である。70、72が床面、74～77、82、83、86は埋土下層から出土した。

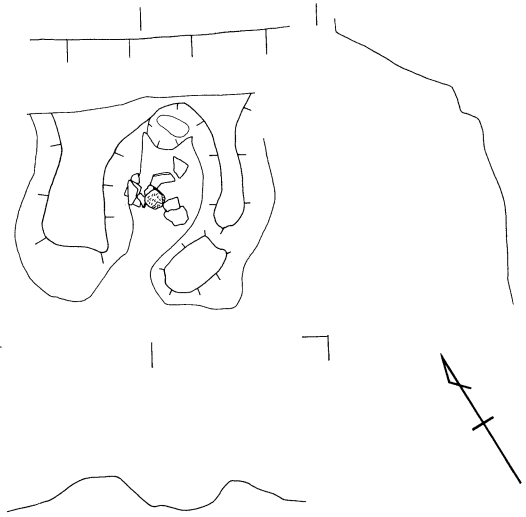
8号竪穴住居（第17図）

北壁長7.2m、東壁長7.0mのほぼ正方形のプランを呈し、壁高55cmを測る。床面は貼床を施しており、中央やや南に埋甕炉が検出された。埋甕炉は径30～40cm、深さ18cmの掘り込み内に安置され、埋め込まれている。住居跡床面からは多数のピット及び、住居跡内土坑が検出された。主柱穴は6本で、柱穴間を線で結ぶとほぼ正方形を呈する。各々の柱穴の径は35～50cm、深さは36～48cmを測る。

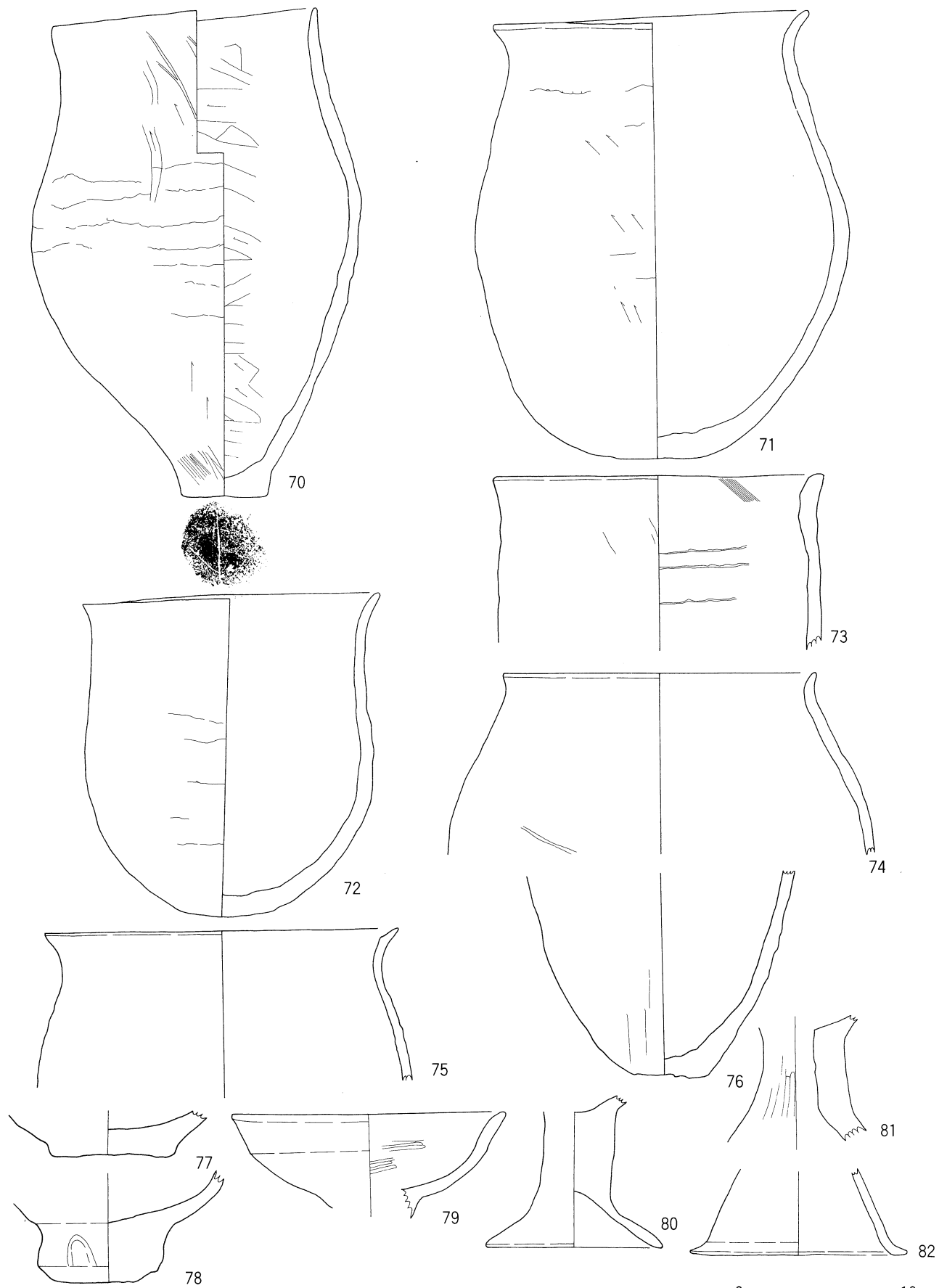
遺物は住居跡の規模に比して少なく、床面、埋土中ともにまとまりをもたない。



7号竖穴住居竈



第15图 7号竖穴住居・竈実測图 (1/60・1/30)



第16图 7号竖穴住居出土遺物 (1/3)

〔出土遺物〕（第18図）

土師器の甕、鉢、台付鉢、高坏、須恵器の坏蓋、坏身、高坏、提瓶等が出土した。92は埋甕炉に使用されていた甕である。95は脚台付きの鉢である。97は須恵器の坏蓋で、天井部中心付近から口縁部に向けて4本の線刻が見られる。99、100は須恵器の坏身で、立ち上がりは短く内傾する。101は須恵器の高坏で長方形の透かし孔が三方向に開けてある。93、94、98、100は埋土上層からの出土である。

9号竪穴住居（第17図）

北壁長4.1m以上、東壁長5.5m、壁高45cmを測る。住居跡西側が調査区外にかかり、全体の形は不明であるが、南東隅角が、やや鈍角に開き、北壁が外側に膨らむことから、不整形のプランが想定される。

中央やや南東寄りに埋甕炉、南東隅付近の東壁に竈が付設されている。埋甕炉は径30cm、深さ15cmの掘り込みを有し、その中に甕を埋め込んでいる。床面からピットが検出されたが、支柱穴は確定しえない。

遺物は床面、埋土中ともに少ない。

竈（第17図）

住居跡東壁南東隅付近に付設されている。焚口は西に向き、焚口幅32cm、奥行き70cmを測る。袖部は黄褐色土を盛って構築している。竈内からは軽石製支脚、土器片が出土した。

〔出土遺物〕（第18図）

土師器の甕、須恵器の高坏、坏蓋、提瓶等が出土している。102は埋甕炉に使用されていた甕である。105は須恵器の高坏で3方向に円形の穿孔があり、裾端部は面を作っている。

10号竪穴住居（第19図）

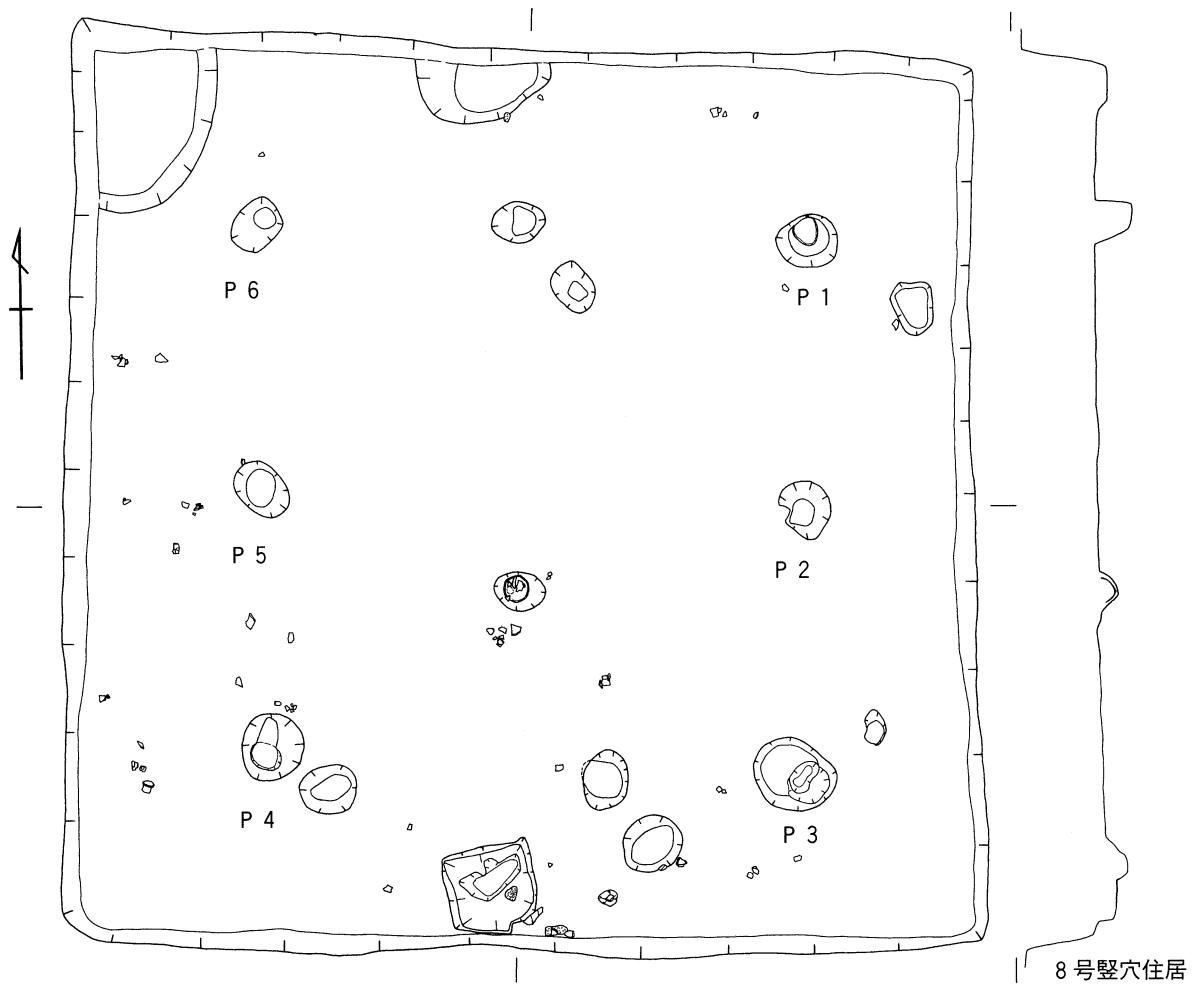
東壁長4.5m以上、南壁長2.7m以上、壁高60cmを測る。11号竪穴住居と重複するが、前後関係は明確にできなかった。床面からピットは検出されず、土器片が数点出土したのみであった。住居跡埋土より弥生土器（106～108）が出土している。

11号竪穴住居（第19図）

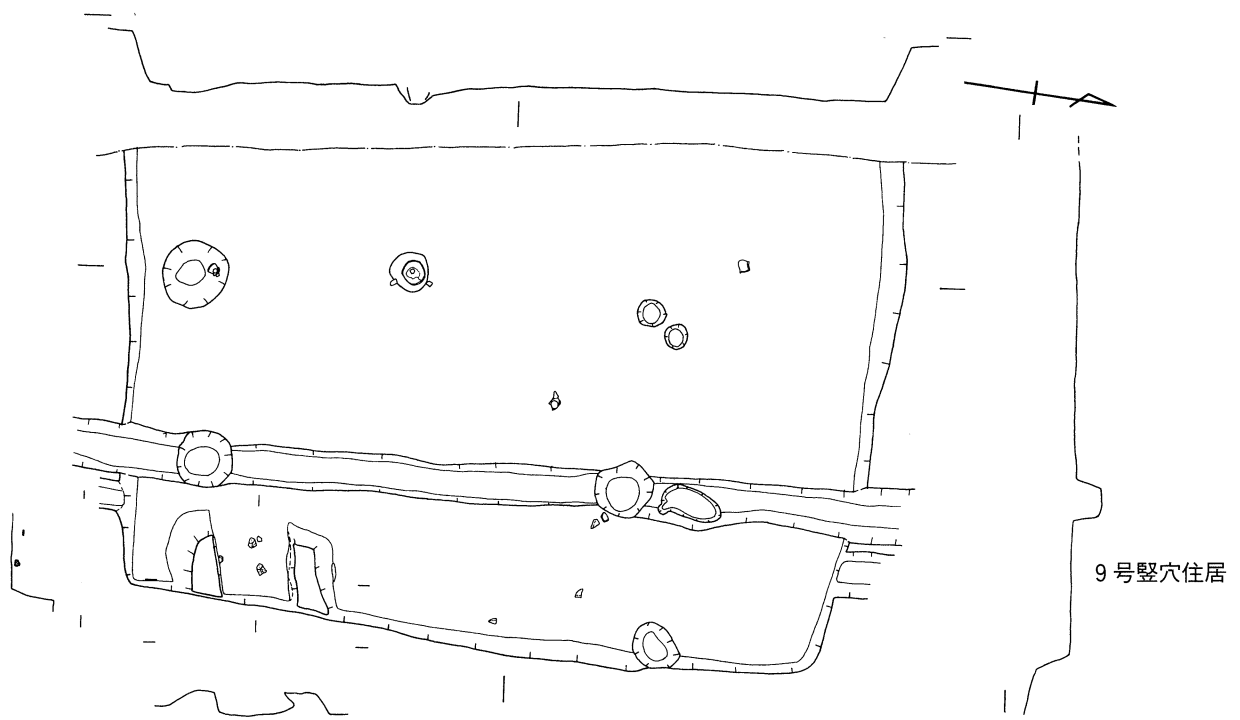
南壁長3.2m以上、壁高55cmを測る。10号竪穴住居と重複するが、前後関係は明確にできなかった。床面からピットは検出されなかった。床面出土の土器は僅かで、埋土中より宝珠様つまみをもつ須恵器坏蓋（109）が出土した。

12号竪穴住居（第19図）

東壁長5.6m、南壁長6.2mの方形を呈し、壁高70cmを測る。床面は貼床が施されている。支柱穴は4本と推定されるが、3本しか検出できなかった。柱穴間を線で結ぶと東西に長い長方形になると想定される。各柱穴の深さはP1が34cm、P2が64cm、P3が35cmを測る。住居跡内



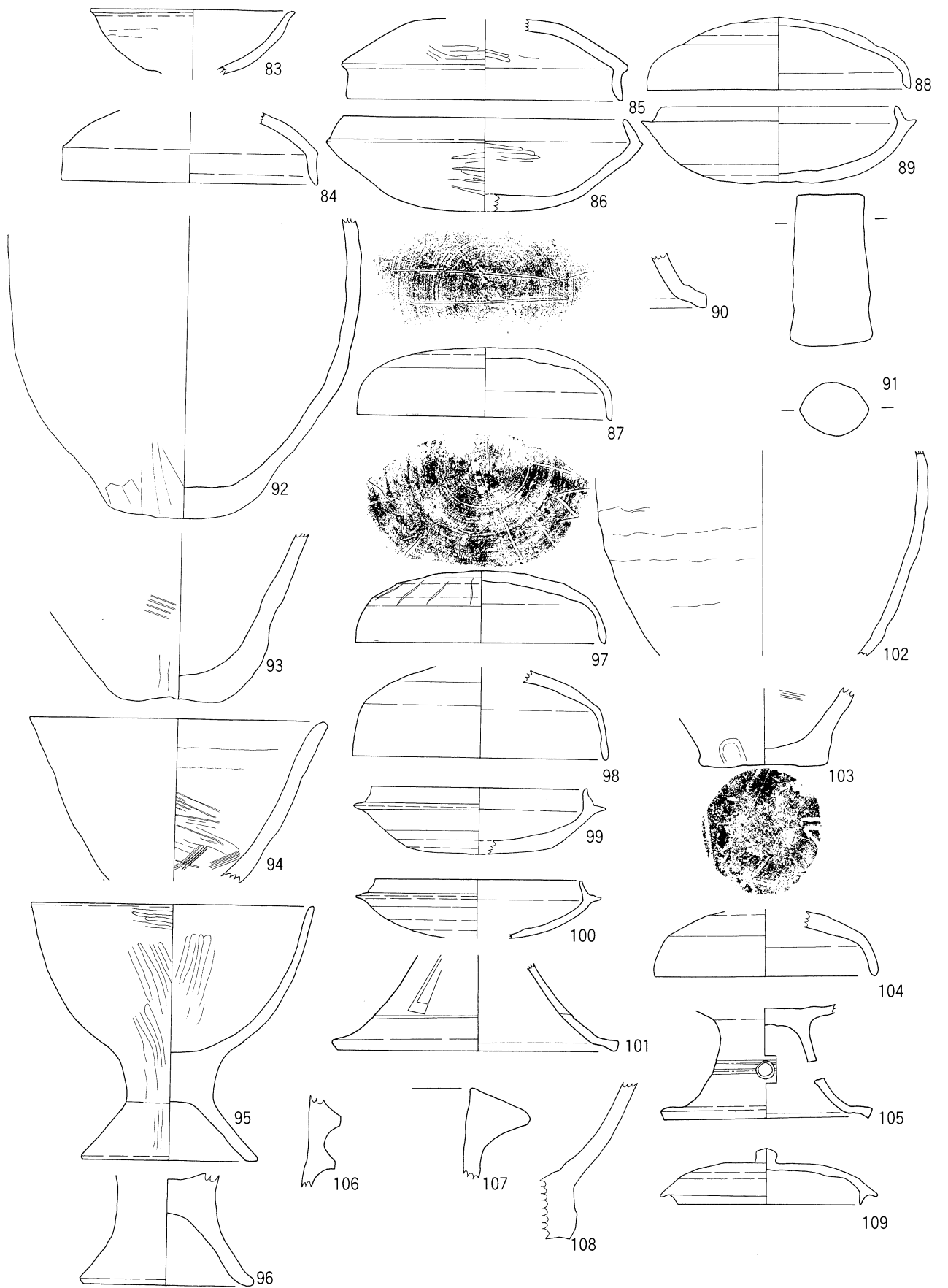
8号竖穴住居



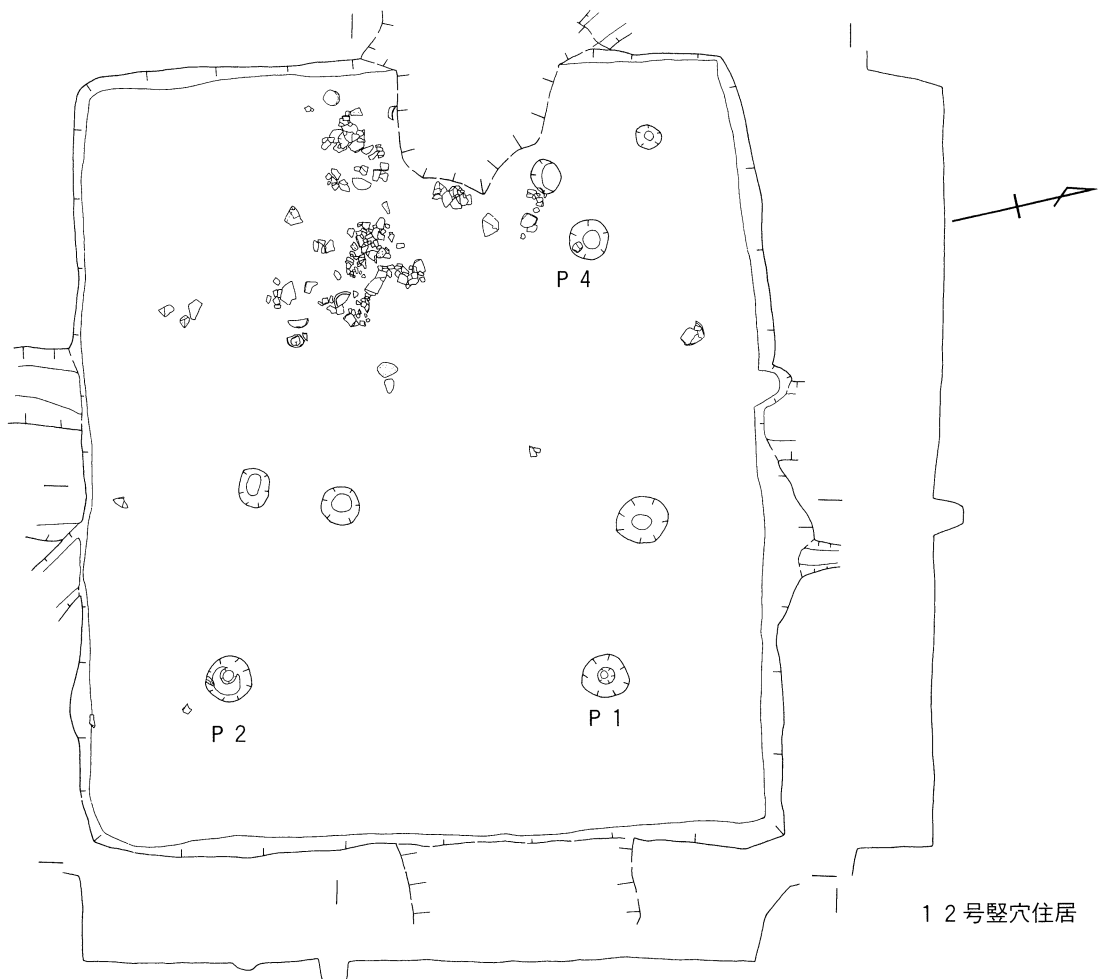
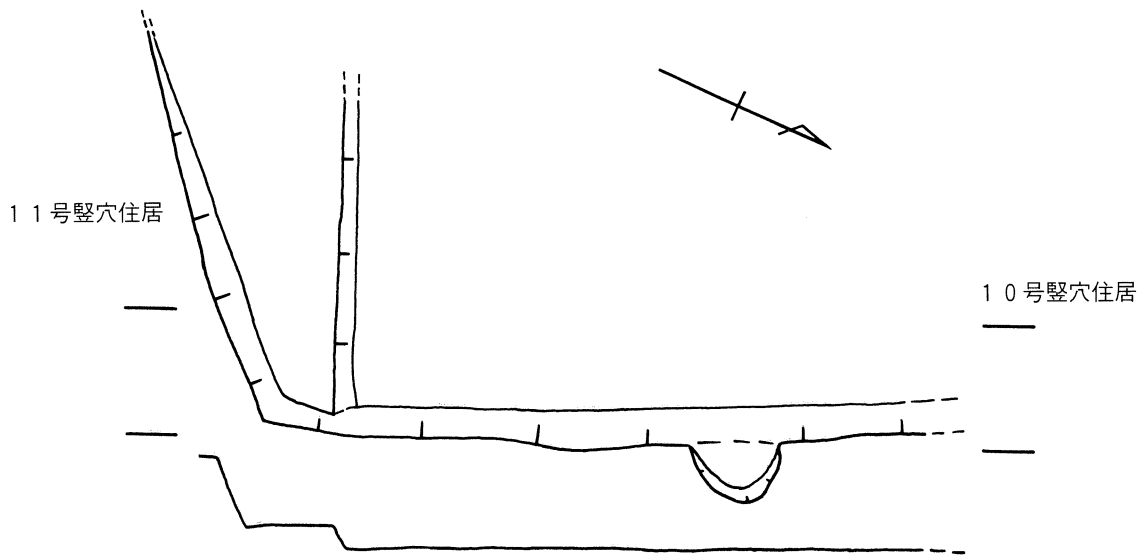
9号竖穴住居

第17图 8・9号竖穴住居实测图 (1/60)





第18图 7~11号竖穴住居出土遺物 (1/3)



第19图 10~12号竖穴住居实测图 (1/60)



からは埋甕炉、竈ともに検出されなかった。

遺物は住居跡西側の床面上からまとまって出土した。また、住居跡西壁側上面から中央部床面にかけて、流れ込んだような状態で、多量の土器が出土している。住居廃絶後に土器の投棄が行われたことが想定される。

〔出土遺物〕（第20、22図）

土師器の甕、壺、甑、高坏、坏蓋、坏身、須恵器の坏蓋、坏身が出土している。

110～122は甕である。110、111は胴のやや張る甕で、110は最大径を口縁部にもつ。112は口縁部がやや立ち気味で長く外傾する。113～118は口縁部が短く外反する長胴の甕である。123は壺で、丸く張った胴部から直線的に立ち上がり、端部で外反する口縁部をもつ。129～131は土師器の坏蓋で、129、131は天井部と口縁部の境に明瞭な稜をもつ。132は土師器の坏身で、立ち上がり部は中ほどで屈曲して、長く上方にのびている。

135～137は須恵器の坏蓋で、135は天井部と口縁部の境に沈線を廻らし、口縁部内面に段を有している。また、天井部にはヘラ記号が見られる。137は口縁部に細かな刻目を施している。138は須恵器の坏身で、立ち上がりは段をもって内傾している。

110、111、119、121、125、128、130、135は床面から、113、114、116、120、123、124、129、133、134は床面よりやや浮いて、122、126、139は埋土上層より出土し、それ以外は南西隅及び西側からの流れ込んだ状態での出土である。

13号竪穴住居（第21図）

東壁長6.7m、北壁長5.3mの長方形プランを呈し、壁高85cmを測る。住居跡南東側で1号周溝状遺構を切り、西側は14号竪穴住居に切られている。床面は貼床を施しており、中央に埋甕炉が2基並んで検出された。埋甕炉同士の切りあいは明確にすることができなかったが、西側の埋甕のほうが破損の度合いが小さい。

支柱穴は4本で、柱穴間を線で結ぶと南北に長い長方形となる。各柱穴の床面からの深さはP1が42cm、P2が60cm、P3が48cm、P4が44cmを測る。

遺物は埋甕炉周辺及び、北西隅、南西隅付近の床面上から割とまとまって出土している。また、住居跡上面からも、多量の土器が出土した。

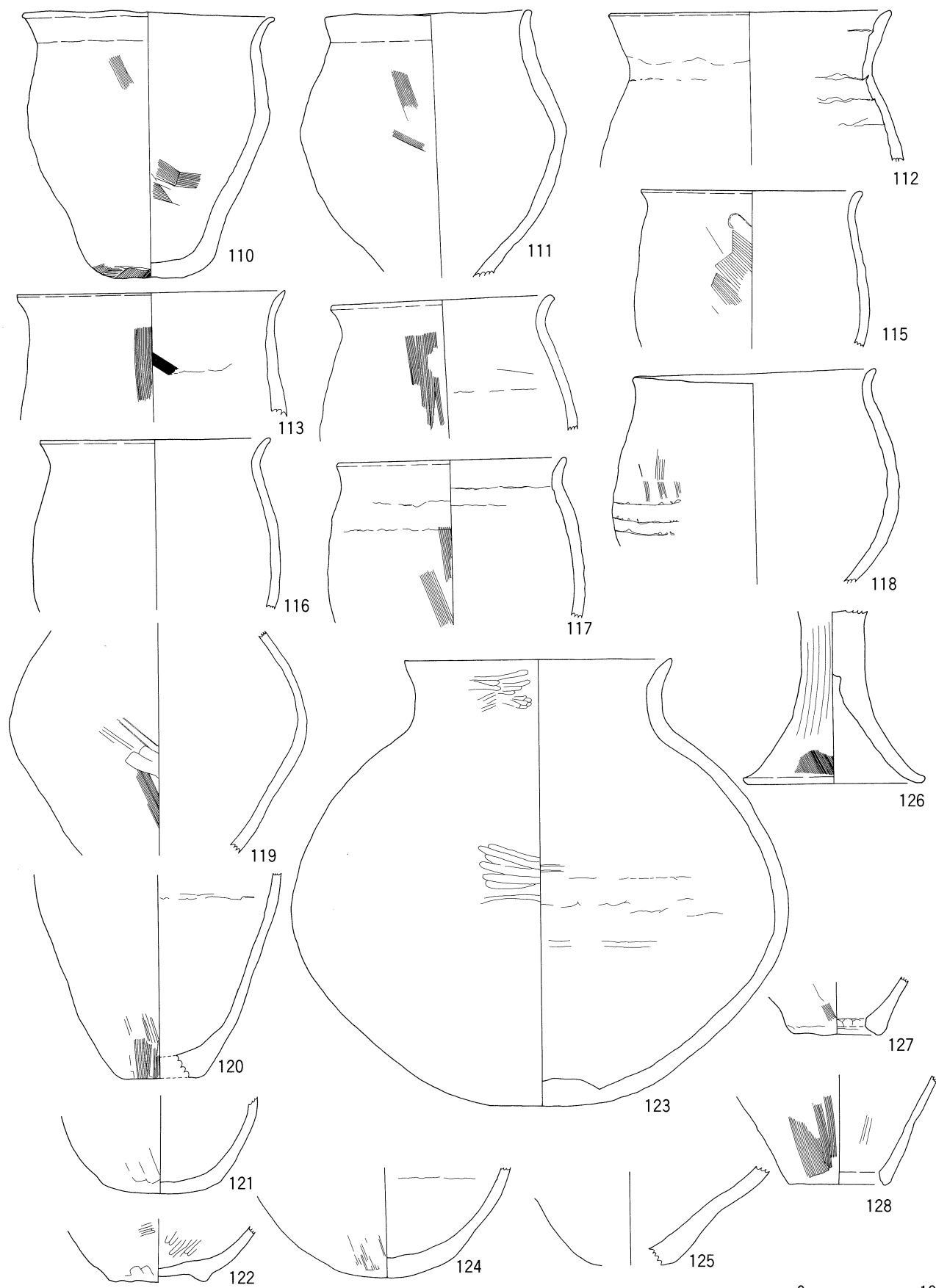
〔出土遺物〕（第22図）

土師器の甕、坏蓋、須恵器の坏蓋、坏身、甑等が出土している。140、141は埋甕炉に用いられていた甕である。144は上面からの出土である。

14号竪穴住居（第21図）

南北4.7m、東西4.5mのほぼ正方形のプランを呈し、壁高50cmを測る。東側で13号竪穴住居、1号周溝状遺構を切る。竈が北壁中央に付設され、床面からは深さ20～25cmのピットが2基検出されたが、位置的に支柱穴とすることは難しい。

遺物は少なく、まとまって出土したものは竈東側の甑ぐらいである。また、住居跡のほぼ中

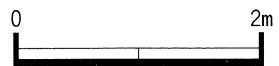


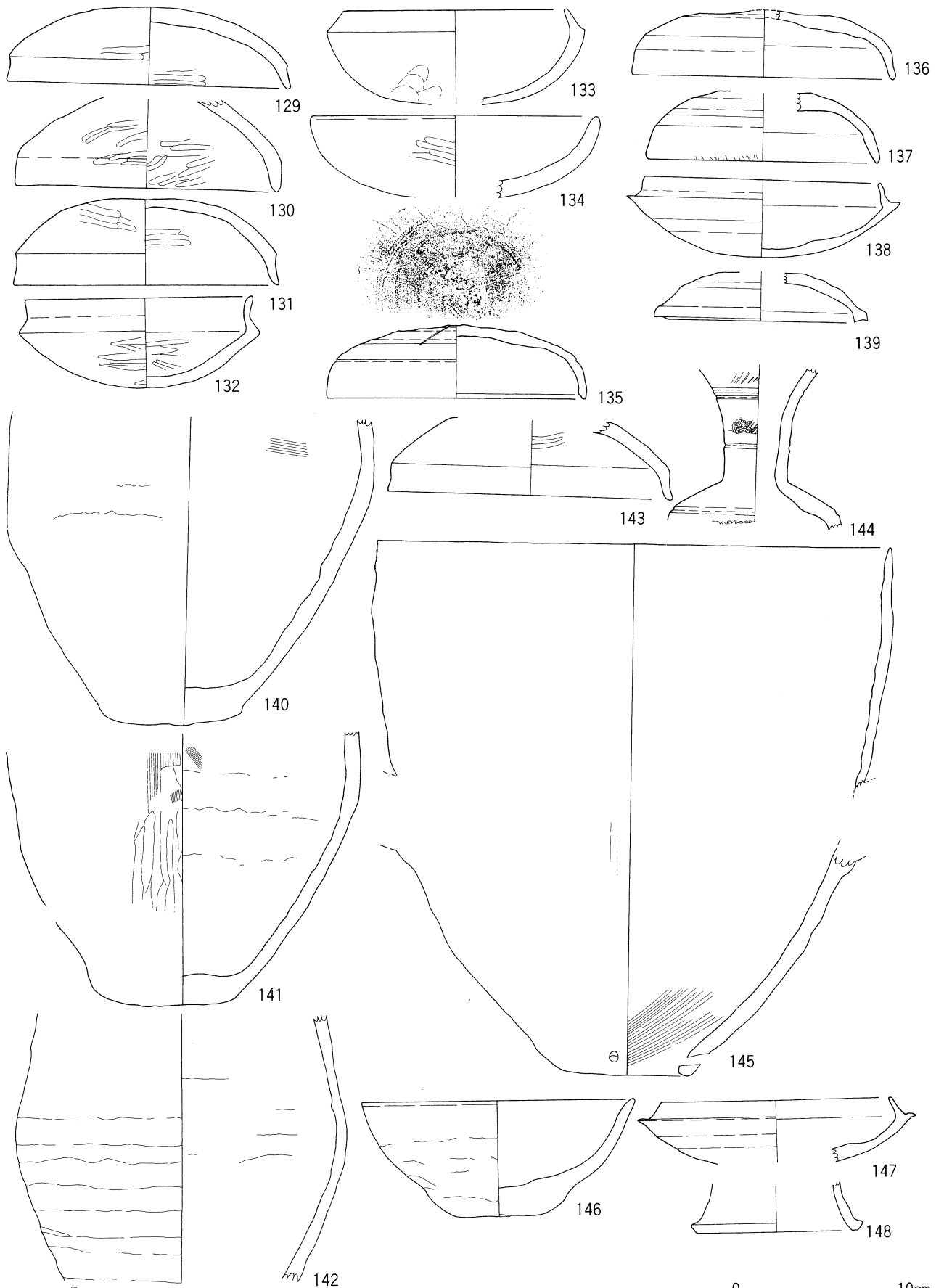
第20图 1 2号竖穴住居出土遺物 (1 / 4)

0 10cm



第21図 13・14号竖穴住居実測図(1/60)





第22图 12~14号竖穴住居出土遺物 (1/3)



央から径25cm程の軽石が出土した。

竈（第21図）

住居跡北壁中央に付設され、竈の構造は不整円形に浅く掘り込んだもので、長さ85cmの煙道が屋外に伸びている。煙道はトンネル状に掘り込まれており、底面はほぼ水平である。煙出し部は径50cmの円形を呈する。

竈内からは土器小片、こぶし程の軽石が出土したのみである。

〔出土遺物〕（第22図）

土師器の甕、甃、椀、須恵器の坏身、高坏等が出土している。145は牛角把手を有する甃で、底部付近に径6mmの穿孔が施してある。148は上面からの出土である。

15号竪穴住居（第25図）

北東—南西6.4m、北西—南東5.9mの方形を呈し、壁高45cmを測る。住居跡は複数の溝状遺構及び、攪乱坑により切られ、床面の遺存状況はよくないが、南東側から検出されたピット（深さ25cm）は主柱穴4本のうちの1本と考えられる。

住居跡中央部から東側にかけて、多量の土器が床面及び床面よりやや浮いた位置で出土している。

〔出土遺物〕（第23、24図）

土師器の甕、壺、甃、高坏、椀、坏蓋、坏身、須恵器の坏蓋、坏身等が出土した。

149、151、152は口縁部が外上方に立ち上がり、150、153、154、156は口縁部が外反する。155は口縁部と胴部の境が不明瞭である。165は小型の甕で、口縁部は上方にのびる。156は最大径を口縁部にもつ。168は土師器の坏蓋で、天井部と口縁部の境に明瞭な稜をもつ。170、171は須恵器の坏蓋で、170は口縁部に刻目が施されており、天井部にはヘラ記号が見られる。172～176は須恵器の坏身で、いずれも立ち上がりが短く内傾し、なかでも175は短い。172、175は底部にヘラ記号が見られる。

151～153、158、165、167は埋土上層から、それ以外は床面ないし床面からやや浮いての出土である。

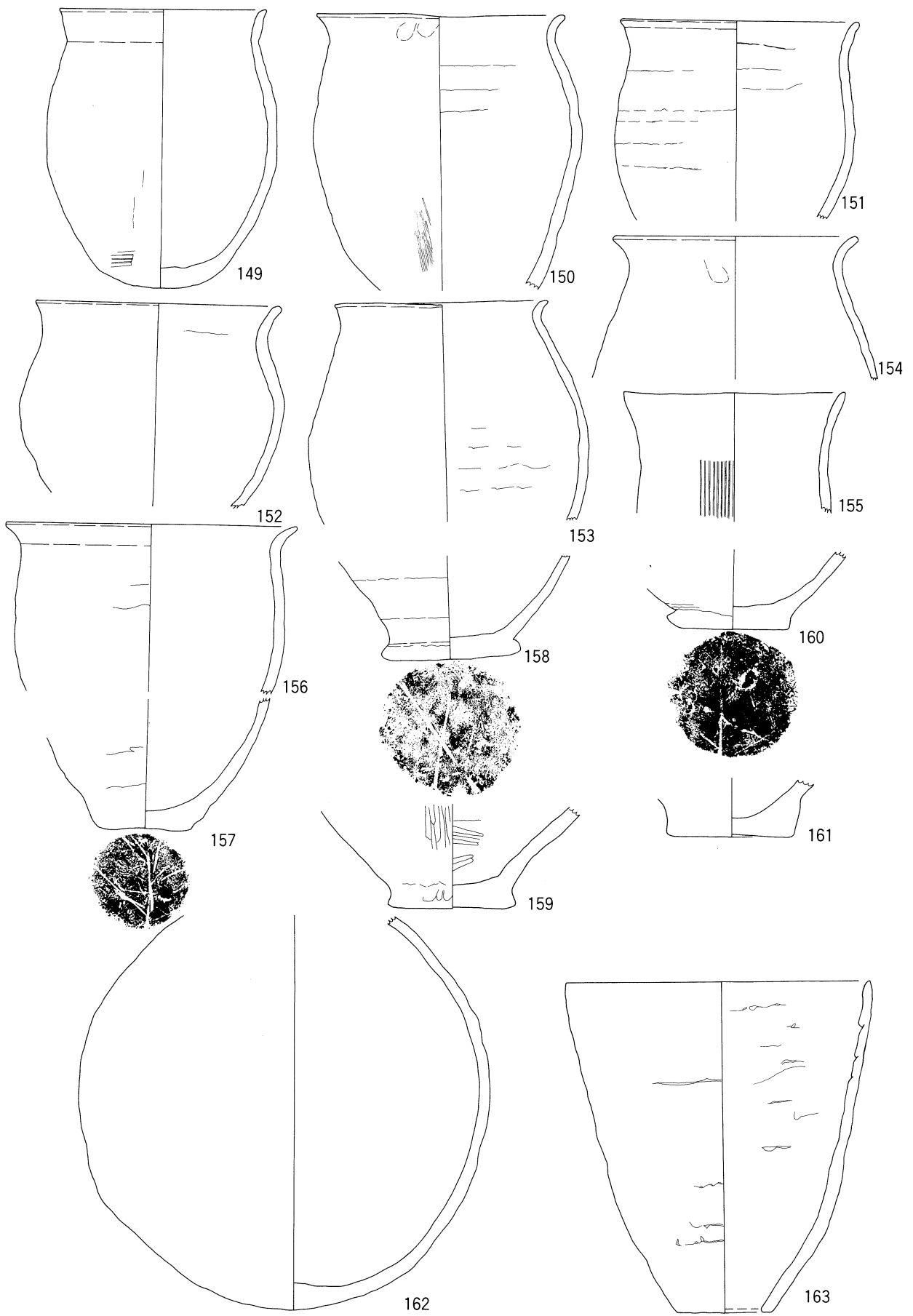
16号竪穴住居（第26図）

東壁長5.2m、南壁長5.1m、西壁長5.0mのほぼ正方形のプランで、壁高45cmを測る。A29～32号溝状遺構に切られている。

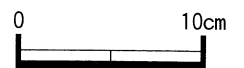
住居跡中央に埋甕炉、南東隅より竈が検出され、南西隅付近の床面からは白色粘土が検出された。埋甕炉は掘り込みをもち、貼床を施す際に、同時に埋め込まれたものと思われる。

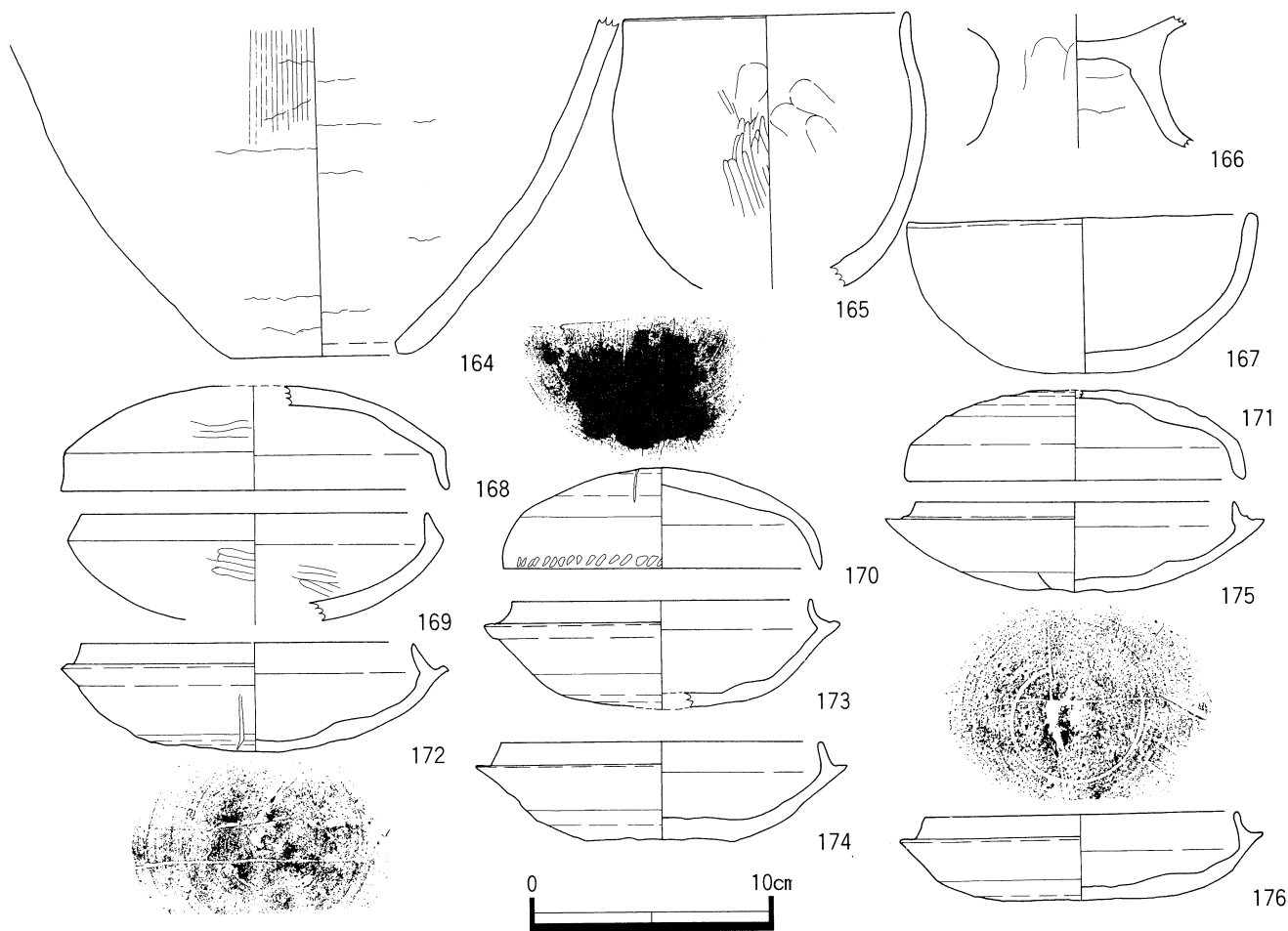
主柱穴は6本で、柱穴間を線で結ぶと、住居跡主軸から、やや西に振れる東西に長い長方形となる。各柱穴の床面からの深さはP1が65cm、P2が22cm、P3が33cm、P4が34cm、P5が37cm、P6が42cmを測る。

遺物は竈西側の床面から、まとまって出土している。

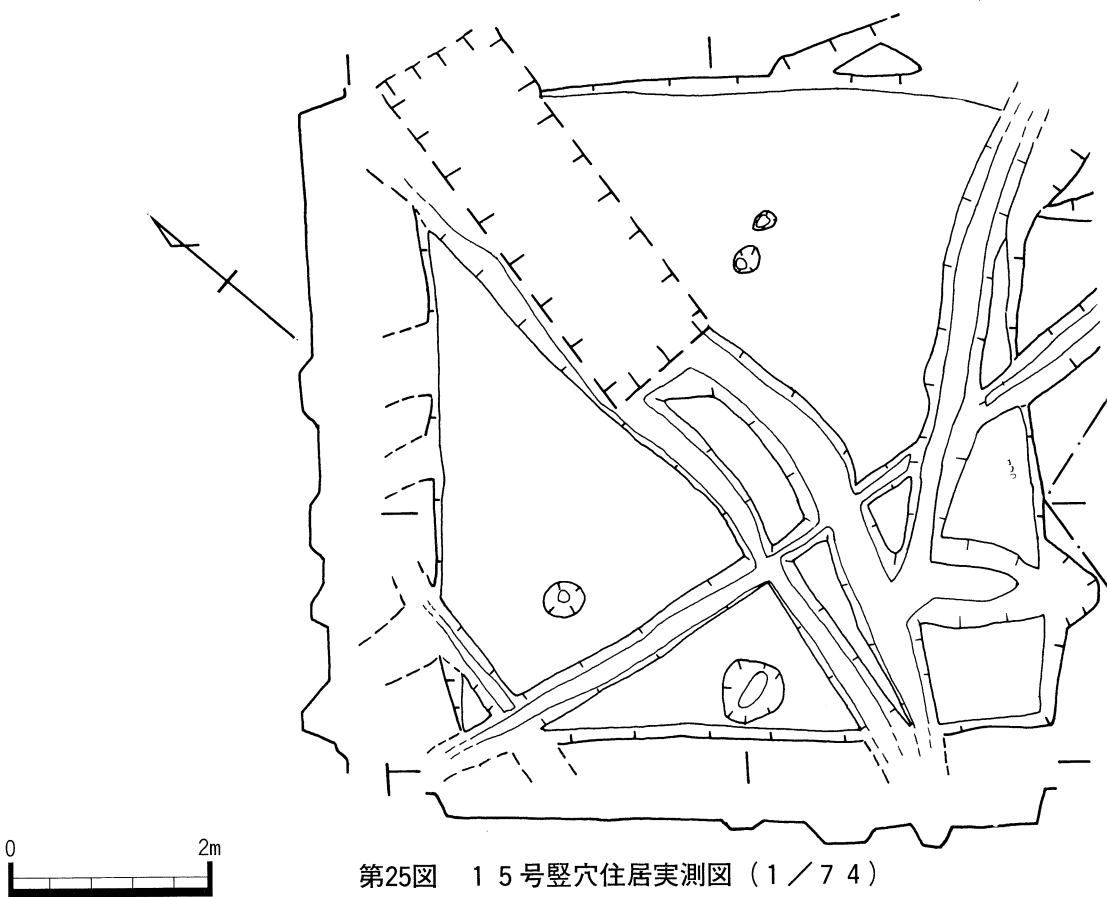


第23図 15号竖穴住居出土遺物1 (1/4)





第24图 15号竖穴住居出土遺物2 (1/3)



第25图 15号竖穴住居実測図 (1/74)

竈（第26図）

16号住居南東隅に付設されており、焚口は北を向く。焚口幅20cm、奥行き55cmを測り、袖部は黄褐色土を盛って構築されている。床面から高坏の脚部が、右袖部西側から甕が2個体出土した。

〔出土遺物〕（第27図）

土師器の甕、高坏、鉢等が出土した。

177~179は甕で、いずれも長胴である。177、178はともに口縁部が短く外反する。179は埋甕炉に用いられた甕である。183は大型の鉢で、突出した底部で、体部と口縁部の境に明瞭な稜をもつ。184、185は高坏で、184は口縁部と受部の境に明瞭な稜をもち、脚部は裾が広がらず収束する。

遺物はすべて床面からの出土である。185は竈前面、184を除く他の土器は、竈の西側から出土した。

17号竪穴住居（第26図）

南壁長4.7m、西壁長4.7mの正方形プランで壁高30cmを測る。16号竪穴住居西側に位置し、A15、17、34、47号溝状遺構、60号竪穴住居に切られている。住居跡中央やや東寄りから埋甕炉が検出された。埋甕炉は径40cm、深さ24cmの2段になった掘り込み内に甕を安置していた。

床面からピットが多数検出されたが、支柱穴はP1~4の4本と見なした。柱穴間を線で結ぶと台形を呈する。各柱穴の深さはP1が74cm、P2が51cm、P3が38cm、P4が60cmを測る。

遺物は床面及び埋土中ともに少量出土しただけであった。

〔出土遺物〕（第27図）

土師器の甕が出土した。186は埋甕に使用された長胴の甕である。187、188も甕で、南壁際の床面より出土している。

60号竪穴住居（第26図）

東西2.7m、南北4.0mの長方形プランを呈し、壁高45cmを測る。17号竪穴住居と重複しており、床面からピットが3基検出されたが、支柱穴といえるものではない。

遺物は東壁際（南寄り）から、まとまりをもって出土しているが、全体としては少量である。

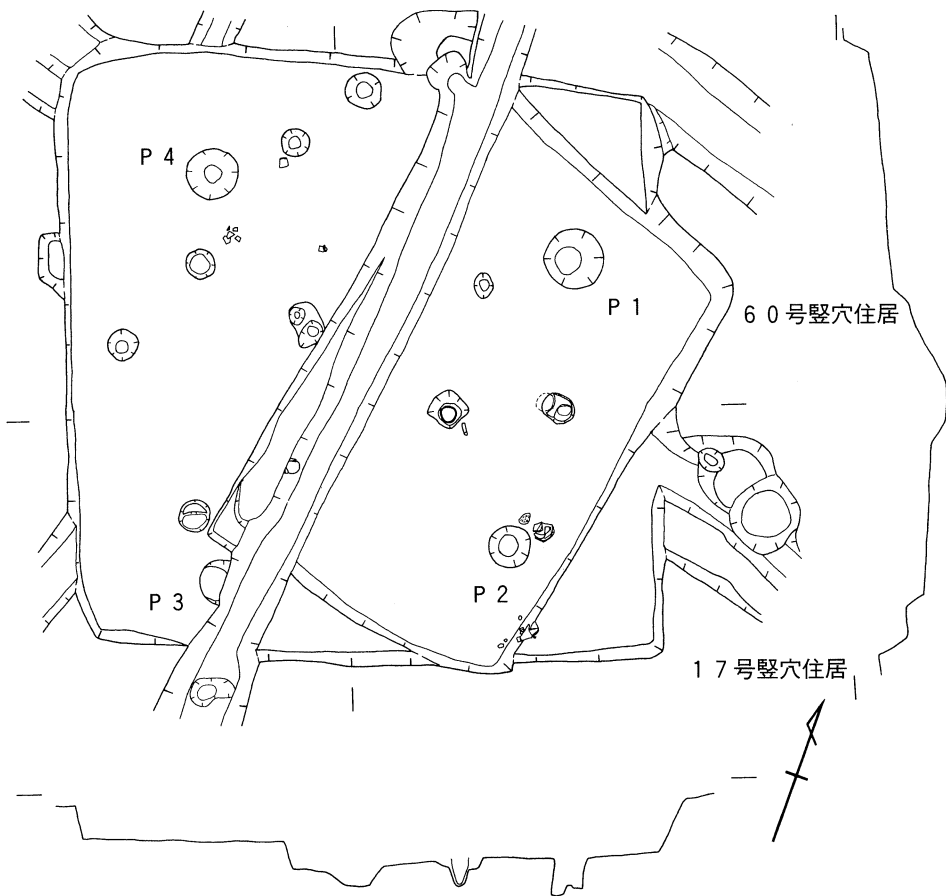
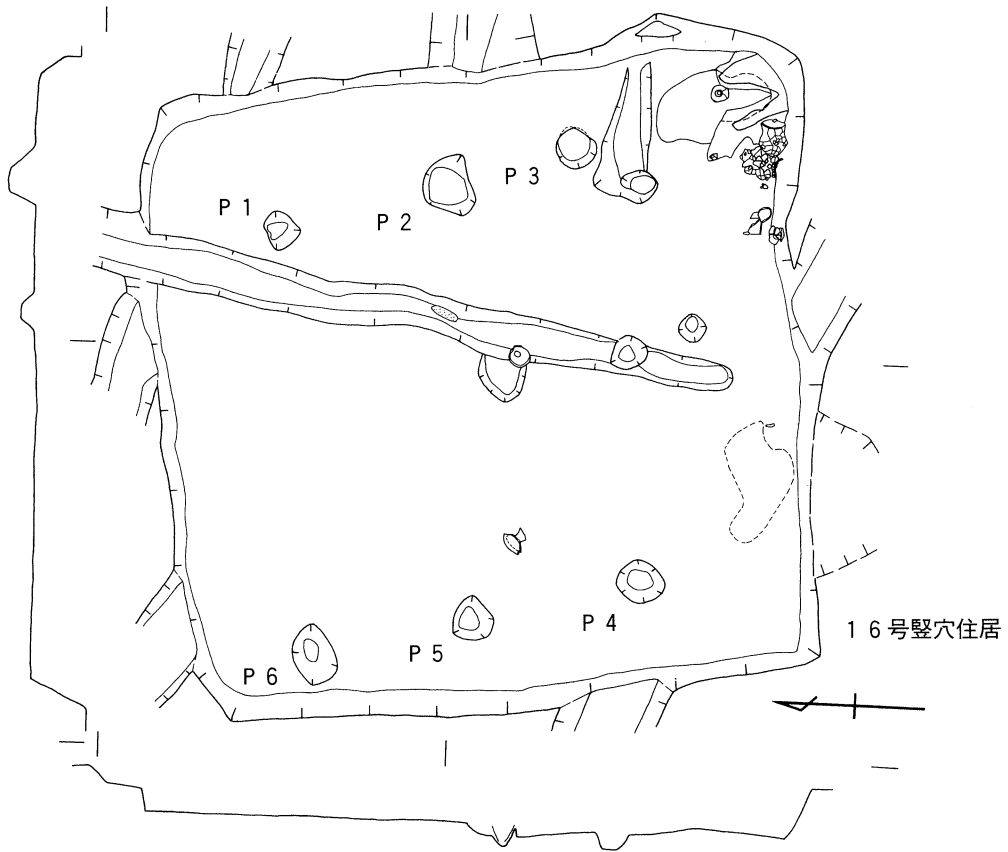
〔出土遺物〕（第42図）

土師器の甕、椀が出土している。454、455は椀で、454は丸底を呈し、半球状である。455は平底を呈し、体部は直立気味に立ち上がり、口縁部は短く外反する。

18号竪穴住居（第28図）

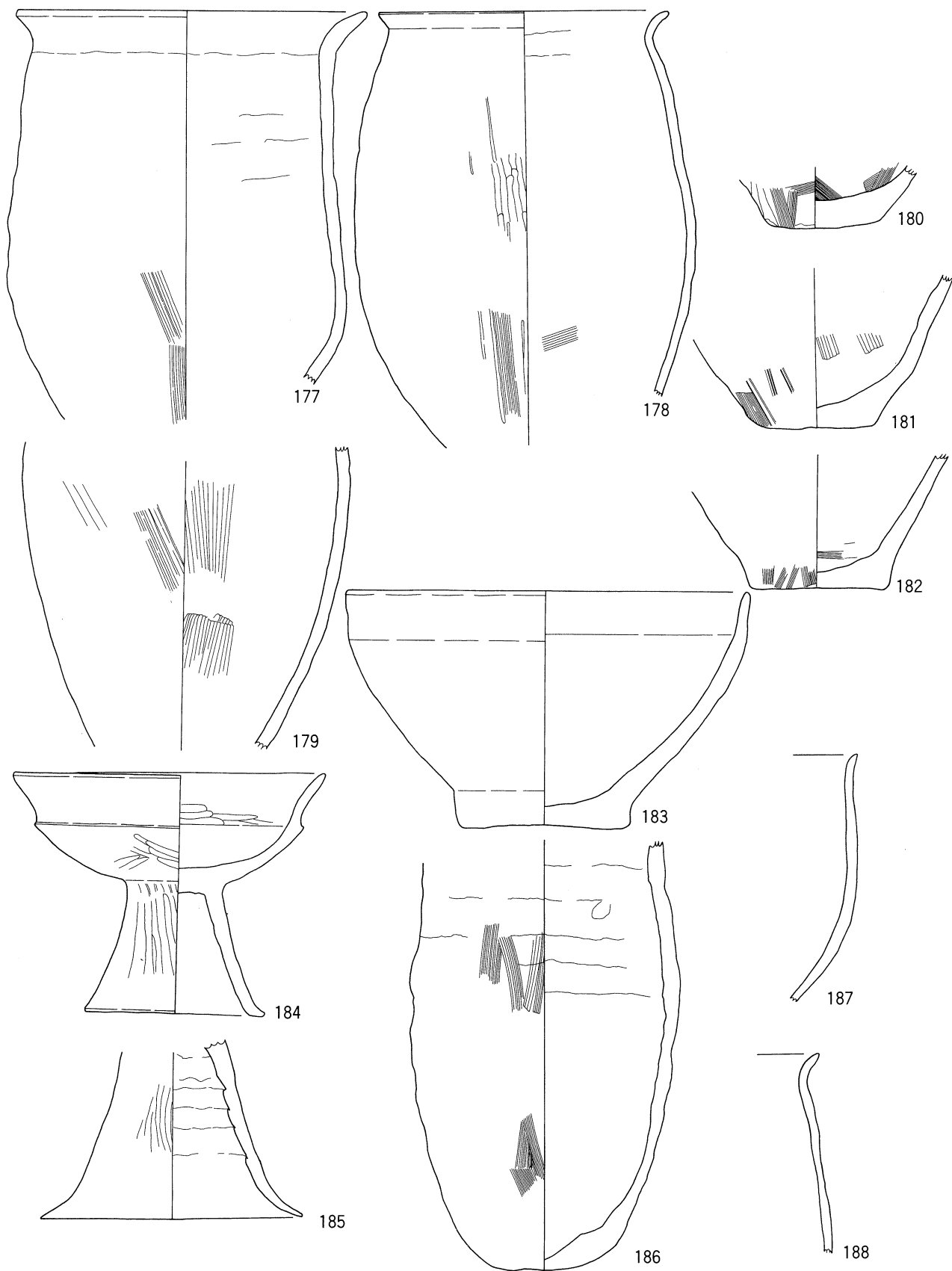
東西6.3m、南北5.2m以上、壁高45cmを測る。南側が19号竪穴住居に切られる。北壁やや東寄りに竈を付設しており、住居跡床面ほぼ中央から埋甕炉が検出された。

床面には厚さ15cm程の貼床が施してあり、貼床面を掘り下げたところ、ピットが検出され、



第26图 16・17・60号竖穴住居实测图 (1/60)





第27图 16·17号竖穴住居出土遺物 (1/3)



土器片も出土した。

主柱穴は4本で、うち3本を検出した。柱穴間を線で結ぶと、ほぼ正方形を呈するものと思われる。各柱穴の床面からの深さはP1が30cm、P2が35cm、P4が44cmを測る。

遺物は竈西側から、まとまって出土している。貼床上から出土した土器が多い。

竈（第31図）

住居跡北壁やや東寄りに付設し、焚口は南を向く。煙道をもつタイプの竈で、焚口幅30cm、奥行き84cm、左袖の高さ14cmを測る。煙道はトンネル式で、竈床面より15cmの段差をもって、住居壁に掘り込まれており、長さ1.2m、煙出しは径20cmの円形を呈する。煙道の底面は煙出しに向けて、わずかに登り、中ほどから、徐々に下降している。

竈内からは土器が中央にまとまって出土している。

〔出土遺物〕（第29図）

土師器の甕、甔、高坏、鉢、椀等が出土した。

189は埋甕炉に用いられていた長胴の甕である。193は牛角把手付きの甔である。195は鉢で竈より出土した。191、192、196が埋土中から出土した以外は、床面からの出土である。

19号竪穴住居（第28図）

南壁長4.8m以上、西壁長3.2m以上、壁高40cmを測り、北側で18号竪穴住居を切っている。柱穴は検出されなかった。遺物は床面、埋土中ともに土師器の小片が少量出土したのみである。

〔出土遺物〕（第29図）

土師器の甕、坏等が出土した。197、198は坏で、ともに南壁際の床面より出土している。

20号竪穴住居（第30図）

南壁長5.5m、西壁長5.4mのほぼ正方形のプランを呈し、壁高40cmを測る。住居跡北壁中央に竈を付設し、床面中央南寄りから埋甕炉が検出された。埋甕の遺存状態はよくない。

床面からはピットが幾つか検出されたが、柱配列は判然としない。床面出土の土器はごく少量で、大半は若干床面より浮いた状態で出土した。

竈（第31図）

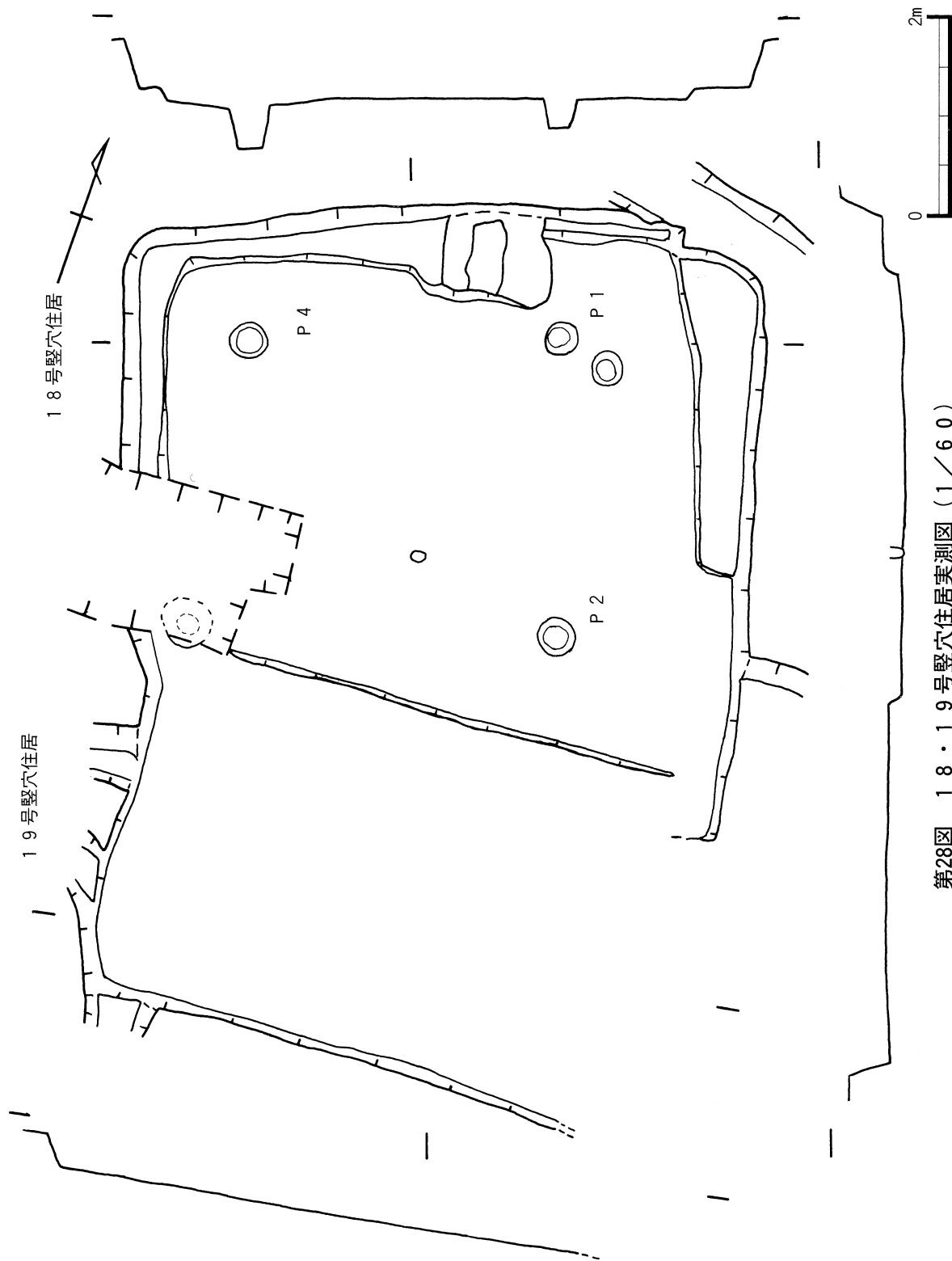
住居跡北壁中央に付設され、焚口を南に向ける。焚口幅30cm、奥行き83cm、左袖の高さ20cmを測る。袖部は黄褐色土を盛って、構築されており、竈内に2基、竈前面に1基掘り込みが検出された。

竈内からは割とまとまって土器が出土しており、火床部中央左右からは高坏が並んで出土した。支脚への転用か、竈廃棄による祭祀跡と考えられる。なお、竈前面のピットからは軽石が検出されている。

〔出土遺物〕（第32図）

土師器の甕、壺、高坏、坏、椀等が出土した。

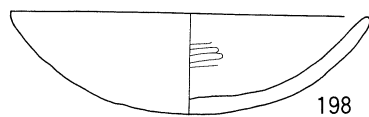
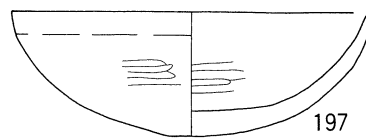
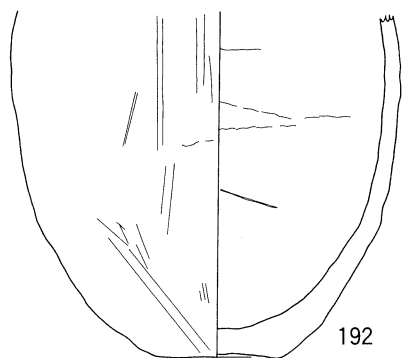
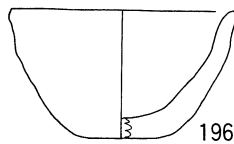
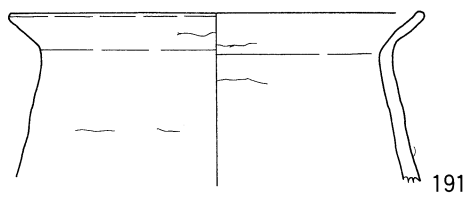
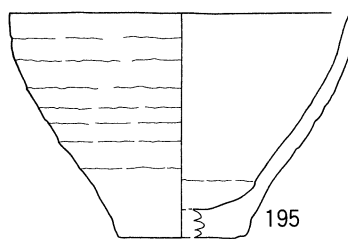
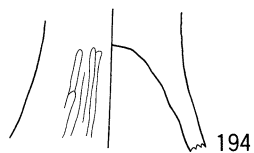
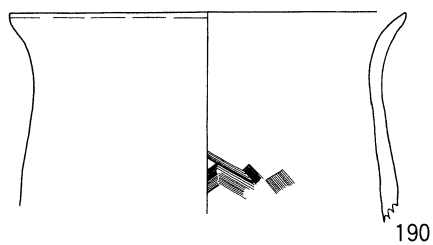
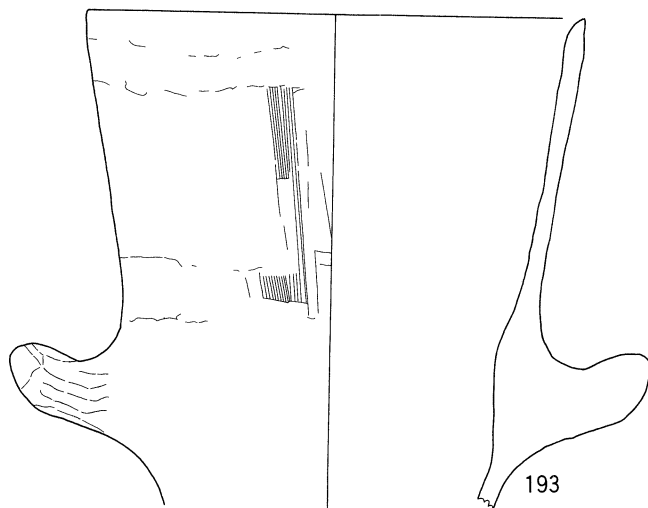
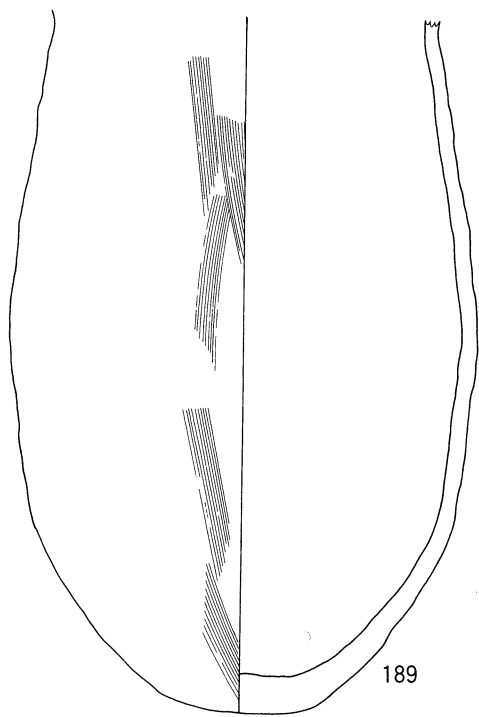
199、200は埋甕炉に用いられた甕である。202は壺で、口縁部はほぼ直立する。203、204



19号竖穴住居

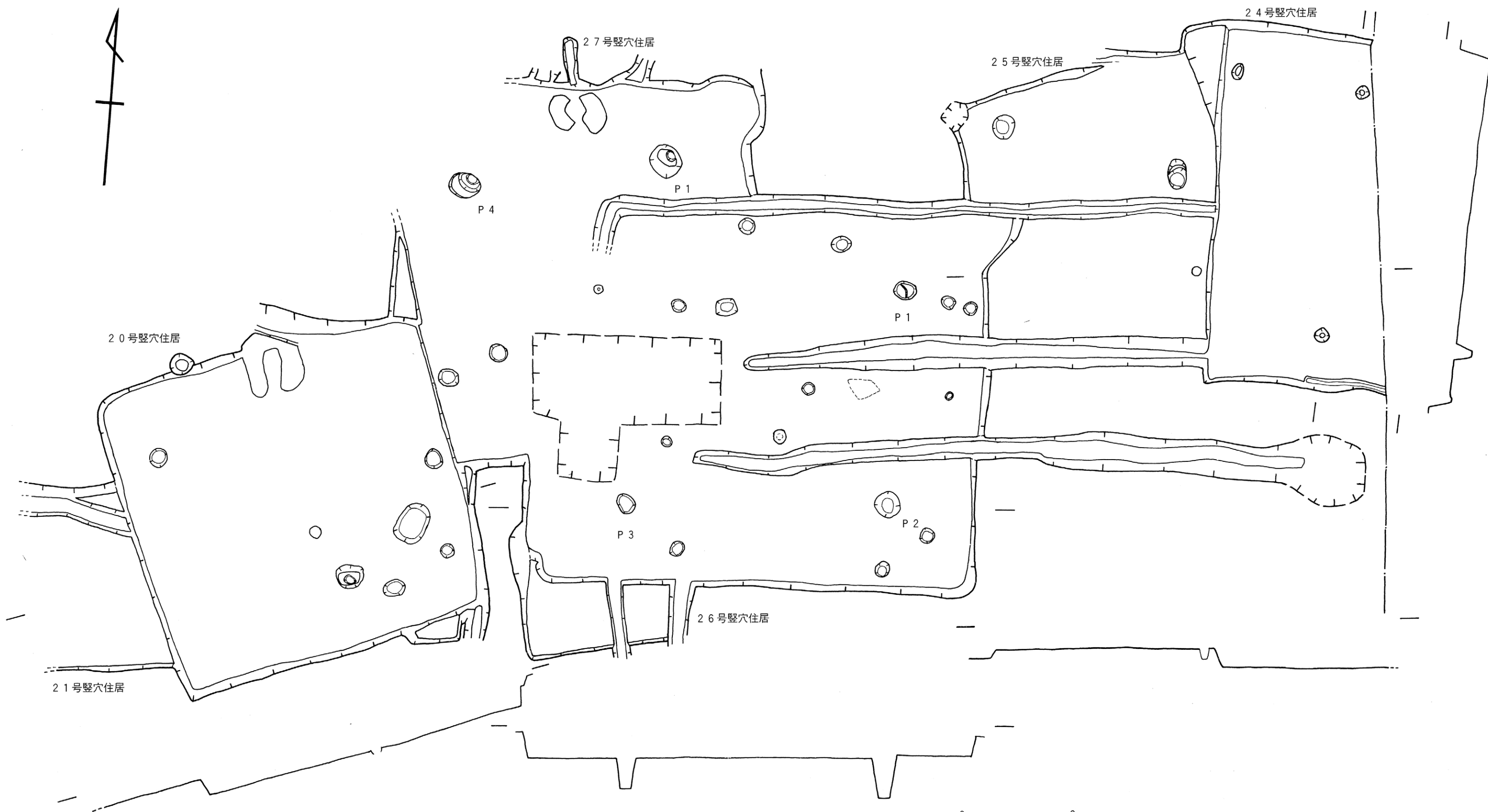
18号竖穴住居

第28图 18・19号竖穴住居实测图 (1/60)



第29图 18・19号竖穴住居出土遗物 (1/3)





第30图 20·21·24~27号竖穴住居实测图 (1/60)

は高坏の脚部で、203は204に比べ、裾がのびている。205は椀で、底部は平底を呈し、木葉底である。207は坏で、口縁部と底部の境に稜をもっている。

203、204は竈から、201、202、206は埋土中からの出土で、それ以外は床面出土である。

21号竪穴住居（第30図）

西壁長3.1m、南壁長2.0m以上、壁高25cmを測る。東側で20号竪穴住居を切っている。床面から柱穴は検出されなかった。遺物は少なく、大半は床面より浮いた状態で出土した。

〔出土遺物〕（第32図）

土師器の甕、椀、須恵器の甕、壺などが出土した。209は床面からの出土で、210、211は床面より、やや浮いて出土した。

22号竪穴住居（第33図）

北壁長4.5m以上、東壁長4.0m以上の方形プランで、壁高35cmを測る。北側中央やや東寄りに、竈を付設しており、住居跡のほぼ中央から埋甕炉が検出された。埋甕炉は径48×58cm、深さ20cmの掘り込み内に甕を安置している。

主柱穴は4本だが、3本しか検出できなかった。柱穴間を線で結ぶと、ほぼ正方形になるものと思われる。各柱穴の床面からの深さはP1が50cm、P2が48cm、P4が75cmを測る。

遺物は竈の周囲及び、P4周辺より、まとまって出土している。

竈（第33図）

北壁中央やや東寄りに付設しており、焚口は南を向く。焚口幅55cm、奥行き80cm、右袖の高さ15cmを測る。袖部は黄褐色土を盛って、構築されており、竈内部の左袖側から高坏、甕の底部が出土した。

〔出土遺物〕（第34図）

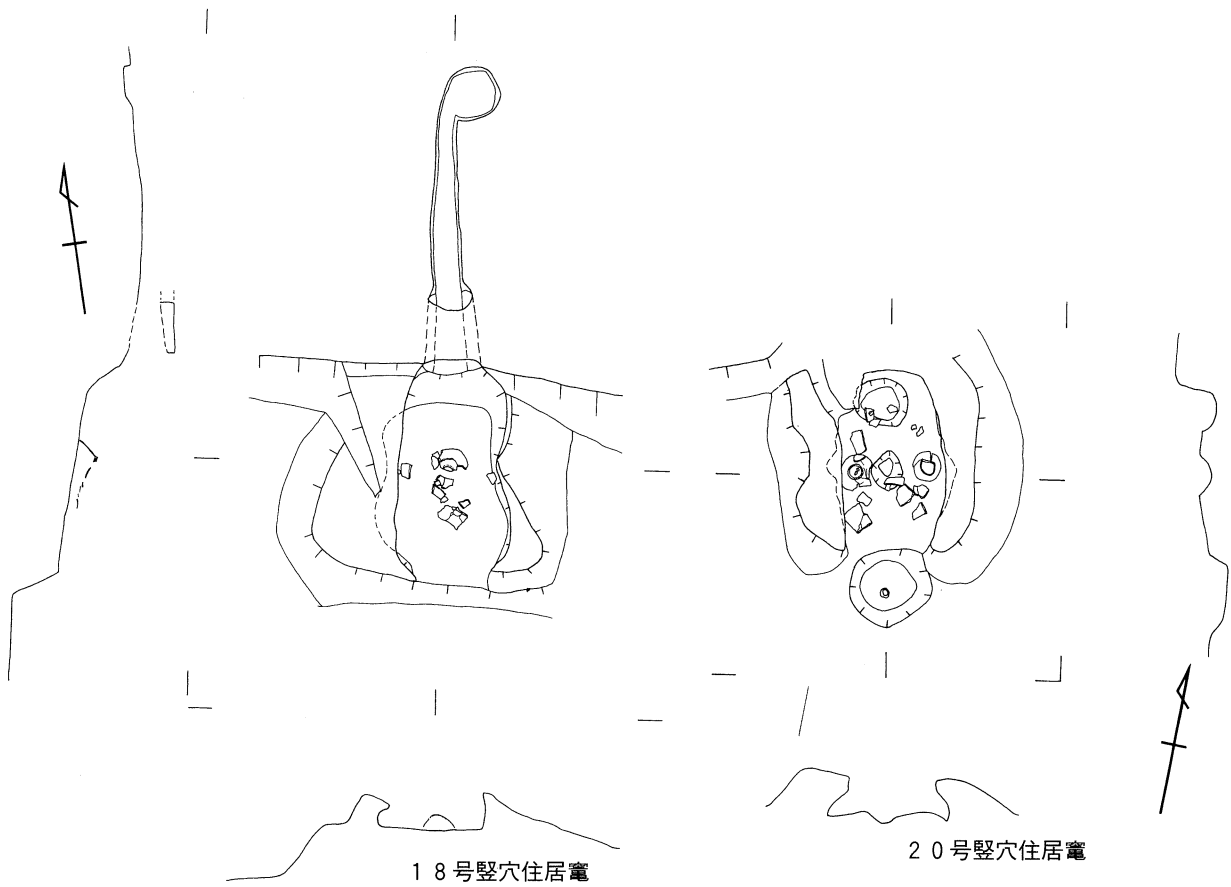
土師器の甕、壺、高坏、坏、須恵器の短頸壺等が出土した。

212は埋甕炉に用いられていた甕で、213、214は長胴で、口縁部が短く外反する甕である。216は壺で、胴部は丸く張っており、口縁部は立ち気味で、端部が外反する。217、218は高坏で、217は口縁部と受部の境に明瞭な稜をもつ。220は須恵器の短頸壺で、口縁部は短く直立し、肩が張っている。

214、218が竈内より、219が埋土中からの出土で、他は床面からの出土である。217は竈内及び、竈前面から、215、220は竈の西側から出土した。

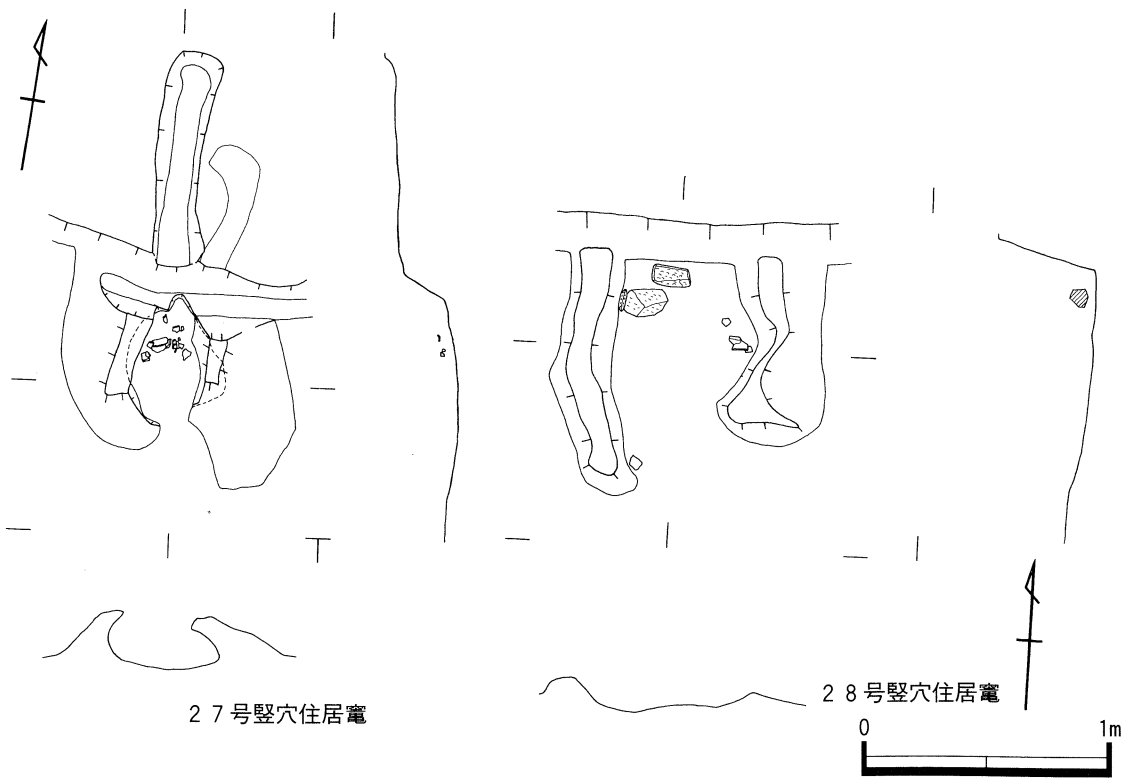
23号竪穴住居（第33図）

東壁長5.3m以上、北壁長4.4m以上、壁高35cmを測る。床面よりピットが多数検出されたが、柱配列は判然としない。遺物は床面及び埋土内より土師器片が少量出土しているが、いずれも細片で図示に耐えない。



18号竖穴住居竈

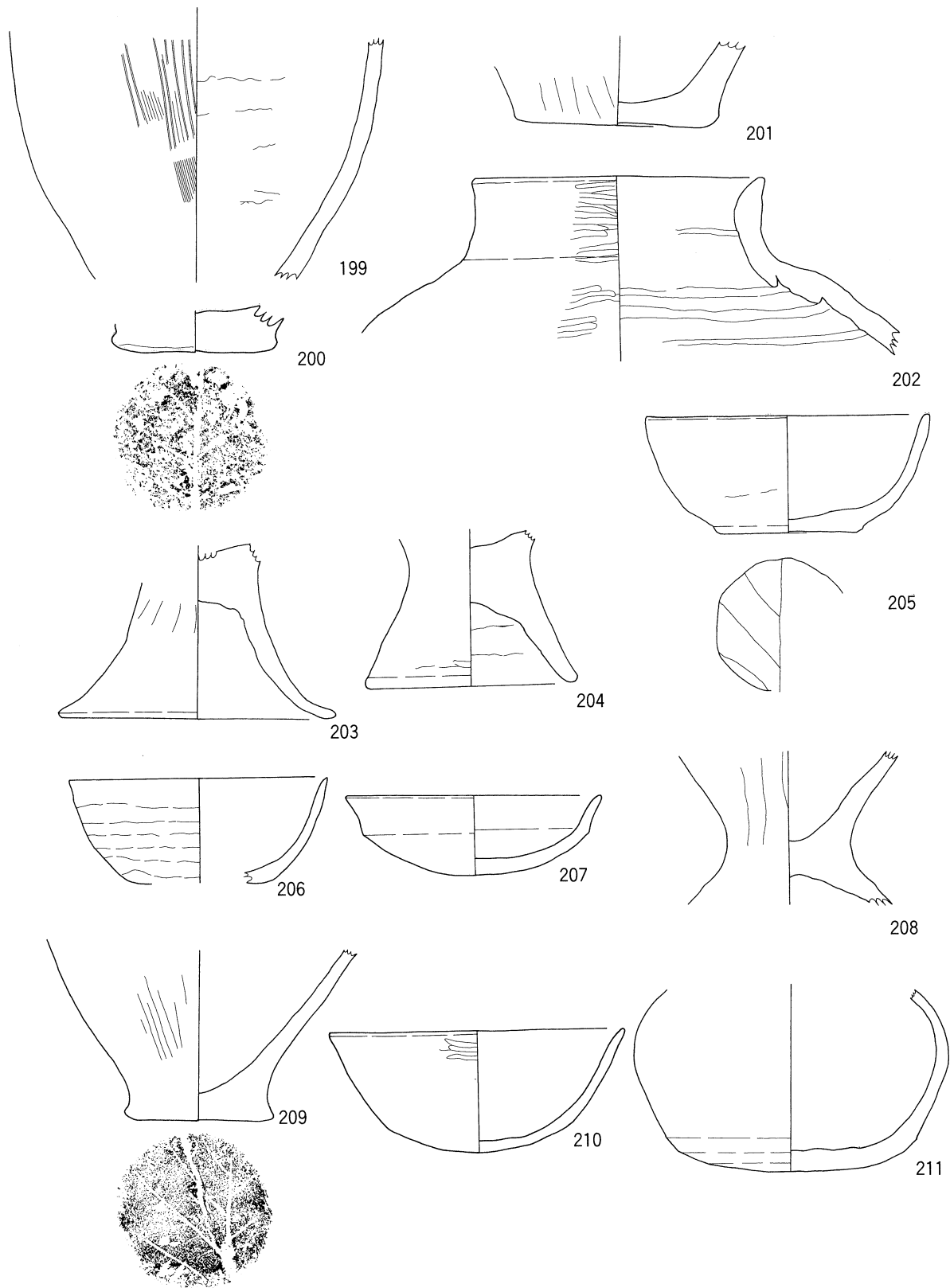
20号竖穴住居竈



27号竖穴住居竈

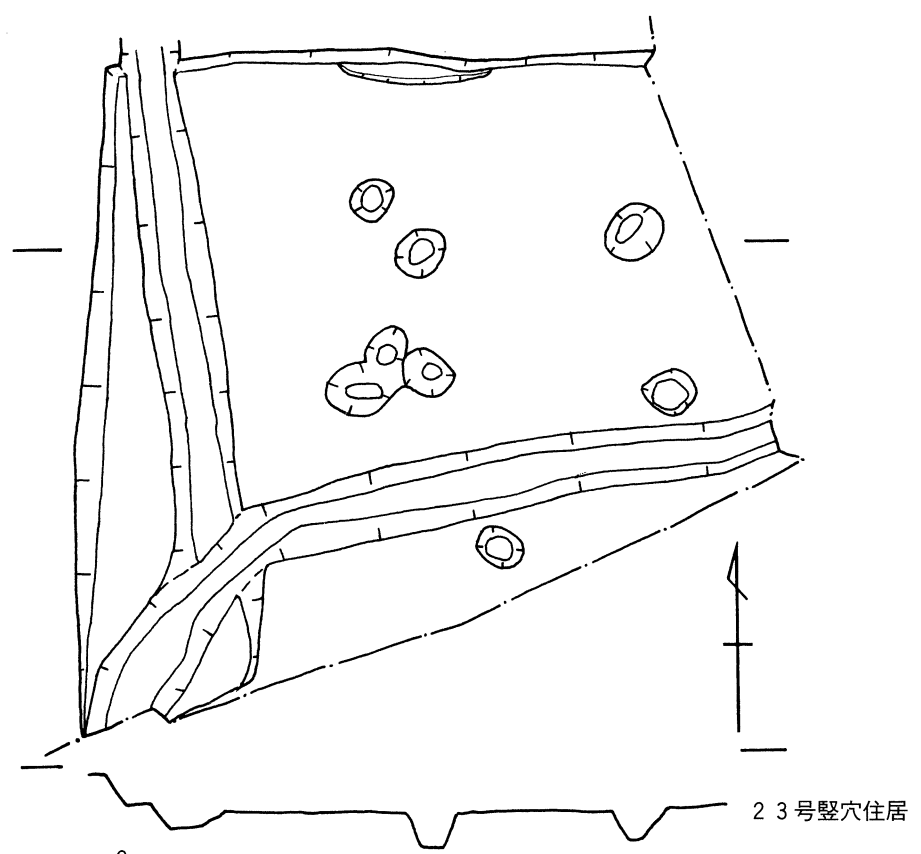
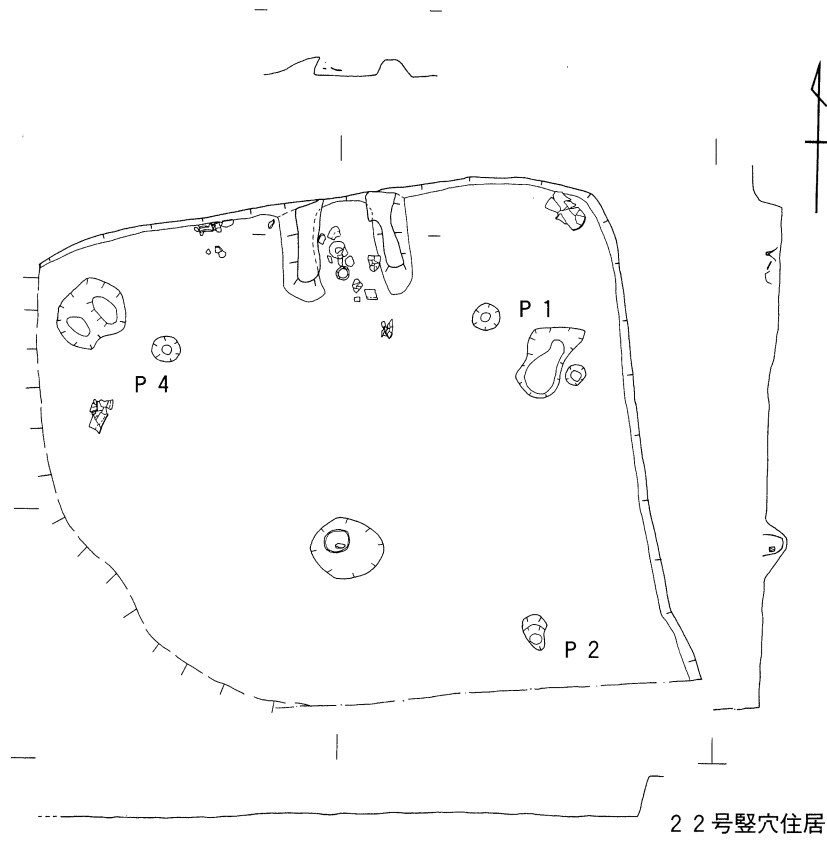
28号竖穴住居竈

第31图 18、20、27、28号竖穴住居竈实测图 (1/30)

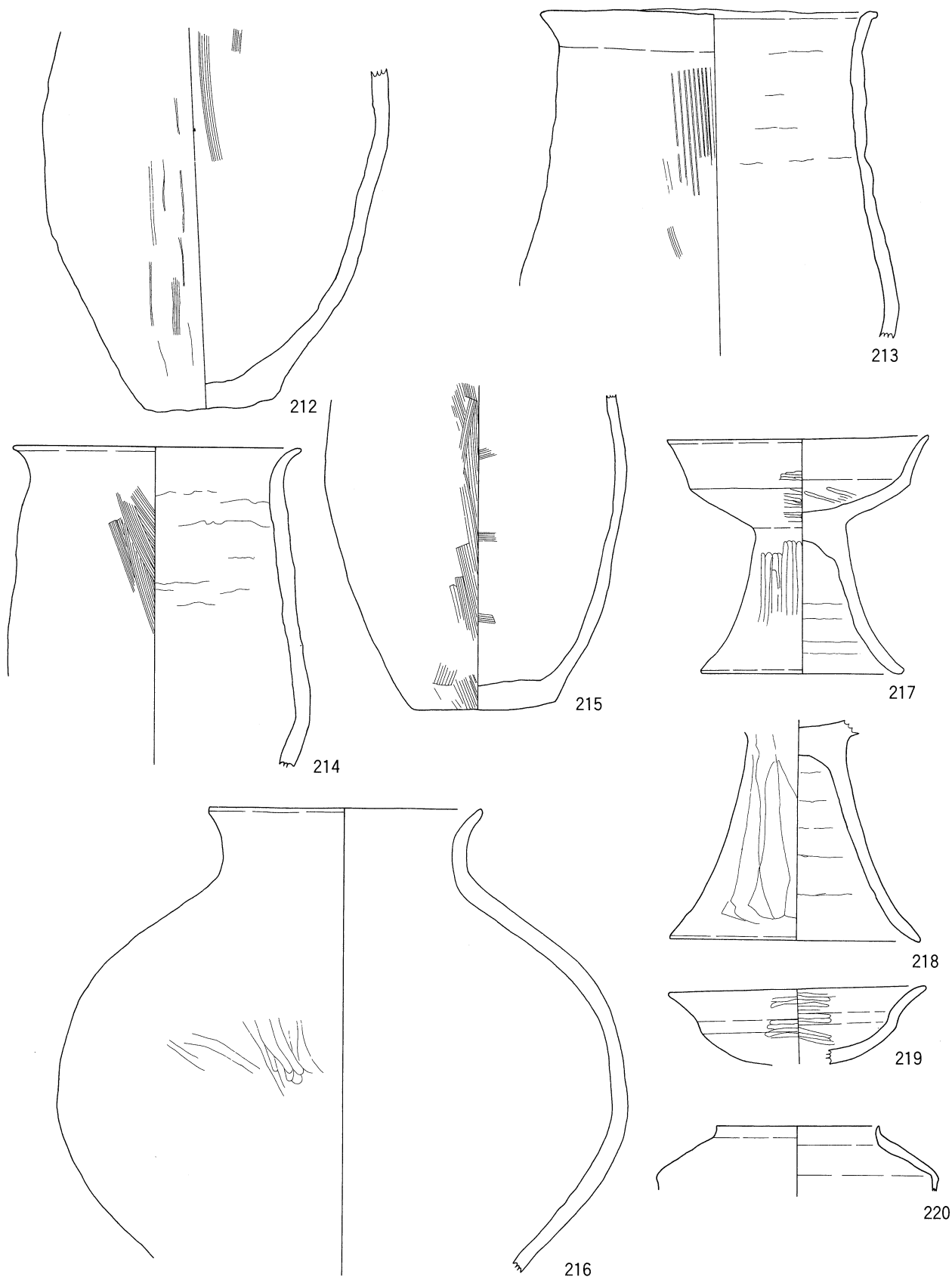


第32图 20・21号竖穴住居出土遺物 (1/3)





第33图 22・23号竖穴住居実测图 (1/60)



第34图 22号竖穴住居出土遺物 (1 / 3)



24号竪穴住居（第30図）

西壁長6.3m、南壁長3.1m以上、壁高55cmを測る。住居跡の東側半分は調査区外にかかり、西側で25号竪穴住居と重複する。床面は貼床を施しており、ピットは検出されたが、支柱穴とは言えない。南壁側のみ幅約10cmの壁溝が検出された。住居跡北西隅及び南西側床面及び埋土中から、ややまとまって土器が出土した。

〔出土遺物〕（第35図）

土師器の甕、壺、椀、須恵器の坏蓋が出土している。

221～223は長胴の甕で、粘土の継目を顕著に残している。225は壺で、頸部に絡縄突帯を廻らしている。

いずれも床面ないし、床面から僅かに浮いての出土である。

25号竪穴住居（第30図）

東西4.6m以上、壁高30cmを測る。東側で24号竪穴住居、西側で26号竪穴住居と重複する。切りあい関係はともに明らかにできなかった。床面からはピットが3基検出されたが、支柱穴と言い難い。住居跡のかなり南東に寄っていると思われる位置より、埋甕炉が検出された。

〔出土遺物〕（第35図）

土師器の甕、壺等が出土した。228は埋甕炉に用いられた甕である。

26号竪穴住居（第30図）

南北6.5m以上、東西7.9mの長方形プランを呈し、壁高35cmを測る。北壁はA35号溝状遺構に切られ、東側で25号竪穴住居、北西側で27号竪穴住居と重複している。前後関係は27号住居に先行し、25号住居との関係は明確にできなかった。

住居跡中央やや南寄りから埋甕炉が、それより約1.5m北東に焼土面がみられる。また、床面からはピットが多数検出されており、柱穴は3本しか検出できなかったが、支柱穴4本の住居である。柱穴間を線で結ぶと東西に長い長方形になると思われる。各柱穴の床面からの深さはP1が42cm、P2が72cm、P3が51cmを測る。

床面出土の遺物は少量であるが、住居跡埋土中からはまとまった量の土器が出土した。

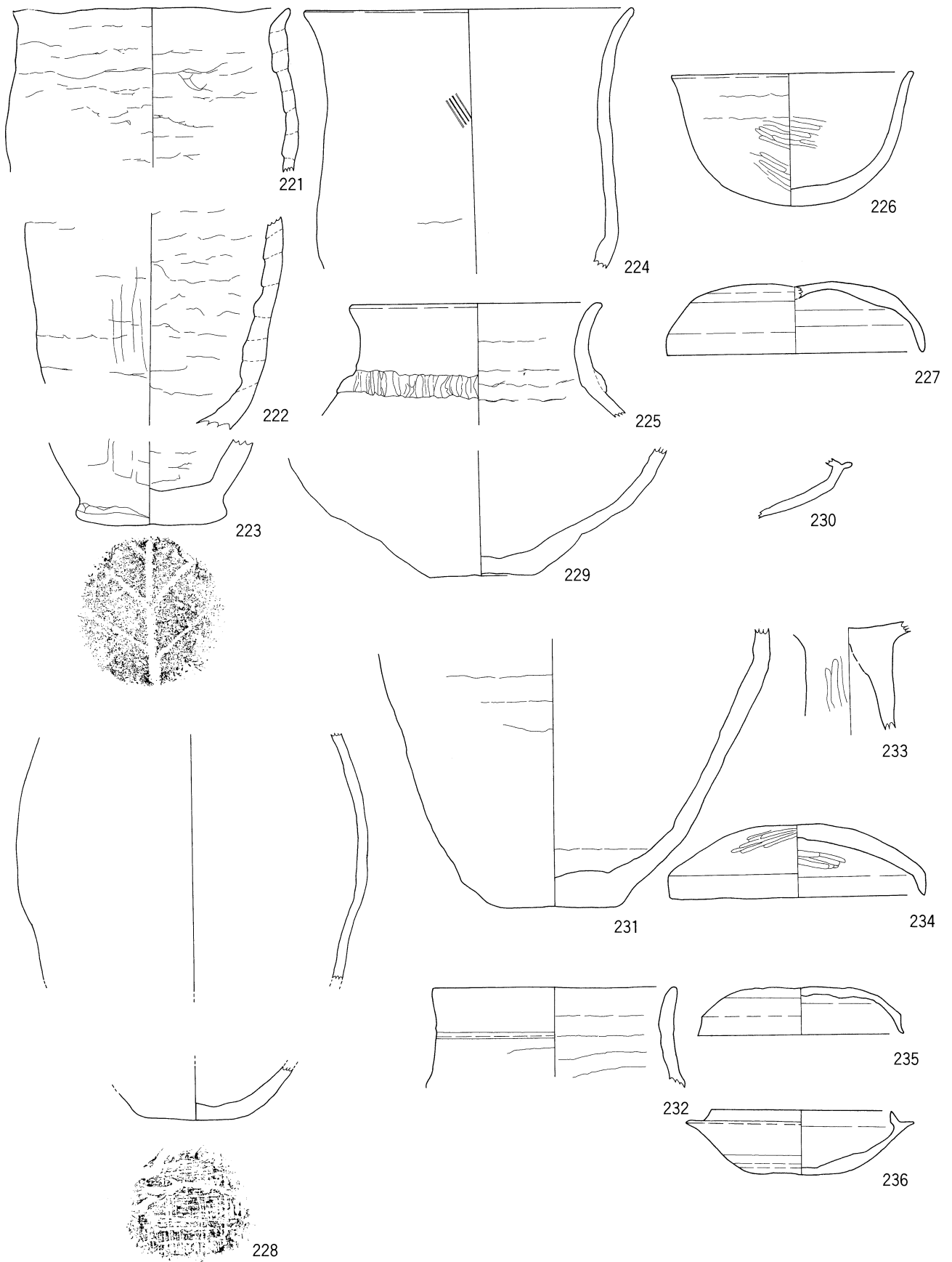
〔出土遺物〕（第35図）

土師器の甕、高坏、坏蓋、須恵器の坏蓋、坏身等が出土した。

231は埋甕炉に用いられた甕である。232は口縁部と胴部の境が不明瞭な甕で、ごく浅い沈線が1条廻っている。234は土師器の坏蓋で、天井部と口縁部の境に明瞭な稜をもつ。236は須恵器の坏身で、立ち上がりの高さは0.6cmしかなく、短く内傾している。底部にヘラ記号が見られる。

232、235、236は埋土中からの出土で、その他は床面出土である。

27号竪穴住居（第30図）



第35图 24~26号竖穴住居出土遺物 (1/3)



北壁長4.2m以上、東壁長2.0m以上、壁高35cmを測る。東側で26号竪穴住居、西側で19、20号竪穴住居と重複する。切りあい関係は、26号竪穴住居より後出するが、19、20号竪穴住居との前後関係は明確にできなかった。

住居跡ほぼ中央から埋甕炉が、北壁中央から竈が検出された。主柱穴は4本が想定されるが、2本しか検出できなかった。各柱穴の床面からの深さはP1が56cm、P4が51cmを測る。

遺物は少量であったが、竈周辺からは、ややまとまって出土した。

竈（第31図）

住居跡北壁中央に付設しており、焚口は南を向く。奥行き76cm、右袖の高さ19cmを測り、袖部は黄褐色土を盛っている。奥壁側は溝状遺構に切られ、残存しない。天井部は残っていないが、トンネル式の煙道が取り付く。煙道は竈床面から18cm上の奥壁を掘り込み、長さ80cmを測る。煙出しは径22cmの円形を呈し、煙道底面は煙出しに向けて、僅かに登っている。

竈中央より、土器片が積み重なって出土している。

〔出土遺物〕（第36図）

土師器の甕、高坏、椀、須恵器の坏蓋が出土している。

237は埋甕炉に用いられた甕である。239、240は高坏で、239は口縁部に段をもたず、直線的に外傾する。

239が竈内から、238が埋土中からの出土で、その他は床面出土である。

28号竪穴住居（第37図）

南北5.6m、東西4.8m以上、壁高45cmを測る。1、2号周溝状遺構と切りあい、A17、19号溝状遺構に切られる。北東側で、62号竪穴住居と重複するが、前後関係は明確にすることができなかった。北壁やや東に寄って、甕が付設されている。

主柱穴は4本と推定され、そのうち、北側の2本を検出した。床面からの深さはP1が26cm、P4が52cmを測る。

遺物は土器が少量出土したのみであるが、南壁際中央にややまとまって出土した。

竈（第31図）

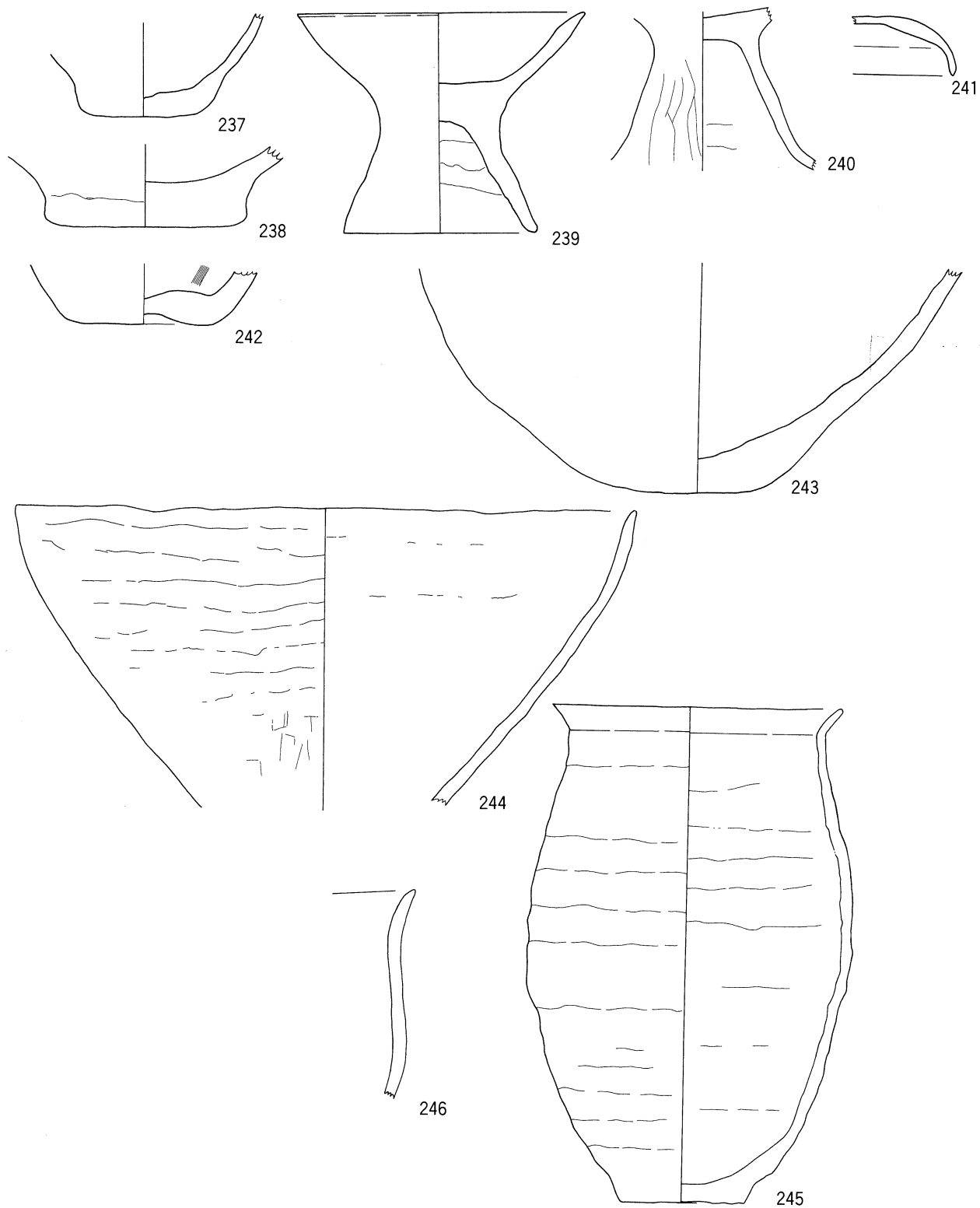
住居跡北壁やや東寄りに付設しており、焚口は南に向く。奥行き95cm、左袖の高さ12cmを測り、袖部は黄褐色土を盛って、構築される。奥壁側に長さ18cmと15cmの多角柱に加工された軽石製支脚が横倒しになった状態で出土した。竈内からは支脚のほかに土器片が数点出土している。

〔出土遺物〕（第36図）

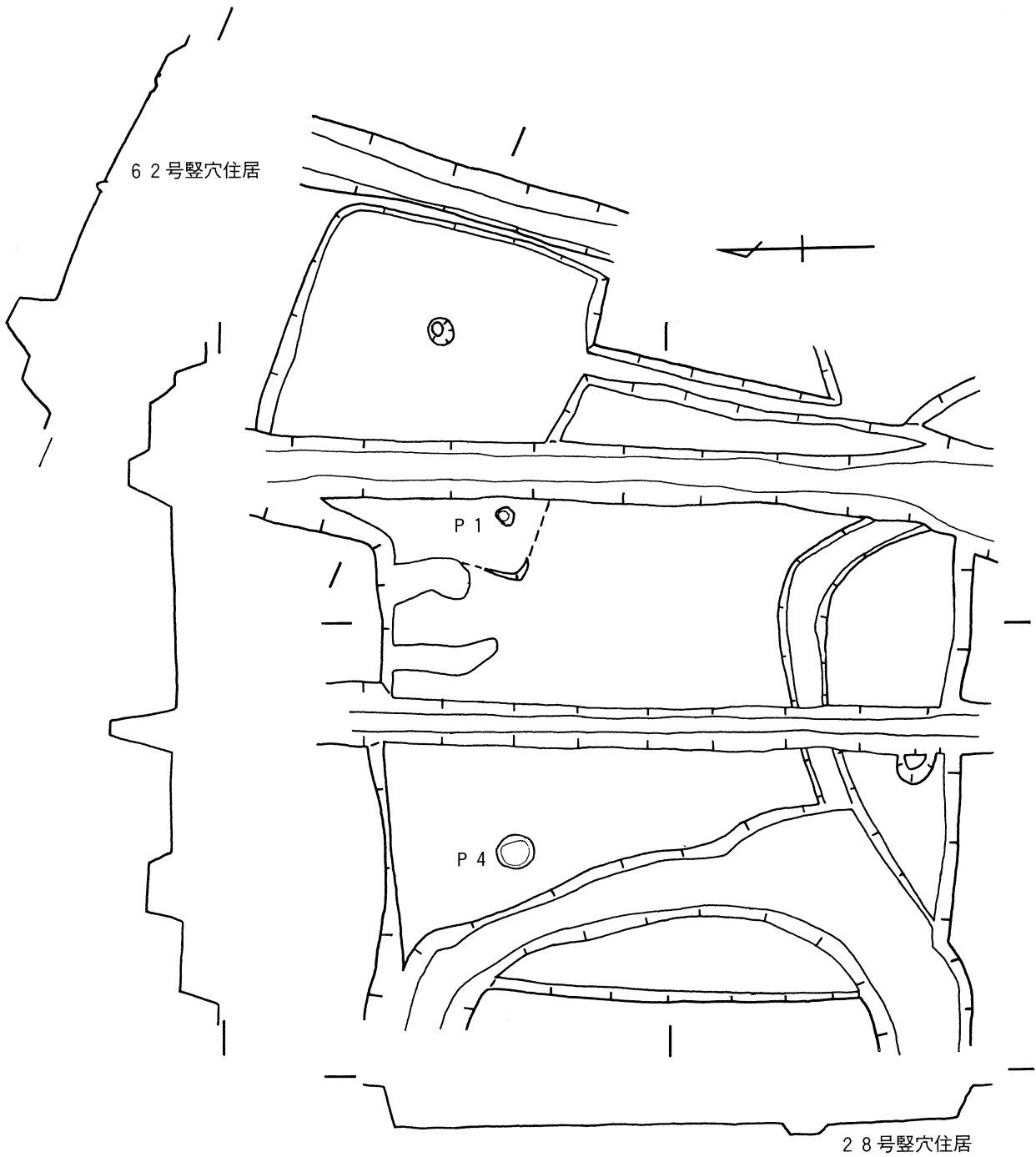
土師器の甕、壺、鉢等が出土している。244は大型の鉢である。242、244は床面から、243は住居跡埋土中より出土した。

62号竪穴住居（第37図）

東西3.2m、南北2.9mの方形プランを呈し、壁高35cmを測る。南西側は28号竪穴住居と重



第36图 27~28·62号竖穴住居出土遗物(1/3)



62号竖穴住居

28号竖穴住居

第37图 28・62号竖穴住居实测图(1/60)



複する。切りあい関係は明確にすることができなかったが、本住居跡が先行するものと思われる。

住居跡中央やや東寄りから、径28cmの掘り込みを有する埋甕炉が検出された。遺物は住居跡北西側から、土師器片がややまとまって出土しているが、全体的に量は少ない。

床面から柱穴は検出されておらず、当初より掘られていないものと思われる。

〔出土遺物〕（第36図）

土師器の甕が出土している。245は埋甕炉に用いられた甕である。

29号竪穴住居（第38図）

東壁長4.1m、北壁長3.0mの隅丸長方形プランを呈し、壁高50cmを測る。30号竪穴住居とほぼ重複しており、切りあい関係より、30号住居に後出する。

住居に伴う柱穴は検出されず、床面出土の土器も少量であった。

30号竪穴住居（第38図）

東西5.2m以上、南北5.8m、壁高65cmを測る。北西側が29号竪穴住居に切られ、東側は32号竪穴住居と切りあい、更に東は調査区外にかかる。

支柱穴は4本で、柱穴間を線で結ぶと南北にやや長い長方形を呈する。各柱穴の深さはP1が52cm、P2が64cm、P3が66cm、P4が62cmを測る。

遺物は住居跡南西部を中心に、かなりの量の土器が密集して出土している。遺物の大半は床面より、やや浮いた状態で出土しており、出土レベルもほぼ一定である。また、破片化が甚だしく、住居廃絶後、それほど時をおかずして、土器が一括投棄されたものと思われる。

〔出土遺物〕（第39、40図）

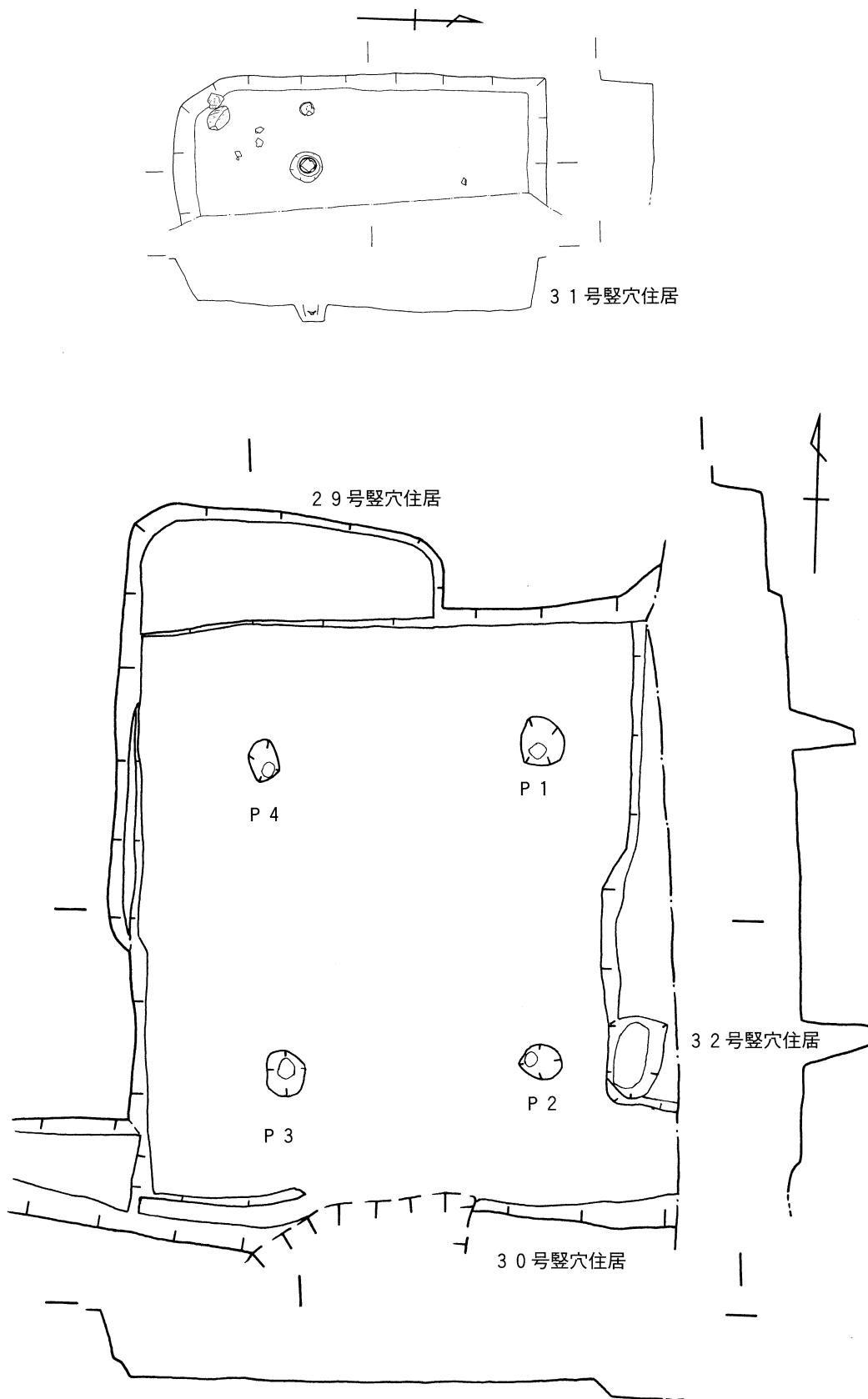
土師器の甕、壺、甗、鉢、椀、高坏、坏蓋、須恵器の甕、坏蓋、坏身等が出土している。

247～252は甕で、いずれも長胴気味で、口縁部は外反する。なかでも247、251は口縁の外反度が強い。260～262は壺で、立ち気味の口縁部をもち、胴の張りは大きい。261は頸部に絡縄突帯を廻らしており、刻目は縦位に刻まれている。263～266は甗で、263は最大径を口縁部にもつが、その他は胴上半分にもつ。267は突出した底部から大きく開く口縁部をもつ鉢である。272は土師器の坏蓋で、天井部と口縁部の境に明瞭な稜をもつ。274は須恵器の坏身で、立ち上がりは短く内傾する。

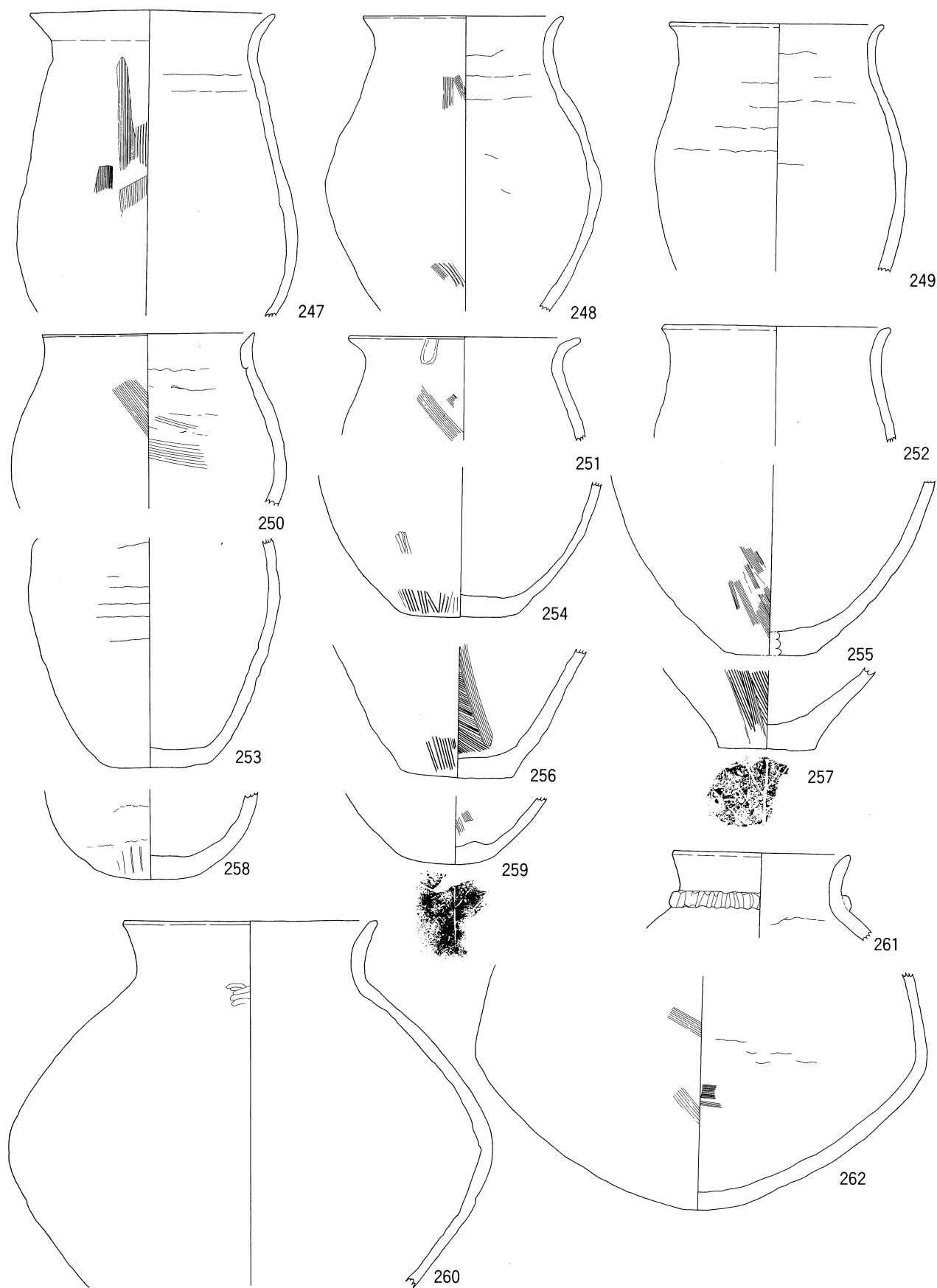
遺物は大半は、床面から10～25cm浮いて出土している。256、258、260、261、270はそれらより、やや高い位置から出土した。

31号竪穴住居（第38図）

北壁1.2m以上、西壁3.5m、壁高50cmを測り、住居跡東側は調査区外にかかる。柱穴は未検出で、中央やや南西に寄って、埋甕炉が検出された。埋甕炉は径32cm、深さ16cmの掘り込みをもつ。埋甕は底部が欠損しており、底部は埋甕炉の西約50cmの床面から、やや浮いた位置より出土した。また、埋甕炉内からは別個体の甕の底部（277）が出土している。

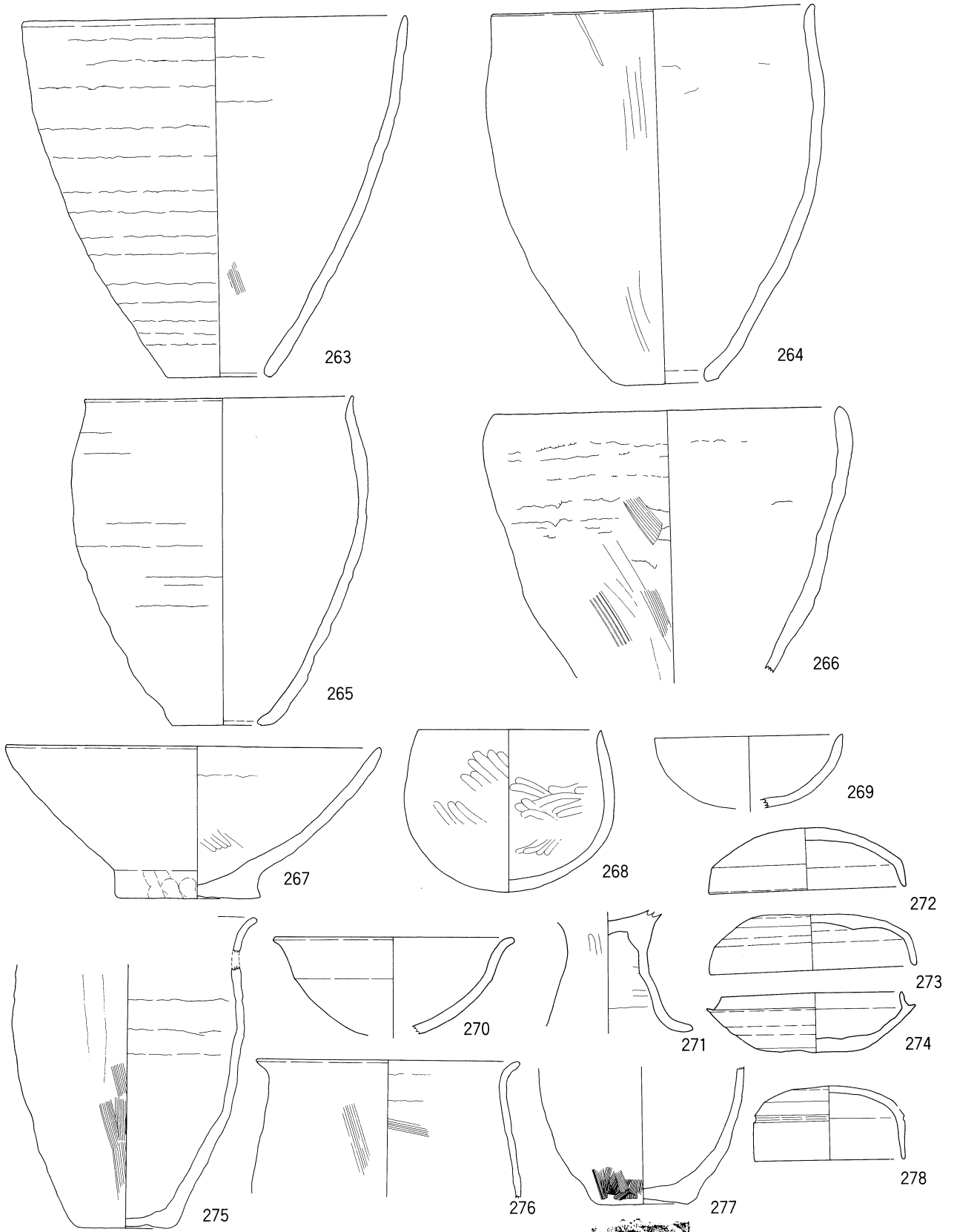


第38図 29~32号竖穴住居実測図 (1/60)

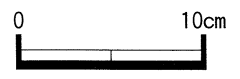


第39图 30号竖穴住居出土遺物 (1/4)





第40図 30～32号竖穴住居出土遺物 (1/4)



遺物は少量しか出土しなかったが、住居跡南西隅付近の床面から若干、浮いた状態で径30cmと20cmの軽石が検出されている。

〔出土遺物〕（第40図）

土師器の甕等が出土した。275は埋甕炉に用いられていた甕である。長胴で、口縁部は短く外反する。

32号竪穴住居（第38図）

西壁長4.6m以上、南壁長0.7m以上、壁高75cmを測る。西側で30号竪穴住居と重複するが、切りあい関係は明確にすることができなかった。

南西隅から不整形の掘り込みが検出されたが、確実に住居に伴うものとは言えない。遺物のごく僅か出土したのみである。埋土中より、須恵器の坏蓋（278）が出土している。

58号竪穴住居（第41図）

北壁長2.3m、東壁長3.0mの長方形プランで、壁高15cmを測る。住居跡中央南側に径40cmほどの焼土面が検出され、その周辺から土師器、軽石が集中して出土している。

柱穴は検出されなかった。当初より存在しなかった可能性もある。

59号竪穴住居（第41図）

長軸長4.2m、短軸長2.4mの長方形プランを呈し、壁高30cmを測る。ピット及び、浅い土坑が1基ずつ検出された。また、中央北寄りのピット（深さ25cm）からは焼土及び、土器片が検出されており、埋甕炉の痕跡の可能性はある。

遺物は中央西寄りから、まばらに出土しているが、いずれも小片で、床面より、やや浮いた状態での出土である。本住居跡も柱穴は存在しなかったものと思われる。

〔出土遺物〕（第42図）

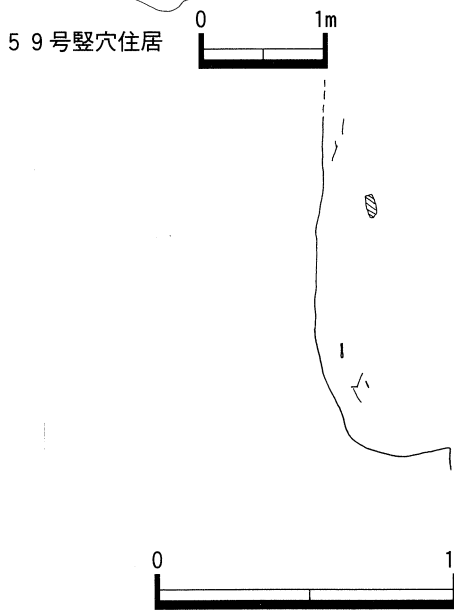
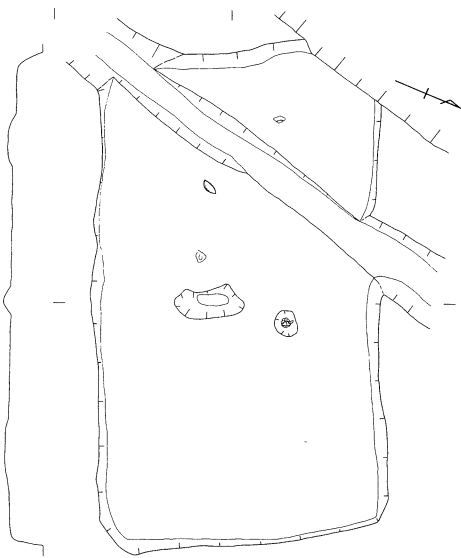
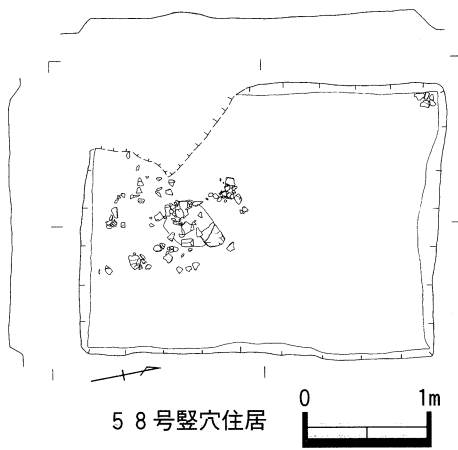
土師器の甕、須恵器の坏身が出土している。452は須恵器の坏身で、やや扁平である。

61号竪穴住居（第41図）

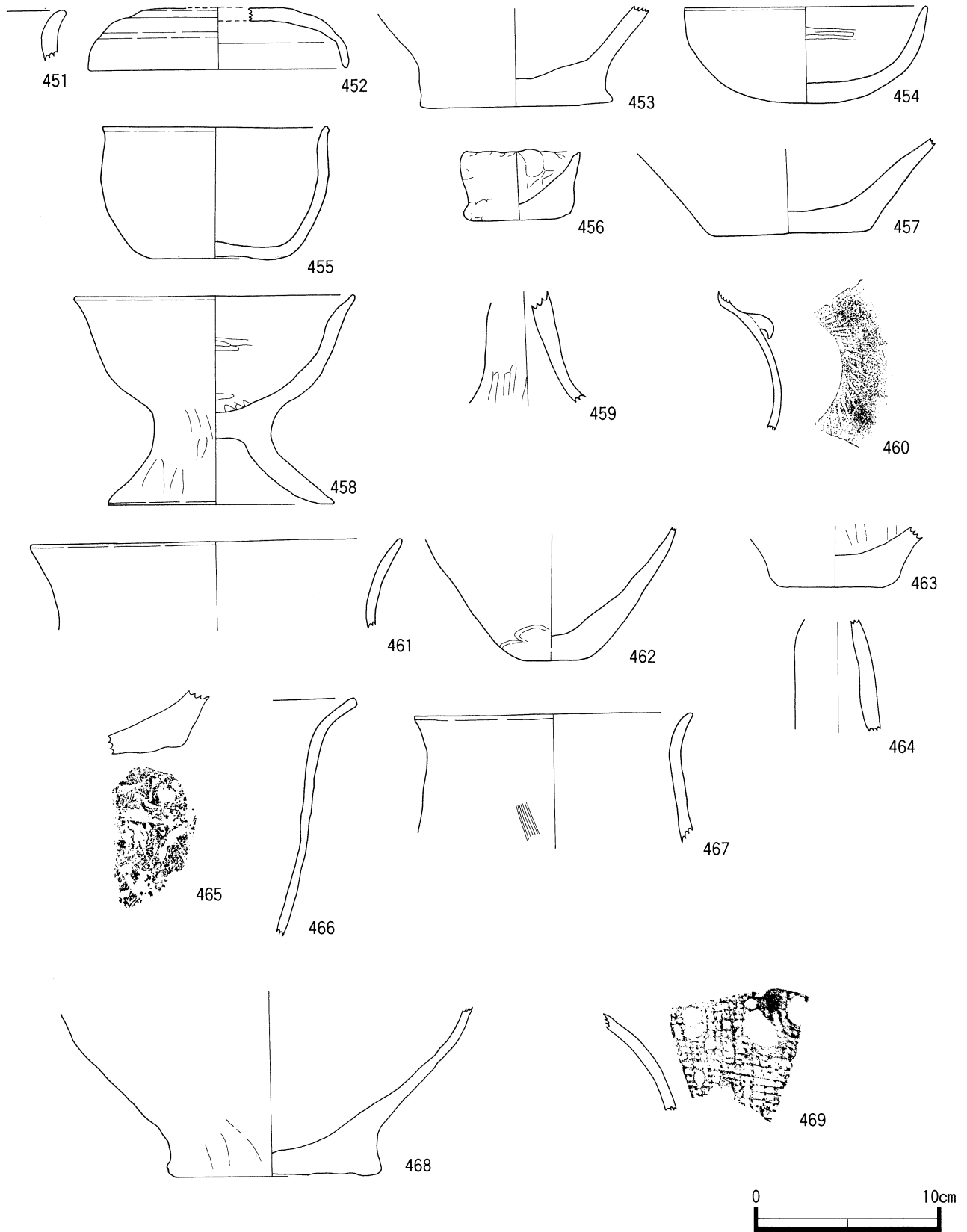
北壁長3.8m以上、西壁長3.0m、東壁長2.1mの台形プランを呈し、壁高20cmを測る。住居跡は側溝及び、攪乱坑に切られ、北側で1号土坑と重複する。前後関係は、切りあい状況から、土坑の方が先行する。

床面から、径25~30cm、深さ20~10cmのピットが2基検出されたが、その位置より、主柱穴とするには難しい。遺物は床面より浮いた状態で、土師器の小片が、僅かに出土したのみである。

第2節 竪穴の調査



第41图 58・59・61号竖穴住居、1号土坑实测图 (1/60·1/40)



第42图 59·60·63号竖穴住居、1号建物、竖穴、土坑、1·2号周溝状遺構出土遺物（1/3）

1号竪穴（第4図）

A区より検出され、東側は調査区外にかかる。西壁長2.1m、南壁長0.8m以上、壁高15cmを測る。遺物は土器片が僅かに出土したのみである。

第3節 土坑の調査

1号土坑（第41図）

A区西側で検出され、61号竪穴住居と重複する。西側を側溝で切られており、全体形ははっきりしないが、長軸1.1m以上、短軸1.2mの楕円形を呈するものと思われる。深さ45cmを測り、底面は中心に向かって、徐々に深くなる。

土坑内からは土器片がまとまって出土した。土器は底面より、やや浮いているものが多い。貯蔵穴と思われる。

〔出土遺物〕（第42図）

土師器の甕、高坏が出土している。

2号土坑（第4図）

A区東側で検出され、径1.3m、深さ90cmを測る。遺物は埋土中より土師器小片が数点出土したのみである。

3号土坑（第4図）

A区東側、5号竪穴住居の東4mに位置しており、径1.2mの円形を呈し、深さ1.1mを測る。遺物は埋土中から土師器小片が僅かに出土したに過ぎない。東隣の4号土坑と幅40cm、深さ25cmの小溝で上部が連結している。

4号土坑（第4図）

3号土坑の東側に80cmの間隔をあけて並ぶ。径95cmの円形を呈し、深さ90cmを測る。遺物は埋土中より土師器小片が数点出土したのみである。

5号土坑（第4図）

A区南西隅で検出され、南北径1.6m以上、深さ60cmを測る。土坑内からは土師器の甕（465）、須恵器の甕、蓋坏片が出土している。

第4節 周溝状遺構の調査

1号周溝状遺構（第4図）

A区中央部より検出され、13、28号竪穴住居に切られ、2号周溝状遺構と重複する。周溝外

径は6.0m、内径は4.0mの円形プランを呈し、周溝幅は90~110cm、検出面からの深さ40~65cmを測る。

床面より、やや浮いた位置より壺の底部(468)が出土している。

2号周溝状遺構 (第48図)

1号周溝状遺構の南東側で検出され、28号竪穴住居と切りあっている。周溝外径は南北5.8m、東西5.4m(推定)、内径が5.0m×4.5mの隅丸方形のプランを呈し、周溝幅40~60cmで、検出面からの深さは20cmを測る。

周溝内からは土師器、須恵器甕の小片が出土した。

第5節 溝状遺構の調査

A3号溝状遺構 (第4図)

A区北側を東西に延びており、幅60~110cm、深さ50cmを測る。断面は台形を呈し、埋土中より、須恵器の甕、土師器片、軽石等が出土している。

A15号溝状遺構 (第4図)

A区を北東から南西へ縦断している。幅60~90cm、深さ35cmを測る。溝の埋土から土師器小皿が2点出土している。

〔出土遺物〕 (第43図)

482、483は土師器の小皿である。ほぼ同じ大きさで、ともに糸切り底である。

A16号溝状遺構 (第4図)

A区東側を北から南に縦断し、途中より90°東に向きを変える。幅80cm、深さ100cmを測り、溝埋土中から佐土原人形が出土した。(図版10)

A26号溝状遺構 (第4図)

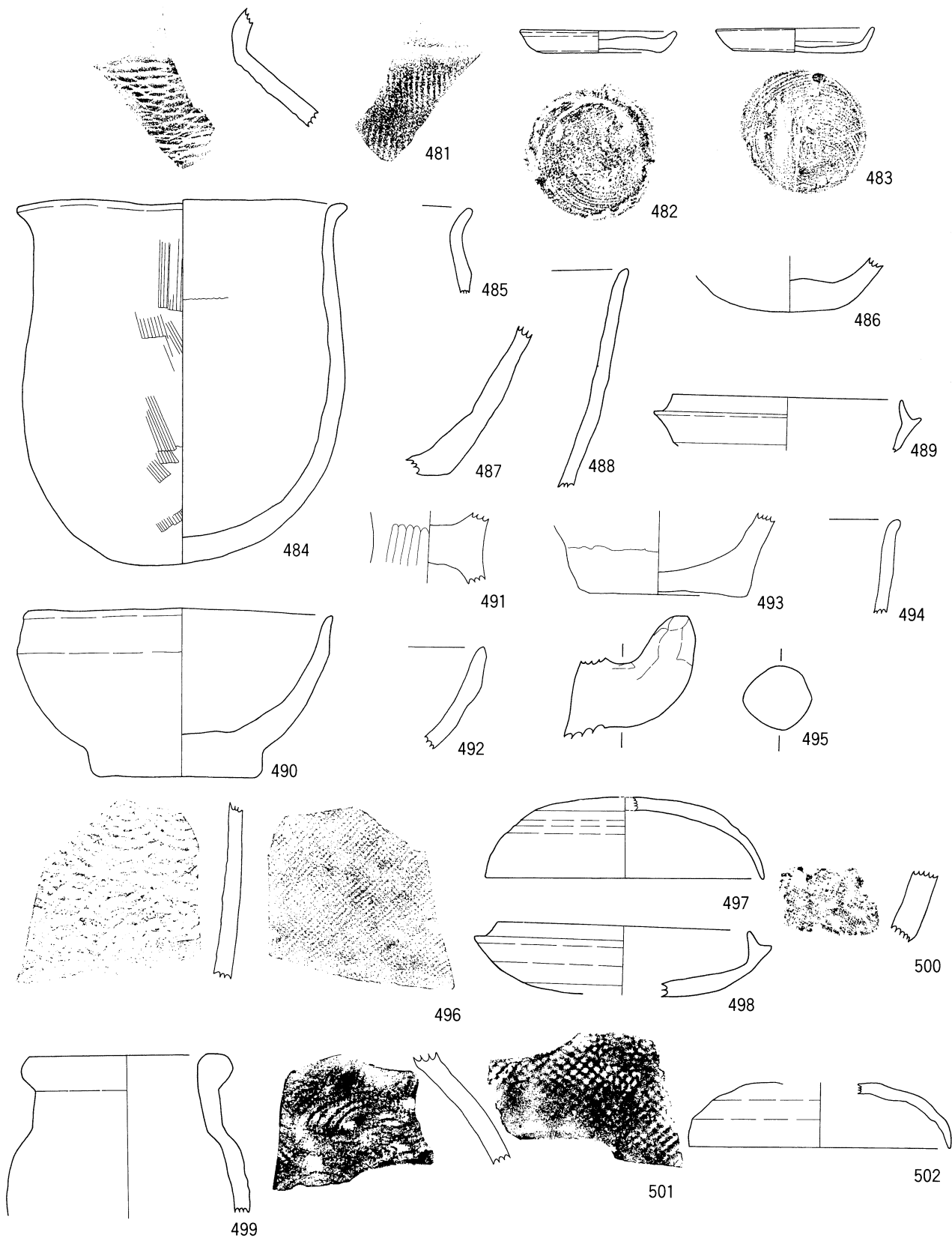
A区北側で検出され、北西—南東方向に延びている。幅50~80cm、深さ20~40cmを測り、断面はU字形を呈する。遺物は埋土中層より、部分的にまとまって出土した。

〔出土遺物〕 (第43図)

土師器の甕、甗、須恵器の坏身等が出土している。484は丸底の甕で、頸部はほとんど括れず、口縁部は短く外反する。

A27号溝状遺構 (第4図)

A区中央西側で、一部を検出した。南北方向に延び、幅70cm、深さ10cmを測る。溝埋土から、土師器の鉢(490)が出土している。平底の底部から、体部はやや内彎気味に立ち上がり、



第43图 A区沟状遗构出土遗物1 (1/3)



口縁部は短く外反する。

A28号溝状遺構（第4図）

A区中央東側で、一部を検出し、幅100cm、深さ30cmを測る。東西方向に延び、30号竪穴住居と切りあう。溝埋土中から、土師器の甕、高坏、椀が出土している。

A29号溝状遺構（第4図）

A区ほぼ中央をやや北に湾曲しながら東西に縦断し、調査区西端で15号竪穴住居、東側で16号竪穴住居と切りあう。幅50~100cm、深さ25~70cmを測り、溝底は西側に向かうにしたがって、深くなる。断面形はU字形から逆台形を呈する。

遺物は一部床面出土のものもあるが、ほとんどは埋土中からである。

〔出土遺物〕（第43図）

土師器の甕、甗、須恵器の坏身、坏蓋、甕が出土した。495は甗の牛角把手である。497は須恵器の坏蓋で、天井部から口縁部にかけて、丸くなだらかなカーブを描く。498は須恵器の坏身で、立ち上がりは短く、内傾する。

494が床面より、495~498は床面よりやや浮いた位置で出土している。

A32号溝状遺構（第4図）

A29号溝状遺構の南側を東西に縦断し、調査区西端で15号竪穴住居、東側で16号竪穴住居と切りあう。幅80~120cm、深さ20~30cmを測り、断面はU字形を呈する。埋土下層より、土師器片、須恵器の坏蓋（502）、甕（501）が、埋土上層より、布痕土器（500）が出土している。

A34号溝状遺構（第4図）

A32号溝状遺構の南側で検出され、A32号溝とはほぼ平行に東西に延びる。幅50~90cm、深さ20~30cmを測り、断面はU字形を呈する。

溝底部より、須恵器の甕が、埋土中から、土師器甕、須恵器坏蓋等が出土している。

A36号溝状遺構（第4図）

A区南側で検出され、20、24~27号竪穴住居を東西に切っている。幅60~80cm、深さ40cmを測り、西側を中心に溝埋土中から、土師器片が出土している。

A41号溝状遺構（第4図）

A区南側東端で一部が検出され、幅40cm、深さ20cmを測る。8世紀前葉の須恵器の坏（503）が出土している。口径12.7cm、器高4.6cmを測り、低い高台を伴い、口縁部は逆「ハ」の字状に広がる。

A45号溝状遺構（第4図）

A区ほぼ中央を東西に延びている。幅60cm、深さ45～60cmを測り、溝底は東側に低くなる。遺物は東側から、ややまとまって出土している。

〔出土遺物〕（第74図）

505は須恵器の坏蓋で、口縁部に明瞭な段をもち、天井部と口縁部との境に、浅い沈線を1条巡らす。底面から、やや浮いての出土である。

A49号溝状遺構（第4図）

A区中央部付近で一部を検出した。幅110cm、深さ50cmを測り、断面形は台形を呈する。遺物は底面及び、底面より、やや浮いた位置から、まとまりをもって出土した。

土師器の甕、高坏、須恵器の坏蓋、坏身、軽石等が出土している。

〔出土遺物〕（第74図）

508は土師器の高坏で、口縁部と受部の境に弱い稜をもち、脚部は「ハ」の字状に開き、裾端部は外反し、先端は丸くおさめる。510は須恵器の坏蓋で、天井部から口縁部にかけて、丸くならかなカーブを描いている。511、512は須恵器の坏身で、立ち上がりは短く内傾する。

第6節 近世墓の調査

1号墓（第4図）

A区南端で検出された。南北1.7m、東西1.5mの方形を呈し、深さ80cmを測る。墓壙内からは銅銭13枚、歯が出土しており、銅銭13枚のうち5枚は寛永通宝であることが確認できた。

2号墓（第4図）

A区南端で検出された。南北2.4m、東西1.4mの長方形を呈し、深さ80cmを測る。遺物の出土はなかった。

第三章 C区の調査

第1節 竪穴住居の調査

33号竪穴住居 (第45図)

南壁長1.2m以上、東壁長5.2m、壁高50cmを測る。住居跡内からは幾つかのピットが検出されたが、支柱穴といえるものではない。遺物は住居跡北側を中心に出土しており、北東側で検出された径55cm、深さ6cmの浅い土坑内から、土器片が数十点まとまって出土した。

〔出土遺物〕 (第47図)

土師器の甕、壺、須恵器の坏蓋、坏身、甕、甗が出土している。281は須恵器の甕で、住居跡内の土坑より出土した。口縁部外面にヘラ記号がみられる。その他の土器は床面出土である。282は須恵器の坏身で、立ち上がりの高さは1.0cmで、短く内傾する。

34号竪穴住居 (第45図)

東西4.3m以上、南北5.1m、壁高55cmを測る。西側は調査区外にかかり、東側は3号周溝状遺構に切られる。住居跡中央から埋甕炉が検出された。埋甕炉は掘り込みを有する。

支柱穴は4本で、うち3本が検出された。柱穴間を線で結ぶとほぼ正方形を呈するものと思われる。各柱穴の床面からの深さはP1が60cm、P2が63cm、P4が57cmを測る。

遺物は住居跡南東側の床面から、ややまとまって出土している。

〔出土遺物〕 (第47図)

土師器の甕、甗等が出土した。284は埋甕炉に用いられていた甕である。285、286ともに床面からの出土である。

35号竪穴住居 (第46図)

北壁長4.7m、西壁長1.8m以上、壁高45cmを測る。南側の大半は調査区外にかかり、北西側は3号周溝状遺構を切っている。北壁やや東に偏って、竈を付設しており、北東隅から焼土面が検出された。

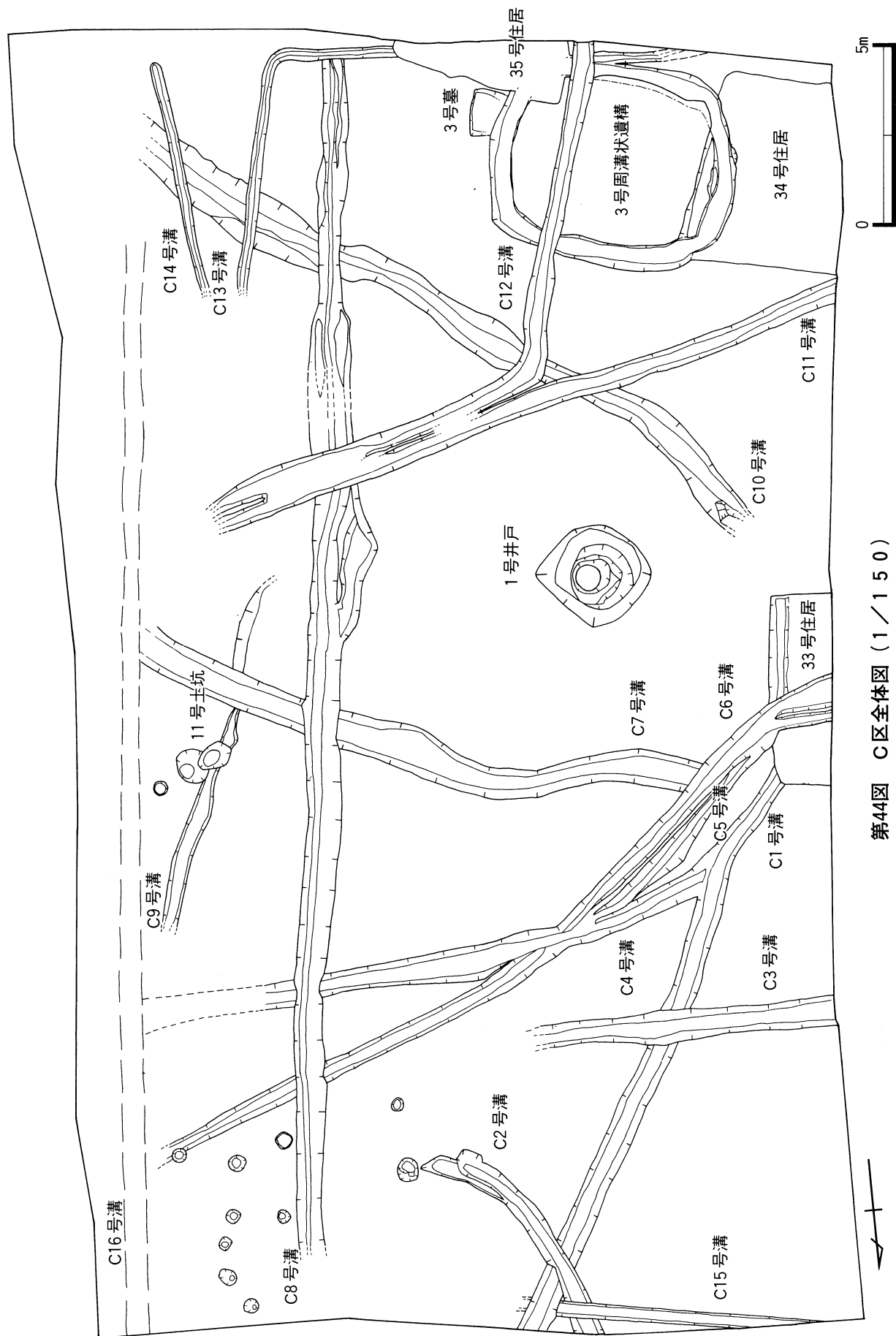
住居跡北西側から径20cm、深さ31cmのピットが1基検出されており、支柱穴4本の内の1本であると想定される。

遺物は竈内及び周辺からまとまって出土している。

竈 (第46図)

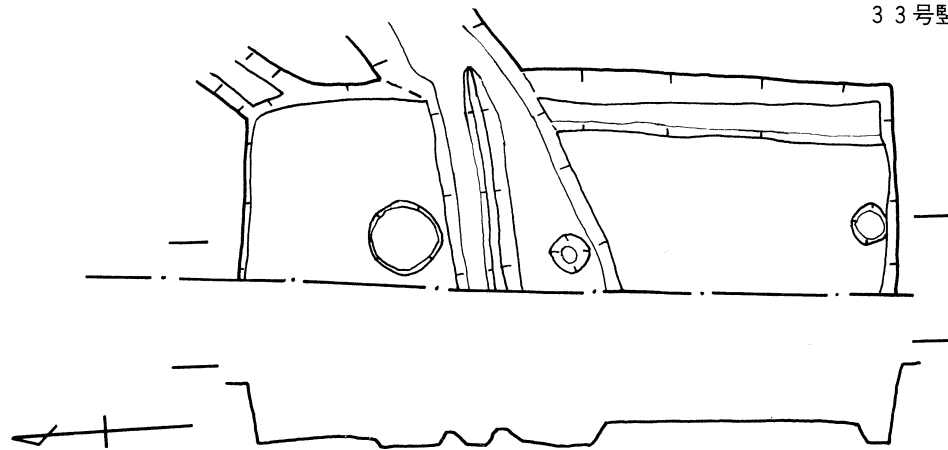
住居跡北壁やや東よりに付設されており、焚口を南に向ける。住居壁の一部を若干掘り込んでおり、焚口幅35cm、奥行55cm、左袖の残存高22cmを測る。袖部は黄褐色土、白色粘土を盛って構築している。

遺物は竈内から、まとまって出土しており、右袖側より、ほぼ完形の甕が、斜めに立った状態で出土している。また、焚口前面より、多角柱に加工された軽石製支脚が横になった状態で

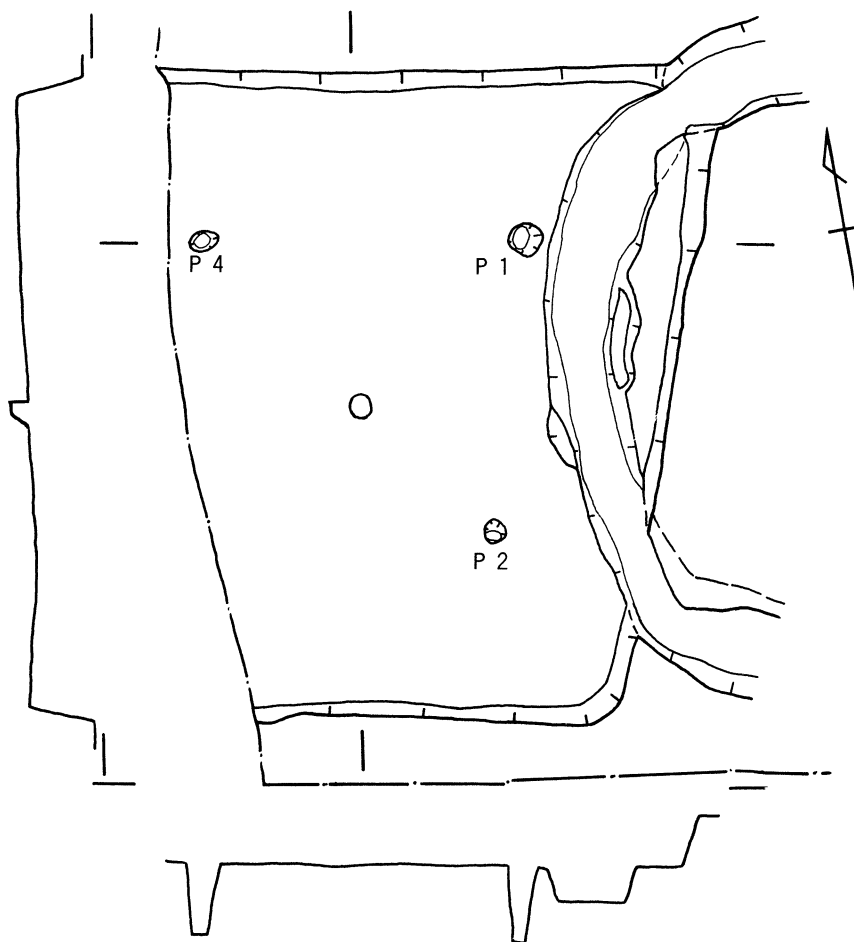


第44図 C区全体図 (1/150)

33号竖穴住居

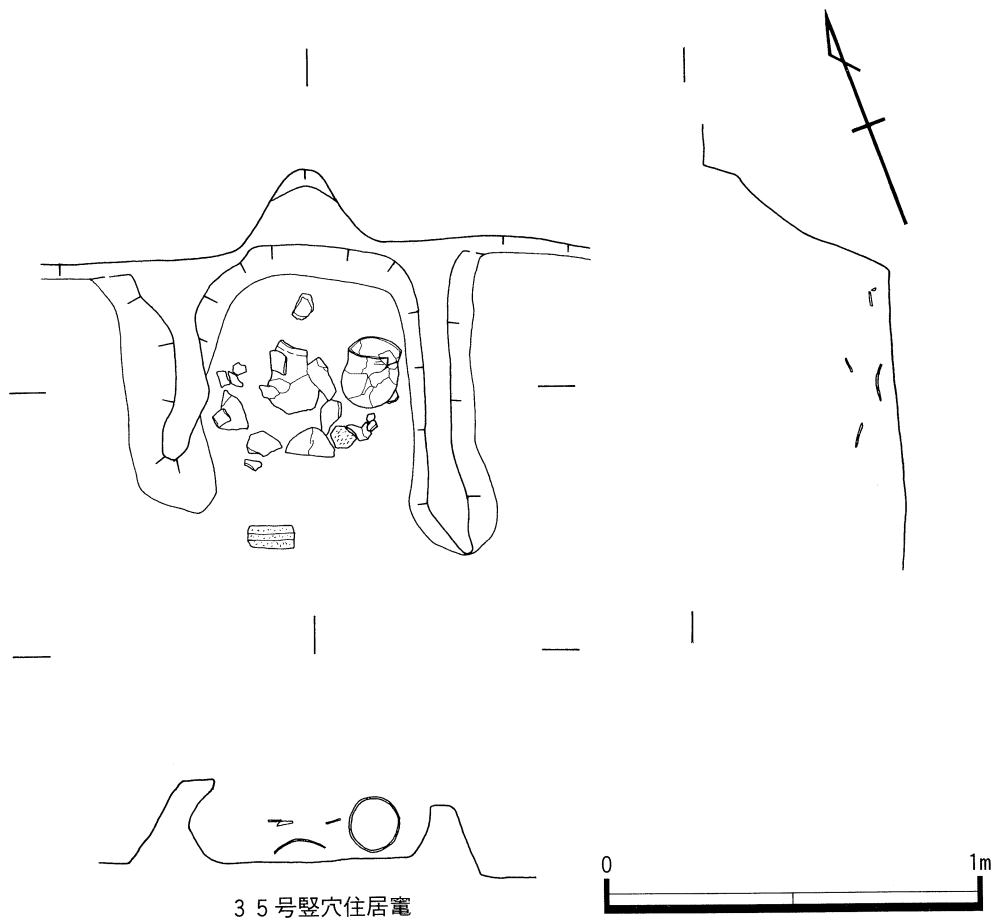
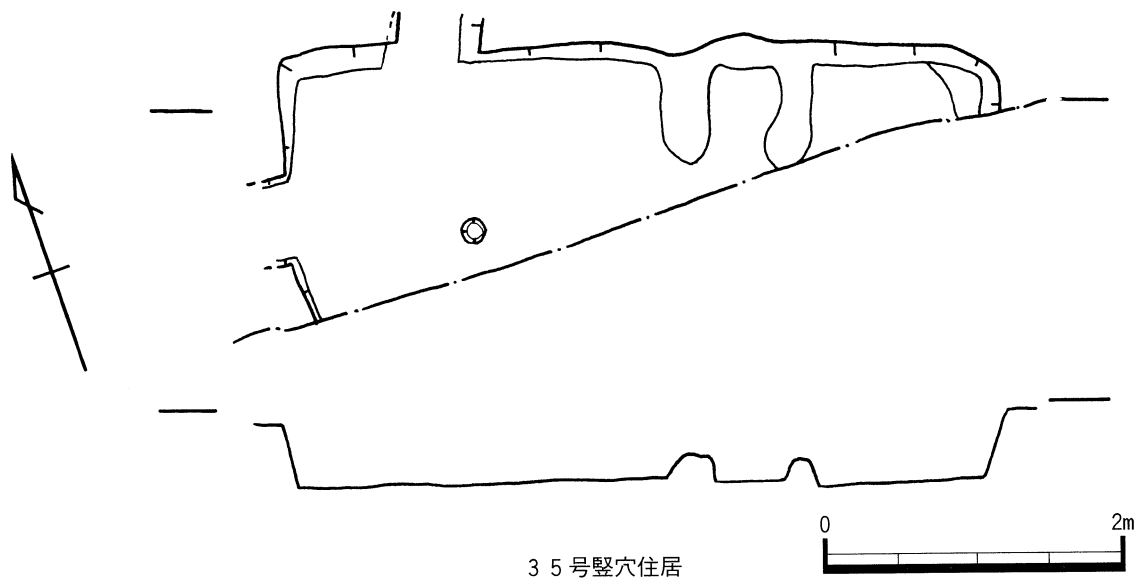


34号竖穴住居

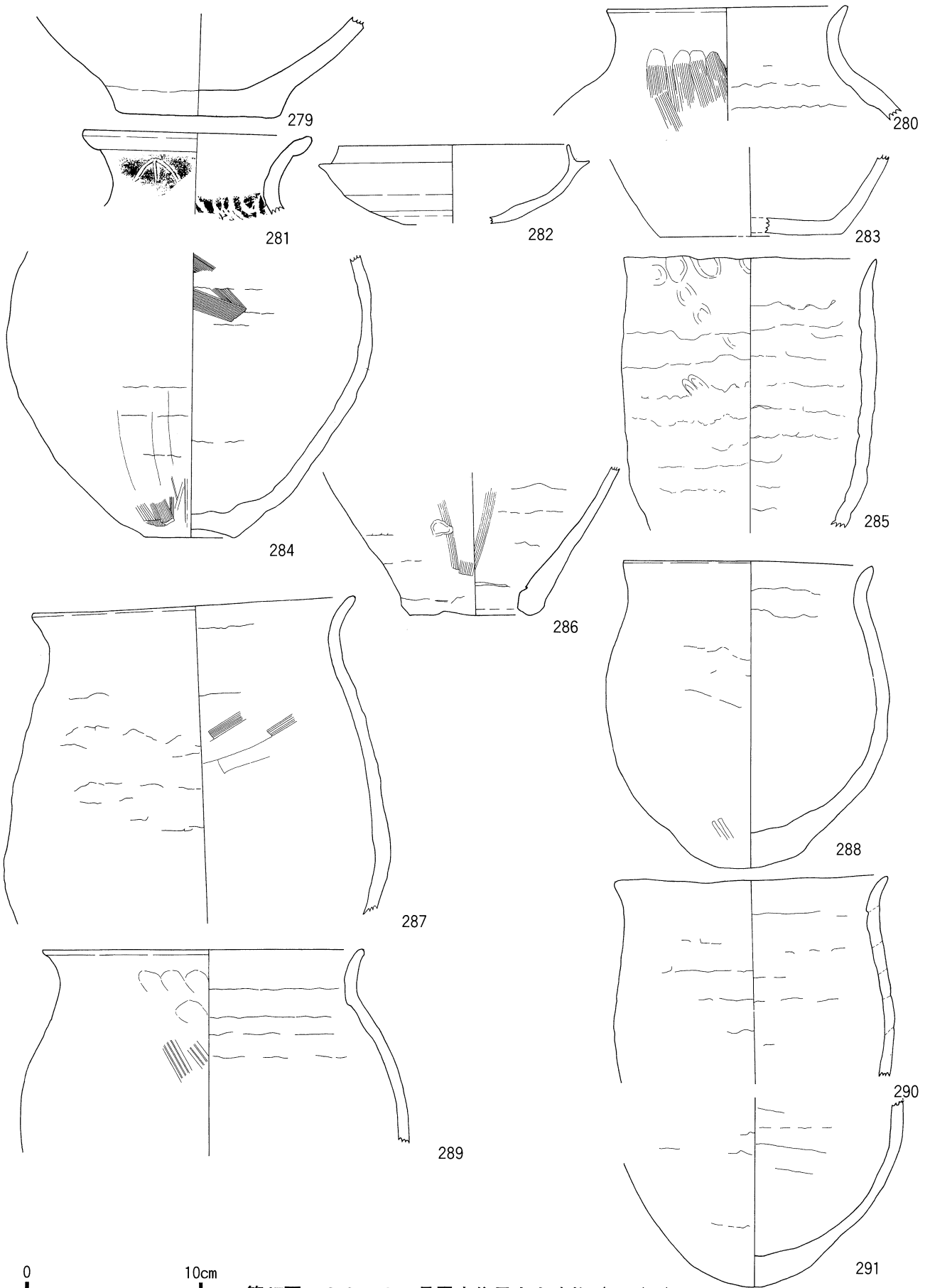


第45图 33・34号竖穴住居实测图 (1/60)





第46图 35号竖穴住居、竈実測图 (1/50 · 1/20)



第47图 33~35号竖穴住居出土遺物 (1/3)

検出された。

竈、遺物ともに遺存状態は良好である。

〔出土遺物〕 (第47図)

土師器の甕等が出土した。287～290は甕で、いずれも口縁部は立ち気味で、短く外反する。288は平丸底で、胴がやや張り、丸いプロポーションである。288、290、291は竈内より、287、289は床面より出土した。

第2節 土坑の調査

11号土坑 (第44図)

C区中央東側より検出され、C9号溝状遺構に切られる。長径100cm、短径70cmの楕円形を呈し、深さ60cmを測る。

第3節 周溝状遺構の調査

3号周溝状遺構 (第48図)

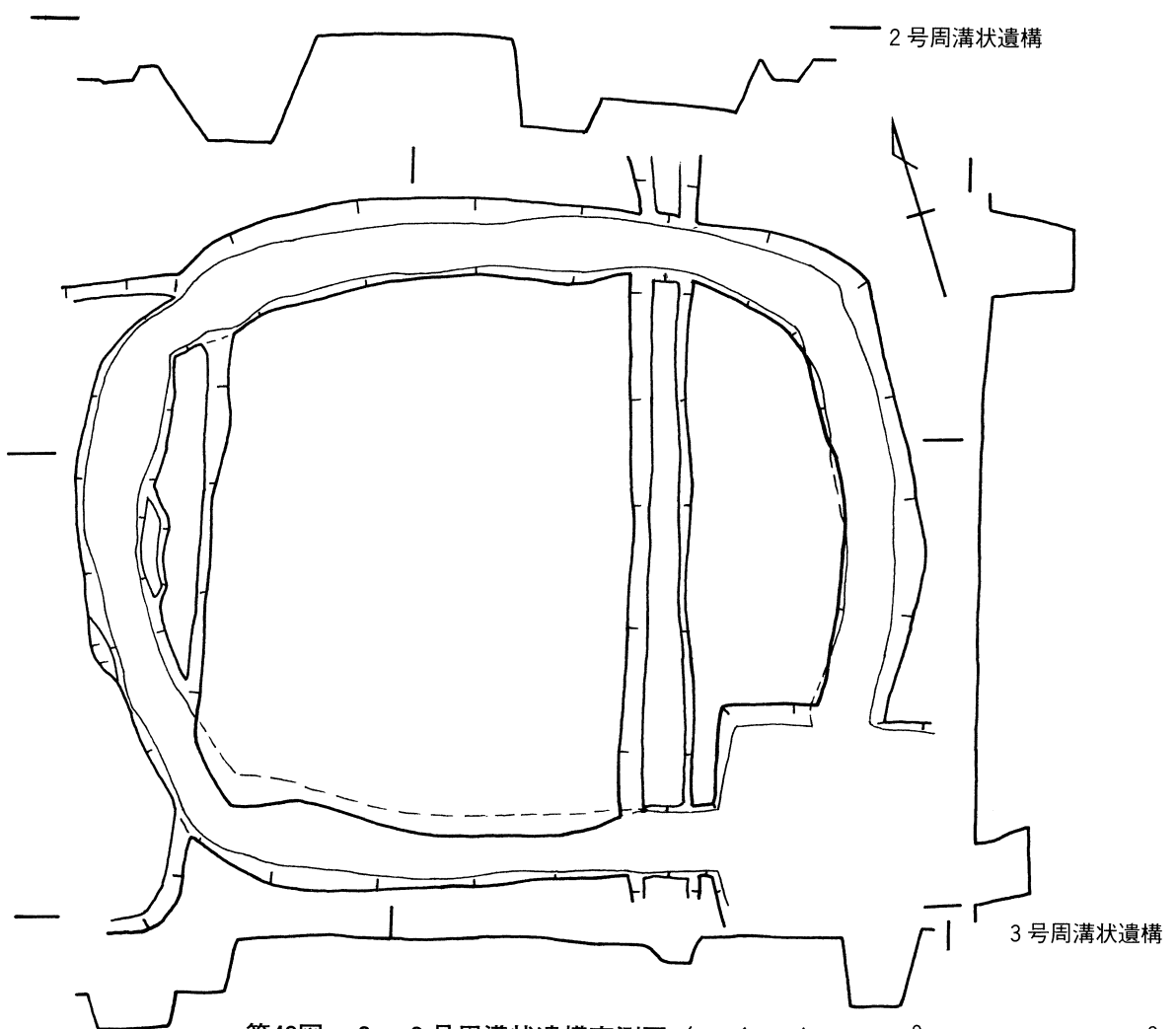
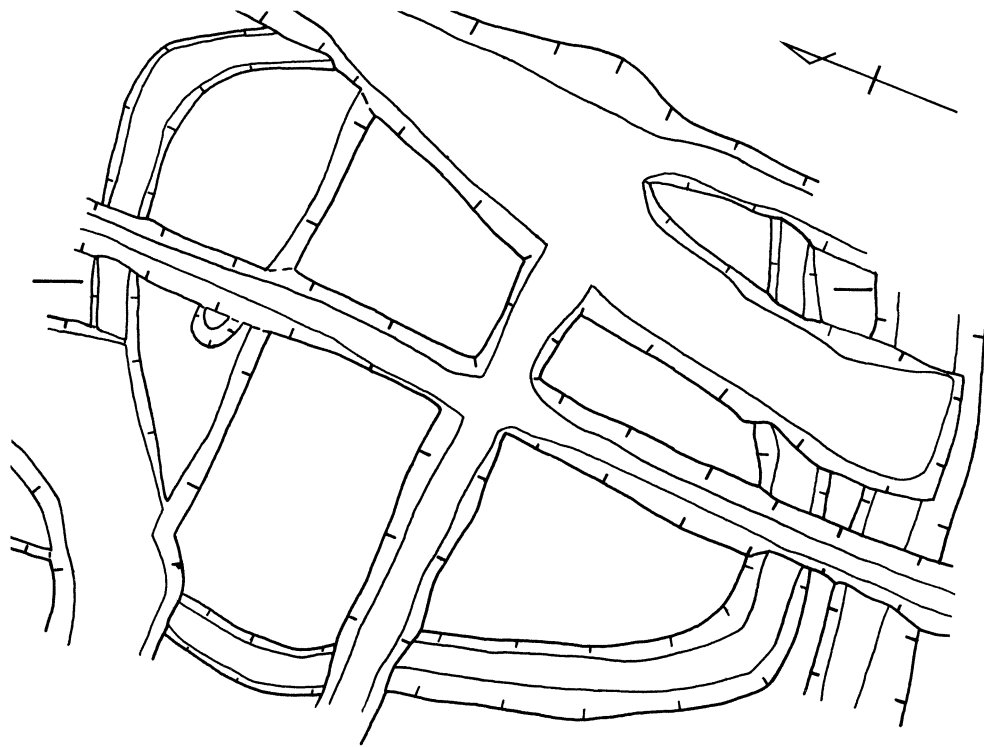
C区南側より検出された。南東側を35号竪穴住居に、西側を34号竪穴住居に切られる。周溝外径6.9m(東西)×5.6m(南北)、内径が5.6m×4.5mの隅丸長方形のプランを呈し、周溝幅は40～70cm、検出面からの深さ50～70cmを測る。周溝断面は台形を呈し、底面は、ほぼフラットである。

周溝内から、弥生土器の甕、壺、高坏、軽石などが出土した。遺物はすべて埋土中から出土しており、特に東側に集中する。

〔出土遺物〕 (第49図)

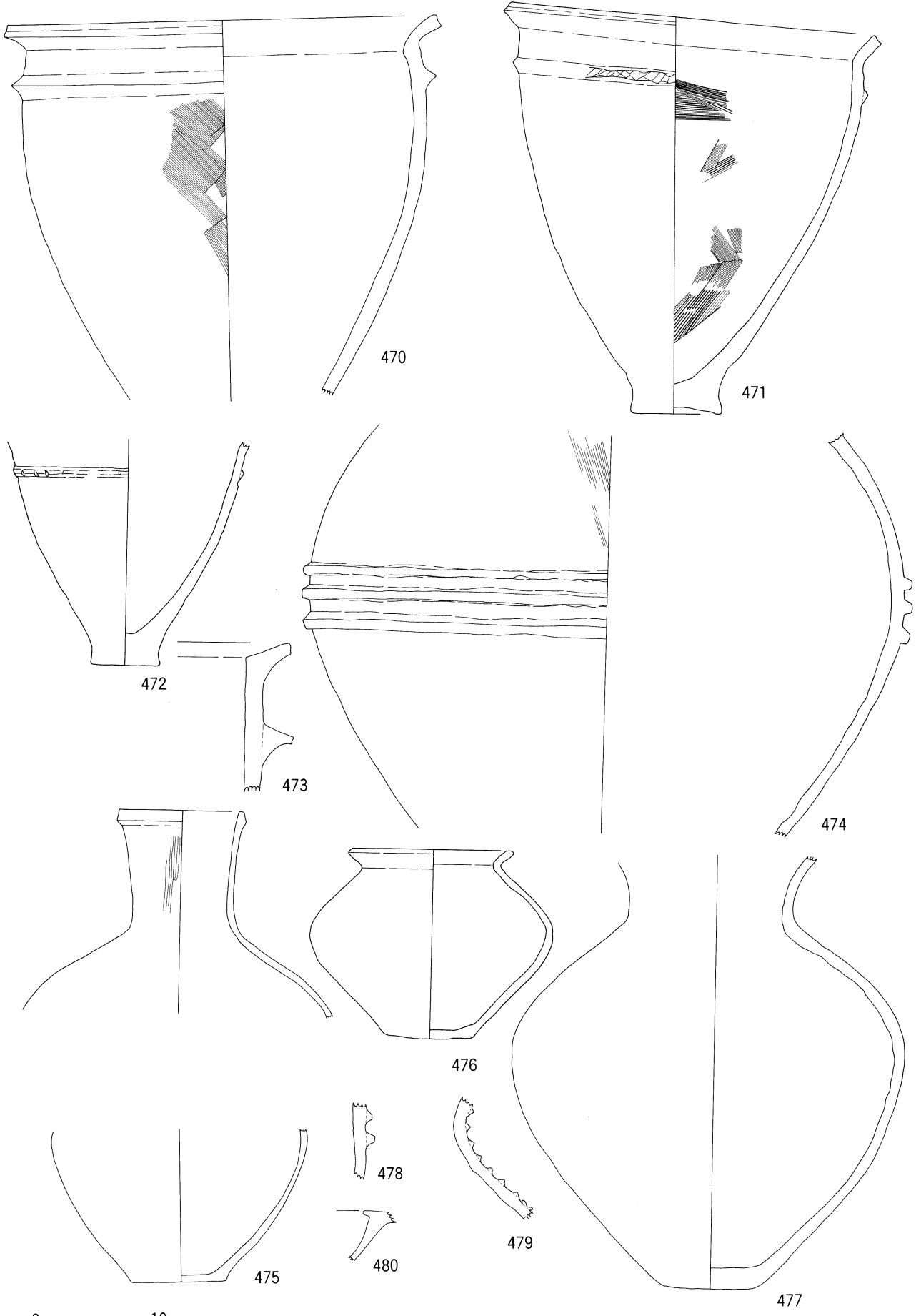
弥生土器の甕、壺、高坏が出土している。470～472は「く」の字に屈曲する口縁部をもち、平底ないしは、上げ底気味の底部から、緩いカーブを描きながら立ち上がり、最大径が胴上部にある甕である。いずれも、頸部直下に、断面三角形の突帯を1条廻らしており、471、472は刻目を施している。473は甕の口縁部で、逆「L」字形を呈し、断面台形の突帯を1条廻らしている。また、外面は丹塗りが施されている。

474は大型の壺の胴部である。断面台形の高い突帯を3条廻らしている。475は長頸壺で、口縁部は直口し、口縁部直下が、僅かに隆起している。外面はほぼ全面に丹塗りが施してある。476は短頸の広口壺で、口縁部は短く、外反し、胴部の張りが強く、底部は平底を呈している。また、外面のほぼ全面、口縁部内面の一部に丹塗りが施されている。477は平底で、卵形の胴部を呈し、胴上半部に最大径をもつ壺である。口縁部を欠くが、大きく開き、広口の壺になると思われる。479も壺で、頸部から肩部にかけて、7条の低い三角突帯を廻らし、また、浮文も付している。480は鋤先口縁を呈する高坏で、全面に丹塗りが施されている。



第48図 2・3号周溝状遺構実測図 (1/60)

0 2m



第49图 3号周溝状遺構出土遺物 (1 / 4)

第4節 溝状遺構の調査

C1号溝状遺構 (第44図)

C区北壁中央付近から南西方向に延び、調査区中央西端で33号竪穴住居に切られている。幅75cm、深さ75cmを測り、断面は台形状を呈する。C2号溝状遺構に切られており、それ以前の構築が推定される。遺物のごく僅かしかなかったが、埋土下層から土師器の高坏が出土した。〔出土遺物〕 (第75図)

527は土師器の高坏で、坏部は浅く、口縁部は短く外反する。脚部は直立し、柱状を呈し、下方で屈曲して、裾部が広がる。口縁端部、裾端部は共に丸くおさめている。

C2号溝状遺構 (第44図)

C区北壁中央付近から緩い円弧を描いて、北西—南東方向に延びており、途中、C1号溝状遺構を切っている。幅60cm、深さ20cmを測り、断面はU字形を呈する。遺物は溝埋土中から、1箇所集中して出土した。

〔出土遺物〕 (第75図)

土師器の甕、鉢、高坏、須恵器の坏身、甕が出土している。いずれも底面からやや浮いた状態である。530は器高の高い大型の鉢で、木葉底である。531は高坏の坏部で、口縁部と受部の境に稜をもつ。532、533は高坏の脚部で、いずれも短く、「ハ」の字状に開く。534は須恵器の坏身で立ち上がりは短く、内傾している。

C4号溝状遺構 (第44図)

C区北側で検出され、東西方向に延びており、西側はC1号溝状遺構と切りあって途切れる。幅70~90cm、深さ30~45cmを測り、断面は台形を呈する。土師器の高坏(535)が出土している。

C10号溝状遺構 (第44図)

C区南側を、北西—南東方向に延びており、約19mにわたって検出した。幅70~150cm、深さは最深部で75cmを測り、断面形は台形を呈する。

遺物は溝の全面から、まとまって出土しているが、いずれも埋土上層からの出土である。

〔出土遺物〕 (第75、76図)

土師器の甕、壺、鉢、椀、高坏、ミニチュアの鉢、椀、須恵器の坏蓋、坏身、高坏等が出土した。536は長胴の甕で、底部は小さい。538は壺で、胴部は大きく張り、口縁部は上方に立ち上がる。541、542は高坏の脚部で、短く「ハ」の字状に大きく開く。543は小型の高坏である。

552は須恵器の高坏で、立ち上がり部は短く、内傾している。脚部は低く、「ハ」の字状に開き、下方で屈曲し、端部付近で、段をなしている。また、脚部に2方向に長方形の透かし窓を刻んでいる。553~555は須恵器の坏蓋である。553、555は天井部から口縁部にかけて丸くなだ

らかなカーブを描いている。554はやや扁平で、口径は大きい。536～559は須恵器の坏身で、いずれも立ち上がり、短く内傾し、端部は丸くおさめており、口径は12cm程である。

第5節 近世墓の調査

3号墓 (第44図)

C区南側で検出され、3号周溝状遺構を切る。南北1.3m、東西0.9m以上、深さ70cmを測り、墓壙内から銅銭が5枚出土しており、うち1枚は寛永通宝であることが確認できた。

第6節 井戸の調査

1号井戸 (第44図)

B区中央部より検出された。南北2.7m、東西3.1mの不整円形を呈し、深さ250cm以上を測る。危険防止と湧水の為に、途中で掘り下げを断念したが、最下底部で径70cmの円形の井戸枠の痕跡が検出された。遺物は加工のみられる石が数点出土しただけで、近世以降のものと思われる。



第50图 D区全体图 (1/86)

第IV章 D区の調査

第1節 竪穴住居の調査

36号竪穴住居 (第51図)

北壁長5.5m以上、南北長8.0m、壁高50cmを測る。西側は調査区外にかかり、東側は5号竪穴に切られる。また東壁はD2号溝状遺構に切れ、残存しない。

主柱穴は6本と推定され、東側の3本を検出することができた。各柱穴の間隔はP1—P2間が2.3m、P2—P3間が2.35mを有し、各柱穴の深さはP1が40cm、P2が42cm、P3が45cmを測る。

遺物は住居跡東側から集中して出土しているが、床面から若干浮いているものが多い。住居跡南東隅南壁際より、完形の紡錘車が出土した。

[出土遺物] (第52、53図)

土師器の甕、甗、高坏、坏蓋、坏身、須恵器の坏蓋、坏身、甕、高坏、紡錘車が出土した。

292~297は胴の張るタイプの甕である。292は大きな平底を呈し、木葉痕が認められる。胴部は張り、頸部はほとんど締まらず、口縁部は、そのまま、なだらかに外反し、最大径となる。293は丸底で、口縁部は直立気味に立ち上がり、端部は短く外反する。294、295は丸底を呈し、口径に比して器高の低い寸胴形の甕である。301は甗で、大きな円孔を穿った底部の周囲に木葉痕が認められる。306、307は口縁部内面に段をもつ須恵器の坏蓋で、口径は14cm前後である。311は土師器の鉢で、外面のみ黒色で、ヘラミガキを施している。

312は紡錘車で、径3.8cm、厚さ1.1cm、穿孔部径0.9cm、重さ22.88gを測る。頁岩製とみられ、やや緑色がかった黒色を呈する。表面に二重の円と放射状にのびる線、裏面にらせん状に廻る線と中心から放射状にのびる線から構成される線刻がみられる。表面には中心から外に向かってのミガキが施してある。

300、304、308~310は埋土上層から、それ以外は床面及び、床面からやや浮いての出土である。

37号竪穴住居 (第51図)

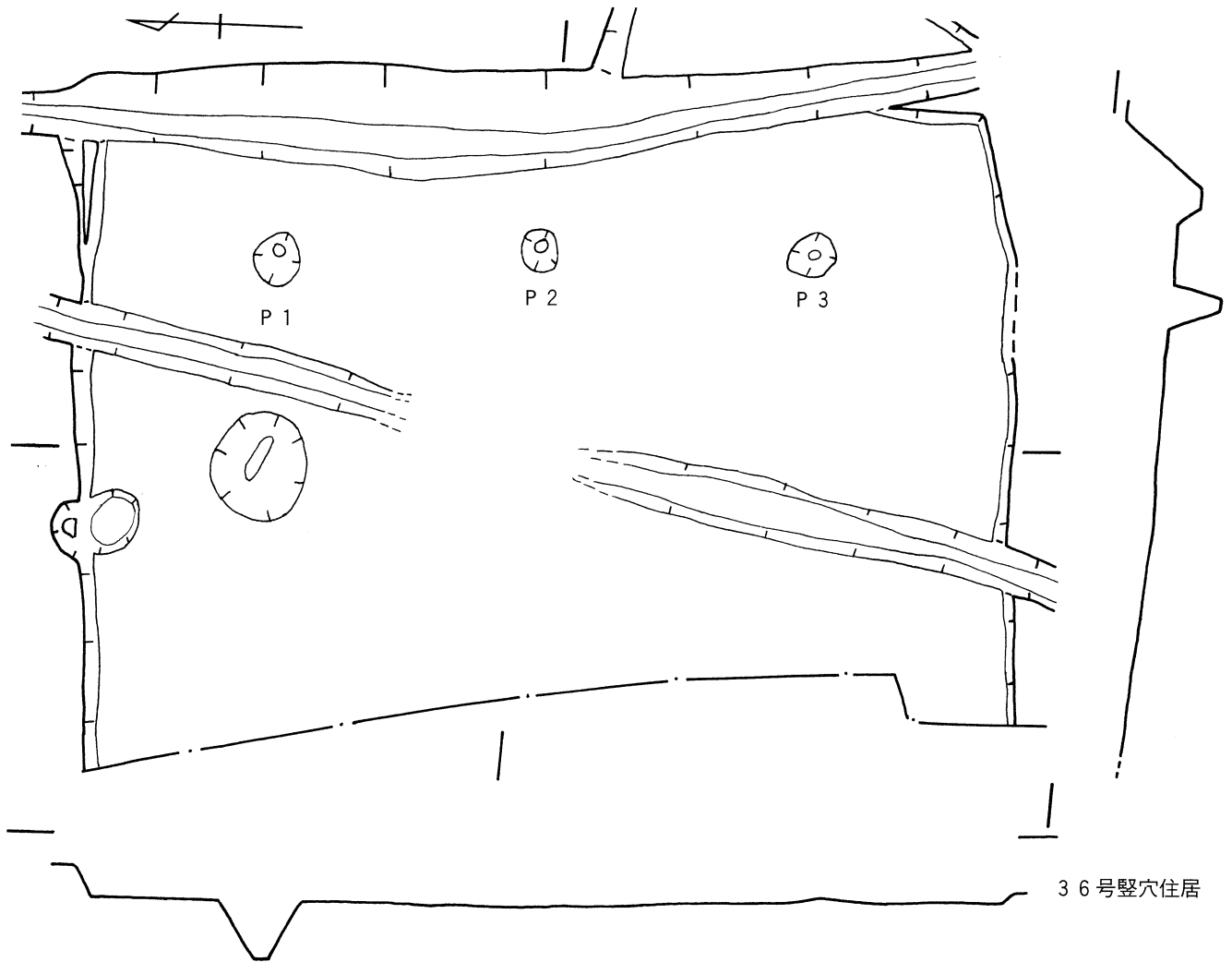
北壁長4.2m以上、西壁長2.8m以上、壁高45cmを測る。住居跡南側は調査区外にかかる。床面から、深さ45cmのピットが検出された。その位置より、主柱4本のうちの北西側の1本であると考えられる。

遺物は少量だが、P4周辺にややまとまりをもって出土している。

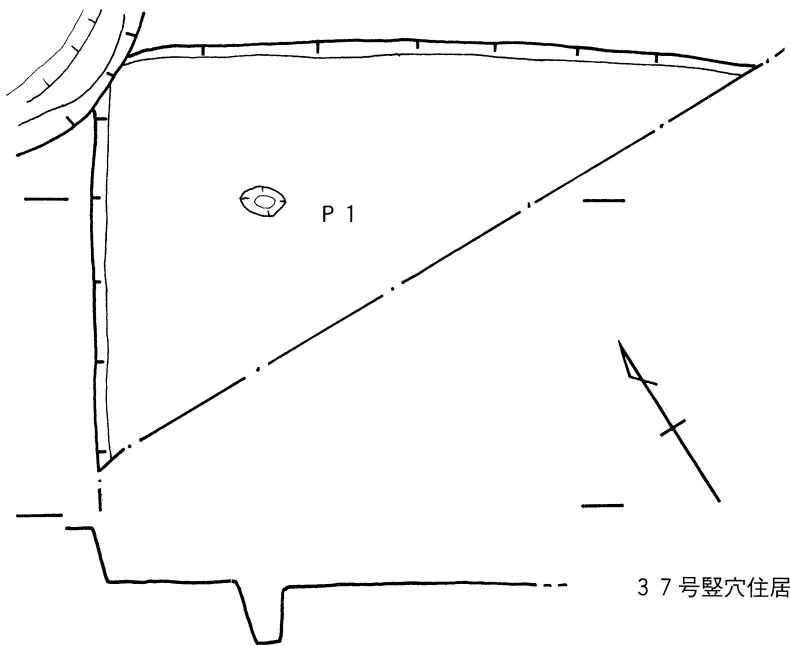
[出土遺物] (第56図)

土師器の甕、甗、椀が出土した。333、334は床面より、335は床面からやや浮いて出土した。

38号竪穴住居 (第54図)



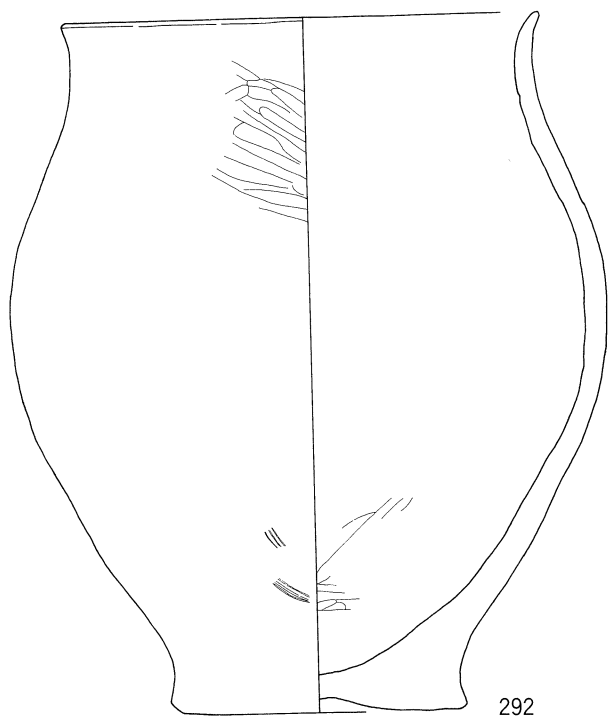
36号竖穴住居



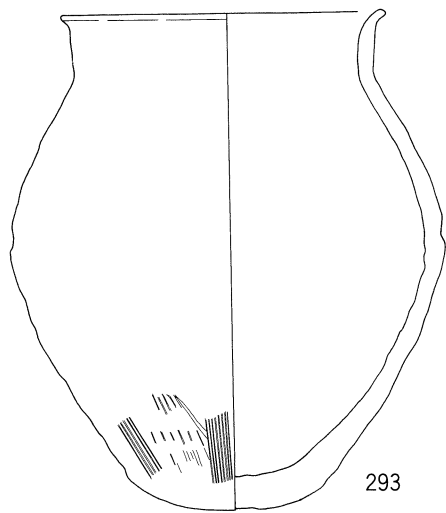
37号竖穴住居



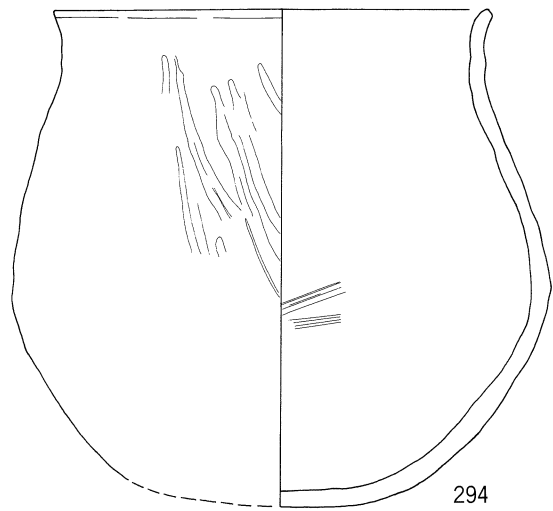
第51图 36・37号竖穴住居实测图 (1/60)



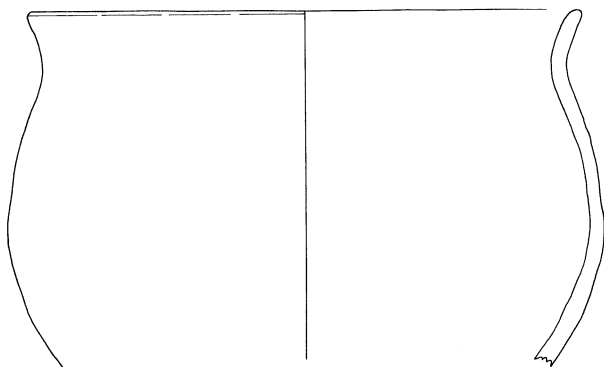
292



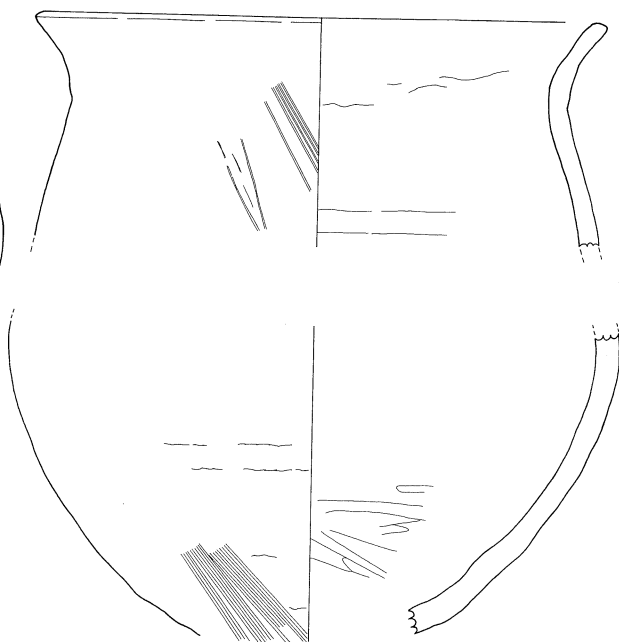
293



294



295

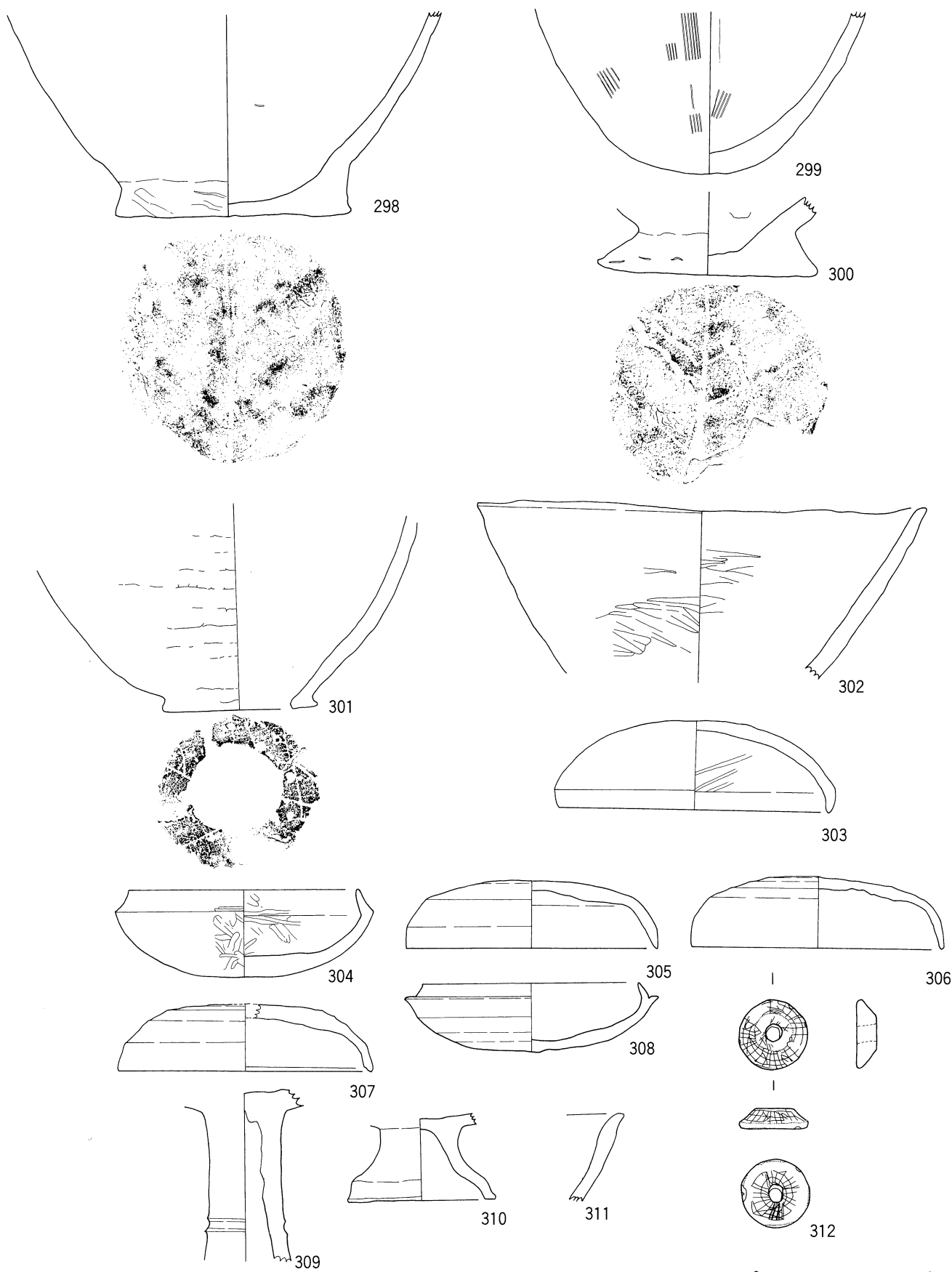


296



297

第52图 36号竖穴住居出土遺物1 (1/3)



第53图 36号竖穴住居出土遺物2 (1/3)



東西5.2m、南北4.5mの長方形プランを呈し、壁高30cmを測る。北壁は攪乱により、一部を残すのみで、南東隅は6号竪穴に切られている。

住居跡中央に埋甕炉が検出された。支柱穴は4本で、柱穴間を線で結ぶと、東西に長い長方形を呈する。各柱穴の深さはP1が44cm、P2が63cm、P3が47cm、P4が54cmを測る。

遺物は床面より、ごく少量出土した。

〔出土遺物〕（第56図）

土師器の甕等が出土した。336は甕でP3の東側の床面より出土した。

39号竪穴住居（第54図）

北壁長6.0m、東壁長7.5m、壁高40cmを測る。南西隅がD5、6号溝状遺構に、南東隅がD7号溝状遺構に切られており、南壁長は推定で、6.5m程になると思われ、住居跡の平面プランは南北に長い台形状となる。なお、住居跡の主軸は東に35°振れている。

支柱穴は4本で、柱穴間を線で結ぶと南北に長い長方形となる。各柱穴の床面からの深さはP1が48cm、P2が71cm、P3が65cm、P4が64cmを測る。P4からは土師器の坏身が出土した。

床面からは埋甕炉、焼土面ともに検出することができなかった。また、支柱穴に囲まれた中央部の床面は硬く締まっていた。

遺物は住居跡床面のほぼ全面より出土しているが、北東隅及び、南西側において集中的に出土している。また、南西側床面上からは須恵器の甕2個体が出土した。

〔出土遺物〕（第55、56図）

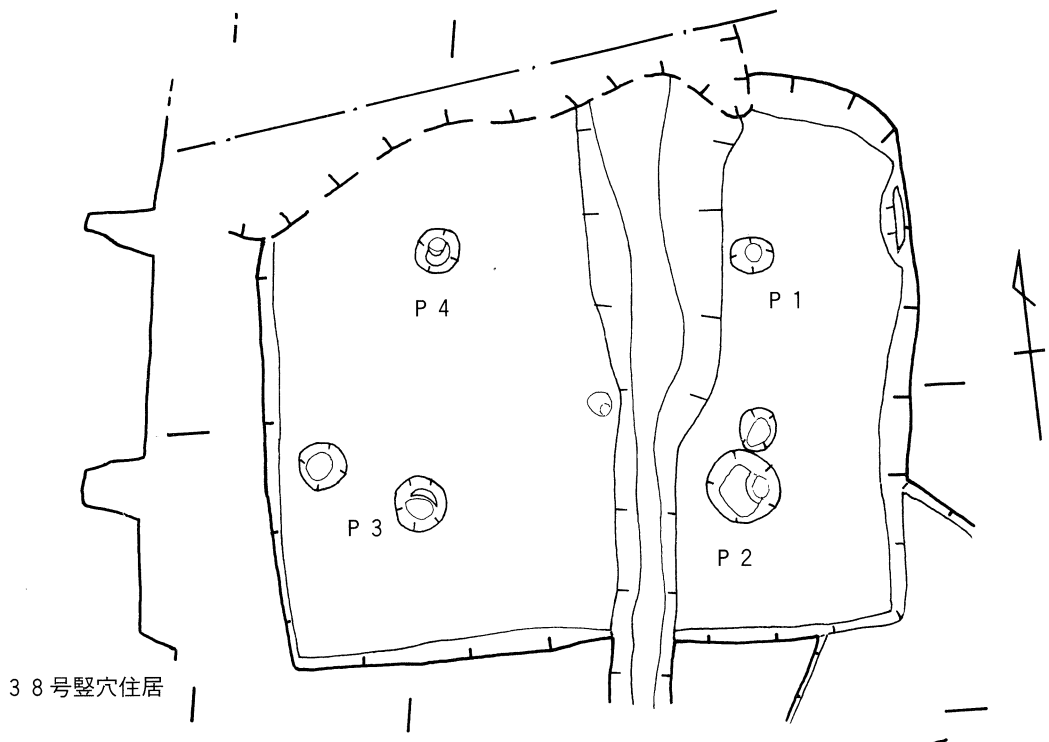
土師器の甕、壺、甗、高坏、坏身、ミニチュア壺、須恵器の甕、坏身、坏蓋等が出土した。

313～316は甕である。いずれも胴の張った丸いプロポーションで、底部も、丸底ないし平丸底である。313は口縁部が、直立気味に立ち上がり、端部は短く外反する。314は頸部が締まらず、口径は大きい。319、320は須恵器の甕で、いずれも調整は外面が平行タタキの後、カキメ、内面が当て具痕である同心円文がみられる。319は器高46.2cmを測る大甕である。321、322は甗で最大径を口縁部にもつ。325はミニチュア土器で、壺を模している。327～329は土師器の坏身で、いずれも、口縁部と体部の境に明瞭な稜が認められる。327は口縁部が、大きく外反し、329は内傾する。328は大型で、焼成は堅緻である。330～332は須恵器の坏蓋で、330、332は口縁部内面に段をもつ。また、330、331は天井部と口縁部の境に浅い沈線を廻らしている。口径は330、331が、いずれも14.5cmを超える大型品で、332も13.6cmを測る。

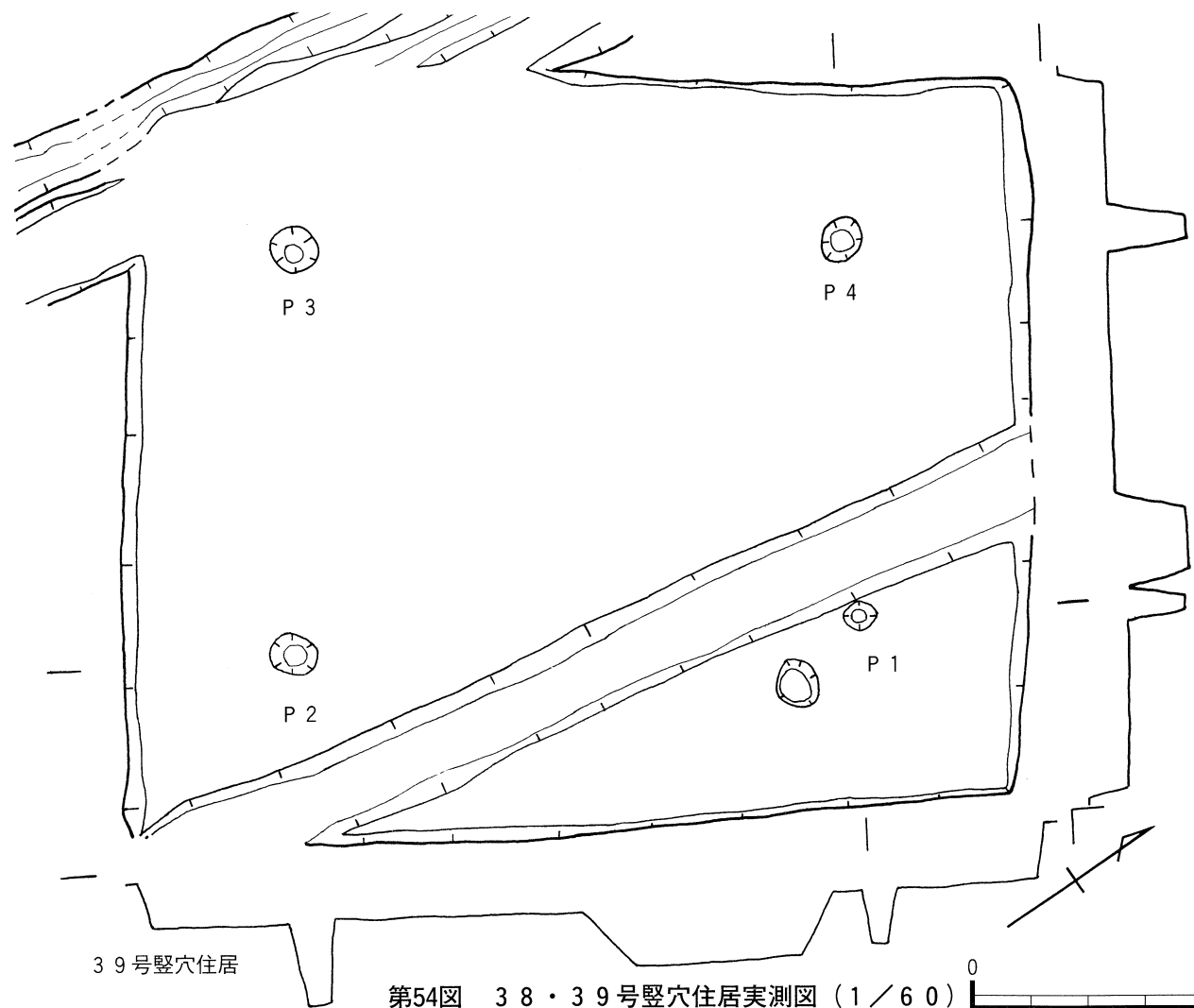
315、318、321が北西の、317、322、327、331が北東の流れ込みから、328がP4埋土中から、313、314、316、323、324、326が床面からやや浮いた状態で出土した。その他の土器は床面出土である。

40号竪穴住居（第57図）

北壁長2.6m以上、東壁長0.8m以上、壁高40cmを測る。住居跡の大半は調査区外にかかり僅かに北東隅付近が検出されたに過ぎない。



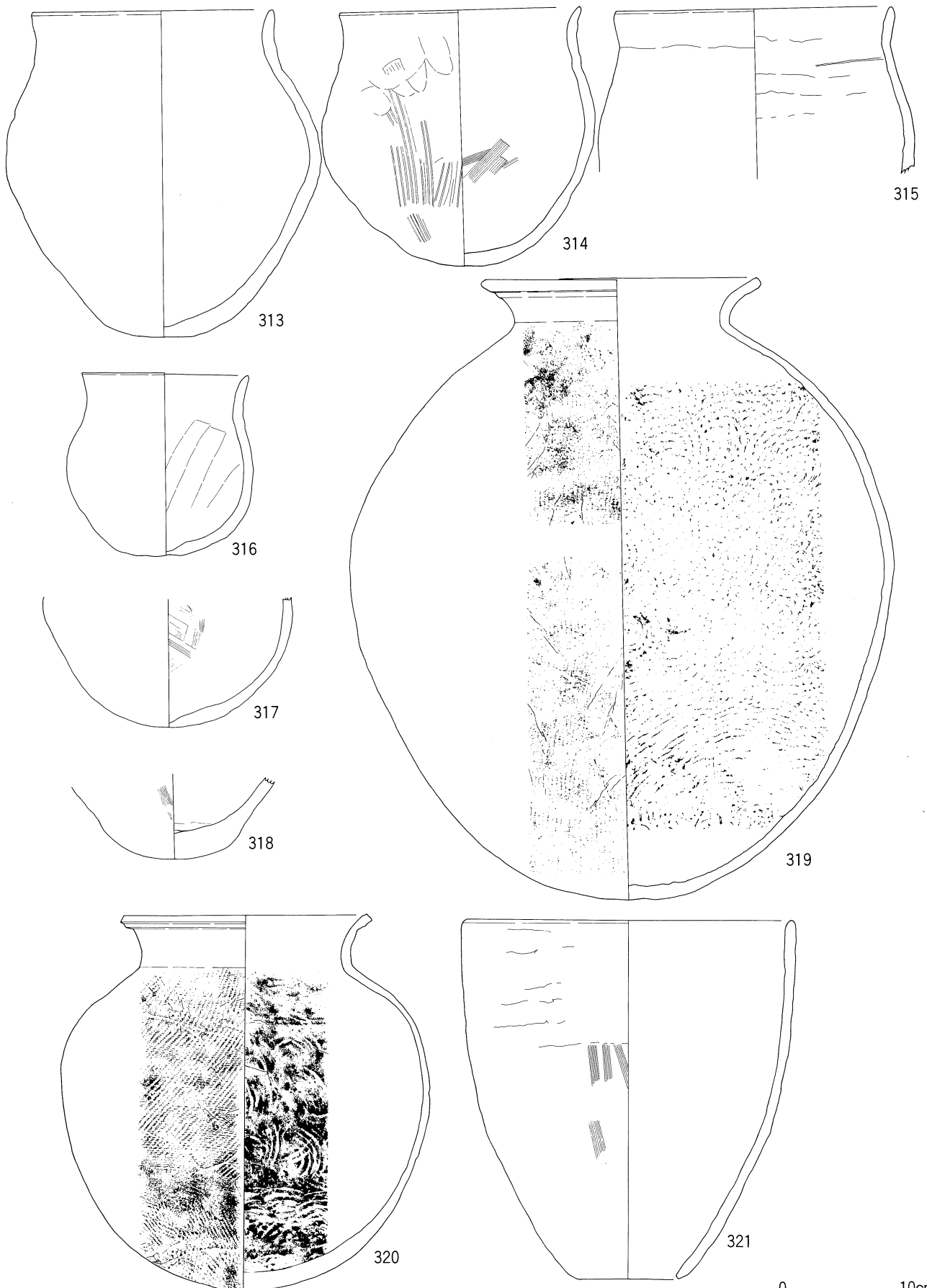
38号竖穴住居



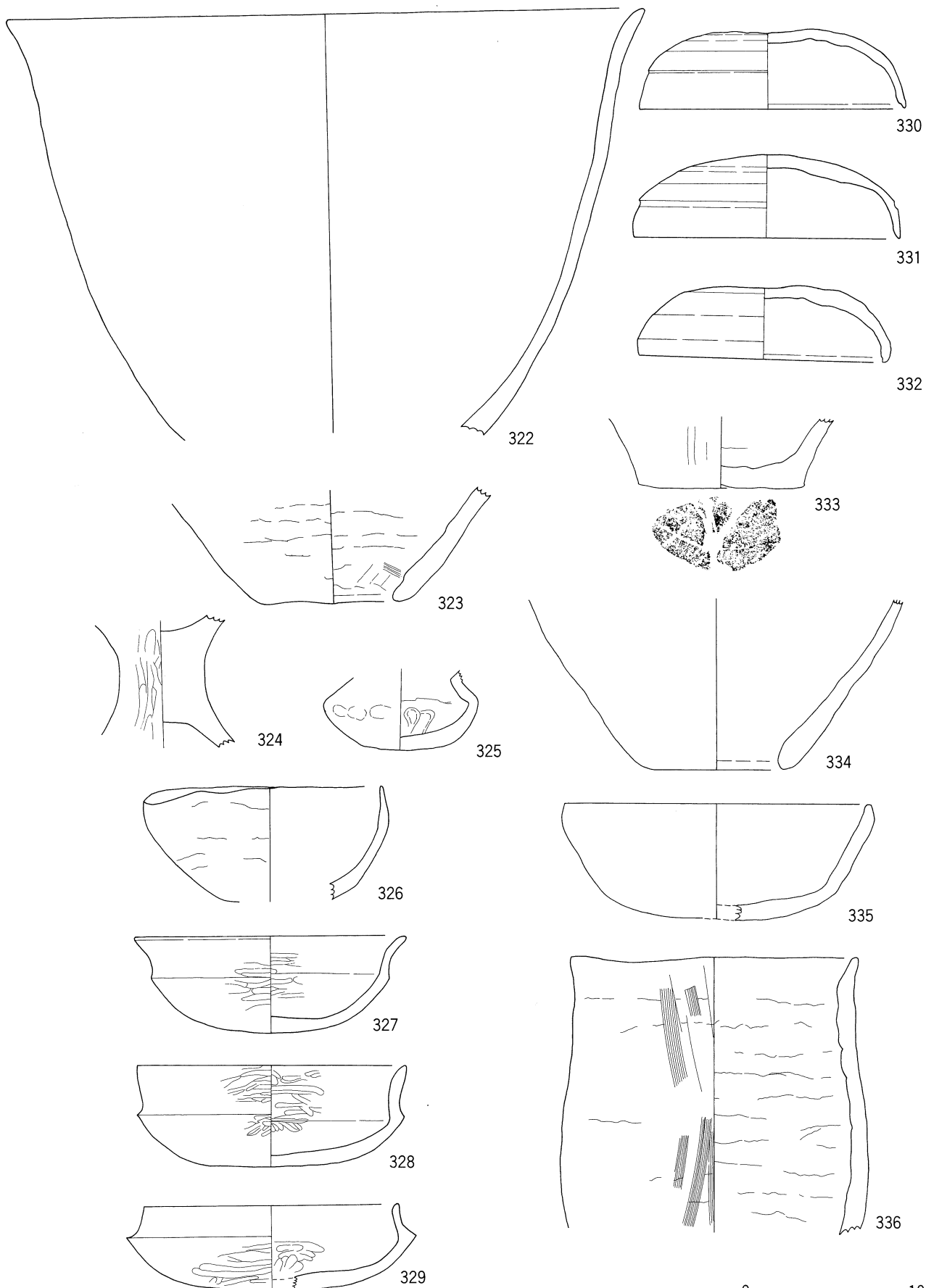
39号竖穴住居

第54图 38・39号竖穴住居实测图 (1/60)

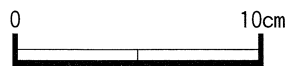


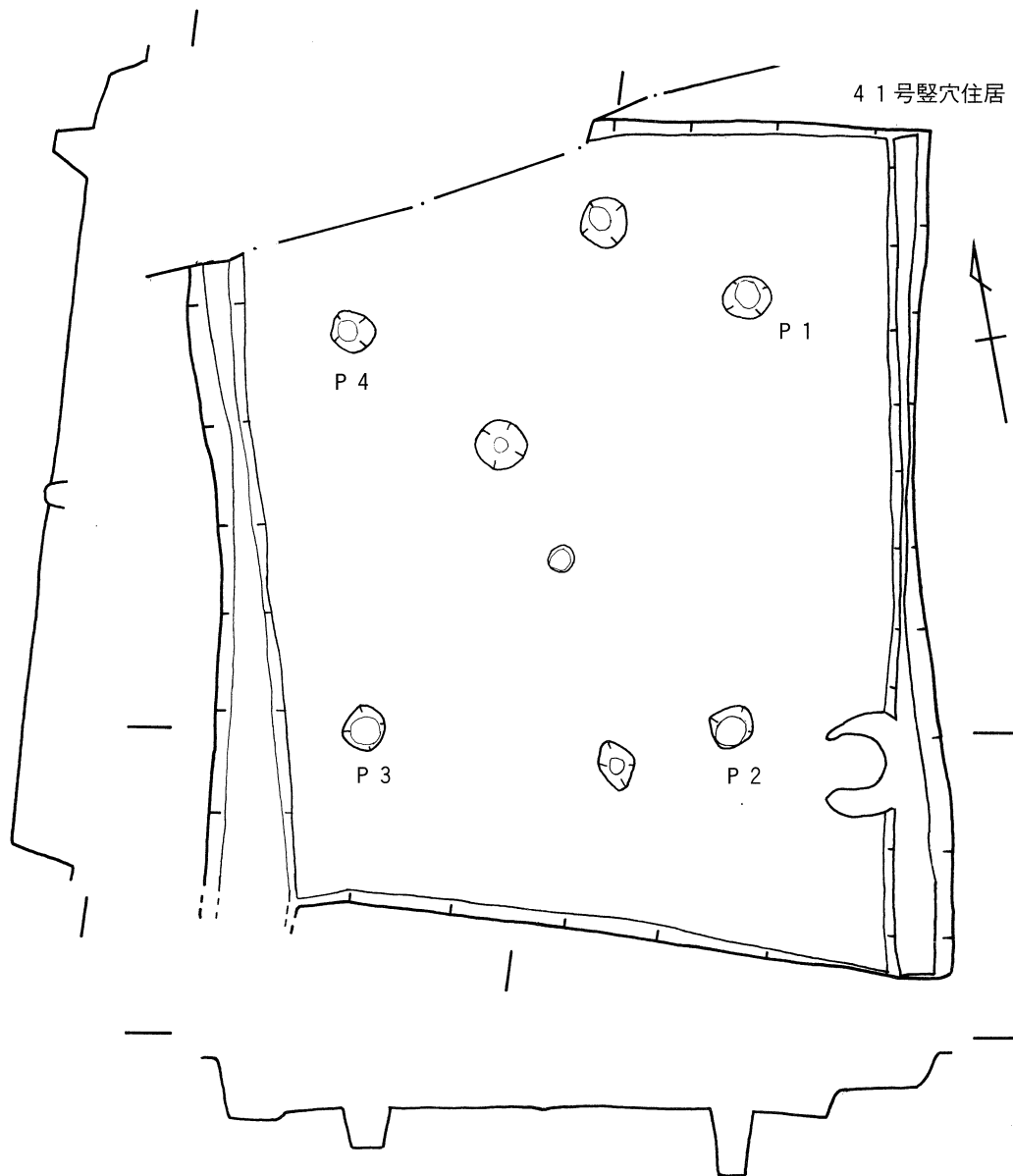
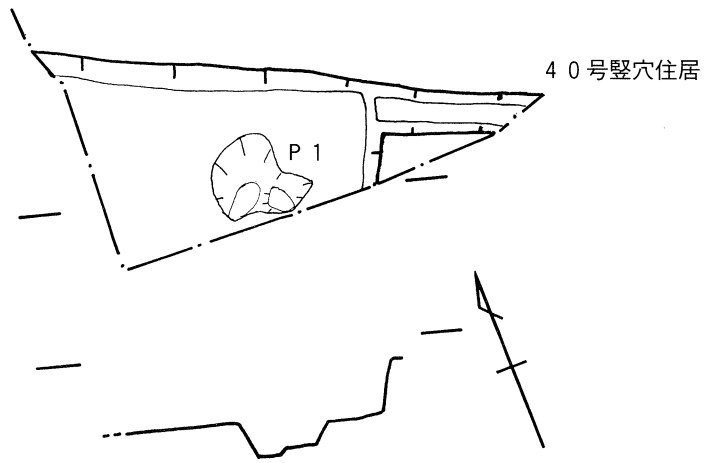


第55图 39号竖穴住居出土遺物 (1/4)



第56图 37~39号竖穴住居出土遺物 (1/3)





第57图 40・41号竖穴住居实测图 (1/60)



床面より深さ28cmのピットが1基検出されており、その位置より、主柱穴4本の内の1本と考えられる。遺物は土師器の甕(337)が床面より出土している。

41号竪穴住居 (第57図)

東壁長6.8m、南壁長4.9m以上、壁高40cmを測る。東壁南東隅寄りに竈を付設しており、住居跡ほぼ中央より、埋甕炉が検出された。

主柱穴は4本で、柱穴間を線で結ぶと、やや南北に長い長方形を呈し、各柱穴の床面からの深さはP1が35cm、P2が53cm、P3が32cm、P4が22cmを測る。

遺物は竈周辺にややまとまって出土している。なお、本住居跡東側では、弥生土器も混在して出土しており、確認することはできなかったが、弥生時代の遺構と重複しているものと思われる。

竈 (第62図)

住居跡東壁の南東隅に寄って付設しており、焚口は西に向く。焚口幅35cm、奥行き55cm、左袖の残存高10cmを測り、袖部は黄褐色土を盛って、構築されている。

竈内は10cm程、掘り下げすぎたために、床面から浮いてしまったが、多角柱に加工された軽石製支脚が斜めに立った状態で検出された。土器は小片が数点出土したのみである。

[出土遺物] (第58・64図)

土師器の甕、甃、椀、弥生土器の甕、壺等が出土している。

住居跡と弥生時代の遺構の切りあいを明確に出来なかったため、床面を掘り下げすぎてしまい、土師器と弥生土器が混在して出土した。出土レベルは弥生土器の方が低い。

371は埋甕炉に用いられていた甕である。338、339は長胴の甕で、口縁部は短く外傾する。

343、344は平底の椀で、木葉底である。345～347は弥生土器の甕で、口縁部が「く」の字に屈曲し、頸部直下に刻目突帯を巡らしている。352、353は弥生土器の壺、352は肩部に、353は口縁部上面に浮文を付している。また、353は口縁端部に鋸歯文を施している。

340、344、351、352は埋土中、その他は検出床面ないし、本来の床面上より出土した。

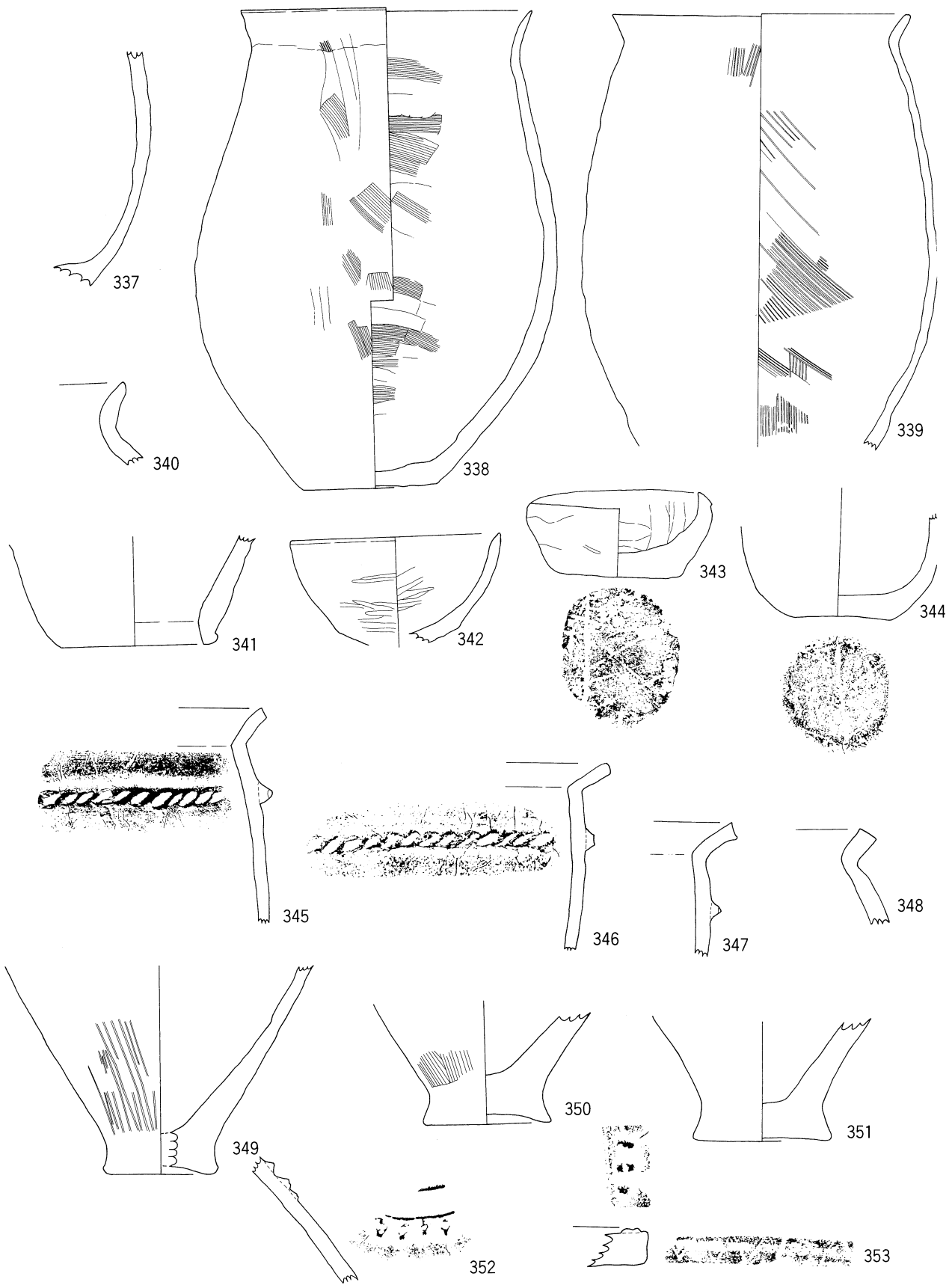
第2節 竪穴の調査

5号竪穴 (第50図)

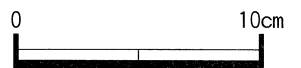
D区西側より検出され、36号竪穴住居を切る。北壁長1.5m以上、東壁長3.1m(推定)、壁高20cmを測る。ピットは検出されず、遺物も埋土中に土師器、須恵器の小片を僅かに含むのみであった。

6号竪穴 (第50図)

D区より検出され、北西側で38号竪穴住居を切る。南壁長1.8m以上、東壁長2.5m、壁高10cmを測る。ピットは検出されず、遺物は土師器の小片が、ごく僅か出土したのみである。



第58图 40·41号竖穴住居出土遺物 (1/3)



第3節 土坑の調査

12号土坑 (第50図)

6号竪穴の東側に位置し、長径115cm、短径95cmの楕円形を呈し、深さ15cmを測る。埋土中より土師器の甕(466)が出土している。

13号土坑 (第50図)

41号竪穴住居の南側に位置し、長径115cm、短径90cmの楕円形を呈し、深さ25cmを測る。埋土中より土師器の甕(467)が出土している。

第4節 溝状遺構の調査

D2号溝状遺構 (第50図)

D区西側で検出され、南北方向に延び、南に向かうにつれ、東側に振っている。幅60~120cm、深さ55cmを測り、36号竪穴住居、5号竪穴を切っている。

出土遺物は埋土中から、土器、軽石が少量出土したのみである。560は須恵器の坏身で、底部にヘラ記号をもち、やや扁平である。

D3号溝状遺構 (第50図)

D区西側で検出され、東西に延びており、D2号溝状遺構と切りあっている。幅40~80cm、深さ25cmを測り、底面は東側に向かって、傾斜している。

遺物は埋土中より、土師器が出土している。561は壺で、口縁部が短く外反し、頸部に突帯を廻らしている。

D5号溝状遺構 (第50図)

D区中央やや東側を南北方向に縦断し、6号竪穴、39号竪穴住居を切っている。幅50cm、深さ60cmを測り、東側に接し、平行して、D6号溝状遺構が延びている。

遺物は埋土中から、土器片が少量出土したのみである。563の一部も出土している。

D6号溝状遺構 (第50図)

幅90cm、深さ35cmを測り、39号竪穴住居を切っている。西側に接して、D5号溝状遺構が、東側約5m離れて、D7号溝状遺構が、更に、約7m離れて、D9号溝状遺構が平行して、縦断している。

遺構内からは39号竪穴住居と切りあった部分から、562~565が出土している。その他は土師器、須恵器が少量出土したのみである。

[出土遺物] (第76図)

563～565は土製の取瓶とみられる。小型で、丸底の鉢状を呈し、器壁は厚く、固く焼き締まっている。また、口縁部付近から体部中位にかけての外面に、液体が流れて、固まったような黒褐色の物質、ごく微量のコバルトブルーの物質が付着している。564は内面にも黒褐色の物質が付着している。

これらの遺物は流れ込みと思われ、時期は特定できないが、同溝より、7世紀中頃の須恵器の坏身(562)が、完形で出土していることから、この頃か、最も古く推定した場合、39号竪穴住居と同時期の可能性もある。溝自体はD5、7、9号溝状遺構と同じく、近世以降の構築とみられる。

D16号溝状遺構 (第50図)

D区東側で、わずか一部が検出されたに過ぎないが、ほぼ南北方向に延び、幅60cm、深さ35cmを測る。弥生土器、土師器の小片が混在して出土している。

第V章 B区の調査

第1節 竪穴住居の調査

42号竪穴住居 (第60図)

東壁長5.4m、南壁長5.8mの方形プランで、壁高45cmを測る。住居跡西壁側は幅65~130cm、長さ5.4mにわたって、1段床面が落ちる。段差は約20cmを測る。

主柱穴は4本で、東側のP1、P2と南西側のP3の3本が検出された。柱穴間を線で結ぶと正方形を呈するものと思われる。正し、P3は床面からの深さが12cmしかなく、柱穴とするには疑問が残る。他の2本の柱穴の深さはP1が52cm、P2が29cmを測る。

遺物は北東側を中心に大量に出土した。床面からも、まとまって出土したが、大半は北東隅から流れ込んだ状態での出土である。なお、本住居跡からは埋甕炉、竈ともに検出されなかった。
〔出土遺物〕 (第61図)

土師器の甕、壺、甃、高坏、鉢、須恵器の坏蓋、坏身、壺等が出土している。356は壺で口縁部は上方に立ち上がり、端部は大きく外反する。358~361は甃で358、361は牛角把手を有し、359は口縁部に最大径をもつ。363は高坏で坏部の段は不明瞭で、脚部は短く「ハ」の字状に開く。367は須恵器の坏蓋で口縁部外面に刷毛目を施す。368、369は須恵器の坏身で、立ち上がりは短く内傾する。

357~361、364、369は北東隅流れ込み内から、355は西側の落ち込み内から、その他は床面からの出土である。

43号竪穴住居 (第60図)

東壁長4.2m、南壁長4.7m以上の長方形プランを呈し、壁高50cmを測る。住居跡東側は調査区外にかかり、北壁やや東寄りに竈を付設している。

床面中央やや南東寄りに径20cm、深さ13cmの周辺部がリング状に赤変した掘り込みがある。その状態により、埋甕炉の痕跡と考えられる。

住居跡内には幾つかのピットが検出されたが、P1~3を主柱穴とみなした。P4は調査区外にあると推定される。柱穴間を線で結ぶと、東西に長い長方形が想定される。各柱穴の床面からの深さはP1が38cm、P2が35cm、P3が15cmを測る。各主柱穴の内側にあるP5~7も深さ35~46cmとしっかりしており、住居の建て替えが想定される。

遺物は床面より、まばらに出土している。

竈 (第62図)

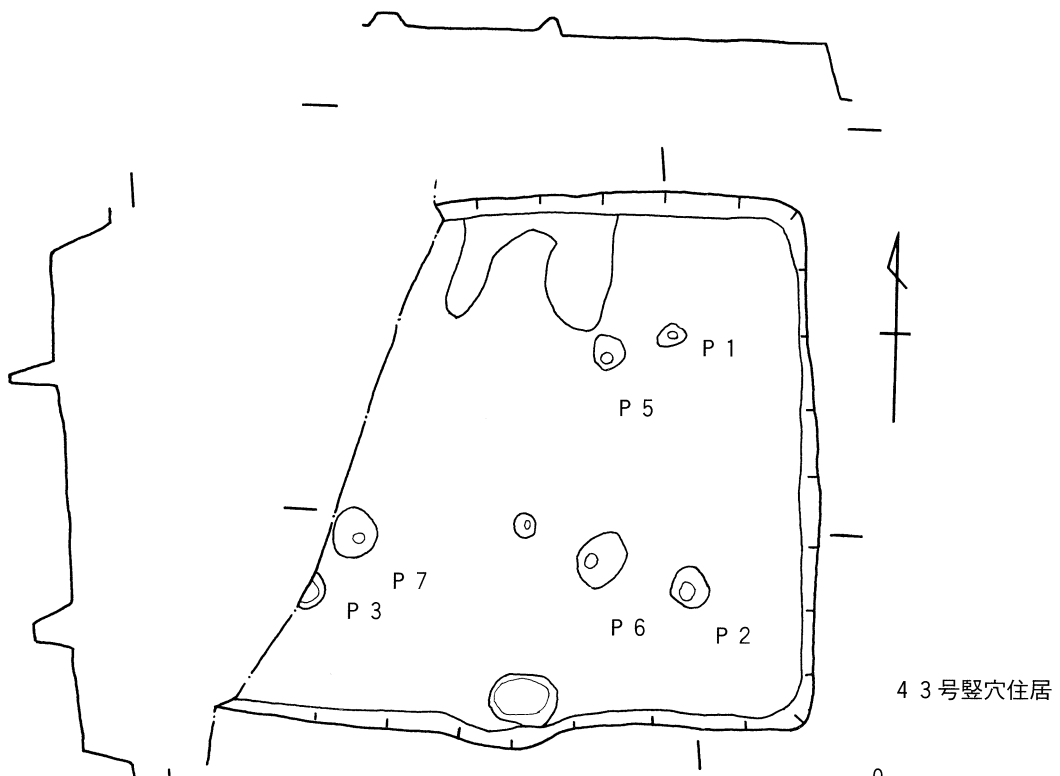
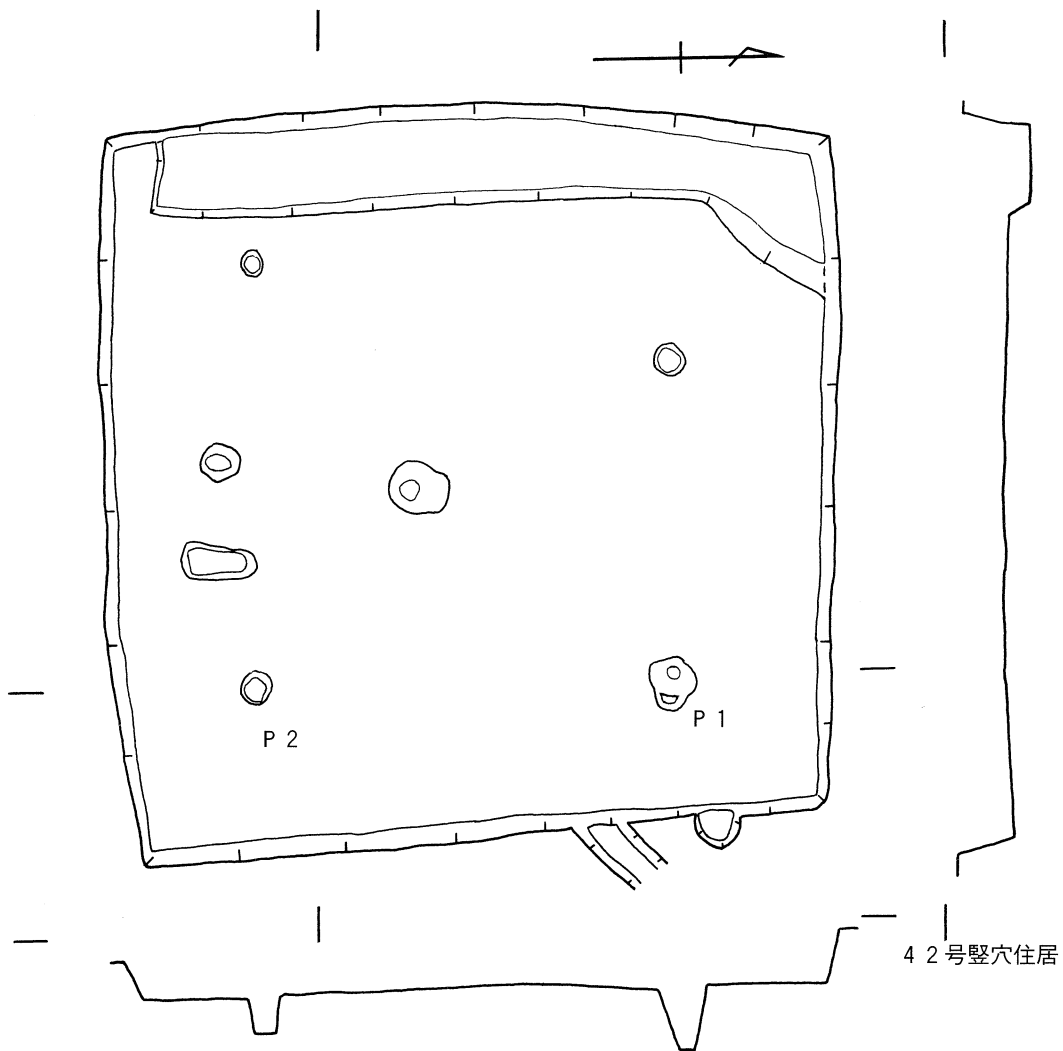
住居跡北壁やや東寄りに竈を付設しており、焚口は南に向く。奥行き85cm、左袖の残存高17cmを測り、袖部は黄褐色土を盛って、構築されている。竈内からは土器片、軽石が出土した。

〔出土遺物〕 (第64図)

土師器の甕、壺、須恵器の坏蓋、甕が出土した。374は須恵器の坏蓋で、口縁部外面に細か

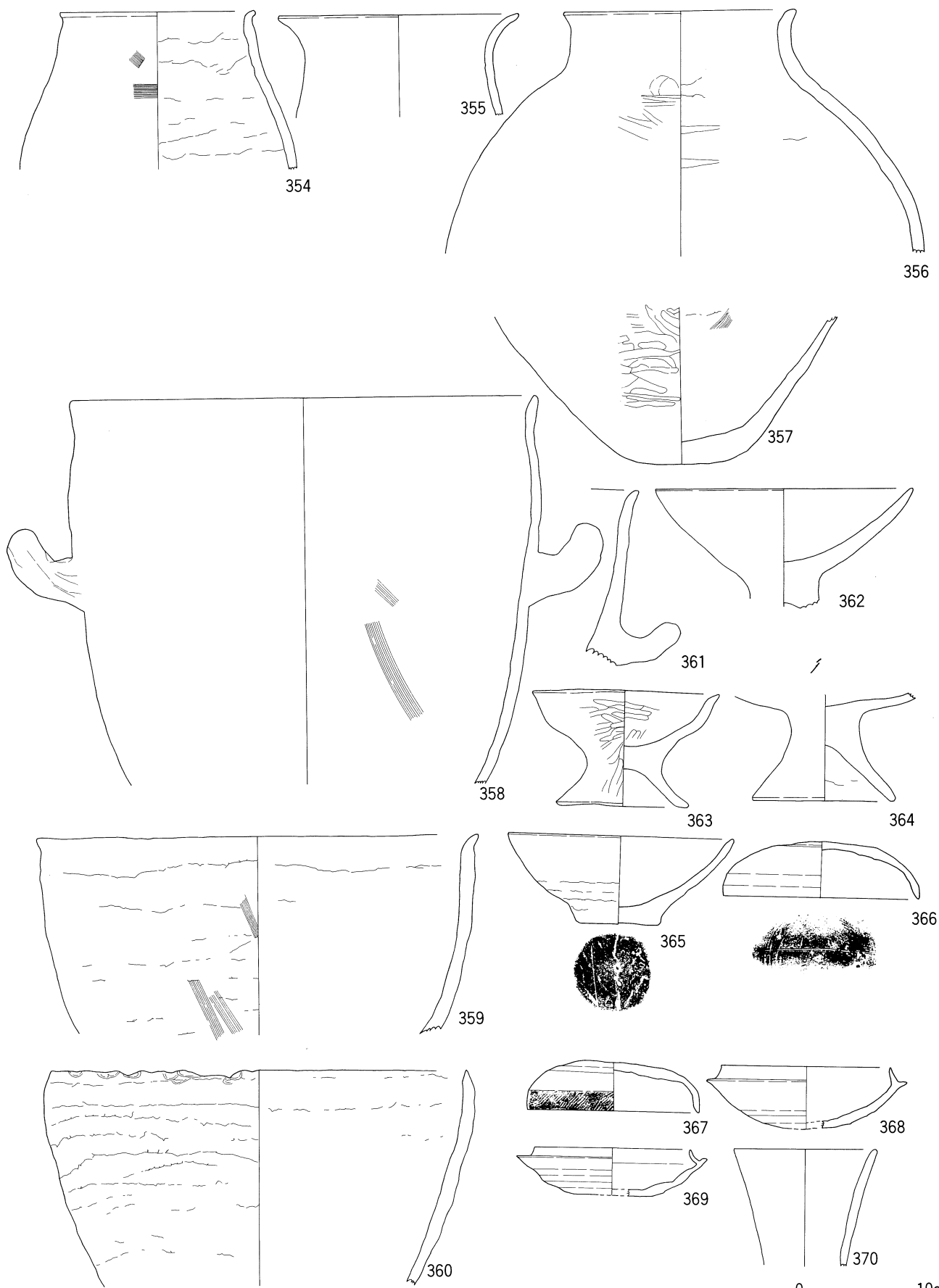


第59图 B区全体图 (1/143)

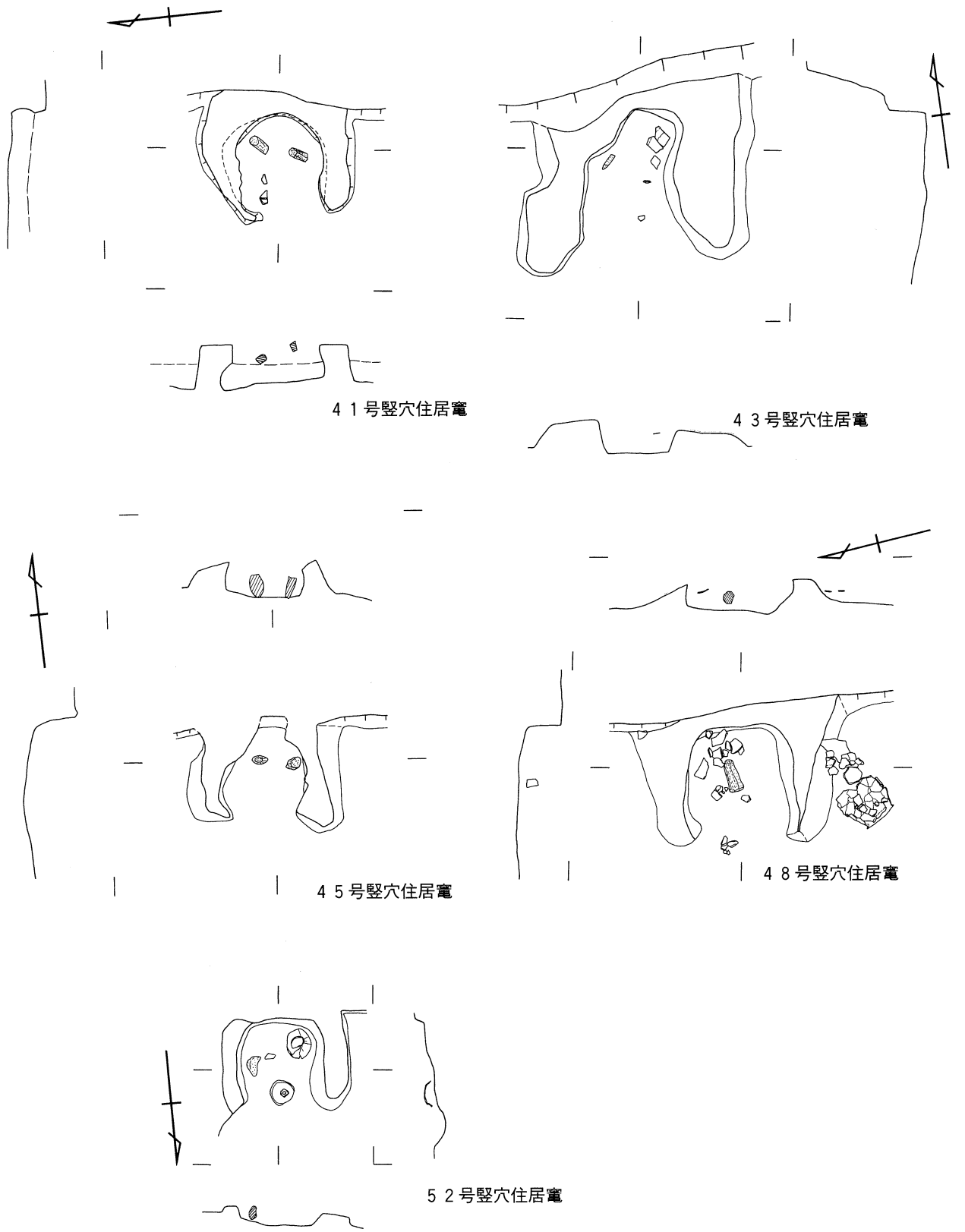


第60图 42・43号竖穴住居实测图 (1/60)





第61图 4 2号竖穴住居出土遗物 (1 / 4)



第62图 41、43、45、48、52号竖穴住居竈实测图 (1/30)

な刻目を施している。372は竈内より、それ以外は埋土中からの出土である。

44号竪穴住居（第63図）

南壁長4.0m、西壁長3.8m以上で、壁高20cmを測る。北壁がB5号溝状遺構に切られており、住居跡全体の形状ははっきりしないが、不整形を呈するものと思われる。

主柱穴は2本で、床面からの深さはP1が21cm、P2が31cmを測る。各柱穴間は2.1mの間隔を有し、その間から埋甕炉が検出された。埋甕炉は径26cm、深さ12cmの掘り込みをもち、内部に安置された甕の遺存状態は悪かった。

遺物はごく少量出土したのみであった。

〔出土遺物〕（第64図）

土師器の甕、須恵器の坏身等が出土した。376の甕は埋甕炉に用いられていた。377は床面からの出土である。

45号竪穴住居（第63図）

東壁長4.4m、南壁長2.6m以上、壁高25cmを測り、住居跡西側は調査区外にかかる。北壁の東側に偏って竈を付設する。主柱穴は4本と推定され、東側の2本にあたるP1、P2を検出した。柱穴の深さは床面より60～65cmを測る。

竈南面から土器がまとまって出土している。

竈（第62図）

住居跡北壁やや東に偏って付設しており、焚口は南を向く。焚口幅35cm、奥行き62cm、右袖部残存高18cmを測る。竈内から、長さ13cmと12cmの多角柱に加工された軽石製の支脚が2つ並んで、立った状態で出土した。ともに支脚下部は地中に埋まっていた。土器は小片が数点出土したのみである。

〔出土遺物〕（第64図）

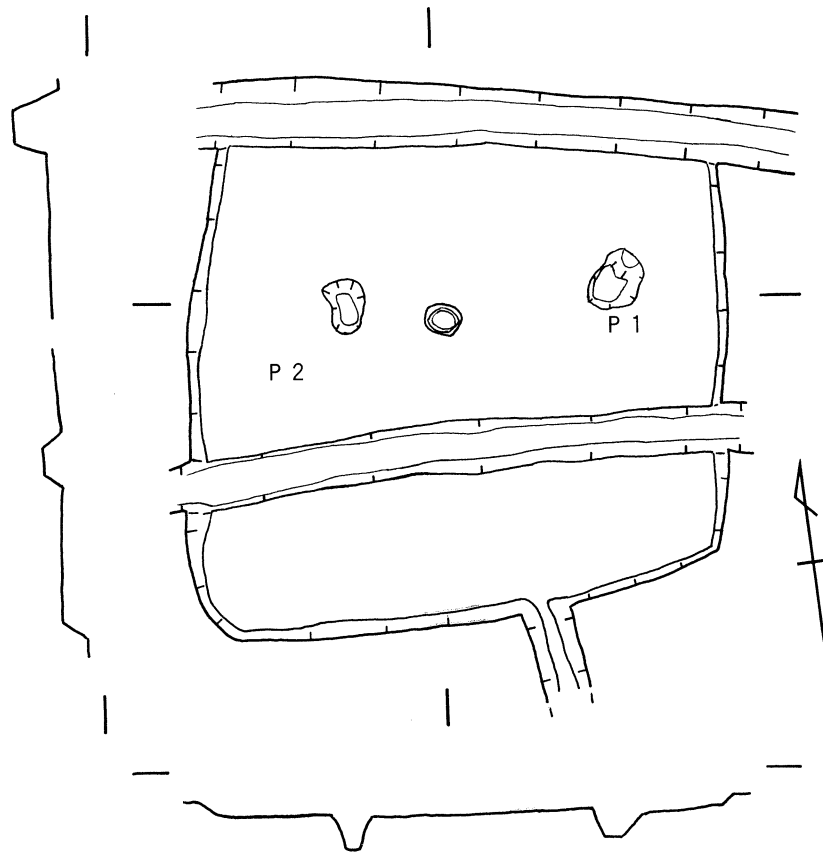
378は長胴の甕である。平底で、口縁部は短く、外反する。

46号竪穴住居（第65図）

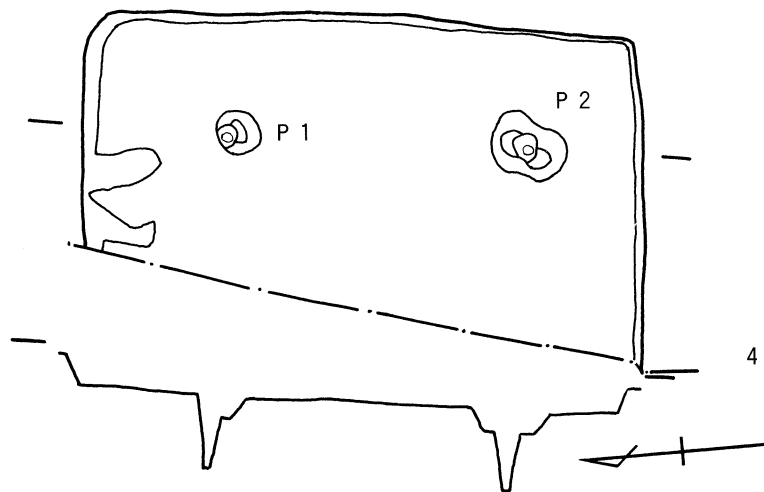
南壁長7.6m、西壁長9.2m、北壁長7.2m、の長方形プランを呈し、壁高45～55cmを測る。東側が47号竪穴住居に、北西隅が45号竪穴住居に切られている。本遺跡最大規模の住居跡で、床面積は約61㎡を測る。

住居跡床面には貼床を施してあり、中央やや南寄りに埋甕炉を有する。埋甕炉の遺存状態は悪く、僅かに甕の底部とリング状になった赤変部が検出されたに過ぎない。また、住居跡内に浅い皿状の落ちこみが数箇所検出された。

主柱穴は6本と推定されるが、北東側のP1及び、その南のP2は検出することができなかった。各柱穴間の間隔はP3—P4間が4.15m、P4—P5が3.2m、P5—P6が2.75mを測り、柱間を線で結ぶと、南北に長い長方形になると推定される。各柱穴の床面からの深さはP3が42cm、



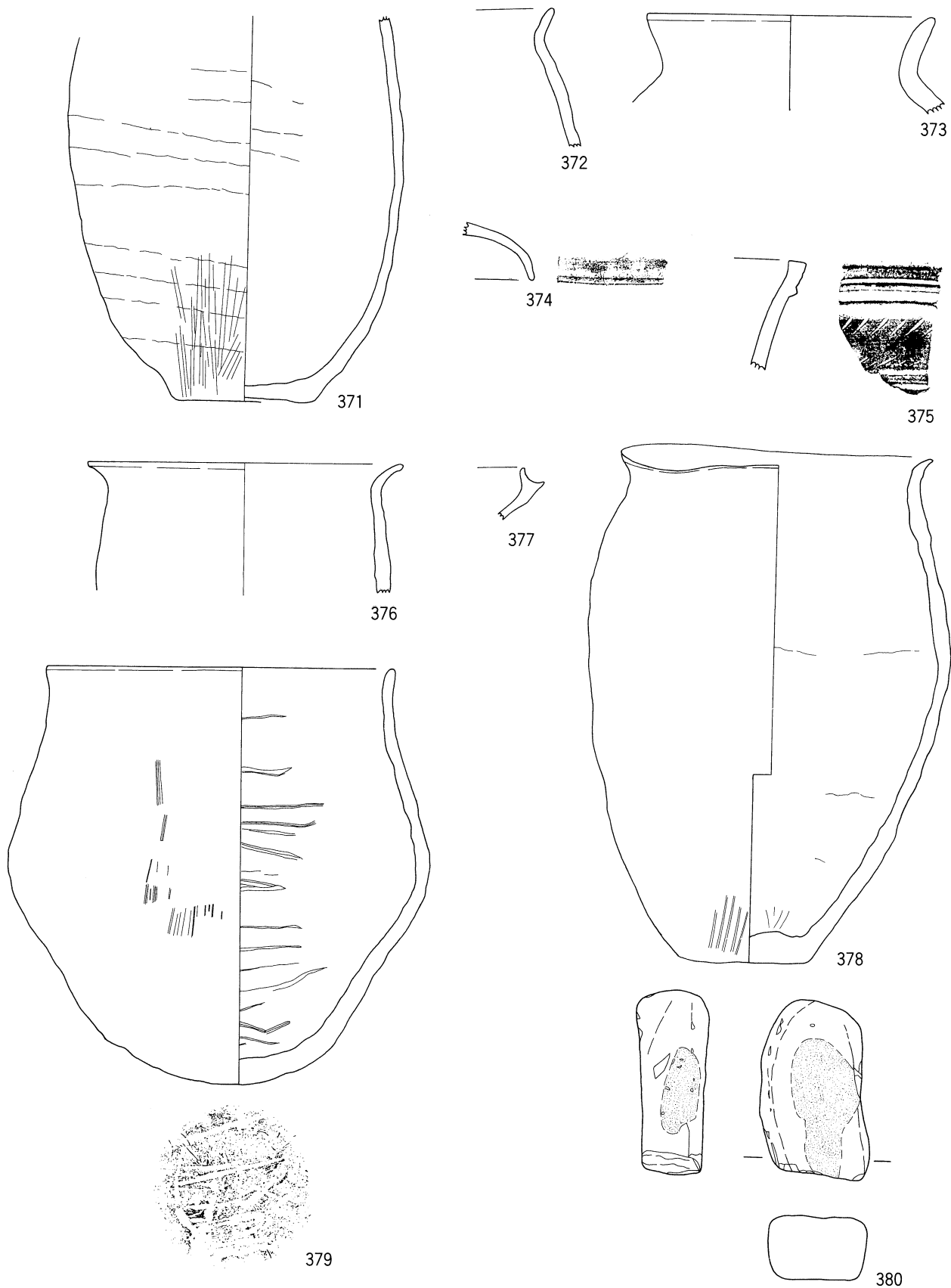
44号竖穴住居



45号竖穴住居

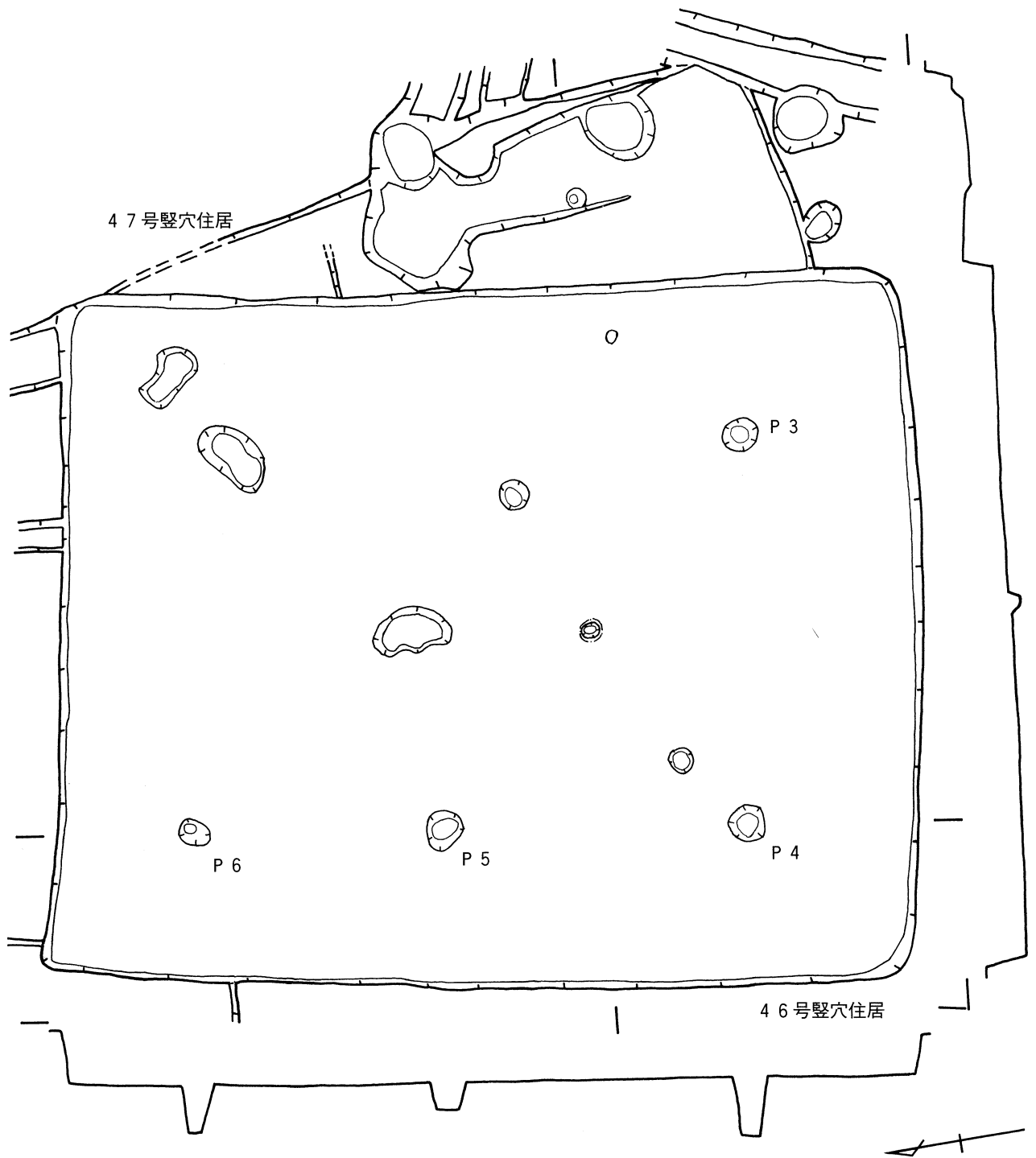


第63图 44・45号竖穴住居实测图(1/60)



第64图 41·43~46号竖穴住居出土遺物(1/3)





第65图 46・47号竖穴住居实测图 (1/65)

P4が63cm、P5が31cm、P6が48cmを測る。

遺物は住居跡南側に集中して大量に出土している。床面出土の土器も多いが、大半は床面より浮いた状態である。特に南西隅、南東隅側においては埋土のかなり上層から、まとめて出土している。また、多量の土器に混じって、径20~25cm程度の軽石も数点出土した。

〔出土遺物〕（第64、66、67図）

土師器の甕、甗、高坏、ミニチュア土器、須恵器の甕、提瓶、坏蓋、坏身、高坏が出土している。

379、381~387は土師器の甕で、379、382、383は丸底で、胴部は丸く張り、口縁部は直立気味に立ち上がる。381は平底を呈し、胴部は張りをもち、頸部は締まらず、なだらかに外反して、最大径が口縁部となる甕である。385、387は上半分を欠いているが、381と同じような形態になると思われる。379は底部に線刻を施してあり、381、385、386は木葉底である。388は壺で、胴部は卵形を呈し、口縁部は直立する。390は甗で、底部周囲に木葉痕がみられる。391は口縁部が内傾する鉢である。

395、396は須恵器の提瓶で、395は鉤状の、396は環状の把手がつく。397~399は須恵器の高坏で、397の体部外面はカキメ調整である。400~403は坏蓋で、400、401は口縁部に幅広で、弱い段をもつ。404~409は坏身で、口縁部はいずれも短く内傾し、408は立ち上がりの高さが1.3cmとやや高いが、他のものは1cm前後である。また、406、407はやや扁平で、405、406は底部にヘラ記号が刻まれている。410~415は土師器のミニチュア碗である。

他に、住居跡内から敲石が1点出土しており（380）、最大長9.6cm、最大幅5.2cm、最大厚5.2cm、重量325gを測る。

住居跡中央の落ち込みから北東隅にかけての床面から395が、379、381、383、392、397~399、401~406がP2西側からP3周辺にかけての南側床面ないし床面直上から、408がP6西側の床面から出土した。その他の土器は出土レベルが床面よりやや高い。

47号竪穴住居（第65図）

南北長5.0m（推定）、南壁長2.0m以上、壁高20cmを測る。東側で1号建物を、西側では46号竪穴住居を切っている。住居跡ほぼ中央、46号竪穴住居と重複している箇所より埋甕炉が検出された。

遺物は少なく、柱穴も検出することができなかった。

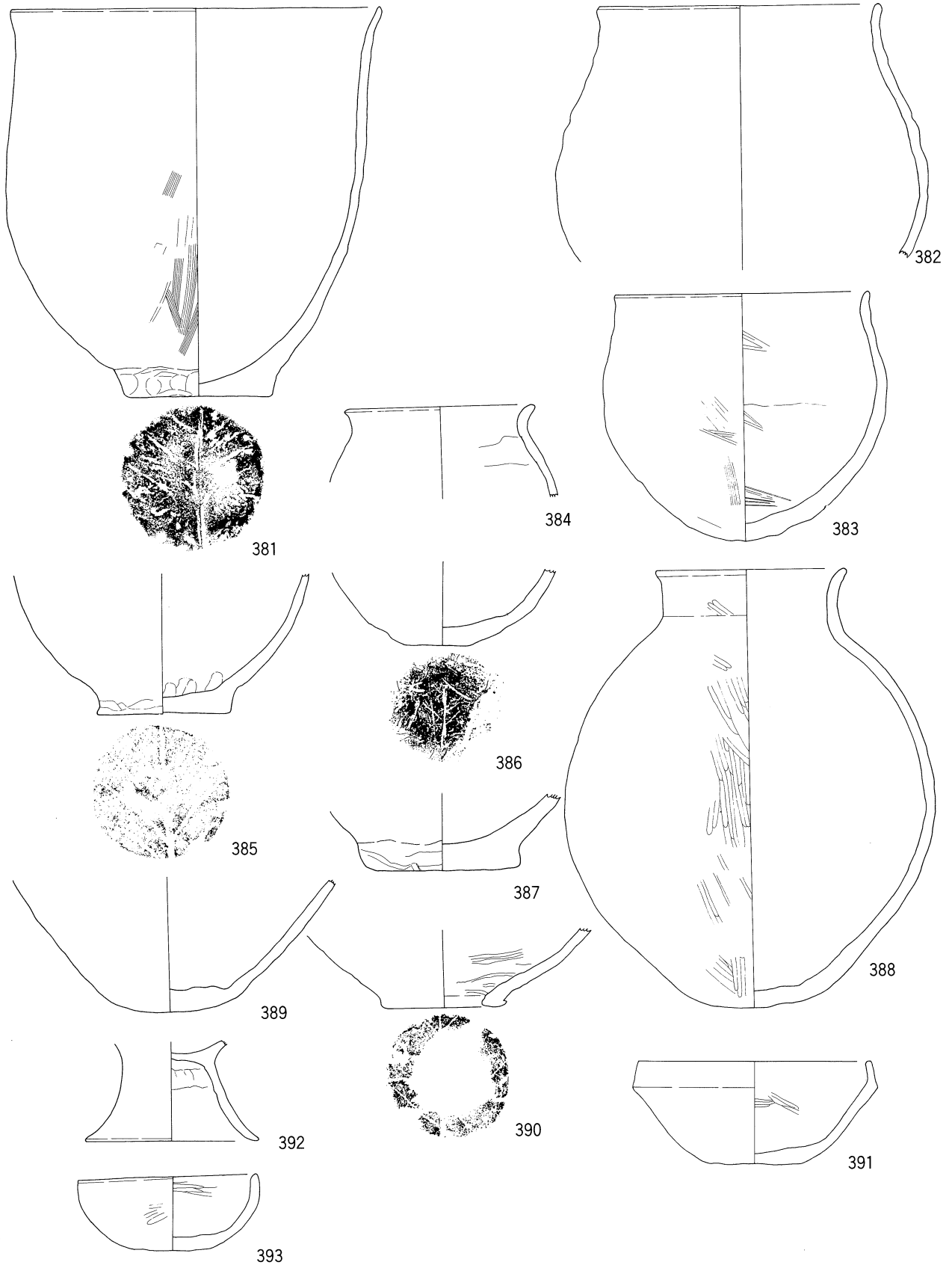
〔出土遺物〕（第70図）

土師器の甕が出土している。416は埋甕炉に使用された長胴の甕である。

48号竪穴住居（第68図）

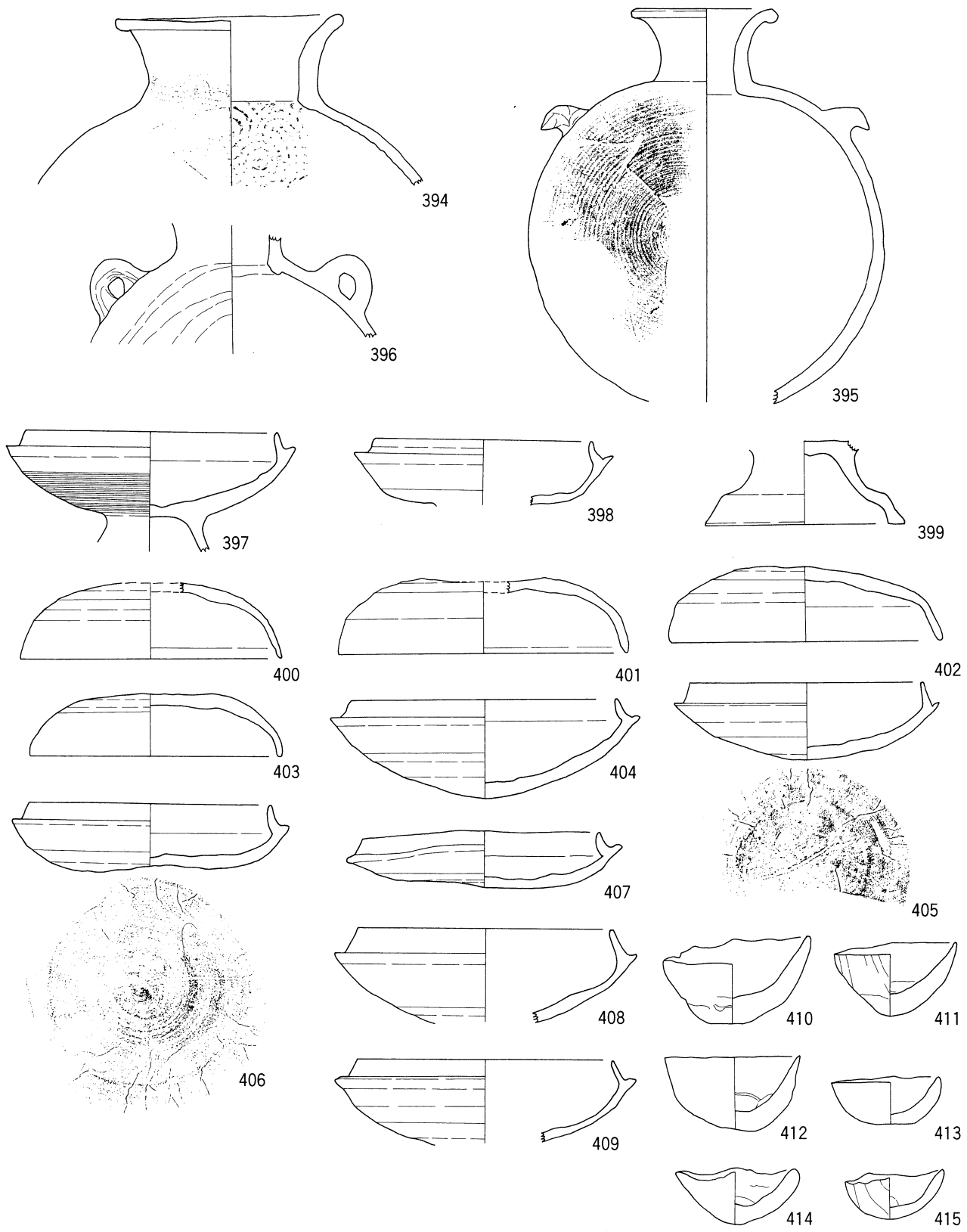
東壁長6.5m、南壁長1.6m以上、壁高30cmを測り、住居跡西側の大半は調査区外にかかる。東壁の南寄りに竈が付設されている。柱穴は1本（深さ75cm）しか検出されなかったが、その位置より支柱穴は4本と推定される。

遺物は竈の南側からまとめて出土した。



第66图 46号竖穴住居出土遗物1 (1/4)





第67图 46号竖穴住居出土遗物2 (1/3)

竈（第62図）

住居跡東側の南東隅に寄せて付設されており、焚口は西を向く。焚口幅45cm、奥行き60cm、右袖の残存高19cmを測り、黄褐色土を盛って構築されている。

竈内より、長さ18cmの多角柱に加工された軽石製支脚、土器片が出土した。また、竈外の右袖南側から完形の甕が出土した。

〔出土遺物〕（第70図）

土師器の甕、須恵器の坏蓋等が出土している。418は口縁部が短く、外反する長胴の甕で、木葉底である。共に竈南側床面から出土した。

49号竪穴住居（第69図）

東西3.4m、南北3.1mの方形のプランで、壁高45cmを測る。B14号溝状遺構に切られ、63号竪穴住居と重複するが、切りあい関係は明確にできなかった。

住居跡床面からピットが幾つか検出されているが、いずれも深さ15cm以下と浅く、柱配列も判然としない。土師器片が出土しており、その大半は床面より浮いた状態であった。

50号竪穴住居（第69図）

北壁長2.7m以上、東壁長1.8m以上、壁高10cmを測る。63号竪穴住居、4号竪穴、B14号溝状遺構と切りあう。柱穴が1基検出されたが、主柱穴にはなり得ない。遺物は土器片が数点出土したのみである。

51号竪穴住居（第69図）

東西長5.3m、東壁長3.3m以上、壁高15cmを測る。北壁、南壁ともに溝状遺構に切られて残存しておらず、僅かに東壁及び西壁の一部を残すのみで、規模、プランとも明確にし難い。柱穴は大小数多く検出されたが、柱配列は判然としない。

遺物は住居跡中央やや北東寄りから、まとまって出土しているが、床面よりやや浮いた状態であった。

〔出土遺物〕（第70図）

土師器の甕、須恵器の坏蓋、弥生土器の甕が出土した。

421は土師器の甕で、上半部のみ完存した状態で出土した。埋土中から、刻目突帯を廻らした弥生土器の甕が出土した。流れ込みとみられる。

52号竪穴住居（第69図）

東西5.1m、南北4.9mのほぼ正方形のプランで、壁高約20cmを測る。南壁南東隅に竈を付設しており、中央に埋甕炉を有する。

主柱穴は4本で、溝に切られているP2以外の3本を検出した。柱穴間を結んだ線はほぼ正方形と想定される。床面からの深さはP1が56cm、P3が37cm、P4が43cmを測る。

竈内及び、竈前面から土師器が集中して出土している。

竈（第62図）

住居跡南壁南東隅に付設し、焚口は北に向く。焚口幅38cm、奥行き49cm、右袖の残存高8cmを測り、袖部は黄色土を盛って構築される。

竈内は良く焼けており、遺物の出土状況も良好であった。焚口付近及び、右袖奥壁側より、高坏の坏部が伏せた状態で出土し、ほかに強い火熱を受けた支脚とみられる軽石も出土した。

〔出土遺物〕（第70図）

土師器の甕、高坏が出土している。425、426は共に平底で、長胴の甕である。426は口縁部が長く直立する。429、430は高坏で、429は椀状の、430は受部と口縁部の境に明瞭な段をもつ坏部である。

425、426は床面上から、427、429、430は竈内からの出土である。

53号竪穴住居（第68図）

南壁長6.3m、西壁長6.8mの正方形に近いプランを呈し、壁高50cmを測る。主柱穴は4本で、柱穴間を線で結ぶと南北に長い長方形を呈する。各柱穴の床面からの深さはP1が49cm、P2が59cm、P3が41cm、P4が50cmを測る。

住居跡内からは埋甕炉、竈ともに検出されなかった。床面は貼床が施してあり、中央付近より炭化物が少量検出された。また、床面出土の土器も少量であった。

〔出土遺物〕（第70図）

土師器の甕、甃、坏蓋、ミニチュアの鉢、須恵器の甕、坏身が出土している。431～433は床面から、その他は床面より若干浮いて出土した。

54号竪穴住居（第71図）

北壁長5.2m、西壁長1.8m以上、壁高60cmを測る。住居跡南側の大半は調査区外にかかる。柱穴は北側から2本検出された。柱穴の深さはP1が10cm、P4は40cmを測る。主柱穴4本と考えられなくもないが、P1が浅すぎるので問題が残る。出土した土器はごく僅かであった。

〔出土遺物〕（第72図）

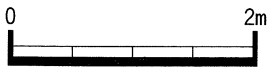
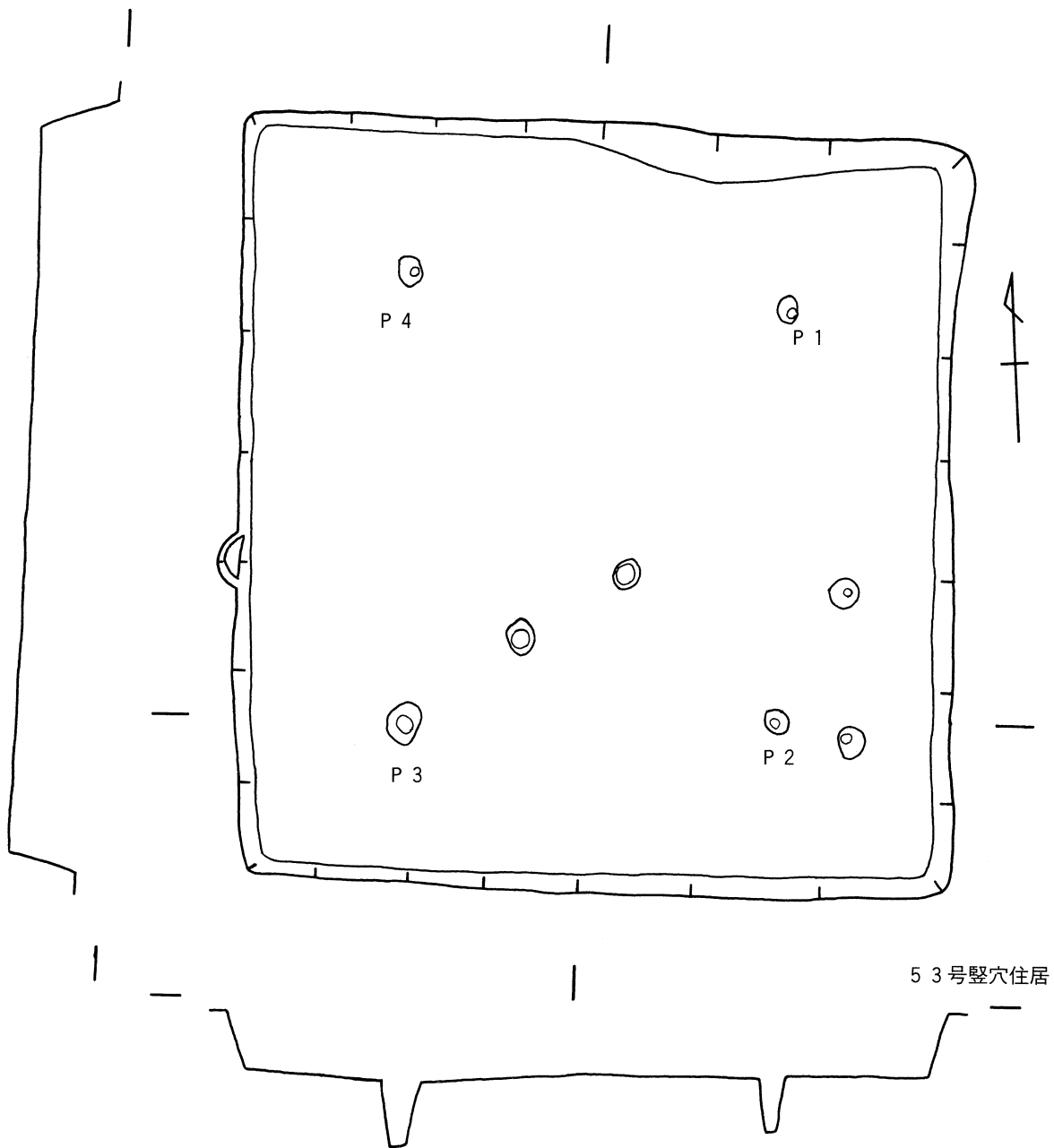
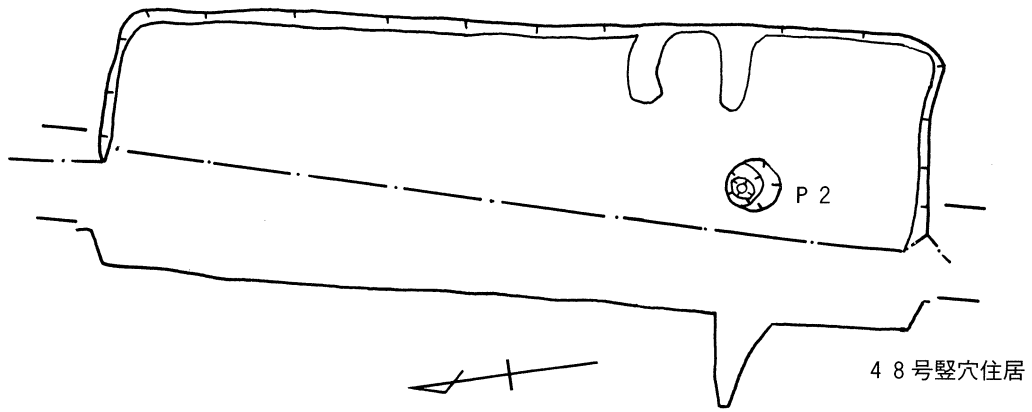
438は弥生土器の甕である。埋土上層より出土しており、流れ込みとみられる。

55号竪穴住居（第71図）

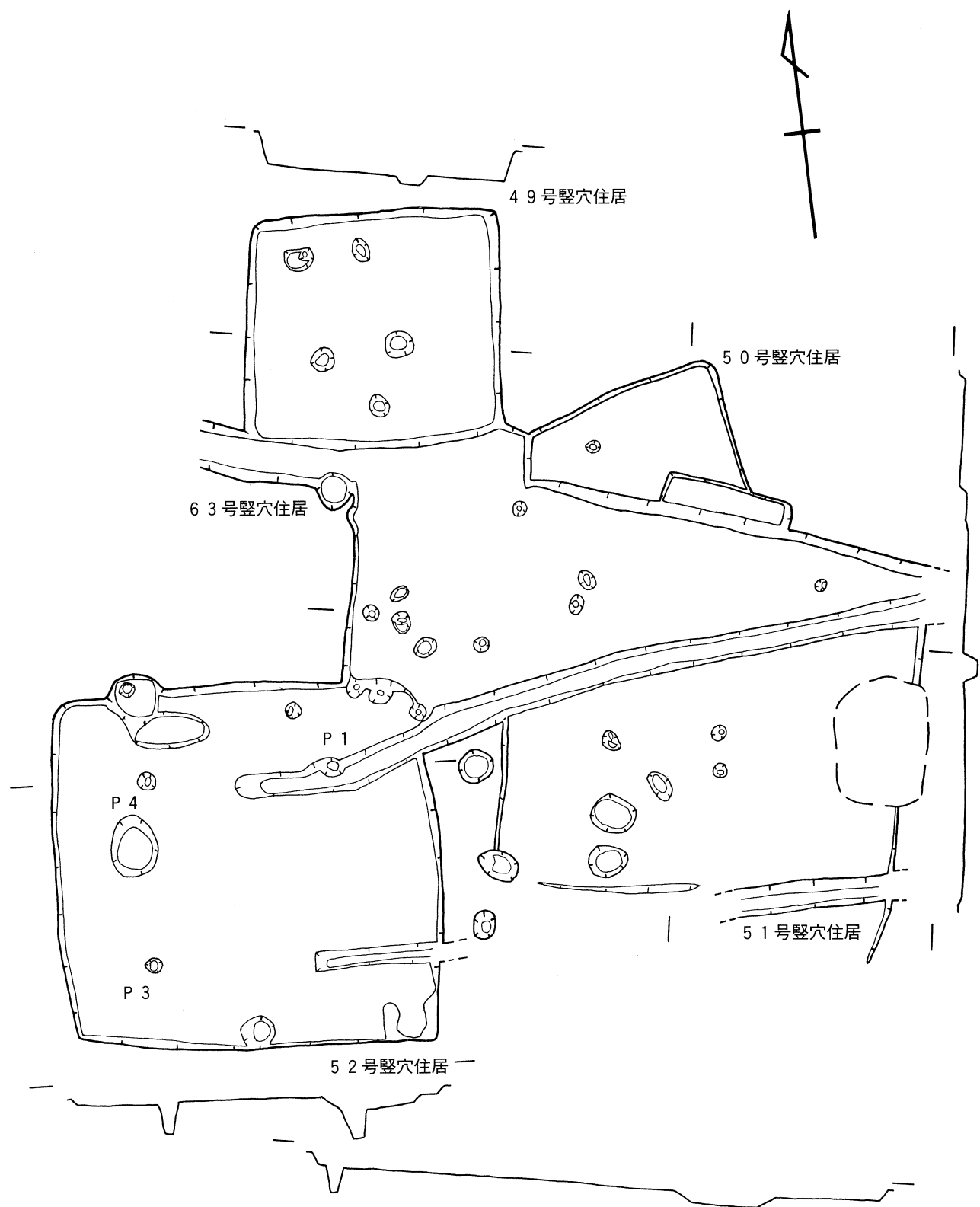
東壁長4.6m以上、北壁長1.4m以上、壁高35cmを測る。住居跡の西側大半は調査区外にかかる柱穴は1本（深さ40cm）しか検出されなかったが、その位置より主柱穴は4本と推定される。

遺物は土師器片が住居跡南東隅付近にややまとまって出土したが、全体としては少ない。

56号竪穴住居（第71図）

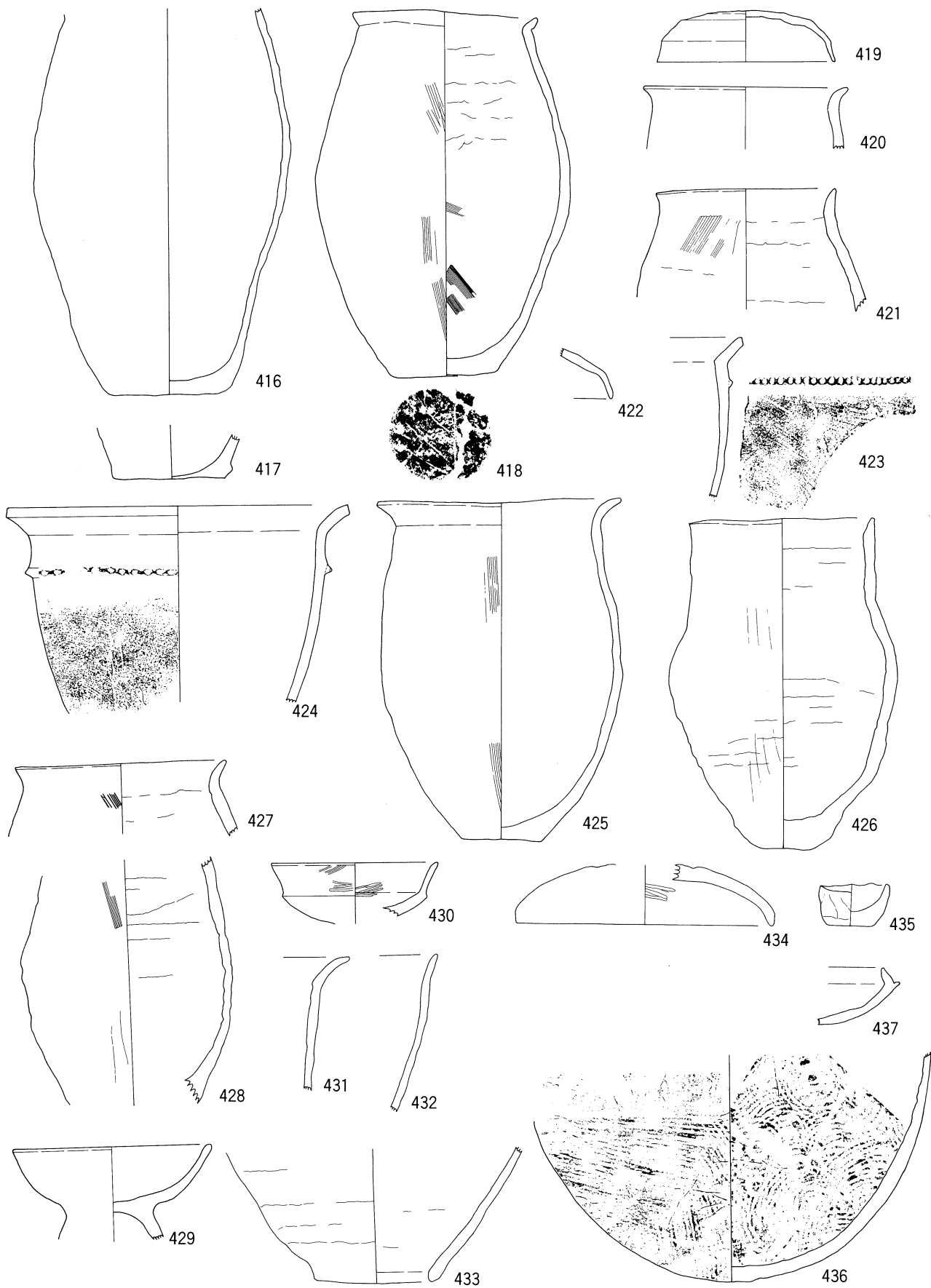


第68图 48・53号竖穴住居实测图 (1/60)

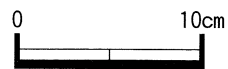


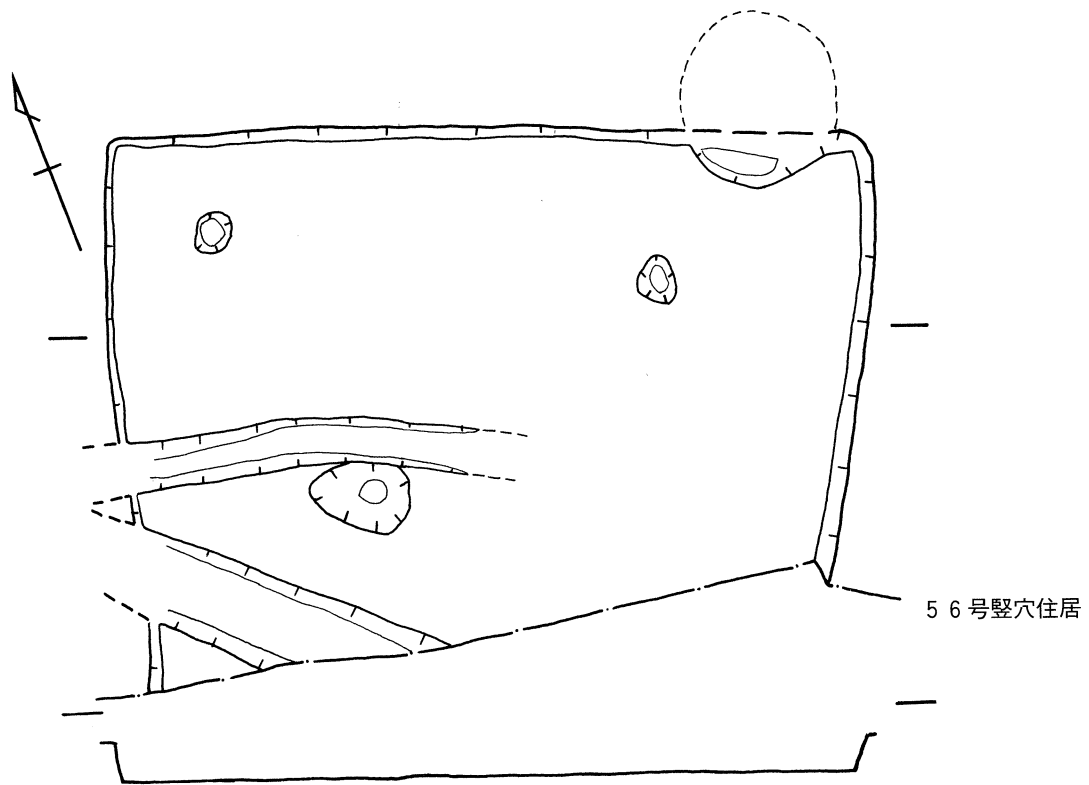
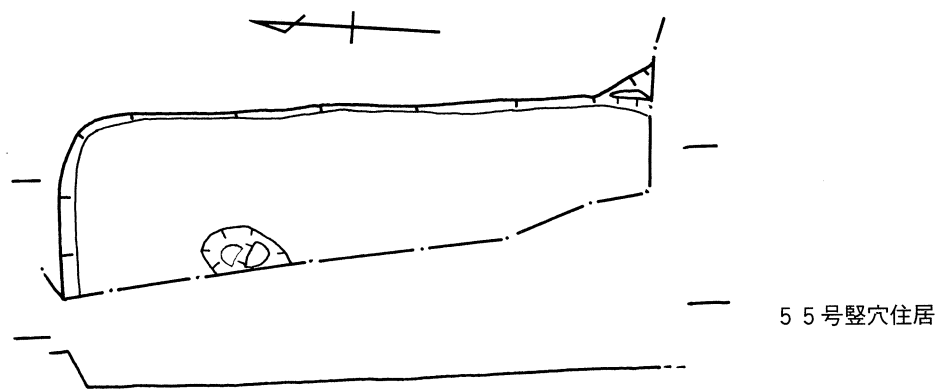
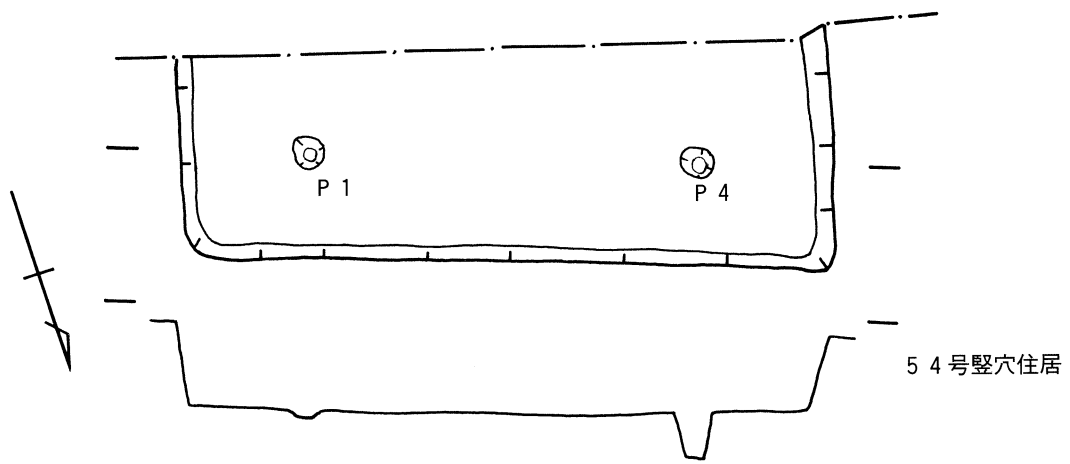
第69图 49~52・63号竖穴住居实测图 (1/77)



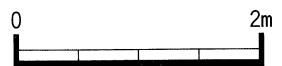


第70图 47~53号竖穴住居出土遺物(1/4)





第71图 54~56号竖穴住居实测图 (1/60)



北壁長6.0m、東壁長4.4m以上、壁高30cmを測る。南側は調査区外にかかり、北東隅は近世以降に構築されたとみられる井戸に、中央部はB23号溝状遺構に切られている。

住居跡中央西寄りから土坑が、北東隅、北西隅付近からピットが検出された。ピットはその位置より、支柱穴とみることはできない。

遺物は住居跡中央付近から、ややまとまって出土したが、破片はいずれも小さい。

〔出土遺物〕（第72図）

弥生土器の甕、壺が出土した。439～440は甕形土器で、口縁部は「く」の字状に屈曲し、頸部下に断面三角形の刻目突帯を1条廻らしている。442～443は壺の胴部で、断面三角形の突帯を廻らしている。

63号竪穴住居（第69図）

東西長2.3m（推定）、南北長3.6m以上の長方形プランを呈し、壁高15cmを測る。50号竪穴住居を切り、B14号溝状遺構に切られる。また、49、51、52号竪穴住居に一部重複するが、切りあい関係は明確にできなかった。

床面より複数のピットが検出されたが、本住居跡に伴うものかどうか判然としない。また、出土遺物も僅かであった。本遺構は住居とみるよりも、竪穴とみたほうが妥当かもしれない。

第2節 掘立柱建物の調査

1号建物（第73図）

B区より検出され、46号竪穴住居の東側に位置し、47、52号住居と切りあう。建物北側で1号柵列がとぎれており、柵列との関連も考えられる。梁行2間（3.8m）、桁行3間（6.0m）の総柱建物で、高床の倉庫と思われる。棟方向はN-3°-Eである。

柱穴は円形を呈し、径55～85cm、深さ30～83cmを測る。中央の列の柱穴は、両側の柱穴列に比べ浅い。P8より甕の底部（457）が、P10、P12より鉢形のミニチュア土器（456）が1点ずつ出土した。

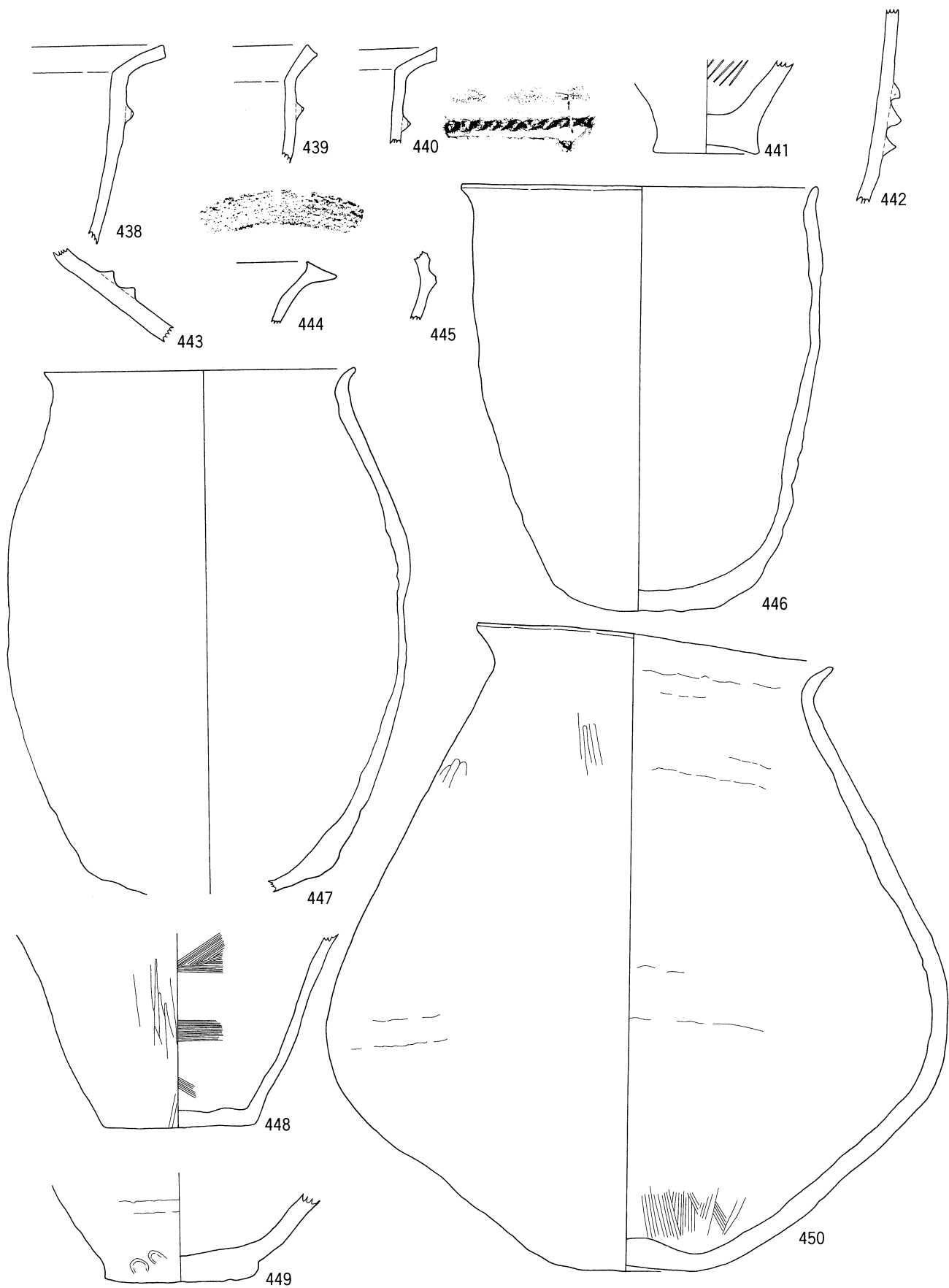
2号建物（第73図）

B区より検出され、1号建物の南側5mに位置する。1間（1.75m）×1間（1.15m）の小型の建物で、倉庫と想定される。棟方向はN-5°-Wである。

柱穴は円形を呈し、径35～48cm、深さ29～58cmを測る。

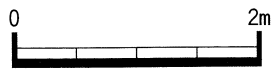
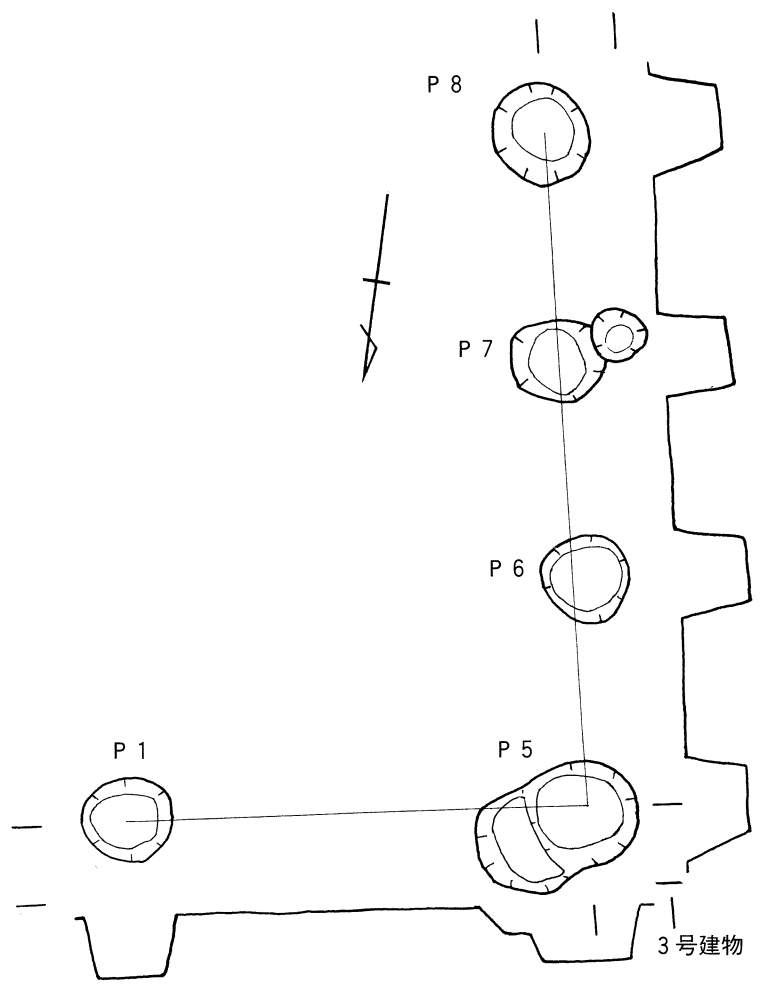
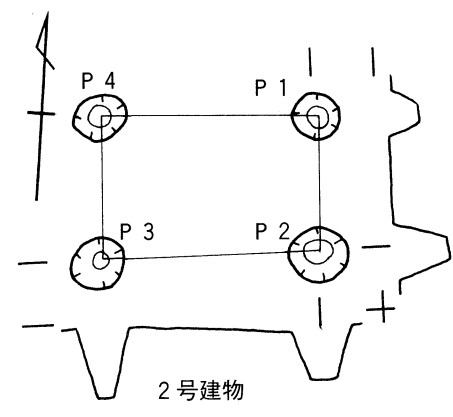
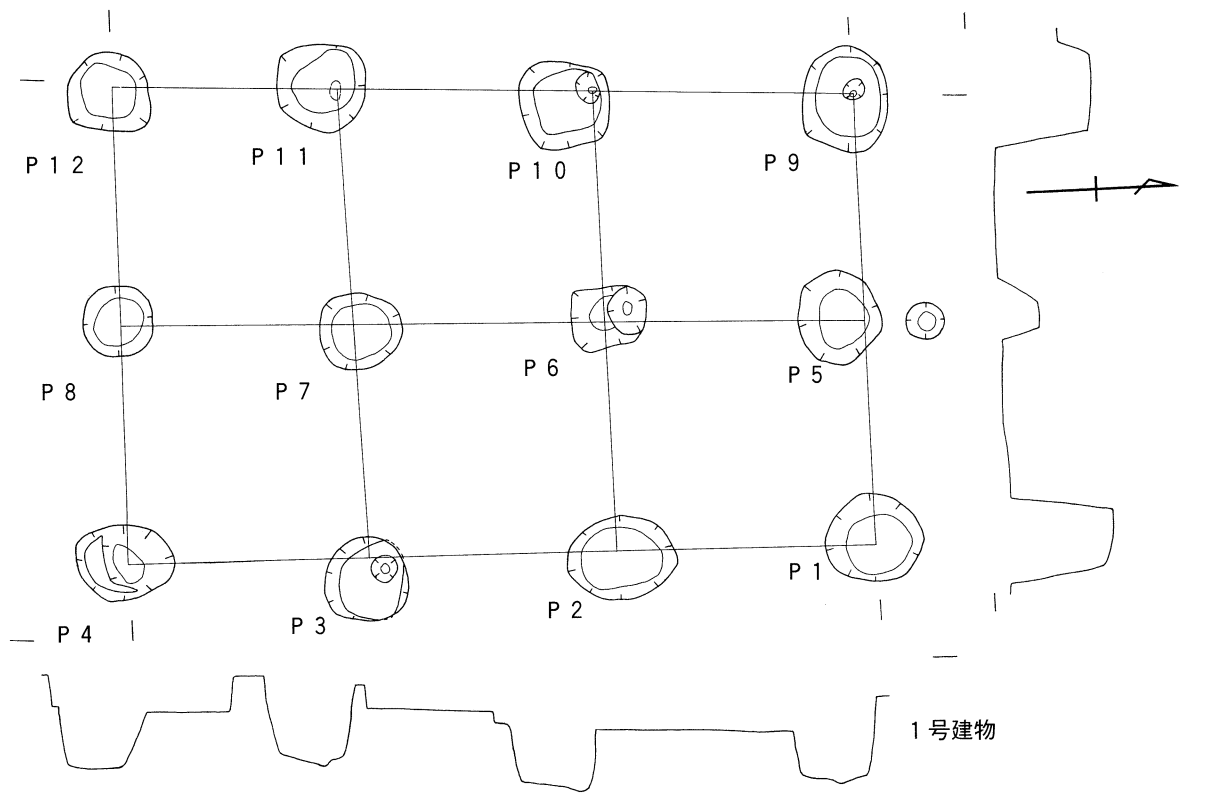
3号建物（第73図）

B区中央付近に位置し、東側は53号竪穴住居と重複しており、P1（径70cm、深さ55cm）、P5（径85cm、深さ45cm）、P6（径70cm、深さ55cm）、P7（径75cm、深さ60cm）、P8（径80cm、深さ55cm）のL字形に並ぶ5本の柱穴しか検出できなかった。梁行1間（3.7m）、



第72图 54~57号竖穴住居出土遗物(1/3)





第73图 1~3号建物实测图 (1/60)

桁行3間(5.5m)の建物と推定される。

棟方向はN-10°-Wで、各柱間はP1-P5間が3.7m、P5-P6間が1.9m、P6-P7間が1.75m、P7-P8間が1.85mを測る。

P7より、弥生土器の壺の口縁部(573)が出土している。口縁端部に、縦方向の線刻が施してある。

第3節 竪穴の調査

2号竪穴 (第59図)

B区北側で検出され、東西最大長3.7m以上、南北3.5m以上、壁高35cmを測る。東側で3号竪穴と切りあい、南側で、B2号溝状遺構、西側でB1号溝状遺構に切られる。北壁が途中で屈曲しており、現状では五角形を呈している。別の遺構が切りあっている可能性もある。

床面は平らではなく、竪穴中央から北壁にかけてやや深くなる皿状を呈している。ピットは検出されなかった。

遺物は床面及び、埋土内より出土している。

〔出土遺物〕 (第42図)

土師器の甕、高坏、須恵器の提瓶が出土している。458は高坏で、低く「ハ」の字形に開く脚部に椀状の坏部がのる。460は提瓶で、鍵状の把手を付している。

3号竪穴 (第59図)

B区北側で検出され、北壁1.6m以上、東壁3.1m以上、壁高18cmを測る。東壁は胴張りとなり、南壁はB2号溝状遺構に切られ、西壁は2号竪穴と切りあい残存しない。

床面は平らで、ピットは検出されなかった。また、遺物は土器の小片が僅かに出土した。

4号竪穴 (第59図)

B区南側より検出され、50、51号竪穴住居を切り、B14号溝状遺構に切られる。北壁1.7m、東壁0.4m以上、壁高15cmを測る。床面よりピットは検出されず、遺物の出土もみられない。

第4節 土坑の調査

6号土坑 (第59図)

B区ほぼ中央より検出され、3号建物P5を切っている。径85cmの円形を呈し、深さ20cmを測る。

7号土坑 (第59図)

B区中央西端で検出された。径80cmの円形を呈し、深さ30cmを測る。埋土中から、土師器、

須恵器片が出土している。

8号土坑（第59図）

B区中央西側で検出された。径70cmの円形を呈し、深さ15cmを測る。

9号土坑（第59図）

8号土坑の南西2mに位置する。径75cmの円形を呈し、深さ13cmを測る。埋土中から、土師器片が出土している。

10号土坑（第59図）

9号土坑の東側1.8mに位置する。長径80cm、短径70cmの円形を呈し、深さ20cmを測る。

第5節 溝状遺構の調査

B5号溝状遺構（第59図）

B区中央やや北側で検出され、東西方向に延びる。幅50～90cm、深さ約50cmを測り、調査区東側で44号竪穴住居と切りあっている。断面は台形を呈し、底面は東から西へ傾斜している。

溝内埋土から、土師器の甕、鉢、椀、高坏、須恵器の坏蓋、坏身、壺、甗、軽石等、遺物が大量に出土した。

〔出土遺物〕（第74図）

513は土師器の長胴の甕である。515は鉢で、木の葉底である。516、517は土師器の椀で、体部から口縁部にかけて、緩やかなカーブを描いて立ち上がり、端部は丸くおさめている。521は須恵器の壺で、口縁部がごく短く内傾し、胴部は肩が強く張っている。522は甗で、肩部に2条の沈線を廻らし、頸部は細く締まっている。

B14号溝状遺構（第59図）

B区中央やや南側で検出され、東西方向に延び、幅65cm、深さ約25cmを測る。1号建物、15、49～51、63号竪穴住居、4号竪穴を切っている。

遺物は少量であったが、須恵器の甕（523）、土師器小片が出土している。

B23号溝状遺構（第59図）

B区南端で検出され、東西方向に延び、調査区東端で56号竪穴住居を切る。幅80～90cm、深さ55cmを測る。溝内埋土中から、土師器甕、甗、高坏、須恵器甕、短頸壺等が出土している。

〔出土遺物〕（第75図）

525は土師器の高坏で、低く大きく開く脚部に椀状の坏部がのる。526は須恵器の短頸壺で、胴に2条の沈線を廻らし、沈線間に斜位の連続刻目文を施している。

第6節 柵列の調査

1号柵列（第59図）

B区中央やや南を東西に貫く。B54～64号ピットが該当し、遺存柱穴11本、柵列総延長15.2mを測る。各柱間は心心距離にして、1.6～2.3mを測り、平均は1.85mである。柱穴は径40～55cmの円形を呈し、深さは33～65cmを測る。

B57、58号ピット、B59、60号ピットは、それぞれ柱穴が重複しており、建て替えがあったものと思われる。しかし、重複部分が2箇所だけであることから、一部建て替えをおこなっただけで、長い期間使用されていたものとは考えにくい。

柵列の時期は64号ピット埋土より、刻目突帯を有する弥生土器の甕、土師器碗の小片が出土したのみで、また、ほかの遺構との切りあいもないことから、不明と言わざるを得ない。ただ、B64号ピットの西側3.3mにあるB97号ピットのほぼ中間を、その南側にある1号建物の主軸線が通り、柱間の3.3mはおよそ2間分となることから、B97号ピットの西側に柱列が続き、B64号ピットとB97号ピット間を出入口と見なせば、1号建物に付随した柵列と言えよう。

第7節 ピットの調査

B区からは掘立柱建物、柵列以外にも、数多くのピットが検出された。これらの大半は配列、年代ともにはっきりしない。

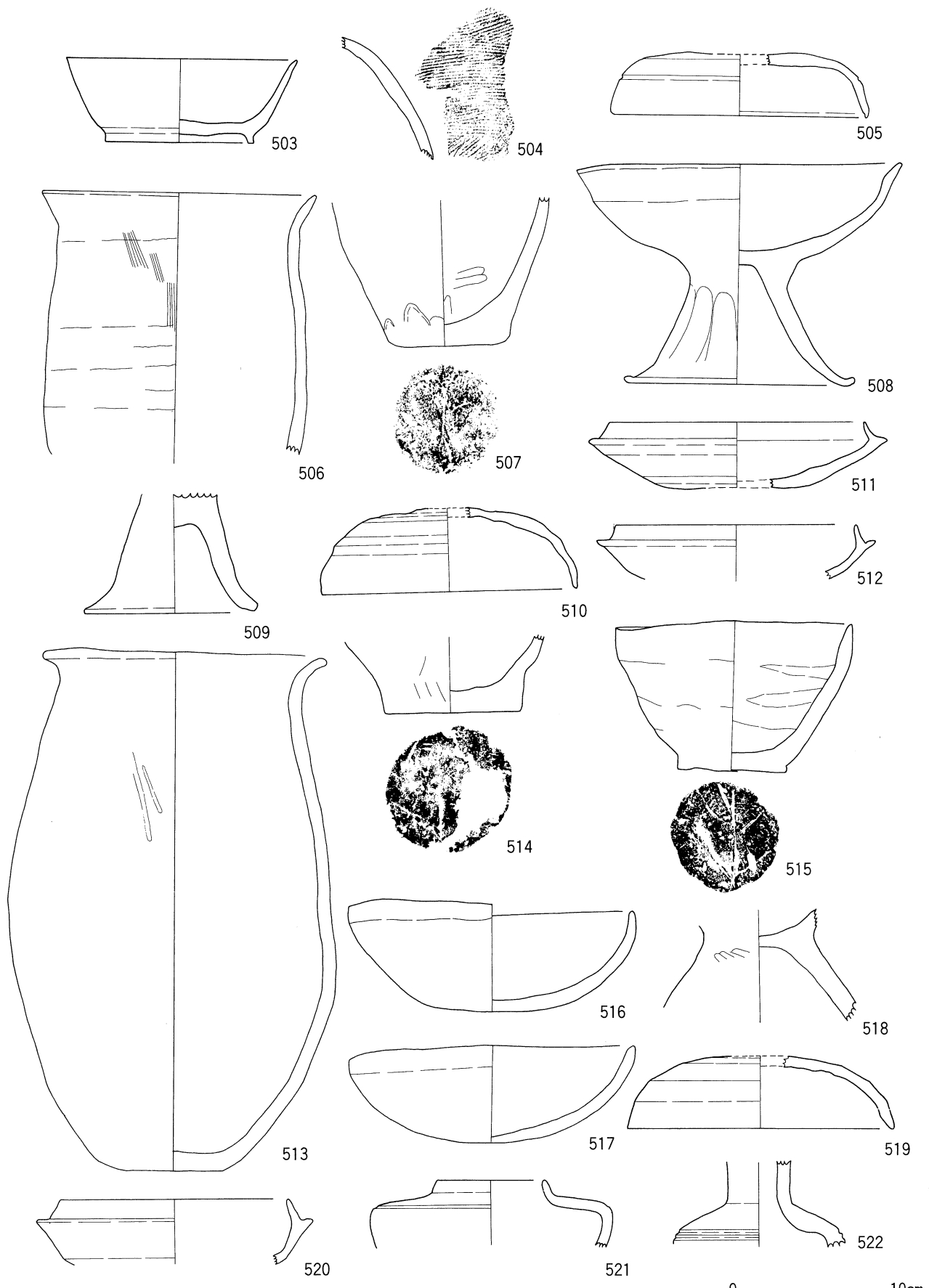
また、大半が流れ込みと思われるが、遺物が出土しているピットもある。

B78号ピット（第59図）

B区南東側、1号柵列の南側に位置する。円形を呈し、径30cm、深さ25cmを測る。埋土中より、弥生土器の甕の胴部（570）、壺の口縁部（571）、土師器の甕（572）が出土した。

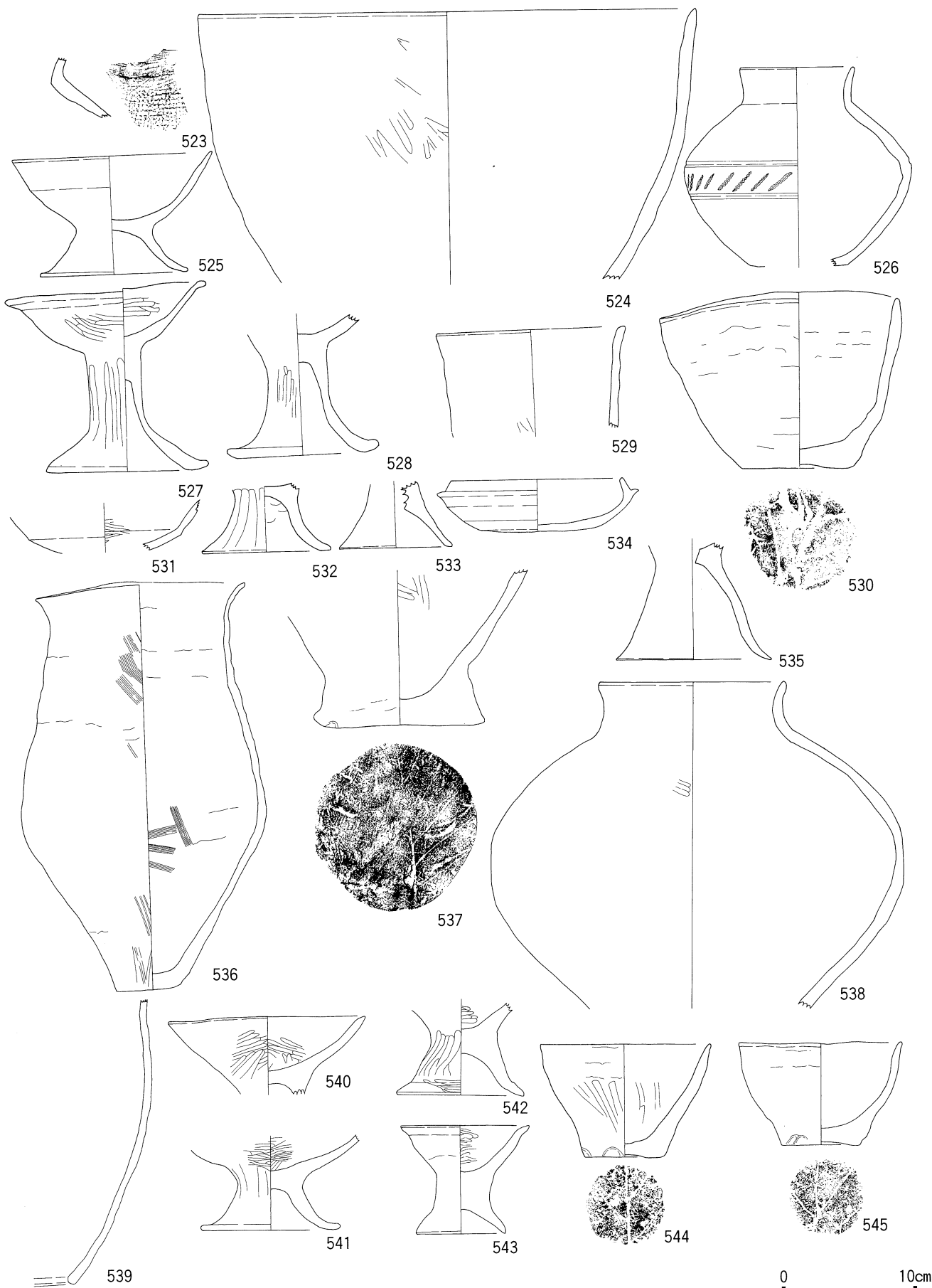
B118号ピット（第59図）

B区南側、1号建物と重複した箇所より検出された。2段に掘られており、1段目は長径65cm、短径55cmの楕円形を呈し、深さ40cmを測る。2段目は径30cmの円形で、深さは5cm程しかない。埋土中より、須恵器の坏蓋（574）が出土した。

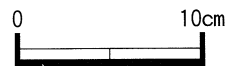


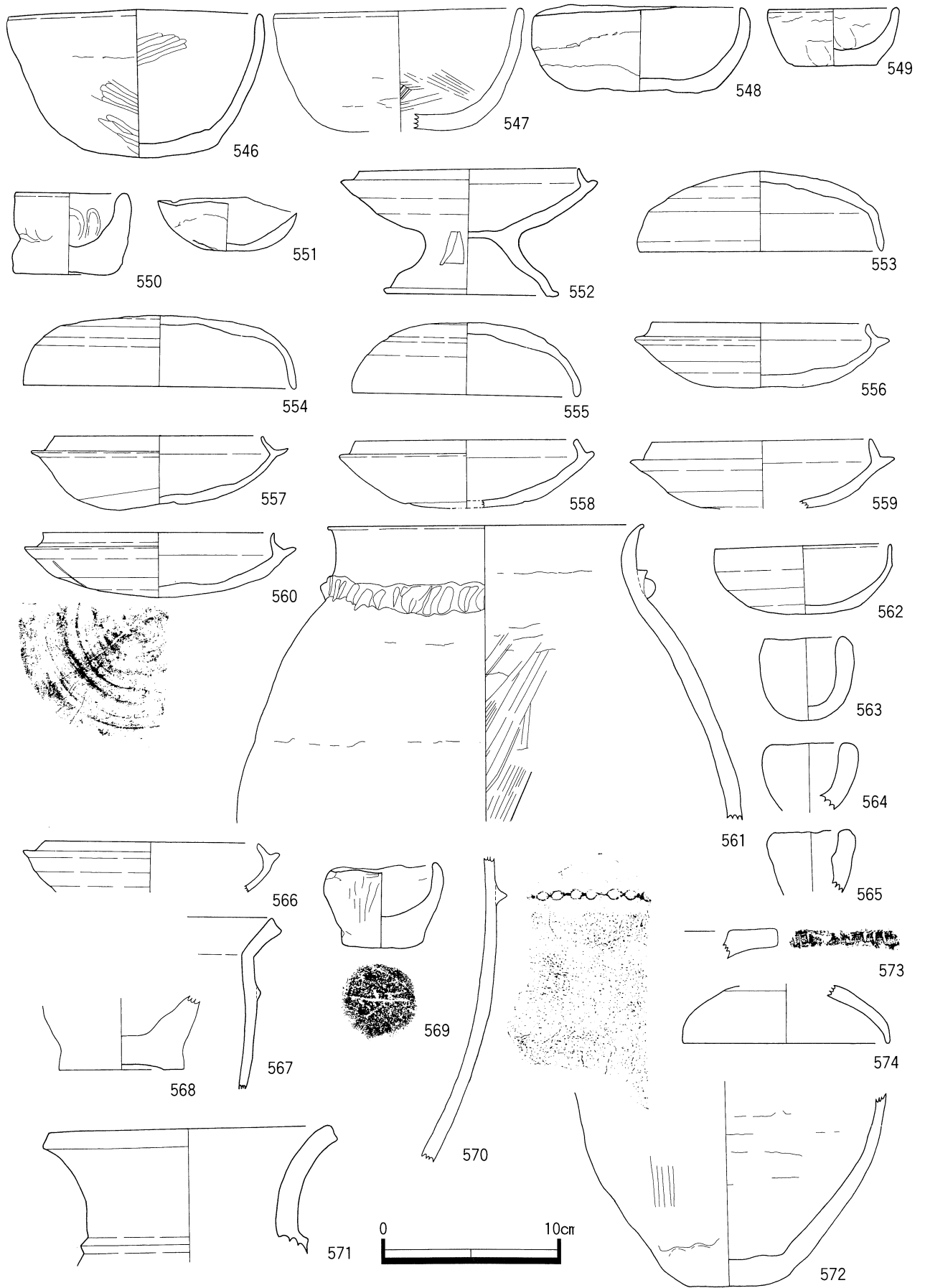
第74图 A·B区沟状遗构出土遗物 (1/3)





第75图 B·C区沟状遗构出土遗物 (1/4)





第76図 C・D区溝状遺構、1・3号建物、B区ピット出土遺物（1/3）

第VI章 ま と め

大町遺跡からは63軒の竪穴住居、3棟の掘立柱建物、3基の周溝状遺構ほか、多数の遺構が検出された。うち、竪穴住居は弥生時代に属する10、56号竪穴住居、時期の特定のできない数軒を除いた大半は6世紀中頃～7世紀前半に比定され、その中心は6世紀後半～7世紀初頭にあるとみられる。

弥生時代の遺構としては、先に挙げた2軒の竪穴住居、3棟の掘立柱建物、3号周溝状遺構、1条の柵列、B78ピット等が挙げられる。竪穴住居は、いずれも方形プランで、出土遺物より、弥生時代後期初頭に比定できる。

3号周溝状遺構では埋土中から、良好な状態で、甕、壺等が出土した。その出土状況より、ある程度、周溝が埋まった段階での一括投棄が想定されるが、ほぼ完形のもの、逆さになって出土したものも含んでおり、周溝の内側ないし外側に配置されていたものが転落した可能性もある。また、日常容器である甕と、祭祀色の強い丹塗りの壺、高坏が共伴していることは、周溝状遺構の機能、性格を考える上で注目される。時期は出土土器から弥生時代中期末～後期初頭に位置づけられる。

また、B区より検出された掘立柱建物については、出土遺物が少なく、築造時期を明確にすることが出来ないが、「1、3号建物、1号柵列の柱穴から、弥生土器片が出土したこと」「竪穴住居と切りあった箇所について、遺構検出の段階において、竪穴住居と柱穴の切りあいを確認することができなかったこと」「1～3号竪穴の主軸方向が、ほぼ南北を示し、それに直交する形で、柵列が延びていること」以上の3点より、古墳時代竪穴住居群に先行する時期の構築が考えられ、その構築時期については、弥生時代後期初頭と思われる。

古代～中世にかけては溝状遺構が検出されており、高台を有する須恵器の坏、糸切底の土師器の坏、小皿が出土している。近世以降については、溝状遺構、土坑墓、井戸が検出され、銅銭、播鉢、土人形等が出土している。

また、弥生時代の周溝状遺構から、近世以降の溝状遺構まで、一貫して出土するものとして、軽石が挙げられる。古墳時代においては竈の支脚に用いられている他に、5号竪穴住居内に構築された地下式横穴状施設の内部からも、大小交えてかなりの量の軽石が出土しており、また、5—3号地下式横穴状遺構の閉塞にも用いられている。その他、竪穴住居、溝状遺構内からも径10～30cmほどのものが出土している。それらのなかには人為的に加工が施されているものも何点か見受けられる。今後、その用途は何か、軽石の文化の解明が必要とされる。

このように、大町遺跡からは、弥生時代から現代に至る長い期間にわたる人々の生活の痕跡が確認された。このことは当地が生活を営むのに適している証であろう。最後に大町遺跡の古墳時代後期の集落について若干の考察を加えてまとめたい。

竪穴住居の形態

大町遺跡検出の竪穴住居は方形ないし、長方形プランに主柱穴4本を基本とする。本遺跡の竪穴住居の特徴として、住居の規模が大きいことが挙げられる。長辺9.2m、短辺7.6mを測る46号竪穴住居を筆頭に長辺が7mを超えるものが5軒、6m以上7m未満のものが12軒を数え、長辺が5mを超える住居が過半数を占める。このなかで8、16、36、46号竪穴住居は主柱穴が6本という特異な柱配列を採用している。

また、その一方で長辺3~4m、短辺2~3mの長方形プラン、3.5m前後の方形プランを呈する小型住居も11軒検出された。これらの一群は埋甕炉ないしは焼土面をもつものも存在するが、柱穴は概して不明瞭である。これら小型住居が通常の竪穴住居か、住居に付随する竈屋、作業所等の施設なのかは、今回の調査では明確にすることができなかった。

住居の大きさから、即、住居の新旧を判断できるとは言えないが、本遺跡検出の長辺6mを超える17軒の竪穴住居のうち、竈を付設する住居は4軒しか含まれていない。このことから、竈の導入以降、竪穴住居の規模が縮小するといった傾向が窺える。また、竈を付設する住居のほとんどは、方形プランで、埋甕炉ないし、焼土面をもつ住居は長方形、台形のプランという特徴がみられ、後者においては、古い段階の須恵器を含む。

これらのことから、大町遺跡においては、竪穴住居の平面形態が、台形ないし、長方形の比較的大型のものから、正方形に近いプランのものへの移行が考えられる。

住居内の調理・暖房施設として、炉、竈が挙げられる。本遺跡は宮崎平野における竈の出現期の例として注目される。住居内におけるこれらの施設は、A「埋甕炉を有するもの」 B「竈を付設するもの」 C「埋甕炉を有し、竈を付設するもの」 D「どちらとも持たないもの」の4つに分類でき、基本的にはD→A→C、Bへの変遷が考えられる。

本遺跡の竈を付設する7、9、22、43、48号竪穴住居より、6世紀末~7世紀初頭の年代が与えられる須恵器の坏身、高坏、短頸壺等が出土しており、特に、7号竪穴住居については、埋土中に投棄されたような状態で多量に出土した土器の中に6世紀末の須恵器坏蓋数点が含まれており、少なくともこの頃には竈は導入されていたと想定される。しかし、埋甕炉から竈への変遷はスムーズなものではなく、しばらくは埋甕炉と併存していたものと考えられる。

竈を付設する住居は16軒を数えるが、全体の62.5%にあたる10軒の住居については焚口が南側になるように構築されている。その他は、3軒の住居が焚口を西に向け、2軒の住居が北に向けている。焚口が北を向く16、48号竪穴住居はともに竈を住居の南東隅に付設している。

このように、竈の大半は住居北壁中央部に構築されており、焚口を南に向けている。このことは年間を通しての風向きによるものとする自然的要因、及び、それに伴い同時期に併行する住居との位置関係上の問題等が考えられるが、近接する浄土江遺跡（註1）で検出された竈の大半も住居北壁中央に構築されており、時期の下る市内大塚町の京園遺跡（註2）でも同様の状況である。このような事例から、竈を住居北壁中央に構築することに、何らかの思想的なものも関与しているのではなかろうか。

集落の形成と編年

大町遺跡は北側から続く大きな島状になった微高地南端に立地する。遺構検出面の標高は約5mで、遺跡の南側は約1mほど低くなる。生産基盤は南側の低地で行われた水稻耕作であったことは想像に難くない。

以下、本遺跡の古墳時代後期の集落の年代について、出土土器を中心に述べる。

本遺跡の竪穴住居からは概して、竈を付設している住居からの須恵器の出土は少なく、埋甕炉のみ、若しくは埋甕炉、竈ともに持たない住居からの出土例が多い傾向があり、その須恵器のほとんどは陶邑編年のⅡ型式4段階に併行する。(註3)

それ以前の須恵器は39号竪穴住居からⅡ型式2~3段階に併行する坏蓋、甕が、12号竪穴住居、A45号溝状遺構からⅡ型式2段階併行とみられる坏蓋が出土している。Ⅱ型式3段階に併行するものとして、4、36、46号竪穴住居から、坏蓋、坏身、提瓶等が出土している。

Ⅱ型式6段階以降は、須恵器の出土が減少し、僅かにⅡ型式6段階に併行する蓋坏が5号竪穴住居内1、3号地下式横穴状遺構、26号竪穴住居埋土中より出土し、Ⅲ型式1段階に併行する宝珠つまみを有する坏蓋が11号竪穴住居埋土中、2号地下式横穴状遺構より出土したに過ぎない。

次に、土師器甕についてであるが、各部の形態より、以下のように分類した。

底部形態	胴部形態	口縁部形態
I 類 丸底ないし平丸底	A 類 球形胴 (寸胴)	1 類 短く外反
	B 類 長胴	2 類 緩やかに外反
II 類 平底	C 類 胴部最大径 <口径	3 類 直立気味に立ち上がり、僅かに外反
		4 類 直立気味に立ち上がる
		5 類 外上方に伸びる

上記の分類を基に、各土器をあてはめると、以下のように細分類される。

I—A—1 類……71、296、(295)

I—A—3 類……293

I—A—4 類……294、313、314、379、382、383、(165)

I—A—5 類……149、288、316

I—B—4 類……47

II—A—1 類……110

II—A—3 類……292

II—B—1 類……45、46、245、338、378、418、425、447、(48)、(49)、(50)、(177)、
(178)、(214)、(228)、(253)、(287)、(339)、(447)

II—B—3 類……18、44、(213)、(221)

II—B—4 類……70、426

I—C—2 類……72、484

I—C—3 類……446

II—C—2 類……381

甕 I—A 各類においては、丸底で、球形胴という古い様相を呈し、1、7、12、15、35、36、39、46号竪穴住居より、出土している。甕 II—B 各類は平底を呈する長胴甕の一群で、特に II—B—1 類は数量的に他の群を圧倒しており、集落としての最盛期は、この段階であったと想定される。おおまかな流れとして、I—A 各類から、II—B 各類への変遷が考えられ、その移行時期については、竈の出現とほぼ併行するものと思われる。

その他の器種については、特徴的なものとして、口縁部が外反し、受部と口縁部の境に明瞭な稜を有する高坏（184、217、430）、口径が20cmを越える大型の鉢（183、244、267）、須恵器を模した坏等が出土している。

以上のことから、大町遺跡の竪穴住居群は、6世紀中葉に12、36、39、46号竪穴住居が構築され、6世紀後半～7世紀前半代までにかけての時期にピークに達し、その後、急速に衰退した、比較的短期間しか継続しなかった集落と考えられる。

最後に、本遺跡の西方約600mに所在する浄土江遺跡との関係に触れて、結びとしたい。浄土江遺跡からは6世紀前葉～8世紀中頃にかけての竪穴住居が検出され、出土土器は野間重孝氏により、浄土江 I～III の3式に分類編年されている。（註4）

そのうち、浄土江 I 式の指標である202、204号住居からは口縁部がやや長く「く」の字に開く、タタキ調整を施した土師器甕、小型丸底壺、6世紀前葉の須恵器等が出土しており、大町遺跡に先行する。

浄土江 I 式は6世紀前葉～後葉に比定されているが、資料の希薄な I 式の後半を大町遺跡の竪穴住居出土土器が埋めると考えられる。また、次の浄土江 II 式段階（7世紀前葉～中葉）に相当する資料も今回の調査で追加されており、新たに資料に加わった須恵器、土師器や、竈の出現年代の上昇等も含め、編年の細分化が必要となろう。

宮崎平野部の同時期の集落として、高鍋町の上ノ別府遺跡、新富町の藤掛遺跡、上園遺跡、宮崎市の源藤遺跡、竹之下遺跡、多宝寺遺跡等があり、今後はこれらの資料を検討、吟味し、宮崎平野部の土師器編年の確立が望まれる。

【参考文献】

（註1）『浄土江遺跡』宮崎市文化財調査報告書第6集 宮崎市教育委員会 1981

（註2）1996（平成8）年調査。3軒の竪穴住居が検出され、いずれも住居北壁から、屋外に煙道が伸びるタイプの竈をもつ。

（註3）中村 浩 『和泉陶邑窯の研究』 1981

（註4）野間重孝 「浄土江遺跡における土師式土器の編年的試論」『宮崎考古』7号 1981

竪穴住居一覽表 1

住居 No.	規模 () は現存長(m)	平面形	住居方位	埋甕	竈	竈方位	柱数	備考
1号竪穴住居	5.4 × 6.0	長台形	N 35° E	○	—	—	4	
2号竪穴住居	(6.1) × 5.0	長方形	N 6° E	○	—	—	4	
3号竪穴住居	5.7 × 5.9	方形	N 36° W	○	—	—	4	住4と重複
4号竪穴住居	5.9 × 6.5	長方形	N 27° E	○?	—	—	4	住3、57と重複
5号竪穴住居	(5.3) × 5.5	方形	N 11° E	○	—	—	4	
6号竪穴住居	5.3 × 5.3	正方形	N 1° W	○?	—	—	4	
7号竪穴住居	5.3 × 5.6	長方形	N 28° E	—	○	N 37° E	4	
8号竪穴住居	7.2 × 7.0	方形	N 1° E	○	—	—	6	
9号竪穴住居	(4.1) × 5.5	—	N 3° W	○	○	N 82° E	?	
10号竪穴住居	(4.5) × (2.7)	—	N 22° W				?	住11と重複
11号竪穴住居	(3.2) ×	—	N 50° E				?	住10と重複
12号竪穴住居	6.2 × 5.6	長方形	N 12° E	—	—	—	4	
13号竪穴住居	5.3 × 6.7	長方形	N 4° E	○2	—	—	4	住14と重複
14号竪穴住居	4.5 × 4.7	方形	N 20° W	—	○	N 13° W	?	住13と重複
15号竪穴住居	6.4 × 5.9	方形	N 47° E	—	—	—	?	
16号竪穴住居	5.1 × 5.2	方形	N 11° W	○	○	S 8° E	6	
17号竪穴住居	4.7 × 4.7	正方形	N 21° W	○	—	—	4	住60と重複
18号竪穴住居	6.3 × (5.2)	—	N 19° W	○	○	N 12° W	4	住19と重複
19号竪穴住居	(4.8) × (3.2)	—	N 4° W	—	—	—	?	住18と重複
20号竪穴住居	5.5 × 5.4	方形	N 22° W	○	○	N 12° W	?	住21と重複
21号竪穴住居	(2.0) × 3.1	—	N 6° W	—	—	—	—	住20と重複
22号竪穴住居	(4.5) × (4.0)	—	N 7° W	○	○	N 2° E	4	
23号竪穴住居	(4.4) × (5.3)	—	N 4° E				?	
24号竪穴住居	(3.1) × 6.3	—	N 1° E				?	住25と重複
25号竪穴住居	(4.6) ×	—	N 21° W	○	—	—	?	住24、26と重複
26号竪穴住居	7.9 × (6.5)	長方形	N 3° W	○	—	—	4	住25、27と重複
27号竪穴住居	(4.2) × (2.0)	—	N 10° W	—	○	N 9° W	4	住20、26と重複
28号竪穴住居	(4.8) × 5.6	—	N 7° E	—	○	N 2° W	4?	住62と重複
29号竪穴住居	3.0 × 4.1	長方形	N 2° E	—	—	—	—	住30と重複
30号竪穴住居	(5.2) × 5.8	—	N 3° E	—	—	—	4	住29、32と重複
31号竪穴住居	(1.2) × 3.5	—	N 3° W	○			?	
32号竪穴住居	(0.7) × 4.6	—	N 1° E				?	住30と重複

竪穴住居一覽表 2

住居 No.	規模 () は現存長(m)	平面形	住居方位	埋甕	竈	竈方位	柱数	備考
33号竪穴住居	1.2 × 5.2	—	N 7° E				?	
34号竪穴住居	(4.3) × 5.1	—	N 9° E	○			4	
35号竪穴住居	4.7 × (1.8)	—	N 22° E		○	N 20° E	4?	
36号竪穴住居	(5.5) × 8.0	—	N 4° W	?			6	
37号竪穴住居	(4.2) × (2.8)	—	N 34° E				4?	
38号竪穴住居	5.2 × 4.5	長方形	N 3° E	○	—	—	4	
39号竪穴住居	6.0 × 7.5	長台形	N 35° E	—	—	—	4	
40号竪穴住居	(2.6) × (0.8)	—	N 23° E				4?	
41号竪穴住居	6.8 × (4.9)	—	N 9° E	○	○	S 86° E	4	
42号竪穴住居	5.4 × 5.8	方形	N 2° W	—	—	—	4	
43号竪穴住居	(4.7) × 4.2	長方形	N 1° W	○?	○	N 8° E	4	
44号竪穴住居	4.0 × (3.8)	不整形	N 8° E	○	—	—	2	
45号竪穴住居	(2.6) × 4.4	—	N 3° E	—	○	N 5° E	4	住46と重複
46号竪穴住居	7.6 × 9.2	長方形	N 8° E	○	—	—	6	住45、47と重複
47号竪穴住居	(2.0) × 5.0	—	N 13° W	○	—	—	?	住46と重複
48号竪穴住居	(1.6) × 6.5	—	N 10° E		○	N 82° E	4?	
49号竪穴住居	3.4 × 3.1	方形	N 5° E	—	—	—	?	住63と重複
50号竪穴住居	(2.7) × (1.8)	—	N 11° W	—	—	—	?	住51、63と重複
51号竪穴住居	5.3 × (3.3)	—	N 14° E	—	—	—	?	住50、63と重複
52号竪穴住居	5.1 × 4.9	方形	N 4° E	○	○	S 4° E	4	住63と重複
53号竪穴住居	6.3 × 6.8	長方形	N 5° E	—	—	—	4	
54号竪穴住居	5.2 × (1.8)	—	N 15° E				4?	
55号竪穴住居	(4.6) × (1.4)	—	N 5° W				4?	
56号竪穴住居	6.0 × (4.4)	—	N 23° E	—	—	—	?	
57号竪穴住居	3.6 ×	—		—	○	—	?	住4と重複
58号竪穴住居	2.3 × 3.0	長方形	N 10° E	—	—	—	—	
59号竪穴住居	2.4 × 4.2	長方形	N 17° E	?	—	—	—	
60号竪穴住居	2.7 × 4.0	長方形	N 12° E	—	—	—	?	住17と重複
61号竪穴住居	(3.8) × (3.0)	台形	N 52° W	—	—	—	?	
62号竪穴住居	3.2 × 2.9	方形	N 18° E	○	—	—	?	住28と重複
63号竪穴住居	2.3 × (3.6)	長方形	N 13° E	—	—	—	?	住49~52と重複

出土遺物観察表 1

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
1	1号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 明黄褐色 内- 橙色	0.1~2mmの透明、乳白色の粒、0.5~5mmの砂粒、砂礫を多く含む	
2	1号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 明黄褐色 内- 橙色	0.5~5mmの砂粒、砂礫を多く含む	
3	1号竪穴住居	土師器	口径(16.2)	ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 明黄褐色 内- 橙色	0.5mm以下の砂粒を多く含む	
4	1号竪穴住居	土師器 壺		ナデ	ハケ後ナデ	外- にい橙色 内- にい橙色	0.5~4mmの砂粒、砂礫を多く含む	
5	1号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 褐色	微細な透明な粒子、0.3mm以下の砂粒を多く含む	木葉底
6	1号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 橙色	微細な透明な粒子、0.3mm以下の砂粒を多く含む	木葉底
7	1号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 灰黄褐色	0.1~0.5mmの透明、黒色の粒 0.5~7mmの砂粒、砂礫を多く含む	木葉底
8	1号竪穴住居	土師器 高坏		ハラミガキ	ナデ	外- にい橙色 内- にい橙色	砂粒を多量に含む	
9	1号竪穴住居	土師器 高坏		ハラミガキ	ナデ	外- 赤褐色 内- 黒色	1mm以下の砂粒を含む	
10	1号竪穴住居	土師器 椀	器高 8.3	ハラミガキ	ハラミガキ ヨコナデ	外- 橙色 内- 明赤褐色	0.1~2mmの透明、黒色の粒、0.5~4mmの砂粒、砂礫を含む	
11	1号竪穴住居	土師器 椀	口径 13.8	ハラミガキ	ハラミガキ	外- 橙色 内- にい橙色	0.1~3mmの透明の粒 0.1~4mmの砂粒、砂礫を多く含む	
12	1号竪穴住居	土師器 壺		ナデ	ナデ	外- 暗赤色 内- 暗赤灰色	砂礫を多く含む	網目状の刻目突帯
13	1号竪穴住居	須恵器 坏蓋		ハラケズリ ナデ	ナデ	外- 暗灰色 内- 青灰色	2mm以下の砂粒を含む	
14	1号竪穴住居	須恵器 坏蓋	器高 4.6	ハラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 青灰色	2mm以下の砂粒を少量含む	
15	1号竪穴住居	須恵器 坏身		ハラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰リブ色 内- 青灰色	2.5mm以下の砂粒を含む	
16	1号竪穴住居	須恵器 坏身		ハラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰白色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	
17	2号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ ナデ	外- 橙色 内- 明赤褐色	0.1~2.5mmの透明の粒、0.5~5mmの砂粒、砂礫を含む	埋甕
18	2号竪穴住居	土師器 甕	器高 30.2	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	0.1~1mmの透明、黒色の粒 0.5~9mmの砂粒、砂礫を含む	
19	2号竪穴住居	土師器 鉢	器高 13.7	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- にい黄褐色 内- 橙色	0.5mm以下の砂粒を多く含む	
20	2号竪穴住居	土師器 椀	器高 10.5	ハラミガキ	ハラミガキ	外- 橙色 内- 橙色	0.6mm以下の砂粒を含む	
21	2号竪穴住居	土師器 椀	器高 5.5	ナデ ユビオサエ	ナデ	外- 橙色 内- 浅黄褐色	0.2mm以下の砂粒を多く含む	
22	2号竪穴住居	須恵器 坏蓋		ハラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	0.1~1mmの透明の粒、0.1~2mmの砂粒を含む	
23	3号竪穴住居	土師器 甕		ハケ ナデ ユビオサエ	ハケ後ナデ	外- 浅黄褐色 内- 明黄褐色	0.1~2.0mmの透明の粒、0.5~5.5mmの砂粒、砂礫を含む	埋甕
24	3号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 浅黄褐色 内- 黄褐色	5mmの砂粒、砂礫を多く含む	
25	4号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 灰色	0.5~7mmの砂粒、砂礫を多く含む	木葉底
26	4号竪穴住居	土師器 高坏	口径(16.0)	ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	0.1~2mmの砂粒を含む	
27	4号竪穴住居	土師器 高坏		ハラミガキ	ナデ	外- 橙色 内- にい橙色	0.1~2mmの砂粒を含む	
28	4号竪穴住居	土師器 鉢		ハラミガキ	ハラミガキ	外- 橙色 内- 橙色	0.1~2mmの砂粒を含む	
29	4号竪穴住居	須恵器 坏蓋	口径 14.7 器高 4.0	ハラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	0.1~5mmの砂粒、砂礫を含む	
30	4号竪穴住居	須恵器 坏蓋		ハラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	
31	4号竪穴住居	須恵器 坏蓋	器高 (4.4)	ハラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	2mm以下の砂粒を含む	
32	4号竪穴住居	須恵器 坏蓋	器高 (3.3)	ハラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	1mm以下の砂粒を含む	
33	5号竪穴住居	土師器 甕		ナデ 擦痕	ナデ	外- 明黄褐色 内- 橙色	0.5mm以下の砂粒を多く含む	埋甕
34	5号竪穴住居	土師器 高坏	口径 19.0	ハラミガキ ヨコナデ	ハラミガキ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂粒を含む	
35	5号竪穴住居	土師器 高坏		ミガキ ヨコナデ	ナデ	外- にい橙色 内- 橙色	6mm以下の砂礫、砂粒を含む	

出土遺物観察表 2

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
36	5号竪穴住居	土師器 高坏		ナデ	ナデ	外- 内- におい オレンジ色 オレンジ色	砂粒を多く含む	
37	5号竪穴住居 1号地下式横穴	土師器 椀	口径 8.9 器高 3.3	ナデ	ナデ ヨコナデ	外- 黄 内- 黄 オレンジ色 オレンジ色	3mm以下の砂礫、砂粒を多く含む 透明、乳白色の微細な粒を少量含む	完形 底部にヘラ記号
38	5号竪穴住居 1号地下式横穴	須恵器 坏身	口径 10.1 器高 4.0	ナデ	ナデ ヨコナデ	外- 青 内- 青 灰色 灰色	0.5~4mmの砂粒、砂礫を多く含む	完形
39	5号竪穴住居 2号地下式横穴	土師器 椀	口径 7.7 器高 5.4	ヘラミガキ ナデ	ナデ	外- 橙 内- 橙 色 色	2mm以下の砂粒を含む	完形 木葉底
40	5号竪穴住居 2号地下式横穴	須恵器 坏蓋	口径 7.7 器高 3.0	ナデ	ナデ	外- 暗 内- 青 青灰色 灰色	2mm以下の砂粒を含む	完形 宝珠つまみ
41	5号竪穴住居 3号地下式横穴	須恵器 坏蓋	口径 11.1 器高 3.7	ナデ	ナデ	外- 灰 内- 灰 色 灰色	2.5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	完形 42とセット
42	5号竪穴住居 3号地下式横穴	須恵器 坏身	口径 10.0 器高 3.4	ヘラ刈後ナ ナデ	ナデ	外- 青 内- 灰 灰色 色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	完形 41とセット
43	5号竪穴住居 3号地下式横穴	須恵器 坏身		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰 内- 灰 白色 白色	細砂粒を含む	
44	6号竪穴住居	土師器 甕	口径 17.5 器高 29.5	ヘラ後ナ ヨコナデ	ナデ ユビオサエ	外- 赤 内- 赤 褐色 褐色	1~6mmの砂礫、1mm以下の砂粒を多く含む	完形
45	6号竪穴住居	土師器 甕	口径 15.2 器高 31.2	ナデ 擦痕	ナデ ナデ	外- 赤 内- 赤 褐色 褐色	0.6mm以下の砂粒を多く含む	
46	6号竪穴住居	土師器 甕	口径 29.0	ヘラ後ナ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 赤 内- 赤 褐色 褐色	2~6mmの砂礫、1mm以下の砂粒を多く含む	
47	6号竪穴住居	土師器 甕	口径 15.8 器高 22.0	ヘラ後ナ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙 内- 褐 色 色	0.1~1mmの透明な粒子 0.5~8mmの砂粒、砂礫を多く含む	ほぼ完形
48	6号竪穴住居	土師器 甕		ヘラ後ナ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 赤 内- 橙 褐色 色	1~6mmの砂礫、1mm前後の砂粒を多く含む	
49	6号竪穴住居	土師器 甕		ナデ 擦痕	ナデ ヨコナデ	外- 明 内- 赤 赤褐色 褐色	2~6.5mmの砂礫、1mm前後の砂粒、 透明な粒子を多く含む	
50	6号竪穴住居	土師器 甕	口径 15.6	ヘラ後ナ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- におい 内- におい オレンジ色 オレンジ色	砂礫、砂粒を多く含む	
51	6号竪穴住居	土師器 甕	口径 26.7 器高 29.7	ヘラ後ナ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- におい 内- におい オレンジ色 オレンジ色	砂礫、砂粒を多く含む	
52	6号竪穴住居	土師器 甕	口径 26.8 器高 28.5	ヘラ後ナ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- におい 内- におい オレンジ色 オレンジ色	3~8mmの砂礫、1mm以下の砂粒を多く含む	ほぼ完形
53	6号竪穴住居	土師器 甕	口径 25.0	ヘラ後ナ ナデ	ナデ	外- 赤 内- 橙 褐色 色	1~6mmの砂礫、1mm以下の砂粒を多く含む	
54	6号竪穴住居	土師器 甕		ヘラ後ナ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 明 内- 赤 赤褐色 褐色	1~5mmの砂礫、1mm前後の透明な粒子を多く含む	
55	6号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- におい 内- におい オレンジ色 オレンジ色	砂礫、砂粒を多く含む	
56	6号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ユビオサエ	ナデ ヨコナデ	外- 橙 内- におい 色 オレンジ色	2~6mmの砂礫、1mm以下の透明の粒を多く含む	
57	6号竪穴住居	土師器 甕		ヘラ後ナ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 赤 内- 赤 褐色 褐色	0.5~5mmの砂粒、砂礫を多く含む	
58	6号竪穴住居	土師器 甕	口径 13.6	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 明 内- におい 赤褐色 オレンジ色	0.4mm以下の砂粒、微細な透明の粒子を多く含む	
59	6号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- におい 内- におい 黄褐色 黄褐色	0.1~1mmの透明の粒、 0.5~7mmの砂粒、砂礫を多く含む	
60	6号竪穴住居	土師器 甕		ナデ 擦痕	ナデ	外- 明 内- 灰 黄褐色 褐色	5mm以下の砂粒、砂礫を多く含む	
61	6号竪穴住居	土師器 甕		ナデ 擦痕	ケズリ	外- におい 内- におい 褐色 褐色	5mm以下の砂粒、砂礫を含み、微細な透明の粒子を少量含む	
62	6号竪穴住居	土師器 甕		ヘラ後ナ ナデ	ナデ	外- におい 内- におい オレンジ色 オレンジ色	5mm以下の砂粒、砂礫を多く含む	
63	6号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 浅 内- におい 黄褐色 黄褐色	0.1~0.2mmの透明の粒、 0.5~5mmの砂粒、砂礫を多く含む	木葉底
64	6号竪穴住居	土師器 椀	口径 12.8 器高 9.5	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙 内- 明 赤褐色 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	完形
65	6号竪穴住居	土師器 高坏	口径 11.1 器高 8.5	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 明 内- 明 赤褐色 赤褐色	4~6mmの砂礫を少量含み、1mm以下の砂粒を多く含む	ほぼ完形
66	6号竪穴住居	土師器 坏蓋		ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 橙 内- におい 色 オレンジ色	砂粒、透明の粒を多く含む	
67	6号竪穴住居	土師器 坏蓋	口径 (13.7)	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- におい 内- におい 黄褐色 黄褐色	砂粒を含む	
68	6号竪穴住居	須恵器 坏蓋	口径 13.8 器高 4.1	ヘラケズリ ナデ	ヘラケズリ ナデ	外- 灰 内- 灰 色 色	1.5~8mmの砂粒、砂礫を多く含む	
69	6号竪穴住居	須恵器 坏身	口径 12.0 器高 (3.8)	ヘラケズリ ナデ	ヘラケズリ ナデ	外- 青 内- 青 灰色 灰色	0.1~2mmの白色透明の粒及び砂粒を含む	
70	7号竪穴住居	土師器 甕	口径 14.7 器高 26.9	ヘラ後ナ ヨコナデ	ヘラ後ナ ヨコナデ	外- 赤 内- 明 褐色 赤褐色	2~7mmの砂礫、1mm以下の砂粒を多く含む	木葉底

出土遺物観察表 3

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
71	7号竪穴住居	土師器 甕	口径 18.1 器高 24.8	ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- におい 橙色 内- におい 褐色	1~8mmの砂礫、砂粒を多く含む	ほぼ完形
72	7号竪穴住居	土師器 甕	口径 17.2 器高 18.1	ヘラナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 赤褐色 内- 明赤褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
73	7号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- におい 褐色	9mm以下の砂礫を多く含む	
74	7号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- におい 橙色 内- 橙色	0.1~1mmの透明の粒を含み、 0.5~6mmの砂粒、砂礫を多く含む	
75	7号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- におい 黄橙色 内- 橙色	0.1~1mmの透明の粒を含み、 0.5~5mmの砂粒、砂礫を多く含む	
76	7号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ナデ ヨコナデ	外- におい 黄橙色 内- 灰黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含み、 白色透明の粒を少量含む	
77	7号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 浅黄色 内- 黒色	7mm以下の砂礫、砂粒を含み、微細 な白色透明の粒も含む	底部に線刻
78	7号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ユビオサエ	ナデ	外- 橙色 内- 浅黄橙色	0.1~2mmの透明の粒及び、0.5~6mm の砂粒、砂礫を含む	
79	7号竪穴住居	土師器 高坏	口径 15.2	ナデ	ヘラミガキ	外- 浅黄橙色 内- 浅黄橙色	1mm以下の砂粒を含む	
80	7号竪穴住居	土師器 高坏		ナデ	ナデ	外- 浅黄色 内- 浅黄色	5mm以下の砂粒、微細な白色の粒を 少量含む	
81	7号竪穴住居	土師器 高坏		ヘラミガキ	ナデ	外- 明黄褐色 内- 明黄褐色	2mm以下の砂粒を含み、微細な白色 透明の粒を少量含む	
82	7号竪穴住居	土師器 高坏		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	0.1~1mmの透明の粒及び、0.1~2mm の砂粒を含む	
83	7号竪穴住居	土師器 碗		ナデ	ナデ	外- 浅黄橙色 内- 浅黄橙色	0.1~1mmの透明の粒及び、0.5mmの 砂粒、砂礫を含む	
84	7号竪穴住居	土師器 坏蓋		ヘラミガキ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂粒を少量含む	
85	7号竪穴住居	土師器 坏蓋		ハケ後 ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂粒を少量含む	
86	7号竪穴住居	土師器 坏身		ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 橙色 内- 褐色	砂礫を少量含み、砂粒を多く含む	
87	7号竪穴住居	須恵器 坏蓋	口径 14.0 器高 3.8	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰褐色 内- 灰褐色	0.5mm以下の砂粒を多く含む	天井部にヘラ記号
88	7号竪穴住居	須恵器 坏蓋	器高 4.0	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 初ア黒色 内- 灰色	0.6mm以下の砂粒を含む	
89	7号竪穴住居	須恵器 坏身	口径 12.9 器高 4.2	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	0.1~7.0mmの白色透明及び、白色の 粒を含む	
90	7号竪穴住居	須恵器 高坏		ナデ	ナデ	外- 黒褐色 内- 灰白色	0.1~2.0mmの透明の粒及び、 0.5~2.5mmの砂粒を含む	
91	7号竪穴住居	土製 支脚	長さ 8.3 幅 3.8	ナデ	ヨコナデ	外- 橙色 内-	0.1mm程の透明の粒及び、0.5mm~ 5mmの砂粒、砂礫を多く含む	
92	8号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ ヨコナデ	外- 浅黄色 内- 浅黄色	5mm以下の砂粒、砂礫を多く含み、 2mm以下の乳白色の粒を少量含む	埋甕
93	8号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ナデ	外- 灰黄褐色 内- 灰黄褐色	5mm以下の砂粒、砂礫を多く含む	底部に線刻
94	8号竪穴住居	土師器 鉢		ナデ	ハケ後ナデ	外- 明黄褐色 内- 黄橙色	0.1~2.0mmの透明の粒 0.5~8.0mmの砂粒、砂礫を含む	
95	8号竪穴住居	土師器 台付鉢	器高 14.1	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 明赤褐色 内- 明赤褐色	黒色白色透明の粒を少量含む	
96	8号竪穴住居	土師器 高坏		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	0.1~2.0mmの黒色透明の粒 2mm程度の砂粒を含む	
97	8号竪穴住居	須恵器 坏蓋	器高 3.9	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	6mm以下の砂粒、砂礫を含む	天井部にヘラ記号
98	8号竪穴住居	須恵器 坏蓋		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰褐色 内- 灰褐色	2.5mm以下の砂粒、砂礫を少量含む	
99	8号竪穴住居	須恵器 坏身		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	3.5mm以下の砂粒、砂礫を少量含む	
100	8号竪穴住居	須恵器 坏身	口径 (11.4)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰白色 内- 浅黄橙色	2~4mmの砂粒を少量含む	
101	8号竪穴住居	須恵器 高坏		ナデ	ナデ	外- 暗青灰色 内- 暗青灰色	1mm以下の白色黒色透明の粒、0.5~ 2mmの砂粒を含む	長方形の透かし孔 3箇所
102	9号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 淡黄色 内- 黄灰色	5mm以下の砂粒、砂礫を多く含む	埋甕
103	9号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ユビオサエ	ナデ	外- 淡黄色 内- 黄灰色	5mm以下の砂粒、砂礫を含む	
104	9号竪穴住居	須恵器 高坏		ナデ	ナデ	外- 暗青灰色 内- 暗青灰色	0.5~2mmの白色透明、乳白色の粒を 含む	径1cmの穿孔有り
105	9号竪穴住居	須恵器 坏蓋		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	砂粒を含む	

出土遺物観察表 4

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
106	10号竪穴住居	弥生土器 甕		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 灰白色	0.1~3.5mmの金色、透明の粒、0.5~2mmの砂粒を含む	突帯有り
107	10号竪穴住居	弥生土器 甕		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	2mmの以下の砂粒を多く含む	
108	10号竪穴住居	弥生土器 甕		ナデ	ナデ	外- にい黄橙色 内- にい黄橙色	0.1~1mmの透明、黒色の粒及び、0.5~4.5mmの砂粒、砂礫を含む	
109	11号竪穴住居	須恵器 坏蓋	口径 10.0 器高 3.1	ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	0.1mm程度の透明の粒及び、0.5~3.5mmの砂粒、砂礫を含む	宝珠つまみ
110	12号竪穴住居	土師器 甕	口径 18.2 器高 19.4	ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 明赤褐色 内- 明赤褐色	5mmの以下の砂礫、砂粒を多く含む	
111	12号竪穴住居	土師器 甕	口径 14.8	ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- にい黄橙色 内- にい黄橙色	5mmの以下の砂礫、砂粒を多く含む	
112	12号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- にい黄橙色 内- にい黄橙色	3mmの以下の砂礫、砂粒を多く含む	
113	12号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- にい黄橙色 内- にい黄橙色	8mmの以下の砂礫、砂粒を多く含む	
114	12号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 灰黄褐色 内- にい黄橙色	0.1~1mmの透明の粒及び、1~5.5mmの砂粒、砂礫を多く含む	
115	12号竪穴住居	土師器 甕	口径 (16.0)	ハケ後ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	外- にい橙色 内- にい橙色	砂礫、砂粒を多く含む	
116	12号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	外- にい橙色 内- にい黄橙色	4mmの以下の砂礫、砂粒を含む	
117	12号竪穴住居	土師器 甕	口径 16.8	ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- にい橙色 内- にい橙色	砂礫、砂粒を多く含む	
118	12号竪穴住居	土師器 甕	口径 17.5	ハケ後ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	8mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
119	12号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ ミガキ	ナデ ヨコナデ	外- にい黄褐色 内- にい黄褐色	7mmの以下の砂礫、砂粒を多く含む	
120	12号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ナデ	外- 灰黄褐色 内- にい黄褐色	5mmの以下の砂礫、砂粒を多く含む	木葉底
121	12号竪穴住居	土師器 甕		ヘラナデ	ナデ	外- にい橙色 内- にい黄褐色	5mmの以下の砂礫、砂粒を多く含む	
122	12号竪穴住居	土師器 甕?		ミガキ ナデ	ミガキ	外- にい橙色 内- 明褐色	4mm程度の砂礫、黒色透明の細粒を多く含む	
123	12号竪穴住居	土師器 壺	口径 19.2 器高 32.5	ヘラミガキ ナデ	ナデ	外- にい橙色 内- にい橙色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む、透明、黒色透明の粒も含む	
124	12号竪穴住居	土師器 壺		ハケ後ナデ	ナデ	外- 明赤褐色 内- 明赤褐色	3~8mmの砂礫を含む	
125	12号竪穴住居	土師器 壺		ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 淡黄色	2mm以下の砂粒を多く含む、3~4mmの砂礫を少量含む	
126	12号竪穴住居	土師器 高坏		ヘラミガキ ハケ	ナデ	外- にい黄褐色 内- にい黄褐色	1mm以下の砂粒を少量含む	
127	12号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ ユビオサエ	外- 黄褐色 内- にい黄褐色	5mmの以下の砂礫、砂粒を多く含む	
128	12号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- にい赤褐色 内- にい赤褐色	5mmの以下の砂礫、砂粒を多く含む	
129	12号竪穴住居	土師器 坏蓋	口径 15.7 器高 4.3	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 橙色 内- 浅黄褐色	1mm以下の砂粒を多く含む、5mm以下の砂礫を少量含む	完形
130	12号竪穴住居	土師器 坏蓋		ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- にい橙色 内- にい橙色	4mm程の砂礫、細砂粒を含む	
131	12号竪穴住居	土師器 坏蓋	器高 4.8	ヘラミガキ ヨコナデ	ナデ	外- 明赤褐色 内- 橙色	9mm以下の砂礫、砂粒及び、白色、黒色透明の粒を含む	
132	12号竪穴住居	土師器 坏身	口径 12.6 器高 5.0	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 橙色 内- にい黄褐色	砂礫を少量含む、砂粒、細砂粒を含む	
133	12号竪穴住居	土師器 坏身	口径 12.4 器高 (5.4)	ナデ ユビオサエ	ナデ	外- にい橙色 内- にい橙色	3mm程の砂礫を含む	
134	12号竪穴住居	土師器 碗		ヘラミガキ	ナデ	外- にい橙色 内- にい黄褐色	細砂粒を含み、透明な粒を多く含む	
135	12号竪穴住居	須恵器 坏蓋	口径 14.3 器高 4.0	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	0.5~3.5mmの白色透明の粒を含み、砂粒、砂礫を多く含む	天井部にヘラ記号
136	12号竪穴住居	須恵器 坏蓋		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 暗灰色 内- 灰色	4mm以下の砂礫、砂粒を少量含む	
137	12号竪穴住居	須恵器 坏蓋		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 灰褐色	1mm以下の砂粒、2~4mmの砂礫を少量含む	口縁部に刻目
138	12号竪穴住居	須恵器 坏身	口径 13.0 器高 4.3	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰白色 内- 灰白色	6.5mm以下の乳白色の礫を少量含む、砂粒を多く含む	完形
139	12号竪穴住居	須恵器 坏蓋		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰黄色 内- 灰黄色	1mm以下の砂粒を含む	
140	13号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ハケ後ナデ	外- 明黄褐色 内- 明黄褐色	5mmの以下の砂礫、砂粒を多く含む	埋甕

出土遺物観察表 5

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
141	13号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 明黄褐色 内- 浅黄褐色	5mm以下の砂粒、砂礫を多く含む	埋甕
142	13号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 橙色	0.1~2mmの透明、黒色透明の粒 0.5~6mmの砂粒、砂礫を含む	
143	13号竪穴住居	土師器 坏蓋		ナデ	ヘラミガキ	外- 橙色 内- 橙色	0.1~1mmの透明、黒色透明の粒 0.5~3.5mmの砂粒、砂礫を含む	
144	13号竪穴住居	須恵器 甕		ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	2mm以下の砂粒を少量含む	
145	14号竪穴住居	土師器 甕	器高 29.2	ナデ	ハケ後ナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	0.1~2.5mmの透明、黒、白色透明の 粒、0.5~3.5mmの砂粒、砂礫を含む	底付近に径0.6mm の穿孔2個有り
146	14号竪穴住居	土師器 鉢	口径 15.0 器高 6.4	ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	
147	14号竪穴住居	須恵器 坏身	口径 12.7	ナデ	風化の為、 不明	外- 灰白色 内- 青灰色	0.1~3mmの砂粒及び、白色、黒色透 明の粒を含む	
148	14号竪穴住居	須恵器 高坏		ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	2mm未満の砂粒、砂礫を含む	
149	15号竪穴住居	土師器 甕	器高 20.4	ハケ後ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	3mm以下の砂粒、砂礫多く含む	
150	15号竪穴住居	土師器 甕	口径 18.1	ハケ後ナデ ヨコナデ	ユビオサエ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂粒、砂礫を多く含む	
151	15号竪穴住居	土師器 甕	口径 18.0	ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂粒、砂礫を多く含む	
152	15号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	7mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
153	15号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
154	15号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
155	15号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 明黄褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
156	15号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 灰黄褐色 内- 灰黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
157	15号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 灰黄褐色 内- 浅黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	木葉底 156の底部
158	15号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 灰褐色	砂礫、砂粒を多く含む	底部に線刻
159	15号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ヘラミガキ	外- 褐色 内- 黒褐色	砂礫を少量、砂粒を多く含む	
160	15号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 黄褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を含む	木葉底
161	15号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	木葉底
162	15号竪穴住居	土師器 壺		ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
163	15号竪穴住居	土師器 甕	器高 24.3	ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	6mm以下の砂粒を多く含む	
164	15号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
165	15号竪穴住居	土師器 小形甕		ミガキ ヨコナデ ユビオサエ	ユビオサエ ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
166	15号竪穴住居	土師器 高坏		ヘラナデ	ナデ	外- 赤褐色 内- 褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
167	15号竪穴住居	土師器 甕	器高 6.4	ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
168	15号竪穴住居	土師器 坏蓋		ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- 褐色 内- 褐色	2mm以下の砂礫、砂粒を含む	
169	15号竪穴住居	土師器 坏蓋		ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	1mm以下の砂粒を含む	
170	15号竪穴住居	須恵器 坏蓋	器高 4.1	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 黒色 内- 灰色	4mm程度の礫を少量含み、砂粒を多 く含む	口縁部外面に刻目 天井部にヘラ記号
171	15号竪穴住居	須恵器 坏蓋	器高 (3.7)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 暗青灰色 内- 暗青灰色	0.1mm程度の透明の粒及び、0.5~4. 5mmの砂粒、砂礫を含む	
172	15号竪穴住居	須恵器 坏身	口径 13.7 器高 4.5	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	0.5~4mm程度の白色透明の粒、砂 粒、砂礫を含む	底部にヘラ記号
173	15号竪穴住居	須恵器 坏身		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰黄色 内- 紫灰色	0.1~1mmの透明の粒、0.5~2mmの砂 粒を含む	
174	15号竪穴住居	須恵器 坏身	器高 4.0	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	砂粒を多く含む	
175	15号竪穴住居	須恵器 坏身	器高 3.7	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	砂粒を多く含む	底部にヘラ記号

出土遺物観察表 6

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
176	15号竪穴住居	須恵器 坏身	器高 3.6	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	砂粒を多く含む	
177	16号竪穴住居	土師器 甕	口径 18.7	ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
178	16号竪穴住居	土師器 甕	口径 18.7	ハケ後ナデ ミガキ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 明褐色 内- 橙色	砂粒、砂礫を多く含む	
179	16号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂礫を少量含み、砂粒を多く含む	
180	16号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 灰色 内- 灰黄色	2mm以下の砂粒を少量含む	
181	16号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 灰褐色 内- 灰褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
182	16号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 褐色 内- 褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	177と同一個体 底部に線刻
183	16号竪穴住居	土師器 鉢	器高 12.5	ナデ	ナデ	外- 淡黄色 内- 淡黄色	10mm以下の砂礫、砂粒を含む	
184	16号竪穴住居	土師器 高坏	口径 16.7 器高 13.1	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 浅黄褐色 内- 橙色	1mm以下の白色の粒を少量含む	
185	16号竪穴住居	土師器 高坏		ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ ナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂粒を多く含む	
186	17号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ナデ ヨコナデ ユビオサエ	外- 淡黄色 内- 淡黄色	12mm以下の砂礫を多く含む	埋甕
187	17号竪穴住居	土師器 甕		ミガキ	ミガキ	外- 橙色 内- 橙色	細砂粒を含む	
188	17号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
189	18号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
190	18号竪穴住居	土師器 甕		ヨコナデ	ハケ後ナデ	外- 褐色 内- 黄褐色	5mm前後の砂礫を多く含み、砂粒は少ない	
191	18号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を含む	
192	18号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ 擦痕	ナデ ヨコナデ	外- 灰黄褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
193	18号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ヨコナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を含む	牛角把手付
194	18号竪穴住居	土師器 高坏		ヘラミガキ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を含み、透明な粒も微量含まれる	
195	18号竪穴住居	土師器 鉢	器高 9.0	ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	0.5~4mmの砂粒、砂礫を多く含む	
196	18号竪穴住居	土師器 椀	器高 5.1	ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	0.1~1mmの透明な粒、0.5~4.5mmの砂粒、砂礫を少量含む	
197	19号竪穴住居	土師器 椀	器高 5.0	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 褐色 内- 明赤褐色	1mm以下の砂粒及び、白色透明の粒を少量含む	
198	19号竪穴住居	土師器 椀	器高 4.0	ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- 褐色 内- 黄褐色	2mm以下の砂礫、砂粒を含む	
199	20号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ナデ	外- 黒褐色 内- 黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	埋甕
200	20号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	0.1~1mmの透明な粒及び、0.5~5mmの砂粒、砂礫を多く含む	199の底部 木葉底
201	20号竪穴住居	土師器 甕		粗いミガキ	ナデ	外- 褐色 内- 黒褐色	砂礫を少量、砂粒を多量に含む	
202	20号竪穴住居	土師器 壺	口径 14.6	ヘラミガキ ナデ	ナデ	外- 淡黄色 内- 浅黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
203	20号竪穴住居	土師器 高坏		粗いミガキ ナデ	ナデ ヨコナデ	外- 明黄褐色 内- 明黄褐色	1mm以下の砂粒を僅かに含む	
204	20号竪穴住居	土師器 高坏		ハケ後ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
205	20号竪穴住居	土師器 椀	器高 5.9	ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫をごく少量含み、砂粒を多く含む	木葉底
206	20号竪穴住居	土師器 椀		ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	0.1~1mmの透明の粒、0.5~4mmの砂礫、砂粒を含む	
207	20号竪穴住居	土師器 坏	口径 12.8 器高 4.0	ナデ ヨコナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂粒を多く含む	
208	20号竪穴住居	土師器 台付鉢?		ヘラナデ ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
209	21号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	木葉底
210	21号竪穴住居	土師器 椀	器高 6.2	ナデ	ミガキ	外- 褐色 内- 褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を含む	

出土遺物観察表 7

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
211	21号竪穴住居	須恵器壺		ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 青灰色	1mm以下の砂粒を含む	
212	22号竪穴住居	土師器甕		ハケ後ナデ 擦痕	ハケ後ナデ	外- 橙色 内- 灰褐色	1~5mmの砂礫、砂粒を多く含む	埋甕
213	22号竪穴住居	土師器甕	口径 17.9	ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 浅黄橙色 内- 浅黄橙色	5mm程度の砂礫を多く含む	
214	22号竪穴住居	土師器甕	口径 15.3	ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 黄橙色 内- 黄橙色	10mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
215	22号竪穴住居	土師器甕		ハケ後ナデ	ヨコナデ	外- 黄橙色 内- 黄橙色	5mm以下の砂礫、砂粒を含む	
216	22号竪穴住居	土師器壺		ヘラミガキ ヨコナデ	ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	5mm以下の砂礫、砂粒及び、白色透明の粒を含む	
217	22号竪穴住居	土師器高坏	口径(14.3) 器高 12.4	ヘラミガキ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	0.1~1mmの透明の粒、0.5~2mmの砂粒を多く含む	
218	22号竪穴住居	土師器高坏		粗いヘラミガキ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	2mm以下の砂粒を含む	
219	22号竪穴住居	土師器坏		ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- 黄橙色 内- 黄橙色	砂粒を僅かに含む	
220	22号竪穴住居	須恵器短頸壺		ナデ	ナデ	外- 暗青灰色 内- 灰色	0.1~1mmの白色の粒を含む	
221	24号竪穴住居	土師器甕		ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 浅黄橙色 内- 灰色	5mm以下の砂礫をやや多く含む	222、223と同一個体
222	24号竪穴住居	土師器甕		ハケ後ナデ	ナデ	外- 赤橙色 内- 灰色	6mm以下の砂礫を多量に含む	221、223と同一個体
223	24号竪穴住居	土師器甕		ハケ後ナデ	ナデ	外- 赤橙色 内- 灰色	5mm以下の砂礫を多量に含む	221、222と同一個体 木葉底
224	24号竪穴住居	土師器甕		ハケ後ナデ	ナデ	外- 黄橙色 内- 黄橙色	砂礫、砂粒を含む	
225	24号竪穴住居	土師器壺	口径 14.2		ナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂礫、砂粒を多く含む	貼付突帯
226	24号竪穴住居	土師器碗	口径 13.7 器高 7.3	ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ ナデ	外- 黄橙色 内- 黄橙色	砂礫、砂粒を含む	
227	24号竪穴住居	須恵器坏蓋	器高 3.9	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	0.5~2.5mm白色透明の粒及び、砂粒、砂礫を含む	
228	25号竪穴住居	土師器甕		ナデ	ナデ	外- 黄橙色 内- 黄橙色	砂礫、砂粒を多く含む	埋甕
229	25号竪穴住居	土師器壺		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	0.1~1mmの透明、黒色透明の粒 0.5~5mmの砂粒、砂礫を多く含む	
230	25号竪穴住居	須恵器坏身		ケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	0.1~1mmの砂粒、砂礫を含む	
231	26号竪穴住居	土師器甕		ナデ	ヨコナデ	外- 浅黄橙色 内- 浅黄橙色	8mmの以下の砂粒を多く含む	埋甕
232	26号竪穴住居	土師器甕		ナデ	ナデ	外- 浅黄橙色 内- 浅黄褐色	0.1~1mmの透明の粒を含み、 0.5~5mmの砂粒、砂礫を多く含む	浅い沈線状のへこみが廻る
233	26号竪穴住居	土師器高坏		ヘラミガキ	ナデ	外- 淡赤褐色 内- 浅黄褐色	0.1~1mmの透明の粒を含み、 0.5~2mmの砂粒を多く含む	
234	26号竪穴住居	土師器坏蓋		ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 浅黄褐色 内- 灰黄色	0.1~1mmの透明の粒 0.5~2mmの砂粒を含む	
235	26号竪穴住居	須恵器坏蓋		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 黒色 内- 灰色	砂粒を少量含み、細砂粒を多く含む	
236	26号竪穴住居	須恵器坏身	口径 10.0 器高 4.5	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 黄灰色	2.5mm以下の砂粒を含む	底部にヘラ記号
237	27号竪穴住居	土師器甕		ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	砂礫、砂粒を多く含む	埋甕
238	27号竪穴住居	土師器甕		ヨコナデ	ナデ	外- 淡黄色 内- 黒褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を含む	
239	27号竪穴住居	土師器高坏	器高 11.4	ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	
240	27号竪穴住居	土師器高坏		粗いヘラミガキ	ナデ	外- 黄褐色 内- 赤褐色	砂粒を少量含む	
241	27号竪穴住居	須恵器坏蓋		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 暗青灰色 内- 灰色	2mm以下の砂粒を含む	
242	28号竪穴住居	土師器甕		ナデ	ハケ後ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を含む	
243	28号竪穴住居	土師器壺		ナデ	ナデ	外- 明赤褐色 内- 明褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
244	28号竪穴住居	土師器鉢			ナデ	外- 橙色 内- 赤褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
245	62号竪穴住居	土師器甕	口径 15.0 器高 25.5	ナデ	ナデ 擦痕	外- 橙色 内- 黄褐色	0.1~2mmの透明、黒色透明の粒 0.5~3mmの砂粒、砂礫を多く含む	

出土遺物観察表 8

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
246	62号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- におい 内- におい オレンジ色	5mm以下の砂礫を少量含む	
247	30号竪穴住居	土師器	口径 17.6	ハケ後ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	外- 橙色 内- 褐灰色	0.1~2mmの透明、黒色透明の粒及び、0.5~5mmの砂粒、砂礫を含む	
248	30号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ	外- におい 内- におい オレンジ色	砂礫、砂粒を多く含む	
249	30号竪穴住居	土師器	口径 15.4	ハケ後ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	外- におい 内- 明褐灰色 オレンジ色	砂礫、砂粒を多く含む	
250	30号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- におい 内- におい オレンジ色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
251	30号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- におい 内- におい オレンジ色	砂礫、砂粒を多く含む	
252	30号竪穴住居	土師器		風化の為 不明	風化の為 不明	外- 淡 内- 浅 淡オレンジ色 黄オレンジ色	0.1~1mmの透明の粒及び、0.5~5.5mmの砂粒、砂礫を含む	
253	30号竪穴住居	土師器		ナデ	ヨコナデ	外- 赤 内- におい オレンジ色	0.1~1mmの透明の粒及び、0.5~6mmの砂粒、砂礫を含む	
254	30号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	0.1~1mmの透明の粒及び、0.5~6mmの砂粒、砂礫を含む	
255	30号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ナデ	外- におい 内- におい オレンジ色	透明の粒を少量含み、砂礫、砂粒を多く含む	
256	30号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 明 内- 明 黄褐色 赤褐色	0.1~1mmの透明、黒色透明の粒及び、0.5~5mmの砂粒、砂礫を含む	
257	30号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ナデ	外- におい 内- におい 黄オレンジ色 オレンジ色	0.1~2mmの透明、黒色透明の粒及び、0.3~4mmの砂粒、砂礫を含む	木葉底
258	30号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ナデ	外- 赤 内- におい オレンジ色	6mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
259	30号竪穴住居	土師器		ナデ	ハケ後ナデ	外- 橙色 内- 橙色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	木葉底
260	30号竪穴住居	土師器	口径 18.2	ヘラミガキ ヨコナデ	ナデ	外- 橙色 内- 淡黄色	0.1~2mmの透明の粒及び、0.5~6mmの砂粒、砂礫を多く含む	
261	30号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	微細な透明の粒及び、砂礫、砂粒を多く含む	貼付突帯
262	30号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 浅黄 オレンジ色	砂粒、砂礫を多く含む	
263	30号竪穴住居	土師器	器高 25.8	ナデ	ハケ後ナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂粒、砂礫を多く含む	
264	30号竪穴住居	土師器	器高 27.1	ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- におい 内- におい オレンジ色	6mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
265	30号竪穴住居	土師器	器高 23.5	ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	0.1~1.5mmの透明の粒及び、0.5~8mmの砂粒、砂礫を多く含む	
266	30号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ナデ	外- 赤 内- におい 褐色 オレンジ色	6.5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
267	30号竪穴住居	土師器	器高 11.0	ナデ ユビオサエ	ヘラミガキ	外- 橙色 内- 橙色	砂礫を少量、砂粒を多く含む	
268	30号竪穴住居	土師器	口径 13.2 器高 11.7	ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- におい 内- 灰黄色 オレンジ色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
269	30号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- 浅黄 内- 淡 オレンジ色 オレンジ色	0.1~2mmの透明、黒色、白色透明の粒及び、0.5~3mmの砂礫、砂粒を含む	
270	30号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	細砂粒を多く含む	
271	30号竪穴住居	土師器		ヘラミガキ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	0.1~1mmの透明の粒及び、0.5~1.5mmの砂粒を含む	
272	30号竪穴住居	土師器	口径 13.9 器高 4.5	ナデ	ナデ	外- におい 内- におい オレンジ色	砂粒を少量、細砂粒を多く含む	ほぼ完形
273	30号竪穴住居	須恵器	口径 14.8 器高 4.1	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰黄色 内- 灰黄色	7.5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
274	30号竪穴住居	須恵器	口径 12.9 器高 4.3	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	0.1~3mmの白色透明の粒及び、砂礫、砂粒を含む	ほぼ完形
275	31号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- におい 内- におい 黄オレンジ色 オレンジ色	砂礫を少量、砂粒を多く含む	埋甕 木葉底
276	31号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- におい 内- におい オレンジ色 黄オレンジ色	砂粒を多く含む	
277	31号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ナデ	外- におい 内- におい オレンジ色 黄オレンジ色	砂礫を少量、砂粒を多く含む	底部に線刻
278	32号竪穴住居	須恵器	器高 5.3	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	砂粒を少量含む	
279	33号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 褐灰色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
280	33号竪穴住居	土師器		ヨコナデ ユビオサエ	ヨコナデ	外- 橙色 内- におい オレンジ色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	

出土遺物観察表 9

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
281	33号竪穴住居	須恵器 甕		ナデ	ナデ 同心円文	外- 灰色 内- 灰色	細砂粒を多く含む	口縁部にヘラ記号
282	33号竪穴住居	須恵器 坏身		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 緑-灰色	8mm以下の砂礫、砂粒を少量含む	
283	33号竪穴住居	須恵器 壺		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	5mm以下の砂礫、砂粒を含む	
284	34号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	埋甕
285	34号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 灰黄色 内- 灰黄色	3mm前後の砂礫を多く含む	
286	34号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 褐色 内- 褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
287	35号竪穴住居	土師器 甕	口径 18.1	ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 褐色 内- 明赤褐色	8mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
288	35号竪穴住居	土師器 甕	口径 14.0 器高 17.2	ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 褐色 内- 褐色	8mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	ほぼ完形
289	35号竪穴住居	土師器 甕	口径 18.1	ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
290	35号竪穴住居	土師器 甕		ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ナデ	外- 明褐色 内- 褐色	7mm以下の砂礫及び、1mm以下の砂粒を含む	
291	35号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 赤褐色	7mm以下の砂礫、砂粒を含む	290の底部
292	36号竪穴住居	土師器 甕	器高 27.9	ヘラミガキ ハケ後ナデ	ナデ ヘラミガキ	外- 明赤褐色 内- 赤褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を含む	木葉底
293	36号竪穴住居	土師器 甕	器高 19.9	ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ	外- 褐色 内- 明赤褐色	0.1~1mmの透明、黒色透明の粒及び、0.5~8.5mmの砂粒、砂礫を多く含む	
294	36号竪穴住居	土師器 甕	口径 17.5 器高 19.9	ヘラミガキ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
295	36号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	外- 褐色 内- 褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を含む	
296	36号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
297	36号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ヘラナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	296と同一個体
298	36号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 明黄褐色 内- 褐灰色	1mm以下の砂粒をごく僅かに含む	木葉底
299	36号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 褐色 内- 灰褐色	5mm以下の砂礫を多く含む	
300	36号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 明黄褐色 内- 明黄褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	木葉底
301	36号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	1mm以下の砂粒を含み、6mm以下の砂礫を少量含む	木葉底
302	36号竪穴住居	土師器 鉢	(口径 24.8)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を含む	
303	36号竪穴住居	土師器 坏蓋	器高 4.9	ヘラミガキ?	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂粒を少量含み、キラキラ光る微細粒を多量に含む	
304	36号竪穴住居	土師器 坏身	器高 4.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- 褐色 内- 浅黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を僅かに含み、細砂粒を多く含む	
305	36号竪穴住居	須恵器 坏蓋	口径 (13.8) 器高 3.8	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	砂粒を少量含み、細砂粒を多く含む	
306	36号竪穴住居	須恵器 坏蓋	口径 (13.8) 器高 3.9	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 黒褐色 内- 褐灰色	砂粒を含む	自然釉
307	36号竪穴住居	須恵器 坏蓋	器高 (3.7)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	0.5~2.5mmの砂粒、砂礫及び、1mm以下の透明の粒を含む	
308	36号竪穴住居	須恵器 坏身	口径 12.0 器高 3.8	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 暗黄灰色 内- 灰緑色	6mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	自然釉
309	36号竪穴住居	須恵器 高坏		ナデ	ナデ	外- 青黒色 内- 青灰色	細砂粒を含む	
310	36号竪穴住居	須恵器 高坏		ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 暗青灰色	2mm以下の砂粒を多く含む	
311	36号竪穴住居	土師器 鉢		ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ	外- 黒色 内- 褐色	砂粒を多く含む	
313	39号竪穴住居	土師器 甕	口径 17.8 器高 24.3	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
314	39号竪穴住居	土師器 甕	口径 17.8 器高 19.0	ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ	外- 褐色 内- 褐色	7mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
315	39号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
316	39号竪穴住居	土師器 甕	口径 12.3 器高 13.6	ナデ ヨコナデ	ヘラナデ ヨコナデ	外- 褐色 内- 褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	ほぼ完形

出土遺物観察表 10

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
317	39号竪穴住居	土師器		ナデ	ハケ後ナデ	外- 赤褐色 内- 赤褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を含む	
318	39号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 灰褐色 内- 黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を含む	
319	39号竪穴住居	須恵器	口径 20.2 器高 46.2	平行タタキ ナデ	同心円文 ナデ	外- 灰色、暗褐色 内- 灰色、暗褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を僅かに含む	自然釉
320	39号竪穴住居	須恵器	口径 18.0 器高 27.8	平行タタキ ナデ	同心円文 ナデ	外- 灰色 内- 灰色	砂礫、砂粒を僅かに含み、細砂粒を多く含む	
321	39号竪穴住居	土師器	口径 24.1 器高 26.7	ハケ後ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	7mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
322	39号竪穴住居	土師器		ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 明黄褐色 内- 黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	
323	39号竪穴住居	土師器		ナデ	ハケ後ナデ	外- 褐色 内- 褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を含む	
324	39号竪穴住居	土師器		ヘラミガキ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を含み、微量の透明な粒を含む	
325	39号竪穴住居	土師器		ナデ ユビオサエ	ナデ ユビオサエ	外- 赤褐色 内- 赤褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を多く含み、細砂粒、透明な粒も多く含む	
326	39号竪穴住居	土師器	口径 12.8	ナデ	風化の為、不明	外- 赤褐色 内- 赤褐色	8mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
327	39号竪穴住居	土師器	器高 5.3	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 褐色 内- 褐色	2mm以下の砂粒を含む	
328	39号竪穴住居	土師器	口径 14.8 器高 5.6	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ	外- 褐色 内- 褐色	1.5mm以下の砂粒、細砂粒を多く含む	
329	39号竪穴住居	土師器	器高 (4.7)	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ	外- 褐色 内- 褐色	砂粒を少量、細砂粒を多く含む	
330	39号竪穴住居	須恵器	口径 14.7 器高 4.4	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 暗青灰色 内- 暗青灰色	0.1~4mmの砂粒、砂礫を含む	
331	39号竪穴住居	須恵器	器高 4.6	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 黄灰色 内- 暗黄灰色	3.5mm以下の砂礫、砂粒を少し含み細砂粒を多く含む	
332	39号竪穴住居	須恵器	口径 13.6 器高 4.2	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	砂粒、細砂粒を多く含む	ほぼ完形
333	37号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 褐色	砂粒を含む	木葉底
334	37号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 黄褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
335	37号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	0.1~1mmの透明の粒及び、0.5~6mmの砂礫、砂粒を含む	
336	38号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 褐色 内- 黄褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
337	40号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外- 黄褐色 内- 浅黄褐色	8mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
338	41号竪穴住居	土師器	口径 16.3 器高 25.8	ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 褐色 内- 褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
339	41号竪穴住居	土師器		ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 赤褐色 内- 褐色	0.5~5mmの砂粒、砂礫及び、0.1mm程の透明な粒を含む	
340	41号竪穴住居	土師器		風化の為、不明	風化の為、不明	外- 黄褐色 内- 黄褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
341	41号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	砂粒を多く含む	
342	41号竪穴住居	土師器		ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- 黄褐色 内- 褐色	砂粒を多く含む	
343	41号竪穴住居	土師器	口径 9.1 器高 4.7	ナデ	ユビオサエ ヘラナデ	外- 褐色 内- 褐色	1mm以下の砂粒を僅かに含む	木葉底
344	41号竪穴住居	土師器		ナデ	ナデ	外- 明赤褐色 内- 褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含み、1mm程の透明な粒を少量含む	木葉底
345	41号竪穴住居	弥生土器		ハケ ヨコナデ	ハケ ナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	砂粒を多く含む	刻目突帯
346	41号竪穴住居	弥生土器		ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ	外- 褐色 内- 浅黄褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含み、1mm以下の黒色透明の粒を僅かに含む	刻目突帯
347	41号竪穴住居	弥生土器		ハケ ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 明褐色	2mm以下の砂礫、砂粒を多く含み、黒色、白色透明の粒を含む	刻目突帯
348	41号竪穴住居	弥生土器		ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	砂粒を多く含む	
349	41号竪穴住居	弥生土器		ハケ ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 褐色	0.5~2mmの砂粒及び、0.1~1mmの透明、黒色透明の粒を含む	
350	41号竪穴住居	弥生土器		ハケ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黒色	2mm以下の砂礫及び、1mm以下の黒色透明の粒を含む	
351	41号竪穴住居	弥生土器		ハケ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黒色	0.5~2mmの砂粒及び、0.1~1mmの透明、黒色、白色透明の粒を含む	

出土遺物観察表 11

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
352	41号竪穴住居	弥生土器壺		ハケ	ナデ	外- 赤褐色 内- 橙色	0.1~2mmの透明、黒色透明の粒及び、砂粒を含む	三角突帯 浮文
353	41号竪穴住居	弥生土器壺		ナデ	ナデ	外- 赤褐色 内- 橙色	0.5~2mmの砂粒及び、0.1~3mmの黒色透明の粒を含む	口唇部に鋸歯文 浮文
354	42号竪穴住居	土師器甕		ハケ後 ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 黄橙色	砂礫、砂粒を含む	
355	42号竪穴住居	土師器甕		ハケ後 ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂礫、砂粒、透明の粒を多く含む	
356	42号竪穴住居	土師器壺	口径 17.1	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂礫、砂粒を多く含む	
357	42号竪穴住居	土師器壺		ヘラミガキ	ハケ後ナデ	外- 橙色 内- 黄橙色	6mm以下の砂礫、砂粒及び、白色、黒色透明の粒を多く含む	
358	42号竪穴住居	土師器甕		ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 褐色	6mm以下の砂礫、砂粒及び、透明の粒を少量含む	牛角把手
359	42号竪穴住居	土師器甕		ハケ後 ヨコナデ	ヨコナデ	外- 橙色 内- 黄橙色	7mm以下の砂礫、砂粒を含む	
360	42号竪穴住居	土師器甕		ナデ ユビオサエ	ナデ	外- 浅橙色 内- 橙色	6mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	牛角把手
361	42号竪穴住居	土師器甕		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	6mm以下の砂礫、砂粒及び、黒色透明の粒を含む	
362	42号竪穴住居	土師器高坏	口径 18.9	風化の為、 不明	風化の為、 不明	外- 浅黄橙色 内- 黄橙色	2~6mmの砂礫を少量含み、2mm以下の砂粒を含む	
363	42号竪穴住居	土師器高坏	口径(13.8) 器高 8.6	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ	外- 橙色 内- 橙色	3mm以下の砂礫、砂粒を含む	
364	42号竪穴住居	土師器高坏		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	3mm以下の砂礫、砂粒を含む	
365	42号竪穴住居	土師器鉢	器高 6.5	ナデ	ナデ	外- 黄橙色 内- 黄橙色	砂礫、砂粒を少量含む	木葉底
366	42号竪穴住居	須恵器坏蓋	器高 4.2	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	3mm程度の砂礫、細砂粒を多く含む	天井部にヘラ記号
367	42号竪穴住居	須恵器坏蓋	口径 12.6 器高 3.7	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 灰色	砂粒を少量、細砂粒を多く含む	口縁部に刷毛目
368	42号竪穴住居	須恵器坏身	口径(12.3) 器高(4.1)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 暗青灰色	砂礫、砂粒を少量含む	
369	42号竪穴住居	須恵器坏身	口径(11.5) 器高(3.5)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	3mm以下の砂礫、砂粒を含み、0.5mm程度の砂粒を多く含む	
370	42号竪穴住居	須恵器壺		ナデ	ナデ	外- 明褐色 内- 明褐色	1mm以下の砂粒を僅かに含む	
371	41号竪穴住居	土師器甕		ハケ後ナデ	風化の為、 不明	外- 橙色 内- 橙色	0.5mm以下の砂粒を含む	埋甕
372	43号竪穴住居	土師器甕		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂粒を少量、細砂粒を多く含む	
373	43号竪穴住居	土師器壺?		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 淡黄色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含み、2mm以下の透明な粒も少量含む	
374	43号竪穴住居	須恵器坏蓋		ナデ	ナデ	外- 黄灰色 内- 黄灰色	細砂粒を僅かに含む	口縁部に刻目
375	43号竪穴住居	須恵器甕		ナデ 沈線 突帯 刻線文	ナデ	外- 黄灰色 内- 黄灰色	細砂粒を僅かに含む	
376	44号竪穴住居	土師器甕		ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 浅黄橙色 内- 褐色	5mm以下の砂礫砂粒を多く含む	埋甕
377	44号竪穴住居	須恵器坏身		ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	砂粒、細砂粒を多く含む	
378	45号竪穴住居	土師器甕	口径 16.5 器高 27.1	ナデ 擦痕 ヨコナデ	ヘラナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
379	46号竪穴住居	土師器甕	器高 22.0	ハケ後 ヨコナデ	ケズリ ヨコナデ	外- 浅黄橙色 内- 浅黄橙色	6mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	底部に線刻
381	46号竪穴住居	土師器甕	器高 27.8	ハケ後 ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 黄橙色 内- 黄橙色	2mm以下の砂礫を含み、透明な粒を僅かに含む	木葉底
382	46号竪穴住居	土師器甕	器高 17.7	ハケ後 ヨコナデ	ハケ後 ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂礫、砂粒を多く含む	
383	46号竪穴住居	土師器甕		風化の為、 不明	風化の為、 不明	外- 橙色 内- 浅黄橙色	0.5~8mmの砂礫、砂粒及び、透明な粒を含む	
384	46号竪穴住居	土師器甕	口径 13.7	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	3mm以下の砂礫、砂粒を含む	
385	46号竪穴住居	土師器甕		ナデ	ナデ ユビオサエ	外- 橙色 内- 橙色	細砂粒を僅かに含む	木葉底
386	46号竪穴住居	土師器甕		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	6mm以下の砂礫、砂粒を含む	木葉底
387	46号竪穴住居	土師器甕		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 浅黄橙色	6mm以下の砂礫、砂粒を少量含む	

出土遺物観察表 12

遺物番号	出土遺構	種類	量法 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
388	46号竪穴住居	土師器 壺	口径 13.3 器高 31.4	ヘラミガキ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	3mm以下の砂礫、砂粒を含む	
389	46号竪穴住居	土師器 壺		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 褐灰色	3mm以下の砂礫、砂粒を含む	
390	46号竪穴住居	土師器 甗		ナデ	ケズリ?	外- 橙色 内- 褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	木葉底
391	46号竪穴住居	土師器 鉢	器高 7.3	ヨコナデ	ヘラミガキ	外- 橙色 内- 褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を僅かに含む	
392	46号竪穴住居	土師器 高坏		風化の為、 不明	ナデ ユビオサエ	外- 橙色 内- 黄褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を含み、微細な透明の粒を僅かに含む	
393	46号竪穴住居	土師器 椀	口径 12.8 器高 5.3	ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- 橙色 内- 褐色	砂粒を多く含む	
394	46号竪穴住居	須恵器 甗	口径 12.0	平行タタキ ナデ	同心円文 ナデ	外- 灰色 内- 灰色	1mm以下の砂粒を多く含む	
395	46号竪穴住居	須恵器 提瓶	口径 7.3	カキメ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 灰色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	自然釉 鉤状把手
396	46号竪穴住居	須恵器 提瓶		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	0.5~3mm以下の砂礫、砂粒を含む	環状把手
397	46号竪穴住居	須恵器 高坏	口径 13.4	ハケ後ナデ ナデ	ナデ	外- 灰白色 内- 灰白色	4mm程の砂礫及び、細砂粒を多く含み微細な透明の粒も含む	
398	46号竪穴住居	須恵器 高坏		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 黄灰色 内- 褐灰色	1mm以下の砂粒を含む	
399	46号竪穴住居	須恵器 高坏		ナデ	ナデ	外- 黄灰色 内- 黄灰色	1mm以下の砂粒を少量含む	
400	46号竪穴住居	須恵器 坏蓋	器高 (4.0)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰黄色 内- 褐灰色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	
401	46号竪穴住居	須恵器 坏蓋	器高 (3.8)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 暗緑灰色 内- 灰色	0.5mm以下の砂粒を多く含む	
402	46号竪穴住居	須恵器 坏蓋	口径 14.3 器高 4.0	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	ほぼ完形
403	46号竪穴住居	須恵器 坏蓋	器高 3.3	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 黄灰色 内- 黄灰色	2mm以下の砂粒を少量含む	
404	46号竪穴住居	須恵器 坏身	器高 5.2	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰褐色 内- 灰褐色	1mm以下の砂粒を少量含む	
405	46号竪穴住居	須恵器 坏身	口径 12.3 器高 4.1	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰褐色 内- 灰褐色	2mm以下の砂粒を含む	底部にヘラ記号
406	46号竪穴住居	須恵器 坏身	口径 12.3 器高 3.7	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	5mm以下の砂礫を僅かに含む	底部にヘラ記号
407	46号竪穴住居	須恵器 坏身	口径 12.7 器高 3.2	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	1mm以下の砂粒を僅かに含む	完形
408	46号竪穴住居	須恵器 坏身		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	2mm以下の砂粒を含む	
409	46号竪穴住居	須恵器 坏身		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰白色 内- 灰色	2mm以下の砂粒を含む	
410	46号竪穴住居	土師器 ミチヲ鉢	口径 7.9 器高 4.7	ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 褐色	2mm以下の砂粒を僅かに含む	ほぼ完形
411	46号竪穴住居	土師器 ミチヲ鉢	口径 6.5 器高 3.9	ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 褐灰色	5mm以下の砂礫、砂粒、及び、白色透明の粒を少量含む	完形
412	46号竪穴住居	土師器 ミチヲ鉢	口径 7.2 器高 3.9	ナデ	ナデ	外- 褐灰色 内- 褐灰色	2mm以下の砂粒を少量含む	ほぼ完形
413	46号竪穴住居	土師器 ミチヲ鉢	口径 5.7 器高 2.5	ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 褐色	7mm以下の砂礫、砂粒を含む	完形
414	46号竪穴住居	土師器 ミチヲ鉢	口径 6.4 器高 3.0	ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を含む	ほぼ完形
415	46号竪穴住居	土師器 ミチヲ鉢	口径 5.3 器高 2.6	ナデ ユビオサエ	ナデ	外- 橙色 内- 褐色	7mm以下の砂礫、砂粒を含む	ほぼ完形
416	47号竪穴住居	土師器 甗		ナデ 擦痕	ナデ	外- 橙色 内- 褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	埋甗
417	47号竪穴住居	土師器 甗		ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	
418	48号竪穴住居	土師器 甗	口径 13.4 器高 27.0	ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ	外- 褐色 内- 褐色	砂礫、砂粒を多く含む	木葉底
419	48号竪穴住居	須恵器 坏蓋	口径 13.0 器高 3.7	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰、黒色 内- 灰色	0.5~4mmの白色透明の粒を含む	自然釉
420	50号竪穴住居	土師器 甗		ナデ ヨコナデ	ナデ	外- 浅黄色 内- 褐色	砂粒を多く含む	
421	51号竪穴住居	土師器 甗	口径 13.1	ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ	外- 褐色 内- 褐色	4.5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
422	51号竪穴住居	須恵器 坏蓋		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 褐灰色 内- 褐灰色	2mm以下の砂粒を僅かに含む	

出土遺物観察表 13

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
423	51号竪穴住居	弥生土器 甕		ハケ ヨコナデ	ハケ後ナデ	外- 褐灰色 内- 黄橙色	砂粒を含み、透明、黒色透明の粒を含む	刻目突帯
424	51号竪穴住居	弥生土器 甕		ハケ ヨコナデ	ハケ後ナデ	外- 黄橙色 内- 黄橙色	細砂粒を多量に含み、透明な粒を少量含む	刻目突帯
425	52号竪穴住居	土師器 甕	口径 17.7 器高 25.5	ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 橙色	砂礫、砂粒を多く含む	
426	52号竪穴住居	土師器 甕	口径 13.4 器高 24.3	ナデ 擦痕	ナデ	外- 淡赤橙色 内- 浅黄橙色	0.5~6mmの砂礫、砂粒を多く含み 0.1~2mmの透明の粒を含む	
427	52号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 黄橙色	0.5~3.5mmの砂礫、砂粒を多く含み、 0.1~1mmの透明の粒を含む	
428	52号竪穴住居	土師器 甕		ハケ後ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 黄橙色	0.5~6mmの砂礫、砂粒を多く含み 0.1~2mmの透明の粒を含む	
429	52号竪穴住居	土師器 高坏	口径 14.3	ヨコナデ	ヨコナデ	外- 黄橙色 内- 浅黄橙色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	
430	52号竪穴住居	土師器 高坏	口径 12.2	ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- 黄橙色 内- 黄橙色	2mm以下の砂粒を含む	
431	53号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 黄橙色	5mm以下の砂礫、砂粒を含む	
432	53号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 橙色 内- 黄橙色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	
433	53号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	3.5mm程の砂粒を含み、白色透明の 細砂粒も含む	
434	53号竪穴住居	土師器 坏蓋		ナデ ヨコナデ	ヘラミガキ	外- 橙色 内- 黄褐色	0.1~1mmの透明な粒及び、砂粒、細 砂粒を含む	
435	53号竪穴住居	土師器 ニチャ鉢	口径 4.8 器高 3.1	ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	木葉底
436	53号竪穴住居	須恵器 甕		平行タタキ	同心円文	外- 明灰褐色 内- 明灰褐色	3mm以下の砂粒を含む	
437	53号竪穴住居	須恵器 坏身		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰褐色 内- 灰褐色	1mm以下の砂粒を僅かに含む	
438	54号竪穴住居	弥生土器 甕		ハケ ヨコナデ	ハケ ヨコナデ	外- 浅黄橙色 内- 黄褐色	2mm以下の砂粒をやや多く含む	刻目突帯
439	56号竪穴住居	弥生土器 甕		ハケ ヨコナデ	ハケ ヨコナデ	外- 黄褐色 内- 黒褐色	1mm以下の砂粒を含む	刻目突帯
440	56号竪穴住居	弥生土器 甕		ハケ ヨコナデ	ハケ ヨコナデ	外- 浅黄橙色 内- 黄褐色	2mm以下の砂粒及び、黒色透明の粒 を多く含む	刻目突帯
441	56号竪穴住居	弥生土器 甕		ナデ	ハケ後ナデ	外- 赤褐色 内- 黒褐色	0.1~2mmの砂粒及び、透明、黒色透 明の粒を含む	
442	56号竪穴住居	弥生土器 壺		ハケ	ハケ後ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	8mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	三角突帯
443	56号竪穴住居	弥生土器 壺		ナデ ヘラミガキ	ナデ	外- 褐灰色 内- 浅黄褐色	1mm以下の砂粒を含む	三角突帯
444	56号竪穴住居	弥生土器 壺		ヨコナデ	ヨコナデ	外- 褐色 内- 黄褐色	3mm以下の砂粒を含む	
445	56号竪穴住居	弥生土器 壺		ナデ	ナデ	外- 明黄褐色 内- 黄褐色	5mm以上の砂礫を少量、1mm以下の砂 粒を多量に含む	突帯
446	57号竪穴住居	土師器 甕	口径 19.6 器高 23.2	ヘラナデ ヨコナデ 擦痕	ナデ	外- 明黄褐色 内- 黄褐色	0.5~8mmの砂粒、砂礫及び、0.1~ 2.5mmの透明の粒を含む	
447	57号竪穴住居	土師器 甕	口径 17.2 器高 (23.2)	ナデ ヨコナデ 擦痕	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	0.5~10mmの砂粒、砂礫及び、0.1~ 1mmの透明の粒を含む	
448	57号竪穴住居	土師器 甕		ナデ 擦痕	ハケ後ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	砂礫、砂粒を含む	
449	57号竪穴住居	土師器 甕		ナデ ユビオサエ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	0.5~6mmの砂粒、砂礫及び、0.1~ 0.5mmの透明の粒を含む	木葉底
450	57号竪穴住居	土師器 壺	器高 35.5	ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
451	59号竪穴住居	土師器 甕		ヨコナデ	ヨコナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	0.2mm以下の砂粒を含む	
452	59号竪穴住居	須恵器 坏蓋		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 黒褐色 内- 黄褐色	3mm以下の砂粒を含む	自然釉
453	60号竪穴住居	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含み、 透明の粒を少量含む	
454	60号竪穴住居	土師器 椀	口径 13.0 器高 5.1	ナデ ヨコナデ	ヘラミガキ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	1mm以下の砂粒及び、透明の粒を少 量含む	
455	60号竪穴住居	土師器 椀	口径 12.0 器高 7.1	ナデ ヨコナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	3mm以下の砂粒を含む	
456	63号竪穴住居	土師器 ニチャ鉢	口径 6.2 器高 3.7	ナデ	ナデ ユビオサエ	外- 灰褐色 内- 灰褐色	2mm以下の砂粒及び、透明の粒を含 む	ほぼ完形
457	1号建物	弥生土器 壺		ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 灰褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を含む	

出土遺物観察表 15

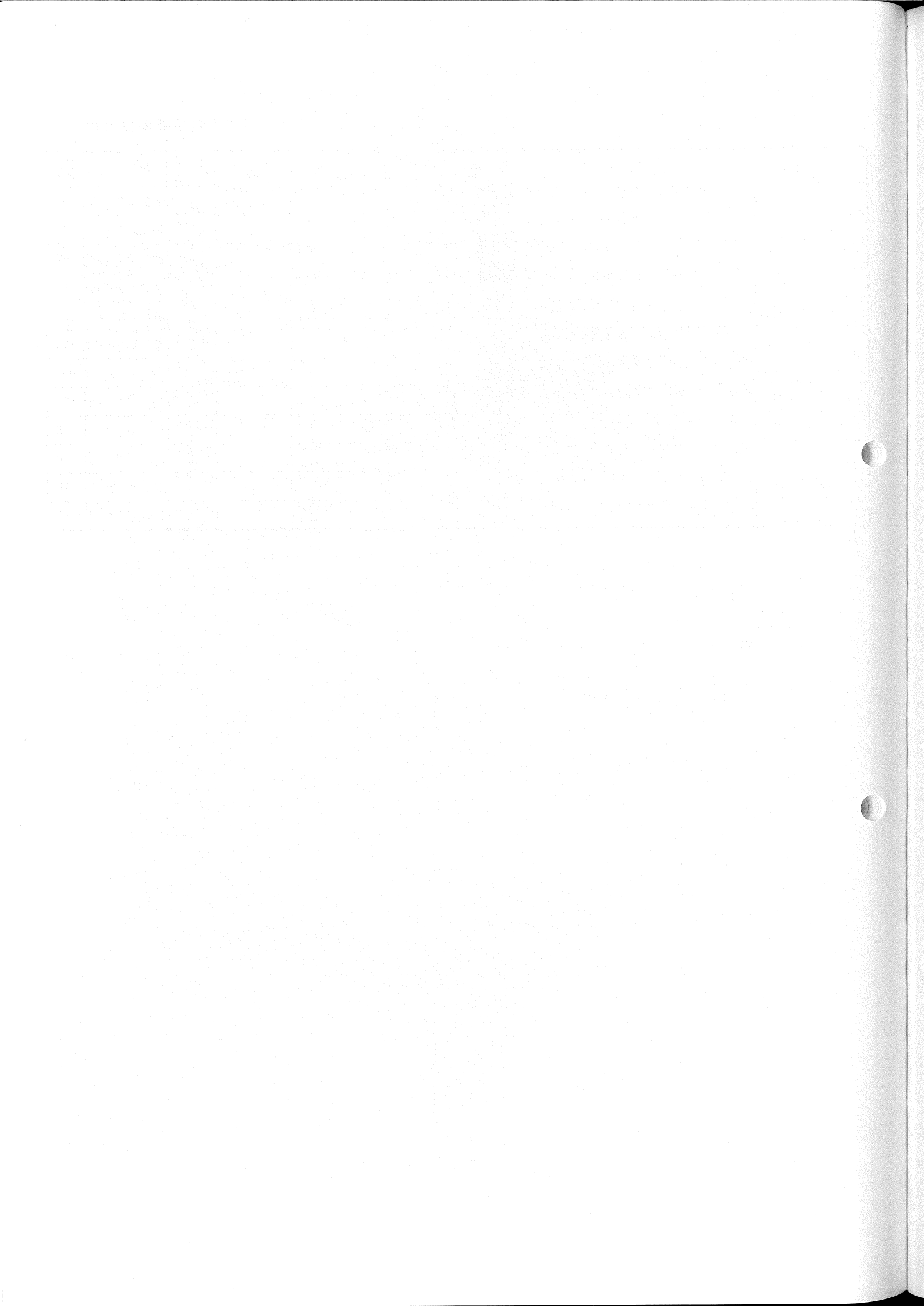
遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
493	A29号溝状遺構	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 浅黄橙色 内- 黒褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
494	A29号溝状遺構	土師器 甕		ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 明赤褐色 内- 明赤褐色	5mm以下の砂礫を含む	
495	A29号溝状遺構	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 濃い黄褐色 内- 濃い黄褐色	5.5mm以下の砂礫、砂粒及び、透明の粒を多く含む	牛角把手
496	A29号溝状遺構	須恵器 甕		平行タタキ	同心円文	外- 灰色 内- 灰色	1mm以下の砂粒を少量含む	
497	A29号溝状遺構	須恵器 坏蓋	器高 (4.3)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	3mm以下の砂粒を少量含む	
498	A29号溝状遺構	須恵器 坏身		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 暗灰色 内- 青灰色	4mm以下の砂礫、砂粒を少量含む	
499	A29号溝状遺構	土師器 甕		剥離の為、 不明	ナデ	外- 暗灰色 内- 濃い黄色	1mm以下の砂粒を少量含む	
500	A32号溝状遺構	布痕土器 鉢		ナデ	布痕	外- 橙色 内- 橙色	2mm以下の砂粒を少量含む	
501	A32号溝状遺構	須恵器 甕		格子目タタキ	同心円文	外- 緑黒色 内- 黄灰色	砂粒を少量含む	
502	A32号溝状遺構	須恵器 坏蓋	器高 (3.5)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	7mm以下の砂礫、砂粒を少量含む	
503	A41号溝状遺構	須恵器 坏	口径 12.7 器高 4.6	ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	1mm以下の砂粒を少量含む	ほぼ完形
504	A41号溝状遺構	土師器 甕		ハケ	ナデ	外- 灰黄褐色 内- 暗褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を多量に含む	
505	A45号溝状遺構	須恵器 坏蓋	器高 (3.5)	ヘラケズリ ナデ 沈線	ナデ	外- 灰褐色 内- 緑灰色	3mm程の砂粒を少量含む	
506	A49号溝状遺構	土師器 甕		ハケ後ナデ ヨコナデ	ナデ	外- 橙色 内- 浅黄褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を含む	
507	A49号溝状遺構	土師器 甕		ナデ ユビオサエ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を多量に含む	
508	A49号溝状遺構	土師器 高坏	口径 17.8 器高 12.4	ナデ ヨコナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	
509	A49号溝状遺構	土師器 高坏		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	2mm以下の砂粒を多量に含む	
510	A49号溝状遺構	須恵器 坏蓋	器高 (4.6)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰白色 内- 灰白色	3mm以下の砂粒及び、白、黒色透明の粒を含む	
511	A49号溝状遺構	須恵器 坏身	器高 (3.7)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 明灰色 内- 明灰色	3mm以下の砂粒を含む	
512	A49号溝状遺構	須恵器 坏身		ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	0.5~2mmの砂粒、0.1~1mmの透明の粒を含む	
513	B5号溝状遺構	土師器 甕	口径 15.3 器高 28.6	ナデ 擦痕	ナデ ユビオサエ	外- 濃い黄褐色 内- 濃い黄褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を含む	
514	B5号溝状遺構	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 濃い黄褐色 内- 暗灰色	1~5mmの砂粒、砂礫を含む	木葉底
515	B5号溝状遺構	土師器 鉢	口径 13.1 器高 8.5	ナデ ヨコナデ	ヘラナデ	外- 濃い黄褐色 内- 濃い黄褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	木葉底 完形
516	B5号溝状遺構	土師器 碗	口径 15.7 器高 6.2	ナデ ヨコナデ	ナデ ヨコナデ	外- 濃い黄褐色 内- 濃い黄褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	ほぼ完形
517	B5号溝状遺構	土師器 碗	口径 15.7 器高 5.4	風化の為、 不明	風化の為、 不明	外- 濃い黄褐色 内- 浅黄褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
518	B5号溝状遺構	土師器 高坏		ヘラミガキ	ナデ	外- 濃い黄褐色 内- 濃い黄褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を含み、透明の粒を少量含む	
519	B5号溝状遺構	須恵器 坏蓋	器高 (4.0)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	1~2mmの砂粒を少量含む	
520	B5号溝状遺構	須恵器 坏身		ナデ	ナデ	外- 灰白色 内- 灰白色	0.5~1mmの砂粒及び、0.1~2mmの黒色透明の粒を含む	
521	B5号溝状遺構	須恵器 壺		ナデ 沈線	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	細砂粒を少量含む	
522	B5号溝状遺構	須恵器 甕		ナデ 沈線	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	砂粒を含む	
523	B14号溝状遺構	須恵器 甕		格子目タタキ	剥離の為、 不明	外- 灰色 内- 灰褐色	細砂粒を微量含む	
524	B23号溝状遺構	土師器 甕		ハケ後ヘラミガキ	ナデ	外- 濃い黄褐色 内- 明黄褐色	砂礫、砂粒を多く含む	
525	B23号溝状遺構	土師器 高坏	器高 8.8	ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 濃い黄褐色	3.5mm以下の砂礫、砂粒を含む	
526	B23号溝状遺構	須恵器 壺	器高 (14.8)	ナデ 沈線 刻線文	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	1~4mmの砂粒、砂礫を含む	自然釉
527	C1号溝状遺構	土師器 高坏	口径 14.9 器高 14.1	ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ ナデ	外- 橙色 内- 濃い黄褐色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	

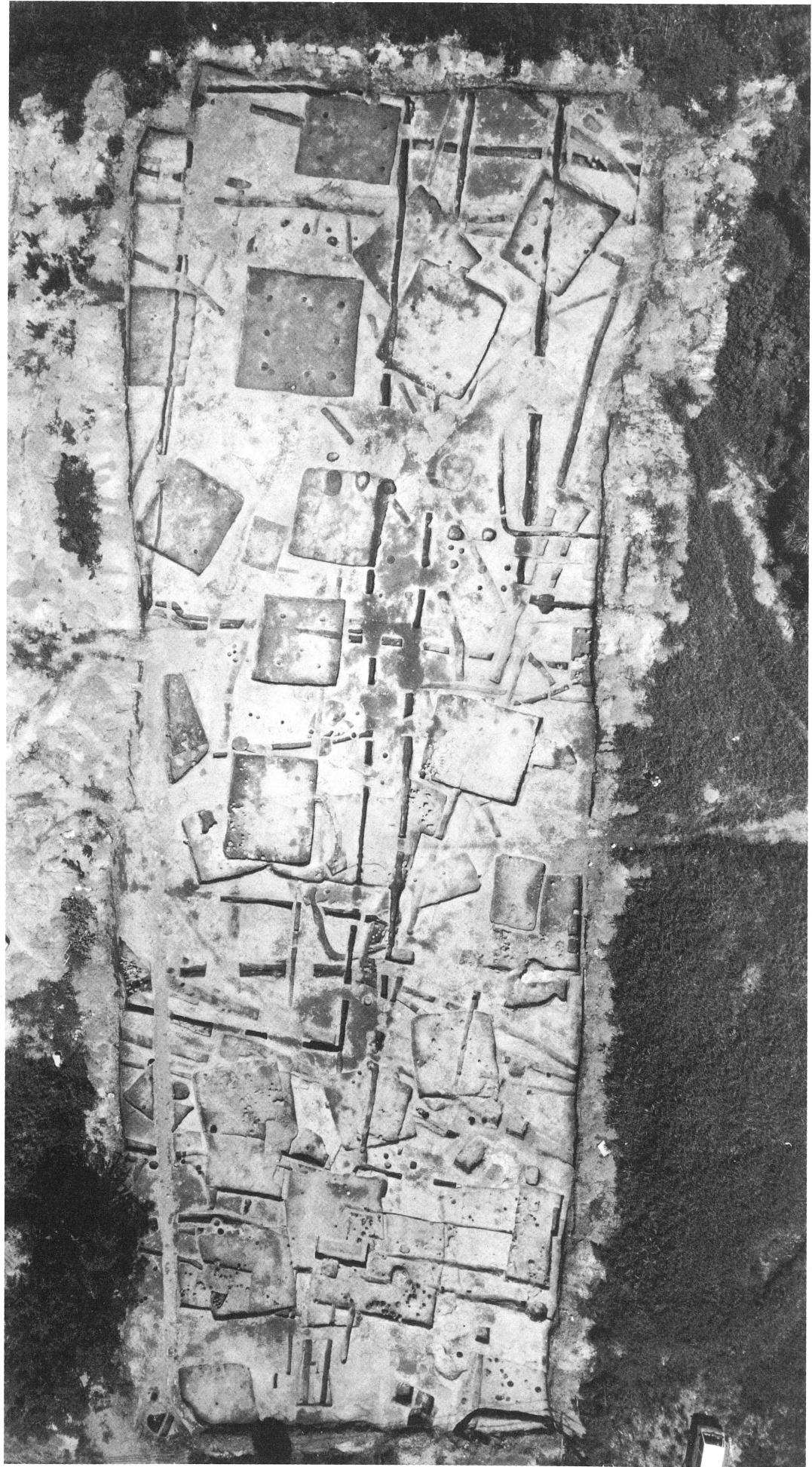
出土遺物観察表 16

遺物番号	出土遺構	種類	法量 (cm)	器面調整		色調	胎土	備考
				外面	内面			
528	C1号溝状遺構	土師器高坏		ヘラミガキナデ	ナデ	外- 橙色 内- 濃い橙色	6mm以下の砂礫、砂粒を含む	
529	C2号溝状遺構	土師器甕?		ハケ後ナデ	ナデ	外- 濃い橙色 内- 浅黄橙色	6mm以下の砂礫、砂粒を含む	
530	C2号溝状遺構	土師器鉢	口径 17.5 器高 13.0	ナデ ヨコナデ ユビオサエ	ナデ	外- 濃い橙色 内- 濃い橙色	3mm以下の砂礫、砂粒を含む	木葉底
531	C2号溝状遺構	土師器高坏		風化の為、不明	ヘラミガキ	外- 明赤褐色 内- 明赤褐色	1mm以下の砂礫、砂粒を含む	
532	C2号溝状遺構	土師器高坏		粗いヘラミガキ	ナデ	外- 橙色 内- 橙色	1~2mm以下の砂粒を含む	
533	C2号溝状遺構	土師器高坏		ナデ	ナデ	外- 濃い黄橙色 内- 濃い橙色	4.5mm以下の砂礫、砂粒を含む	
534	C2号溝状遺構	須恵器坏身	器高 3.8	ヘラケズリナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	2mm以下の砂粒を含む	
535	C4号溝状遺構	土師器高坏		風化の為、不明	風化の為、不明	外- 赤褐色 内- 明赤褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を少量含み、細砂粒、透明の粒を多く含む	
536	C10号溝状遺構	土師器甕	口径 15.4 器高 33.0	ハケ後ナデ ヨコナデ	ハケ後ナデ ヨコナデ	外- 濃い黄橙色 内- 橙色	8mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	ほぼ完形
537	C10号溝状遺構	土師器甕		ナデ ユビオサエ	ヘラミガキ ナデ	外- 浅黄橙色 内- 浅黄橙色	3mm以下の砂礫、砂粒を含む	木葉底
538	C10号溝状遺構	土師器壺	口径 13.5	ヘラミガキ ヨコナデ	ヘラミガキ ヨコナデ	外- 濃い黄橙色 内- 濃い黄橙色	4mm以下の砂礫、砂粒及び、白色、黒色透明の粒を多く含む	
539	C10号溝状遺構	土師器甕		ナデ	ナデ	外- 濃い褐色 内- 濃い橙色	4mm以下の砂礫、砂粒を含む	
540	C10号溝状遺構	土師器高坏	口径 14.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	外- 橙色 内- 橙色	0.5~3mmの砂粒、砂礫及び、0.1~2mmの透明の粒を含む	
541	C10号溝状遺構	土師器高坏		ヘラミガキ ヘラナデ	ヘラミガキ ナデ	外- 濃い橙色 内- 濃い黄橙色	細砂粒、透明の粒を多く含む	
542	C10号溝状遺構	土師器高坏		ヘラミガキ	ヘラミガキ ナデ	外- 濃い橙色 内- 濃い橙色	2.5mm以下の砂粒を含む	
543	C10号溝状遺構	土師器高坏	器高 8.0	ナデ	ヘラミガキ ナデ	外- 濃い橙色 内- 濃い橙色	2mm以下の砂粒を少量含む	
544	C10号溝状遺構	土師器鉢	器高 8.4	粗いヘラミガキ ヨコナデ ユビオサエ	ナデ	外- 濃い褐色 内- 濃い褐色	1~3mmの砂粒、砂礫を含む	木葉底
545	C10号溝状遺構	土師器鉢	器高 7.6	ナデ ヨコナデ ユビオサエ	ナデ ヨコナデ	外- 濃い褐色 内- 濃い褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を含む	木葉底
546	C10号溝状遺構	土師器甕	口径 14.2 器高 8.3	ヘラミガキ ナデ	ヘラミガキ	外- 濃い褐色 内- 濃い褐色	砂粒、細砂粒を含む	
547	C10号溝状遺構	土師器甕		ナデ	ハケ後ナデ	外- 濃い褐色 内- 濃い褐色	細砂粒を多く含み、透明の粒を少量含む	
548	C10号溝状遺構	土師器甕	口径 11.6 器高 4.7	ナデ	ナデ	外- 浅黄褐色 内- 浅黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を少量含む	
549	C10号溝状遺構	土師器ミチヤ鉢	口径 7.2 器高 3.2	ナデ ユビオサエ	ナデ ユビオサエ	外- 濃い褐色 内- 濃い褐色	砂粒を多く含む	
550	C10号溝状遺構	土師器ミチヤ鉢	口径 6.2 器高 4.6	ナデ ユビオサエ	ナデ ユビオサエ	外- 濃い褐色 内- 濃い褐色	6mm以下の砂礫を僅かに含み、砂粒及び、透明の粒を多く含む	ほぼ完形
551	C10号溝状遺構	土師器ミチヤ甕	口径 7.8 器高 3.0	ナデ	ナデ	外- 褐色 内- 黒色	1mm以下の砂粒及び、透明の粒を少量含む	ほぼ完形
552	C10号溝状遺構	須恵器高坏	口径 12.3 器高 7.2	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	1mm以下の砂粒を少量含む	長方形の透かし
553	C10号溝状遺構	須恵器坏蓋	口径 13.5 器高 4.5	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 暗青灰色 内- 暗青灰色	0.5~3.5mmの砂粒、砂礫及び、0.1~3.5mmの透明の粒を含む	完形
554	C10号溝状遺構	須恵器坏蓋	器高 4.0	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 黒褐色 内- 黒褐色	4.5mm以下の砂礫、砂粒を含む	
555	C10号溝状遺構	須恵器坏蓋	器高 4.0	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 暗青灰色 内- 青灰色	2mm以下の砂粒を含む	
556	C10号溝状遺構	須恵器坏身	口径 12.1 器高 3.6	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 暗青灰色 内- 灰色	0.5~2mmの砂粒及び、0.1~1mmの透明の粒を含む	完形
557	C10号溝状遺構	須恵器坏身	口径 11.6 器高 4.1	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	砂粒を多く含む	ほぼ完形
558	C10号溝状遺構	須恵器坏身	口径 (12.5) 器高 (3.8)	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰褐色 内- 灰褐色	1mm以下の砂粒を含む	
559	C10号溝状遺構	須恵器坏身		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	1mm以下の砂粒を少量含む	
561	D3号溝状遺構	土師器壺		ナデ ヨコナデ	ヘラナデ ナデ	外- 濃い褐色 内- 濃い褐色	8mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	刻目突帯
560	D2号溝状遺構	須恵器坏身	器高 3.6	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰色	1~3mmの砂粒を含む	底部にヘラ記号
562	D6号溝状遺構	須恵器坏身	口径 9.8 器高 3.8	ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 灰色 内- 灰白色	砂粒を少量、細砂粒を多量に含む	完形

出土遺物観察表 17

遺物 番号	出土遺構	種 類 器 種	法 量 (cm)	器 面 調 整		色 調	胎 土	備 考
				外 面	内 面			
563	D6号溝状遺構	取瓶	口径 4.4 器高 4.6	ナデ	ナデ	外- 黄灰 黒褐色 内- 褐灰色	6.5mm以下の砂礫、砂粒を含む	
564	D6号溝状遺構	取瓶		ナデ	ナデ	外- 灰黄色 内- 黄褐色	2mm以下の砂粒を含む	
565	D6号溝状遺構	取瓶	口径 4.0	ナデ	ナデ	外- 黄灰色 内- 黄褐色	砂粒を含む	
566	D6号溝状遺構	須恵器 坏身		ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 青灰色	0.1~2.5mmの砂粒を含む	
567	D16号溝状遺構	弥生土器 甕		風化の為、 不明	風化の為、 不明	外- 橙色 内- 黄橙色	2mm以下の砂粒を多く含む	刻目突帯
568	D16号溝状遺構	土師器 甕		ナデ	ナデ	外- 橙色 内- 暗黄灰色	3mm以下の砂礫、砂粒を多く含む	
569	1号建物	土師器 ミナチユ鉢	口径 5.8 器高 4.8	ナデ	ナデ	外- 灰黄褐色 内- 灰黄褐色	2mm以下の砂粒及び、1mm以下の透明 の粒を含む	木葉底
570	B-78号ビット	弥生土器 甕		ハケ ヨコナデ	ハケ	外- 浅黄褐色 内- 淡黄色	2mm以下の砂粒及び、1mm以下の透明 の粒を含む	刻目突帯
571	B-78号ビット	弥生土器 壺	口径 15.7	ナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 赤褐色	3mm以下の砂礫、砂粒を多く含み、 透明の粒を僅かに含む	三角突帯
572	B-78号ビット	土師器 甕		ナデ ユビオサエ	ナデ	外- 黄褐色 内- 橙色	4mm以下の砂礫を少量含み、2mm以下 の砂粒を多く含む	
573	3号建物	弥生土器 壺		ヨコナデ	ナデ	外- 黄褐色 内- 黄褐色	5mm以下の砂礫、砂粒を少量含む	口唇部に刻目
574	B118号ビット	須恵器 坏蓋		ヘラケズリ ナデ	ナデ	外- 青灰色 内- 黄褐色	6mm以下の砂礫、砂粒を少量含む	





图版 1 A 区全体写真 (空中写真)